

ユーザガイド

Novell. PlateSpin. Recon

3.7.2

2011 年 01 月 27 日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2009-2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	11
1 はじめに	13
1.1 PlateSpin Recon の機能	13
1.2 Planning Module 機能	14
1.3 サポートされているプラットフォーム	15
1.3.1 サポートしているインベントリとデータ収集	15
1.3.2 PlateSpin Portability Suite による統合でサポートされるソースおよびターゲット	18
1.4 アプリケーションのシナリオ	18
1.5 PlateSpin Recon の用語	21
2 PlateSpin Recon クライアントのビューに関する概要	23
2.1 Data Center Explorer	23
2.2 Report Explorer	24
2.3 Projects Explorer	25
2.4 Raters Explorer	26
2.5 Chart Viewer	27
2.6 Job Explorer	28
2.7 Scheduled Job Explorer	28
2.8 Log Explorer	29
3 Data Center Explorer の操作	31
3.1 Data Center Explorer についての理解	31
3.2 データセンターのリソースの検出およびインベントリ	32
3.2.1 インベントリおよび検出の方法	32
3.2.2 インベントリの資格情報	45
3.2.3 インベントリのオプション	48
3.2.4 検出のオプション	49
3.2.5 インベントリデータの表示およびサーバの監視	51
3.3 フィルタの操作	56
3.4 グループの操作	57
3.4.1 グループの作成	57
3.4.2 グループへのサーバのコピー	57
3.4.3 グループからのサーバの削除	57
3.5 サイトの操作	58
3.5.1 サイトの追加	59
3.5.2 サイトの削除	59
3.5.3 サイトの変更	59
3.6 PlateSpin Recon スナップショットの操作	59
3.6.1 PlateSpin Recon スナップショットのエクスポート	60
3.6.2 PlateSpin Recon スナップショットのインポート	64
3.7 リモートデータの操作	66
3.8 他の PlateSpin Recon インスタンスによって収集されたデータの操作	67
3.9 他のパフォーマンス監視ツールによって収集されたデータの操作	69
3.9.1 必須パフォーマンスカウンタ	69

3.10	PlateSpin Recon での HP Reporter データの使用	74
3.10.1	メトリックスをカウンタに変換するための式の使用	75
3.10.2	式の例	75
3.10.3	HP Reporter データの操作	76
3.11	「Performance Data Import」機能による PlateSpin Recon への汎用データのインポート	78
3.11.1	「Performance Data Import」テーブルのデータ構造	79
3.11.2	PlateSpin Recon へインポートするデータの準備	80
3.12	Windows マシンに対するディスク使用率カウンタの収集	83
3.12.1	アドオンの展開	84
3.12.2	アドオンの展開解除	86
4	PlateSpin Recon サーバおよび PlateSpin Recon クライアントのツール	89
4.1	サーバおよびクライアントのオプション	89
4.2	Credentials Manager	89
4.2.1	資格情報の作成	90
4.2.2	資格情報の削除	91
4.3	PlateSpin Analyzer	91
4.3.1	PlateSpin Analyzer の使用	91
4.3.2	インベントリおよび監視のテスト	94
4.3.3	変換テスト	95
5	チャートとレポートの生成および表示	97
5.1	Chart Viewer	97
5.1.1	チャートのコントロールおよびコマンド	98
5.1.2	式のタイプ	99
5.1.3	詳細のレベル	100
5.1.4	データタイプの統計値	100
5.1.5	サーバインスタンス	100
5.1.6	日付範囲の事前設定	100
5.1.7	予測	100
5.2	Report Explorer	101
5.2.1	Report Explorer のテンプレートノード	101
5.2.2	コマンド	104
5.2.3	「分析」レポート	105
5.2.4	「VM ディスクパーティション割り当て」レポート	105
5.2.5	レポートテンプレートの操作	108
5.3	レポートテンプレートの編集	109
5.3.1	レポートテンプレートのオプションタブ	110
5.3.2	「チャージバック」レポートテンプレート	116
5.3.3	「統合」レポートテンプレート	117
5.3.4	「統合プロジェクトサンプル」レポートテンプレート	117
5.3.5	「診断」レポートテンプレート	117
5.3.6	「ディスク」レポートテンプレート	118
5.3.7	「インベントリ」レポートテンプレート	118
5.3.8	「再利用」レポートテンプレート	118
5.3.9	「ソフトウェア」レポートテンプレート	119
5.3.10	「仮想インフラストラクチャ」レポートテンプレート	119
5.3.11	「ボリューム」レポートテンプレート	119
5.4	ビューのカスタマイズ	120
5.4.1	レポートビューの作成および編集	120
5.4.2	ヒストグラムチャート	122
5.4.3	散布チャート	124
5.4.4	使用状況チャート	125
5.5	レポートの生成	126
5.6	Document Viewer	129

5.6.1	コマンド	130
5.6.2	レポートのカスタマイズ	130
5.6.3	レポートの表示	134
5.6.4	レポートの印刷およびエクスポート	134
5.6.5	レポートからグループへのサーバのコピー	135
6	サーバ統合	137
6.1	サーバ統合の概要	137
6.2	プロジェクトの作成	138
6.3	サーバテンプレートの作成と編集	143
6.3.1	新規サーバテンプレートの作成	144
6.3.2	既存のサーバテンプレートを編集します。	148
6.3.3	サーバテンプレートをコピーします。	150
6.4	統合候補の識別	151
6.5	統合シナリオの操作	151
6.5.1	サーバの最小数の判断	151
6.5.2	サーバの数の指定	157
6.5.3	統合シナリオの結果	162
6.5.4	シナリオの編集	163
6.5.5	シナリオの削除	163
6.6	インベントリレポートの生成	163
6.6.1	統合基準を満たすサーバの検出	163
6.6.2	統合候補の選択	164
6.7	統合レポートの参照	165
6.7.1	「プロジェクト」レポート	165
6.7.2	「シナリオサマリ」レポート	165
6.7.3	「ワークロード割り当て」レポート	168
6.7.4	「未統合ワークロード」レポート	169
6.7.5	「非保護ワークロード」レポート	169
6.8	Portability Suite を使用したシナリオの実装	170
6.8.1	phantom サーバまたは既存のターゲットサーバの実装	172
7	IT チャージバック	173
7.1	チャージバックについての理解	173
7.2	レイターの使用	173
7.2.1	レイターのリソース	174
7.2.2	レイターの料金	175
7.2.3	仮想サーバのレイター方式	175
7.3	レイターの管理	176
7.3.1	レイターの作成	176
7.3.2	レイターの削除	178
7.3.3	レイターの編集	178
7.3.4	マシンへのレイターのアタッチ	179
7.3.5	マシンからのレイターのデタッチ	180
7.4	チャージバックレポートの生成	180
7.4.1	IT チャージバックコストを計算するレポートの生成	180
7.4.2	計算済みコストの生成	180
8	仮想インフラ管理	183
8.1	Virtual Center のインベントリと監視	183
8.2	VM スプロールレポートの生成	185
8.3	「仮想マシン状態」レポート	185

A	トラブルシューティング	187
B	テクニカルリファレンス	205
B.1	機能	205
B.2	PlateSpin Recon のデータ収集方法	205
B.2.1	検出	206
B.2.2	インベントリ	206
B.2.3	監視	207
B.3	データ収集	208
B.4	チャートおよび式	210
B.4.1	チャートデータ	210
B.4.2	使用率	215
B.4.3	ワークロード	216
B.5	計算	218
B.5.1	24 時間プロファイル	218
B.5.2	デュアルコアとマルチコアのマシン	219
B.5.3	Hyper-Threading	220
B.5.4	有効な速度	220
B.5.5	消費電力と冷却	221
B.5.6	CO2 放出	221
B.6	CPU の標準化	221
B.6.1	SPEC データ	222
B.6.2	標準化速度	222
B.7	PlateSpin Recon の VM CPU インベントリ	222
B.8	Linux、Solaris、および AIX に対するインベントリと監視のコマンド	223
B.8.1	Solaris のインベントリコマンド	223
B.8.2	Linux のインベントリコマンド	224
B.8.3	AIX のインベントリコマンド	225
B.8.4	Linux と Solaris の監視コマンド	226
B.8.5	AIX の監視コマンド	226
B.8.6	テキスト処理	227
B.9	Linux マシンのインベントリと監視を実行するための sudo 環境設定	227
C	スケジュールオプション	229
C.1	[Later]	229
C.2	[Recurrence]	229
D	PlateSpin Recon のアイコンおよびコマンドに対するクィックリファレンス	231
D.1	Data Center Explorer	231
D.1.1	Data Center Explorer のアイコン	231
D.1.2	Data Center Explorer のアイコン状態インジケータ	231
D.1.3	Data Center Explorer のコマンドと関連アイコン	232
D.2	Reports Explorer	233
D.3	Projects Explorer	234
D.3.1	Project Explorer のコマンド	234
D.3.2	Project Explorer のアイコン	234
D.4	Raters Explorer	235
D.5	Chart Viewer	235
D.6	Job Explorer	236
D.7	Scheduled Job Explorer	236
D.8	Log Explorer	237

E	ベストプラクティス	239
E.1	統合プランニングワークフロー	239
E.2	PlateSpin Recon サーバのシステム要件	240
E.3	監視サービス環境設定	240
E.3.1	PlateSpin Recon クライアントを通じた監視サービス環境設定パラメータの 微調整	240
E.3.2	監視サービス環境設定ファイルにおける監視サービス環境設定パラメータの 微調整	241
E.4	MS SQL データベース環境設定	242

このガイドについて

このマニュアルでは、PlateSpin Recon に関する情報が記載されています。

- ◆ 13 ページの第 1 章「はじめに」
- ◆ 23 ページの第 2 章「PlateSpin Recon クライアントのビューに関する概要」
- ◆ 31 ページの第 3 章「Data Center Explorer の操作」
- ◆ 89 ページの第 4 章「PlateSpin Recon サーバおよび PlateSpin Recon クライアントのツール」
- ◆ 97 ページの第 5 章「チャートとレポートの生成および表示」
- ◆ 137 ページの第 6 章「サーバ統合」
- ◆ 173 ページの第 7 章「IT チャージバック」
- ◆ 183 ページの第 8 章「仮想インフラ管理」
- ◆ 187 ページの付録 A「トラブルシューティング」
- ◆ 205 ページの付録 B「テクニカルリファレンス」
- ◆ 229 ページの付録 C「スケジュールオプション」
- ◆ 231 ページの付録 D「PlateSpin Recon のアイコンおよびコマンドに対するクイックリファレンス」
- ◆ 239 ページの付録 E「ベストプラクティス」

対象者

この文書は、データセンターの管理およびプランニングで PlateSpin Recon を使用するデータセンター管理者やオペレータなどの IT スタッフを対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。少々お時間をいただき、[Novell マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback\)](http://www.novell.com/documentation/feedback) からご意見をお寄せください。

その他のマニュアル

このガイドに加えて、PlateSpin Recon には次のマニュアルが付属しています：

- ◆ *PlateSpin Recon 入門ガイド*
- ◆ 製品に統合されている *PlateSpin Recon ユーザガイド* のオンラインバージョン
- ◆ *リリースノート*

サードパーティベンダの製品やマニュアルについては、該当の製品の販売代理店またはサポート代理店までお問い合わせください。

マニュアルの更新

PlateSpin Recon 3.7.2 のマニュアルの最新版については、[Novell PlateSpin Recon 3.7.2 のマニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/ps_recon37/\)](http://www.novell.com/documentation/ps_recon37/) を参照してください。

技術サポート

技術サポートの連絡先：

- ◆ 電話 (北米): +1 800 858 4000。これはフリーダイヤル番号です。
- ◆ 電話 (世界共通): +1 416 203 4799。これはフリーダイヤル番号ではありません。
- ◆ 電子メール : support@platespin.com

PlateSpin 技術サポートの Web サイト (<http://www.platespin.com/support/>)、または Novell Customer Center の Web サイト (<http://www.novell.com/center/eservice>) もご利用いただけます。

ユーザフォーラム

ユーザフォーラム (<http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/platespin/>) もご利用いただけます。

Novell PlateSpin Recon は、データセンターの統合と最適化のためのインテリジェントでビジュアルな分析と予測を可能にします。サーバのワークロードについて、ハードウェア、ソフトウェア、およびサービスのインベントリデータが収集されます。PlateSpin Recon では、データセンターで実行されているアプリケーションサービスのクリアで正確なピクチャを表示したり、リソースの使用状況を判断して表示したりするために、ワークロード使用率に関する統計をリモートで収集することができます。

PlateSpin Recon の Consolidation Planning Module は、サーバのリソース供給とワークロード需要の間の最適な状況を判断します。統合前後におけるサーバワークロードの特徴をビジュアル化したり、統合に必要なサーバを判断したり、自動的に統合プランを生成してプロジェクトを円滑に進めたりすることが可能になります。また、サービスの停止の際に適切な仮想リカバリ環境に割り当てることにより、サーバを保護することもできます。

PlateSpin Recon には、Virtual Infrastructure Management 機能だけではなく、リソース使用率に基づいた IT チャージバックシステムなどのその他の機能も含まれます。これらは、データセンターの仮想化と統合により示される課題に取り組む支援をするために使用できます。

- ◆ 13 ページのセクション 1.1 「PlateSpin Recon の機能」
- ◆ 14 ページのセクション 1.2 「Planning Module 機能」
- ◆ 15 ページのセクション 1.3 「サポートされているプラットフォーム」
- ◆ 18 ページのセクション 1.4 「アプリケーションのシナリオ」
- ◆ 21 ページのセクション 1.5 「PlateSpin Recon の用語」

1.1 PlateSpin Recon の機能

リモートデータ収集 : PlateSpin Recon は、エージェントソフトウェアのインストールを必要とせず、データセンターサーバを物理的に触る必要をなくしました。すべてのパフォーマンスデータとインベントリデータは、標準的な OS インストラメンテーション機能を使用して収集されます。

リッチデータモデリング : リソース、ワークロード、および使用率傾向の優れた分析に基づいた統合の選択を行う上で役立ちます。VMware VirtualCenter との密接な統合により、仮想インフラストラクチャのビジビリティを高め、結果としてデータセンターの管理や操作が容易になります。

カスタムレポートの作成と配信 : 容易にリソースとワークロードのパラメータを定義し、データセンターの評価とサーバの統合に関するカスタムビジュアルレポートを生成することができます。リソース使用率傾向に基づいて統合候補をすばやく識別し、統合の前と後でワークロードの特徴を比較できます。電子メールまたは FTP を介してレポートをスケジュール配信することにより、リモートデータへ容易かつ確実にアクセスでき、最新の情報が提供されます。

柔軟なデータのキャプチャとエクスポート : PlateSpin Recon データを HTML、PDF、Word、CSV、Excel、またはイメージなどの多くの形式でエクスポートできます。生データをデータベースから直接抽出し、ビジネスインテリジェンスアプリケーションに送信して、高度な統計分析を行うことができます。

エンタプライズクラスのスケラビリティ : PlateSpin Recon の各インスタンスは、最大 1500 個のサーバを監視して、世界最大規模のデータセンターの企業スケラビリティを保証することができます。データは、集中管理されたデータウェアハウジング、分析、およびプランニングのために複数の PlateSpin Recon データコレクタから集約することができます、また大企業での実装にも対応できます。

複数のデータセンターのサポート : PlateSpin Recon は地理的に異なる複数の場所で使用し、データをリモートで収集したり、スケジュールされたアップデートを PlateSpin Recon のマスタインストール環境に提供したりすることができます。これにより、サーバやデータセンターの統合のようなイニシアチブのために、集中管理された分析とプランニングが可能になります。

柔軟なチャージバックレポート : 仮想化はコンピューティングリソースの共有プールを作成するため、仮想リソース使用状況の管理と監視が困難になる場合があります。PlateSpin Recon は、組織が事業部や部門の所有者間で仮想リソースを効果的に割り当て、共有することができるようにします。柔軟性の高い「チャージバック」レポート機能により、組織では実際のリソース使用状況に基づいた正確な IT コストの計算が可能になるため、仮想インフラ管理と財務会計が改善されます。

VM 増大レポート : 仮想マシンの増殖を監視してレポートを作成し、仮想インフラストラクチャのスプロールに伴う煩わしい管理を回避することができます。

1.2 Planning Module 機能

プランニング : サーバのワークロードと仮想リソースの間の最適な状態を確保するために、詳細なワークロード分析に基づいたサーバ統合とディザスタリカバリの計画を自動的に生成できます。予測データを使用して、将来の増大に対して計画および対応します。

ワークロード分析 : PlateSpin Recon の Planning Module は、ワークロードの 5 つの重要な要素、つまりプロセッサ、メモリ、ディスク容量、ディスク I/O、およびネットワーク I/O のサイズを、何千ものサーバにわたって同時に自動的に分析し、使用率を最大化する一方で、リソースの競合を最小限に抑える統合計画を提供します。

シナリオモデリング : ユーザ定義されたターゲットサーバの仕様に基づいたカスタムシナリオを使用できます。最適な統合計画を作成するために、これにはサーバテンプレートまたは既存の仮想マシンサーバを含みます。

消費電力と冷却の分析 : 異なる統合シナリオに由来する潜在的な電力と冷却コストの節約と ROI を比較し、対比させることができます。カスタムフィールド (中央データベースで維持される) には、主要なハードウェアプラットフォームの電力と冷却の要件を入力できます。この機能により、組織がグリーンコンピューティングのイニシアチブを分析し、コストの観点からも正当化できるようにします。

時間ベース分析 : 仮想ホスト全体で均等に複数のワークロードを分散させ、サーバ使用率の傾向に示されている時間的なピークと閑散時を考慮に入れることができます。

ワークロードと使用率の予測 : 履歴傾向に基づいて将来のワークロードとリソース使用率を予測し、サーバの統合とインフラストラクチャの増大に対してより良い計画を立てると同時に、より前向きなシステム管理が可能になります。CPU、ディスク、メモリ、および使用状況傾向の予測データは、読みやすいチャート、レポート、および計画で示されます。

1.3 サポートされているプラットフォーム

- ◆ 15 ページのセクション 1.3.1 「サポートしているインベントリとデータ収集」
- ◆ 18 ページのセクション 1.3.2 「PlateSpin Portability Suite による統合でサポートされるソースおよびターゲット」

注：PlateSpin Recon のクライアント / サーバをサポートしているプラットフォームの詳細については、『[Novell PlateSpin Recon 3.7.2 入門ガイド](#)』の「システム要件」を参照してください。

1.3.1 サポートしているインベントリとデータ収集

PlateSpin Recon では、Microsoft Windows、UNIX/Linux、および Novell Netware を含むオペレーティングシステムファミリーに対して、検出、インベントリ、およびデータ収集 (監視) をサポートします。

- ◆ 15 ページの「サポートしている Microsoft Windows プラットフォーム」
- ◆ 16 ページの「サポートしている UNIX/Linux プラットフォーム」
- ◆ 16 ページの「サポートしている Novell NetWare プラットフォーム」
- ◆ 17 ページの「サポートしているハイパーバイザ」

サポートしている Microsoft Windows プラットフォーム

表 1-1 サポートしている Windows プラットフォーム

バージョン	ビットの仕様
Windows Server 2000 (SP0、SP1、SP2、SP3、SP4)	32 ビット
Windows Server 2003 (SP0、SP1、SP2)	32 ビット、 64 ビット
Windows Server 2008 (SP1、SP2)	32 ビット、 64 ビット
Windows Server 2008 R2	64 ビット
Windows Vista (SP0、SP1)	32 ビット、 64 ビット
Windows NT 4.0 Server (SP4、SP6)	32 ビット
Windows NT 4.0 Server (SP6a - WMI Core バージョン 1.5 が必要)	32 ビット
Windows XP Professional (SP0、SP1、SP2、SP3)	32 ビット、 64 ビット

PlateSpin Recon は、次の Windows ローカライズバージョンをサポートしています：

- ◆ フランス語
- ◆ ドイツ語
- ◆ 日本語

サポートしている UNIX/Linux プラットフォーム

表 1-2 サポートしている UNIX/Linux プラットフォーム

バージョン	ビットの仕様
Fedora Core 3、4、5、6、7、8、9、10	32 ビット、 64 ビット
Novell SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 8.0、9x、10.0、10 SP1 (10.1)、10 SP2 (10.2)、11	32 ビット、 64 ビット
Novell SUSE Linux 8.0	32 ビット
Novell OpenSUSE 10.1、10.2、10.3、11、11.1	32 ビット、 64 ビット
RedHat Linux 7.3、8.0、9.0、9.1、9.2	32 ビット、 64 ビット
RedHat Enterprise Linux 2.x AS/ES	32 ビット
RedHat Enterprise Linux 3.0 AS/ES、4.0 AS/ES、5.0 AS/ES、5.1 AS/ES	32 ビット、 64 ビット
Ubuntu 7.1、8.04、8.10	32 ビット、 64 ビット
CentOS 2.0	32 ビット
CentOS 3.9、4.6、5.1、5.2	32 ビット、 64 ビット
Sun Solaris 8、9、10 (SPARC/x86)	32 ビット、 64 ビット
Sun Solaris 7 (SPARC)	32 ビット
IBM AIX 5.2、5.3、6.1	32 ビット、 64 ビット

サポートしている Novell NetWare プラットフォーム

表 1-3 サポートしている Novell NetWare プラットフォーム

バージョン	ビットの仕様
Novell NetWare 5.1 (SP8)	32 ビット、 64 ビット
Novell NetWare 6.0 (SP5)	32 ビット、 64 ビット
Novell NetWare 6.5 (SP6)	32 ビット、 64 ビット

重要 : Netware コンピュータの監視を可能にするには、次の Novell クライアントをダウンロードして PlateSpin Recon サーバコンピュータにインストールしてください。クライアントのダウンロードは無料です。インストール中には、[*Custom Installation*] を選択して、Novell Modular Authentication Service (NMAS) クライアントをインストールしてください。

- ◆ Novell Client 4.91 SP5 (<http://download.novell.com/Download?buildid=qmMAWSRy5q4~>)
- ◆ Novell Client 4.91 Post-SP5 NWFS.SYS (<http://download.novell.com/Download?buildid=m7NbjomFSxU&donotredirect=true>)

Novell クライアントのインストールは、標準的な Windows ログオンに影響します。詳細については、該当の Novell クライアントドキュメントを参照してください。

Netware 5.1 および 6.0 では、CPU 使用率とディスク使用率のカウンタのみがサポートされます。また、Netware 6.5 以降では、CPU 使用率、ディスク使用率、およびメモリ使用率のカウンタのみがサポートされます。

サポートしているハイパーバイザ

表 1-4 サポートしているハイパーバイザ

バージョン	ビットの仕様
Citrix XenServer 4.1、5.0	32 ビット、 64 ビット
Windows Server 2008 (SP1、SP2)Hyper-V	64 ビット
Windows Server 2008 R2 Hyper-V	64 ビット
Sun Solaris 10 Zones on Sun Solaris 10 Container	32 ビット、 64 ビット
VMware ESX Server 2.5.3、2.5.4、2.5.5、3.0.0、3.0.1、3.0.2、3.0.3、3.5.0、3i、4.0、4i	32 ビット、 64 ビット
VMware ESX Server 4.1、4.1i	64 ビット
VMware GSX Server 3.2 (Windows 版)	32 ビット、 64 ビット
VMware 1.x+ (Windows 版)	32 ビット、 64 ビット
Virtual Server 2005 (バージョン 1.0) の全エディション	
Virtual Server 2005 R2 (SP1)	
VMware Virtual Center 2.0.1、2.0.2、2.5、4、4.1	
Xen on Novell SLES 10.0、11	32 ビット、 64 ビット

1.3.2 PlateSpin Portability Suite による統合でサポートされるソースおよびターゲット

サポートしているオペレーティングシステムとターゲットでのワークロードに対する統合シナリオは、PlateSpin Portability Suite を使用して実装できます。Portability Suite がサポートしているソースとターゲットのオペレーティングシステムに関する詳細は、PlateSpin Portability Suite ドキュメントの Web サイト (http://www.novell.com/documentation/platespin_portabilitysuite_810/) を参照してください。

PlateSpin Portability Suite での変換に対するソースとターゲットのオペレーティングシステムに関する詳細は、ナレッジベースの記事 Q20002 (<http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20002>) を参照してください。

Portability Suite での統合シナリオの実装に関する詳細については、170 ページのセクション 6.8 「Portability Suite を使用したシナリオの実装」 を参照してください。

1.4 アプリケーションのシナリオ

PlateSpin Recon と PlateSpin Portability Suite を組み合わせると、全体的な容量プランニングとサーバ統合プロジェクトを徹頭徹尾自動化する唯一のスイートになります。次の表では、データセンターの最適化と統合のためのソリューションを評価、設計、および実装する方法が示されています。

表 1-5 データセンターの最適化と統合のためのワークフロー

アクション	プロセス	説明	ソリューション
評価	1. インベントリ	<ul style="list-style-type: none">◆ データセンター全体でサーバのハードウェアとソフトウェアの資産をリモート検出します。◆ オペレーティングシステム、インストール済みおよび実行中のアプリケーションやサービス、パッチレベル、CPU、メモリ、ネットワークとディスクリソースなど、各サーバに関する詳細な情報を収集します。◆ ネットワークに接続し、関連するコンピュータやドメインを選択します。つまり、ハードウェアやリソースのデータが集中管理されたデータベースに収集されます。◆ 整理された分析のために、事前定義およびユーザ定義のグループによりサーバを整理します。	PlateSpin Recon: データセンターのサーバリソースとワークロードを、エージェントを使用せずにリモートで識別し、ハードウェアとソフトウェアのインベントリ、使用率レベル、およびワークロードのサイズの全体図を作成します。

アクション	プロセス	説明	ソリューション
評価	2. 収集	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークロードを識別して、所定の日数、週、または月にわたって使用率データを収集し、ワークロードのサイズと適切なリソースマッチングを判断します。 ◆ ワークロードとリソースのミスマッチを識別し、統合またはリソースアップグレードの候補となるワークロードを識別するための動的レポートを作成します。 ◆ CPU、ネットワーク、ディスク、メモリインベントリ、パフォーマンス、またはこれらの組み合わせ別にサーバのワークロードを順位付けして、ソートします。 ◆ サマリワークロードのサイジングデータを表示したり、特定の時点まで粒度レベルのドリルダウンを行ったりします。 ◆ 複数のサイトからデータを収集して分析し、データセンターのより完全な全体図を作成します。 ◆ データをサードパーティツールにエクスポートしたり、ビジュアルグラフをビジネスプレゼンテーションにコピーしたりします。 	PlateSpin Recon: データセンターのサーバリソースとワークロードを、エージェントを使用せずにリモートで識別し、ハードウェアとソフトウェアのインベントリ、使用率レベル、およびワークロードのサイズの全体図を作成します。

アクション	プロセス	説明	ソリューション
設計	3. 分析	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 仮想化候補を識別します。 ◆ 使用率を最大化するためにワークロードをサーバ全体に分配するためのシナリオを作成します。 ◆ アプリケーションのワークロードを時間的に、またハードウェアリソースの全体でバランスよく分散させ、リソースの競合を最小限に抑えます。 ◆ 「what-if」モデルを使用して、プロジェクトに必要なハードウェアと仮想ホストのさまざまな組み合わせを決定します。 ◆ 詳細な「プロジェクト」、「シナリオ」、および「ワークロード割り当て」のレポートとチャートを使用して、統合またはディザスタリカバリの計画を生成します。 ◆ 合計所有コスト、統合比率、ラックスペース、および必要電力に基づいて、さまざまなシナリオを比較します。 	PlateSpin Recon: ワークロードを新しい仮想ホストに理想的に組み合わせて割り当てるための統合シナリオを生成します。
実装	4. 統合	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 物理サーバをVMware ESX Server、VMware Server、Microsoft Virtual Serverなどの仮想環境にストリーミングすることにより、サーバ統合プロジェクトを円滑に進めます。 ◆ 異種の物理サーバ間や、物理サーバからブレードへの間で、移行を自動化します。 	PlateSpin Portability Suite: ネットワークを介してデータ、アプリケーション、およびオペレーティングシステムを任意の物理的または仮想プラットフォームに自動的にストリーミングします。

アクション	プロセス	説明	ソリューション
管理	5. 監視	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークロードのパフォーマンスを追跡します。 ◆ 進行中の最適化について、使用率が高いワークロードと使用率が低いワークロードを識別します。 	PlateSpin Recon
	6. チャージバック	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カスタマイズされたレイターをマシンに割り当てます。 ◆ リソース使用状況を測定し、使用料をビジネス所有者に請求します。 ◆ 使用状況とコストに関するレポートを作成します。 	
	7. 仮想インフラストラクチャの管理	<ul style="list-style-type: none"> ◆ VM 作成を監視します。 ◆ VM 増大をレポートします。 	

1.5 PlateSpin Recon の用語

- ◆ **統合候補** : 仮想マシンに移動するネットワークのワークロード。
- ◆ **データセンターの資産** : 物理的マシン、仮想マシン、および物理的ワークロードと仮想ワークロードの集合。
- ◆ **ジョブ** : PlateSpin Recon により実行されるタスク。
- ◆ **保護候補** : ディザスタリカバリのために、待機中の VM の複製を作成するためのワークロード。
- ◆ **レーター** : 一定時間のリソースまたはリソースの一部の使用に対して、請求可能な使用料を割り当てるためのメトリック。
- ◆ **スケジュールされたジョブ** : 指定された時間と頻度で発生するアクティビティのセット。
- ◆ **仮想ホスト** : 仮想化ソフトウェアがインストールされている物理的マシン。例 : VMware ESX。
- ◆ **ワークロード** : 物理的マシンまたは仮想マシン。

PlateSpin Recon クライアントの ビューに関する概要

2

Novell PlateSpin Recon クライアントには、[データセンターの資産](#)に関する情報を整理、監視、表示、および管理する上で役立つ次のビューがあります：

- ◆ [23 ページのセクション 2.1 「Data Center Explorer」](#)
- ◆ [24 ページのセクション 2.2 「Report Explorer」](#)
- ◆ [25 ページのセクション 2.3 「Projects Explorer」](#)
- ◆ [26 ページのセクション 2.4 「Raters Explorer」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.5 「Chart Viewer」](#)
- ◆ [28 ページのセクション 2.6 「Job Explorer」](#)
- ◆ [28 ページのセクション 2.7 「Scheduled Job Explorer」](#)
- ◆ [29 ページのセクション 2.8 「Log Explorer」](#)

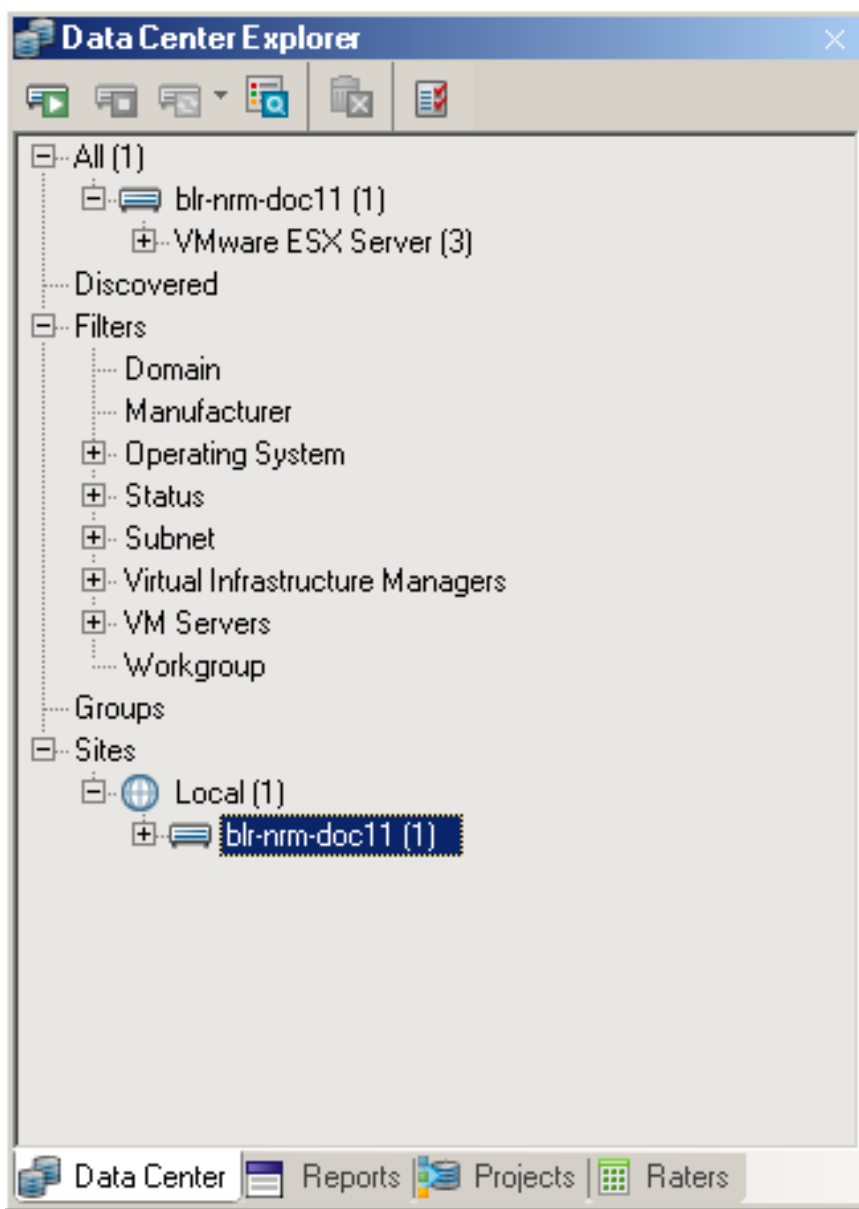
2.1 Data Center Explorer

Data Center Explorer は、PlateSpin Recon の主なビューの 1 つです。これは、[データセンターの資産](#)を整理、監視、表示、および管理するために使用されます。PlateSpin Recon ではそれらの情報を使用して、動的チャートを表示したり、パフォーマンスレポートを生成したり、パフォーマンス予測を生成したりします。

Data Center Explorer は、次に対する中心ポイントです：

- ◆ データセンターの物理マシンと仮想マシンとの対話
- ◆ ハードウェアとワークロードの検出とインベントリ
- ◆ サーバの追加、監視、フィルタ、グループ化、または削除

図 2-1 Data Center Explorer

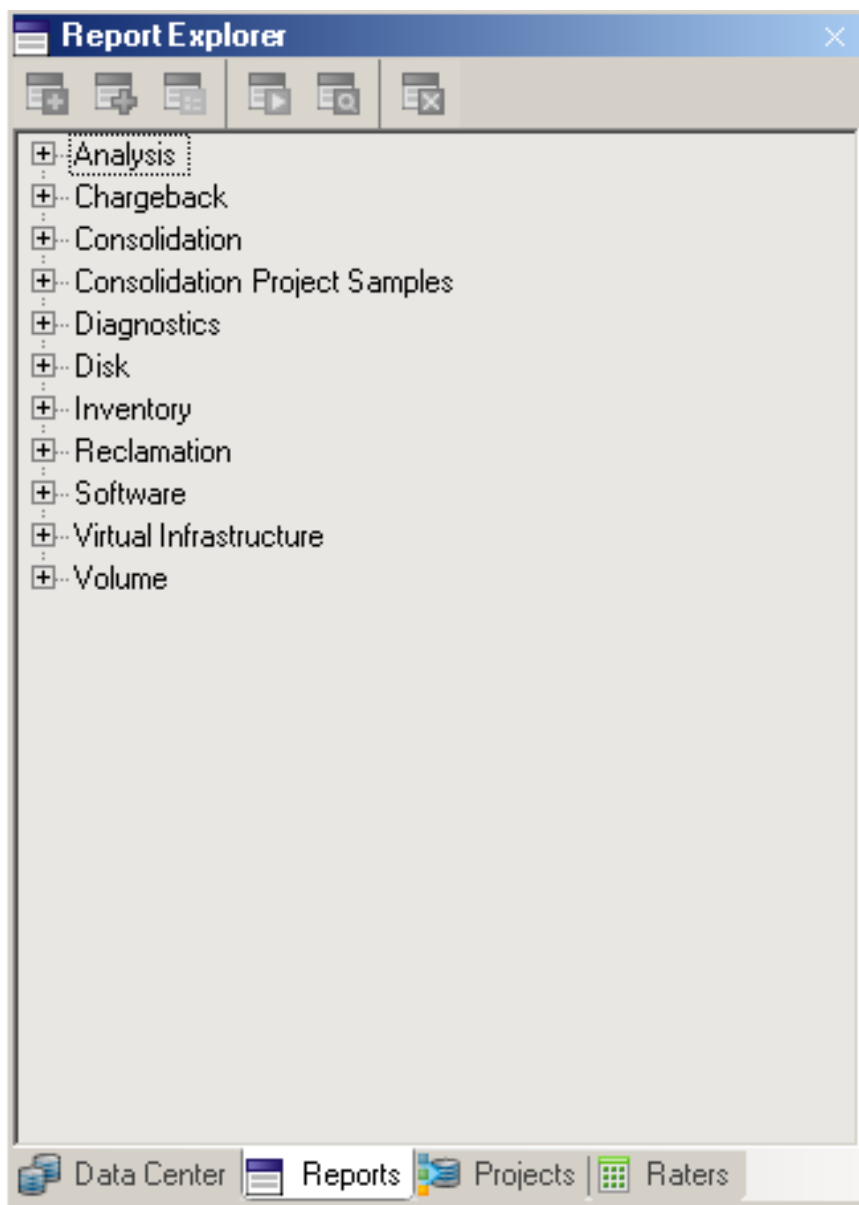


Data Center Explorer の操作に関する詳細については、[31 ページの第 3 章「Data Center Explorer の操作」](#)を参照してください。

2.2 Report Explorer

Report Explorer は、データのインベントリと監視に関するレポートを整理し、生成するためのものです。Report Explorer の階層は、さまざまなレポートテンプレートを持つレポートノードから構成されています。

図 2-2 Report Explorer

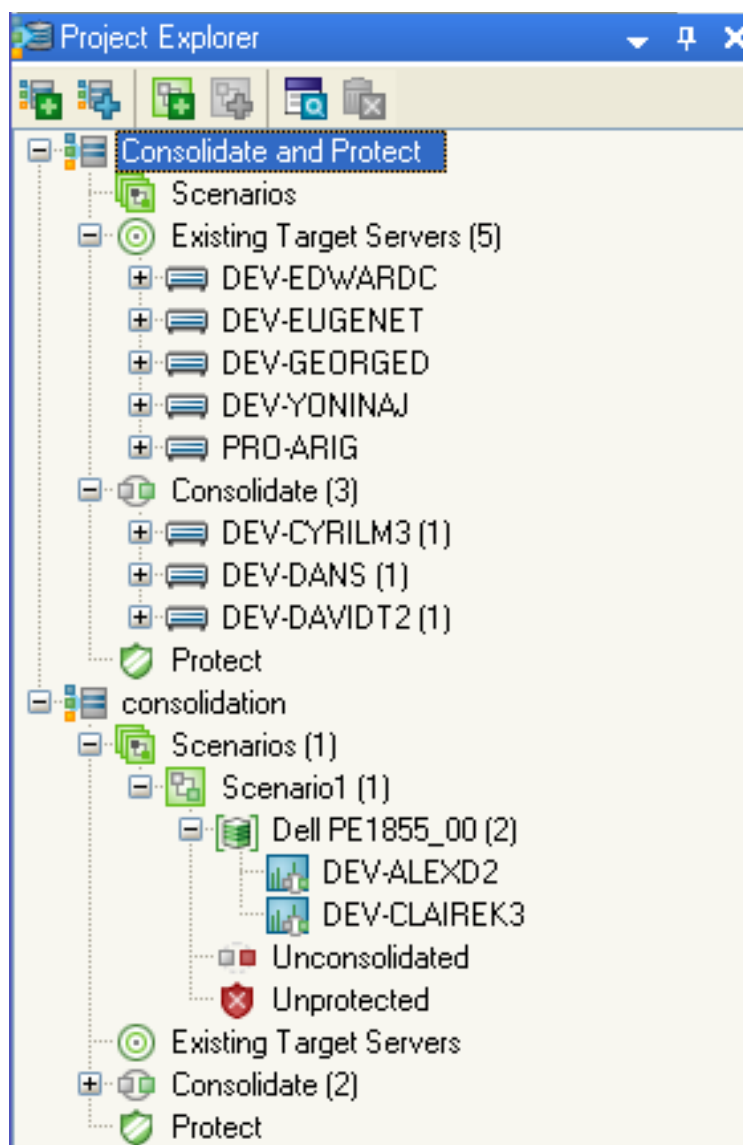


Report Explorer の操作に関する詳細については、97 ページの第 5 章「チャートとレポートの生成および表示」を参照してください。

2.3 Projects Explorer

プロジェクトは Project Explorer に表示されます。

図 2-3 Project Explorer ツリー



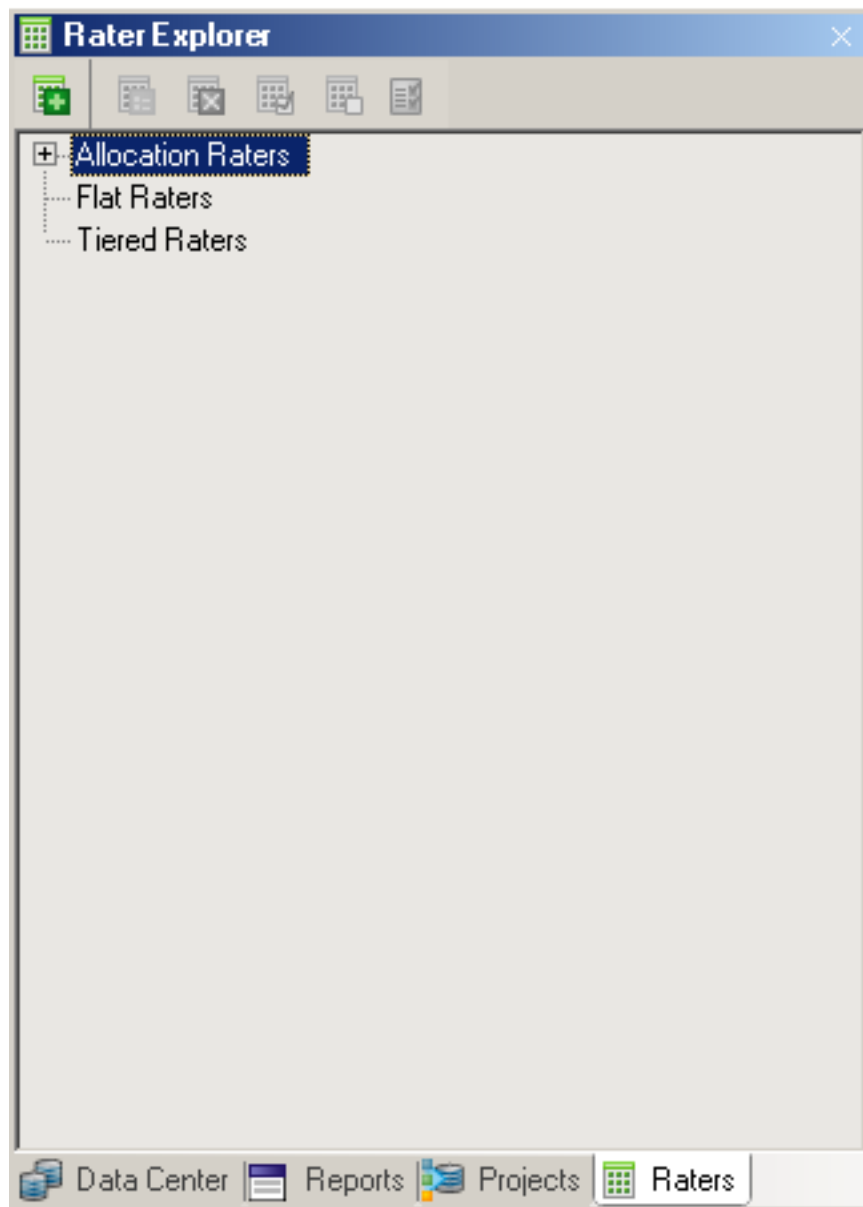
プロジェクト、シナリオ、および統合されたワークロードは、階層で整理されます。つまり、ワークロードはサーバの下に表示され、サーバはシナリオの下に表示され、シナリオはプロジェクトの下に一覧表示されます。選択した候補はすべて、プロジェクト内のワークロードの下に一覧表示されます。

Project Explorer の操作に関する詳細については、[137 ページの第 6 章「サーバ統合」](#)を参照してください。

2.4 Raters Explorer

チャージバックシステムを設定できます。

図 2-4 Raters Explorer



Raters Explorer の操作に関する詳細については、[173 ページのセクション 7.2 「レイターの使用」](#)を参照してください。

2.5 Chart Viewer

チャートには、ワークロードデータと使用率データがグラフィック表示されます。

特定のサーバに対するチャートを表示するには、そのサーバを **Data Center Explorer** で選択するか、またはそのサーバに属する 1 つのセルをレポートビューでクリックします。

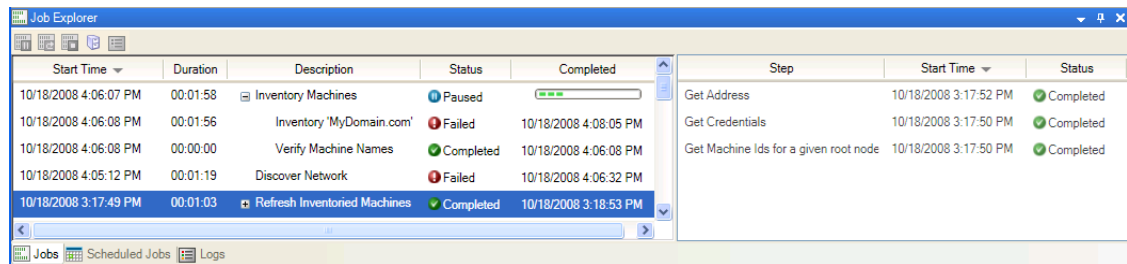
2.6 Job Explorer

PlateSpin Recon でタスクが実行されるたびに、ジョブがそのタスクについて作成されます。ジョブの実行、一時停止、または完了に関する情報は、Job Explorer に示されます。デフォルトでこれは、PlateSpin Recon ウィンドウの一番下にあります。

ジョブが複数のタスクから構成されている場合、ジョブの説明の隣のプラス記号をクリックしてジョブを展開し、すべてのタスクとそれぞれのタスクのステータスを確認できます。

また、タスクを選択することで、それぞれのタスクを構成するステップを確認することもできます。このステップは Job Explorer の右側のパネルに表示されます。

図 2-5 タスクのステップは、Job Explorer に表示されます。



ジョブの進行状況に関するメッセージは、ログファイルでキャプチャされます。

任意の実行中のジョブエントリを右クリックしてポップアップメニューを表示するか、またはツールバーのボタンを使用すると、任意の実行中のジョブを一時停止、再開、または中止することができます。[Archive] コマンドは、ジョブを [Archived Jobs] リストに移動します。これらのジョブは、[Tools] > [Archived Jobs] の順にクリックして、後に表示することができます。ステップを右クリックして [View Logs] を選択し、ステップのログを表示できます。([Log Viewer] ダイアログが表示されます。)

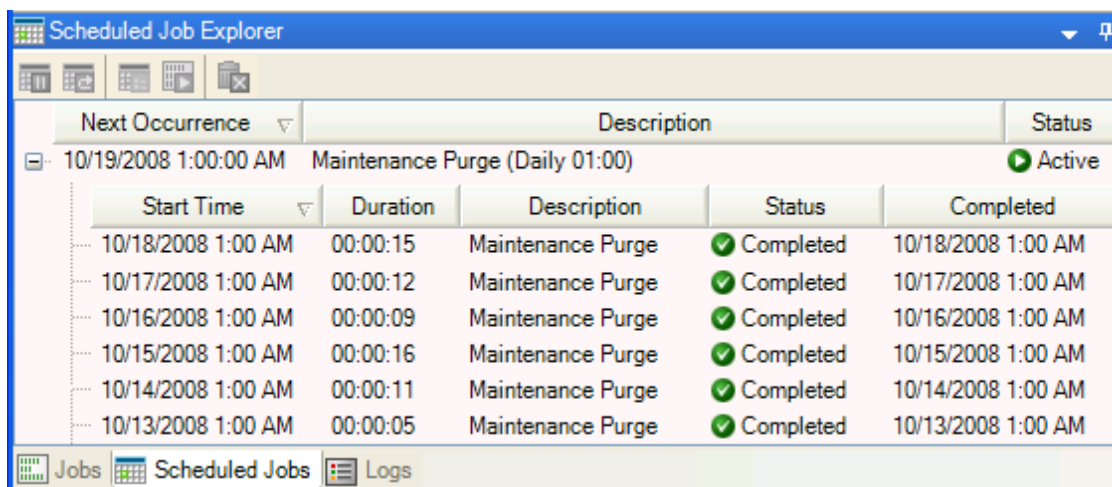
注: デフォルトの設定では、14 日ごとにログとジョブがページされます。この設定を変更するには、[Tools] > [Options] の順に選択します。[Options] ダイアログボックスが表示されます。[Server] ページの [Maintenance] カテゴリの下の [Advanced] をダブルクリックします。

2.7 Scheduled Job Explorer

スケジュールされたジョブは、指定の時間と頻度で発生するアクティビティのセットです。たとえば、これから 5 日間、毎朝午前 9 時に、Network Usage Report を生成することができます。

スケジュールされたジョブは、実行される操作 (ジョブ) とその操作を実行するスケジュールの 2 つのコンポーネントから構成されます。スケジュールは、午前 9 時に 3 つのレポートを作成するなど、複数のジョブの間で共有することができる再使用可能なコンポーネントです。Scheduled Job Explorer は、完了したジョブのステータスを表示するために使用できます。

図 2-6 Scheduled Job Explorer で表示されているジョブのステータス



該当する場合は、エラーや警告も表示されます。また、予定されたジョブは、手動で実行したり、その繰り返し方法を変更したりすることもできます。

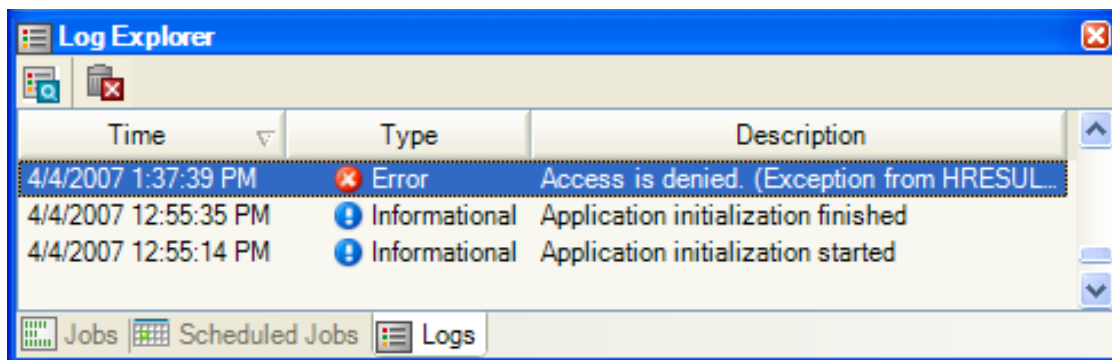
任意の実行中のジョブエントリを右クリックしてポップアップメニューを表示するか、またはツールバーのボタンを使用すると、スケジュールされた任意のジョブを一時停止、再開、または削除することができます。[Edit Recurrence] コマンドを使用すると、スケジュールされたジョブの繰り返しパターンを作成または編集できます。[Run Now] コマンドを使用すると、スケジュールされたジョブを直ちに実行できます。

2.8 Log Explorer

Log Explorer では、一般的な情報、警告、またはエラーメッセージを確認できます。ここに表示されるメッセージは、特定のジョブまたはサーバに関連するものではありません。任意のログエントリを右クリックしてポップアップメニューを表示し、そこからログエントリの表示 (View Details of a log entry)、ログエントリの削除 (Delete a log entry)、またはログエントリの XML 形式での表示 (View XML format of log entry) のためのコマンドを選択できます。

複数のログを同時に削除するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを使用して、<Delete> キーを押すか、[Delete] をクリックします。

図 2-7 Log Explorer の操作



Data Center Explorer の操作

3

この節では、Novell PlateSpin Recon の Data Center Explorer と、Data Center Explorer からアクセスできる機能についての情報を説明します。

- ◆ 31 ページのセクション 3.1 「Data Center Explorer についての理解」
- ◆ 32 ページのセクション 3.2 「データセンターのリソースの検出およびインベントリ」
- ◆ 56 ページのセクション 3.3 「フィルタの操作」
- ◆ 57 ページのセクション 3.4 「グループの操作」
- ◆ 58 ページのセクション 3.5 「サイトの操作」
- ◆ 59 ページのセクション 3.6 「PlateSpin Recon スナップショットの操作」
- ◆ 66 ページのセクション 3.7 「リモートデータの操作」
- ◆ 67 ページのセクション 3.8 「他の PlateSpin Recon インスタンスによって収集されたデータの操作」
- ◆ 69 ページのセクション 3.9 「他のパフォーマンス監視ツールによって収集されたデータの操作」
- ◆ 74 ページのセクション 3.10 「PlateSpin Recon での HP Reporter データの使用」
- ◆ 78 ページのセクション 3.11 「Performance Data Import」機能による PlateSpin Recon への汎用データのインポート」
- ◆ 83 ページのセクション 3.12 「Windows マシンに対するディスク使用率カウンタの収集」

3.1 Data Center Explorer についての理解

Data Center Explorer は、PlateSpin Recon の主なビューの 1 つです。これは、データセンターの資産を整理、監視、表示、および管理するために使用されます。PlateSpin Recon ではそれらの情報を使用して、動的チャートを表示したり、パフォーマンスレポートを生成したり、パフォーマンス予測を生成したりします。

Data Center Explorer では、物理サーバと仮想サーバは階層ツリー構造で示されます。

表 3-1 Data Center Explorer のノード

ノード	説明
All	すべてのシステムを一覧表示します
Discovered	検出されていてもインベントリされていないサーバを一覧表示します
Filters	ドメイン、オペレーティングシステム、監視状態などの組み込み要件によって一覧表示されるサーバを含みます
Groups	特定のデータ分離要件に従って手動でグループ化されたサーバを含みます

ノード	説明
Sites	デフォルトのローカルサイトや、作成したその他のサイト (PlateSpin Recon の他のインスタンスによって監視されるサーバ、あるいはサードパーティのパフォーマンス監視ツールからインポートされたサーバに関するデータを操作するため) などのデータサイト別にサーバを含みます。

Data Center Explorer のアイコンおよびコマンドに関する詳細については、[231 ページの付録 D 「PlateSpin Recon のアイコンおよびコマンドに対するクイックリファレンス」](#) を参照してください。

3.2 データセンターのリソースの検出およびインベントリ

PlateSpin Recon では、[データセンターの資産](#)に関する情報を 2 つの段階で取得します。

- ◆ **検出** : ネットワーク上にあるマシンを検出すると、ホスト名、IP アドレス、MAC アドレス、ポート情報などの情報が取得されます。
- ◆ **インベントリ** : 以前に検出されたマシンをインベントリすると、オペレーティングシステム、インストール済みアプリケーション、サービス、プロセッサ速度、メモリ、ネットワーク、ディスクリソースなど、各サーバに対してより詳細なデータが取得されます。

インベントリされたマシンは、インベントリに使用した方法にかかわらず、監視したり、すべてのレポートタイプに含めたりすることができます。

- ◆ [32 ページのセクション 3.2.1 「インベントリおよび検出の方法」](#)
- ◆ [45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#)
- ◆ [48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#)
- ◆ [49 ページのセクション 3.2.4 「検出のオプション」](#)
- ◆ [51 ページのセクション 3.2.5 「インベントリデータの表示およびサーバの監視」](#)

PlateSpin では、IP アドレスのような固有の属性を使用してマシンを識別します。インベントリされたマシンの IP アドレスを変更した場合、そのマシンの再インベントリが必要となります。

サーバをインベントリするために PlateSpin Recon によって使用されるポートに関する詳細については、ナレッジベースの記事 [Q20571 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20571\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20571) を参照してください。


3.2.1 インベントリおよび検出の方法

検出してインベントリする場合、一般的な方法としてはまず、ネットワーク上にある多数のサーバを検出します。これらのサーバは、Data Center Explorer の [Discovered] ノードに表示されます。次に、検出されたサーバを選択してインベントリします。最後に、インベントリされたサーバの中で監視するものを選択します。サーバに対して、検出、インベントリ、および監視の開始を 1 つのステップですべて行うこともできます。

サーバは、[Inventory] ボタン  を使用して Data Center Explorer に追加できます。


インベントリに対しては、7とおりの方法があります。インベントリの各方法は固有で、要件がそれぞれ異なります。

表 3-2 インベントリの方法

検出してインベントリする場合	検出してオプションでインベントリする場合
 (33 ページ) [Machines]	 (37 ページ) [Windows Domain]
 (34 ページ) [Virtual Center]	 (39 ページ) [IP Range]
 (35 ページ) [From a CSV File]	 (41 ページ) [Subnet]
	 (43 ページ) [SNMP]

[Machines]

物理サーバと仮想サーバを検出してインベントリするには：

- 1 [Inventory] ボタン  > [Machines] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [Machines] の順にクリックします。
[Inventory Machines] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Hostname or IP of the machine(s) to inventory] で、インベントリするマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
カンマで区切ることにより、複数のホスト名または IP アドレスを指定できますが、すべてのホスト名または IP アドレスでは同じ資格情報を使用する必要があります。
- 3 **ステップ 2** 追加したマシンに対する資格情報を指定します。新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#)を参照してください。
これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。
- 4 (オプション) サーバをインベントリしたら、それらのサーバの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#)を参照してください。
- 5 インベントリを実行するスケジュールを設定します。
 - ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
 - ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの 「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの 「\[Recurrence\]」](#)

3. フィールドに情報を入力します。

フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

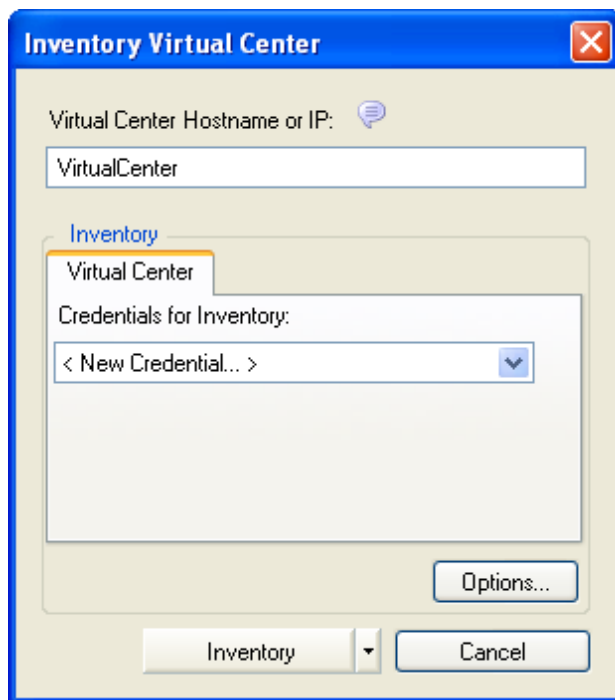
- 6 [Inventory] をクリックします。

[Virtual Center]

Virtual Center をインベントリすると、Virtual Center にあるすべてのサーバと仮想マシンに関する情報が収集されます。すべてのサーバと仮想マシンを個々に検出してインベントリする場合に比べて、これは非常に効率的です。

Virtual Center サーバを検出してインベントリするには：

- 1 [Inventory] ボタン  > [Virtual Center] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [Virtual Center] の順にクリックします。
[Inventory Virtual Center] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 インベントリする Virtual Center のホスト名または IP アドレスを指定します。
- 3 **ステップ 2** 追加したマシンに対する資格情報を指定します。新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#)を参照してください。
これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。
- 4 (オプション) サーバをインベントリしたら、それらのサーバの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#)を参照してください。

5 インベントリを実行するスケジュールを設定します。

- ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
- ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

6 [Inventory] をクリックします。

Virtual Center のコンテンツは、Virtual Center で整理されているとおりに、すべてのノード、クラスタ、リソースプール、および仮想マシンノードが表示された状態で、Data Center Explorer r に示されます。マシンは、インベントリされるまで、Data Center Explorer r の [All] に表示されません。

各コアライセンスを使用する場合は、まず Virtual Center をインベントリした後で、Virtual Center に属する ESX サーバ、またはそのような ESX サーバ上の仮想マシンをインベントリします。詳細については、『[Novell PlateSpin Recon 3.7.2 入門ガイド](#)』の「[各コア](#)」を参照してください。

[From a CSV File]

CSV ファイルからマシンをインベントリすると、カンマ区切りの値ファイルに情報が常駐するサーバを追加できます。ファイルにマシンを一覧表示するには、次の形式を使用します：

Address, [Username], [Password], [Description], [Inventory Type]

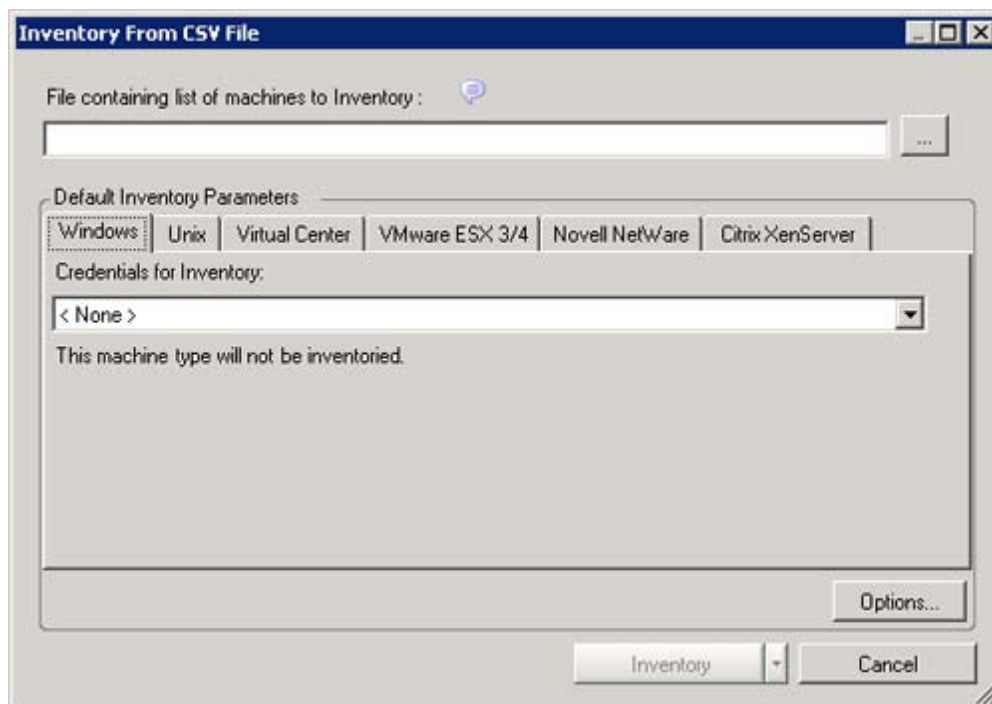
表 3-3 CSV ファイルの要件

フィールド	必須	説明
Address	はい	マシンの IP アドレスまたはホスト名。
Username	オプション	資格情報のユーザ名。これを空白にすると、デフォルトの資格情報が使用されます。
Password	オプション	資格情報のパスワード。資格情報を作成する場合にのみ必要です。
Description	オプション	資格情報の説明。 CSV ファイル内のマシンに対するエントリにユーザ名とパスワードが含まれる場合、資格情報の説明は固有でなければなりません。

フィールド	必須	説明
Inventory type	オプション	<p>次の値のいずれでもかまいません。値は、次に示すように、大文字と小文字およびスペースが一致していなければなりません：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ UNIX ◆ VirtualCenter ◆ VMwareESX3 ◆ VMwareESX4 ◆ NetWare ◆ CitrixXenServer ◆ Windows <p>値を指定しなかった場合、CSV ファイルで指定した資格情報の形式に基づいて、Windows または UNIX がデフォルトになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [user],[password] - UNIX 例：10.0.0.0,root,password,description ◆ [domain\user],[password] - Windows 例：10.0.0.0,localhost\administrator,password,description1 <p>また、このフィールドは、CSV ファイルの末尾に存在することが期待されます。</p>

CSV ファイルからマシンを検出してインベントリするには：

- 1 [Inventory] ボタン  > [From CSV File] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [From CSV File] の順にクリックします。
[Inventory from CSV] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 インベントリするサーバを含む CSV ファイルを見つけるために、パスを入力します (または、隣にあるブラウズボタンを使用します)。
- 3 (条件付き) すべてのマシンに対する資格情報が CSV ファイルに含まれない場合、マシンに対する資格情報を [Default Inventory Parameter] パネルで指定します。

注: すべてのマシンに対する資格情報が CSV ファイルに含まれている場合、[Default Inventory Parameters] 領域は無効になります。

新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#) を参照してください。

これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。

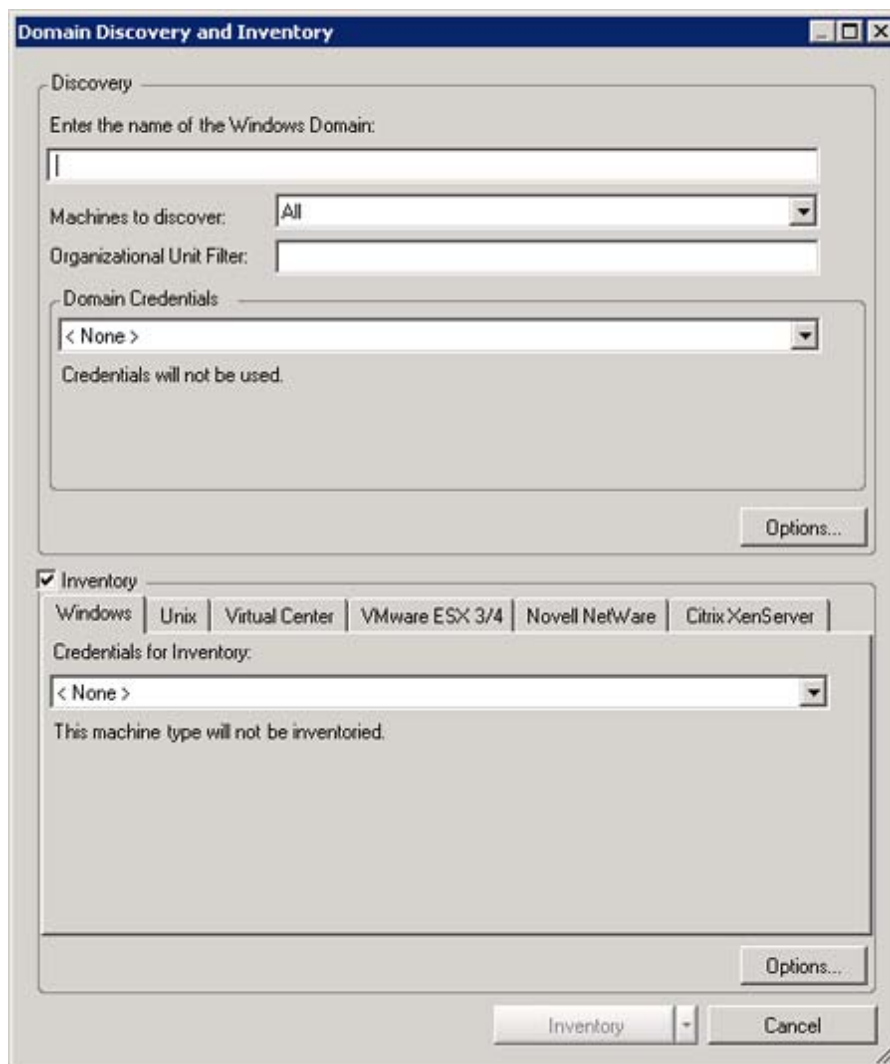
- 4 (オプション) マシンをインベントリしたら、それらのマシンの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#) を参照してください。
- 5 インベントリを実行するスケジュールを設定します。
 - ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します:
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
 - ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します:
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します:
 - ◆ [229 ページの「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。
- 6 [Inventory] をクリックします。

[Windows Domain]

[Windows Domain] オプションを使用してマシンをインベントリすると、指定の Windows ドメインで検出されたすべてのサーバを追加できます。

指定の Windows ドメインでサーバを検出し、オプションでインベントリするには:

- 1 [Inventory] ボタン  > [Windows Domain] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [Windows Domain] の順にクリックします。
[Domain Discovery and Inventory] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 Windows ドメイン名を入力します。
- 3 [Machines to Discover] ドロップダウンリストで、検出するマシンを選択します。使用可能なオプションは、すべてのマシン、サーバ、またはワークステーション(NT4 Workstation、Windows XP、Windows Vista)です。
- 4 (条件付き) ドメインの特定の部分を検出する場合は、部門 (OU) フィルタを設定します。詳細については、206 ページの「ドメイン検出:」を参照してください。
- 5 検出オプションを設定するには、[Options] ボタンをクリックします。詳細については、49 ページのセクション 3.2.4 「検出のオプション」を参照してください。
マシンの検出だけを行う場合は、ステップ 6 に進みます。マシンを検出してインベントリする場合は、ステップ 7 に進みます。
- 6 (条件付き) マシンの詳細をインベントリせず、マシンの検出だけを行う場合：
 - 6a [Inventory] オプションを選択解除します。
デフォルトでは、[Inventory] オプションが選択されています。
 - 6b [Discover] をクリックします。

7 (条件付き) マシンを検出してインベントリする場合は、次を追加設定します：

7a ステップ 3 追加したマシンに対する資格情報を指定します。

新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#)を参照してください。

これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。

7b (オプション) マシンをインベントリしたら、それらのマシンの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#)を参照してください。

7c インベントリを実行するスケジュールを設定します。

- ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
- ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの 「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの 「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

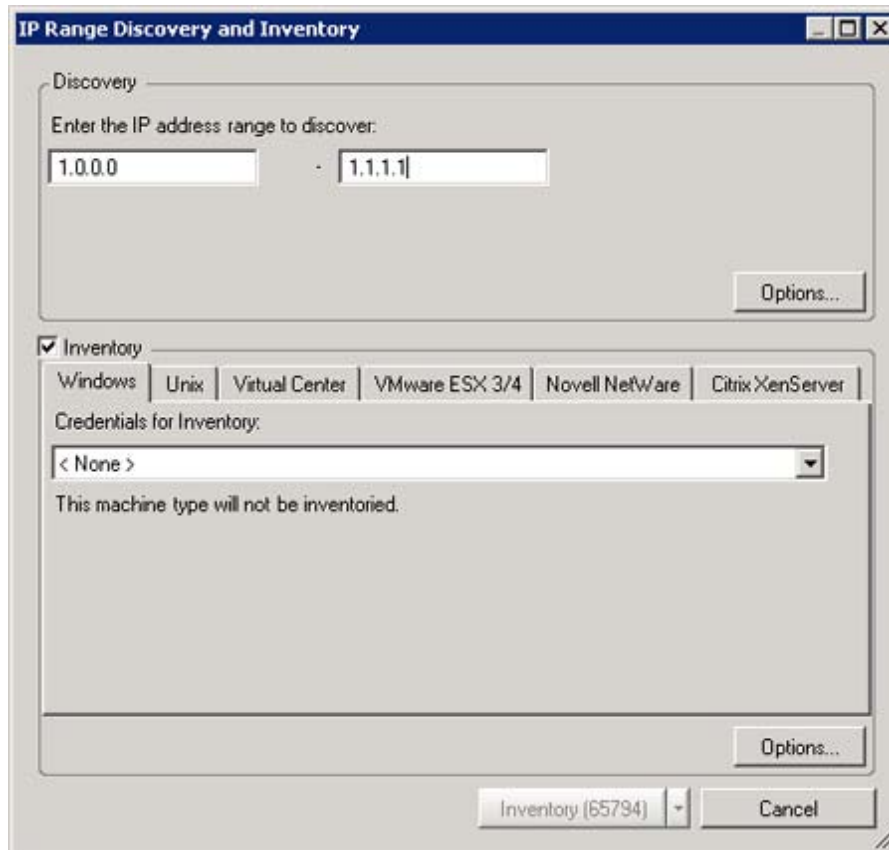
7d [Inventory] をクリックします。

[IP Range]

指定の IP アドレス範囲内にあるサーバを検出して、オプションでインベントリするには：

1 [Inventory] ボタン  > [IP Range] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [IP Range] の順にクリックします。

[IP Range Discovery and Inventory] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Discovery] ペインで、次を設定します：
 - 2a 検出するサーバの IP アドレス範囲を指定します。
 - 2b 検出オプションを設定するには、[Options] ボタンをクリックします。詳細については、[49 ページのセクション 3.2.4 「検出のオプション」](#)を参照してください。
マシンの検出だけを行う場合は、[ステップ 3](#)に進みます。マシンを検出してインベントリする場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
- 3 (条件付き) マシンの詳細をインベントリせず、マシンの検出だけを行う場合：
 - 3a [Inventory] オプションを選択解除します。
デフォルトでは、[Inventory] オプションが選択されています。
 - 3b [Discover] をクリックします。
[Discover] ボタンに表示される数値は、入力した範囲内に含まれる個々の IP アドレスの数を示します。
- 4 (条件付き) マシンを検出してインベントリする場合は、次を追加設定します：
 - 4a [ステップ 2](#) 追加したマシンに対する資格情報を指定します。
新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#)を参照してください。
これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。
 - 4b (オプション) マシンをインベントリしたら、それらのマシンの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#)を参照してください。

4c インベントリを実行するスケジュールを設定します。

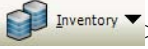
- ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
- ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

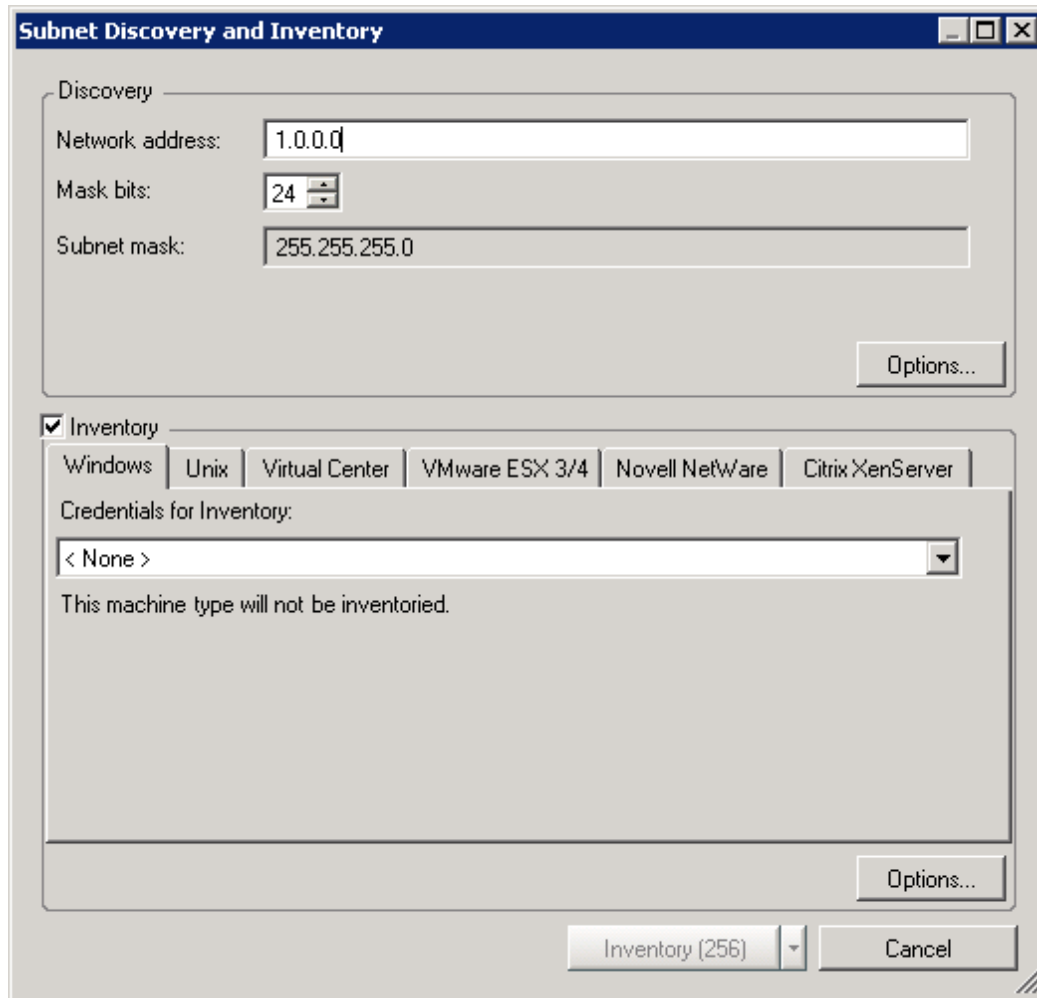
4d [Inventory] をクリックします。

[Inventory] ボタンに表示される数値は、入力した範囲内に含まれる個々の IP アドレスの数を示します。

[Subnet]

指定のサブネットにあるサーバを検出して、オプションでインベントリするには：

- 1 [Inventory] ボタン  > [Subnet] の順にクリックするか、または [Tools] メニュー > [Inventory] > [Subnet] の順にクリックします。
[Subnet Discovery and Inventory] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Discovery] ペインで、次を設定します：
 - 2a 検出するサブネットのネットワークアドレスとマスクビットを指定します。
 - 2b 検出オプションを設定するには、[Options] ボタンをクリックします。詳細については、[49 ページのセクション 3.2.4 「検出のオプション」](#)を参照してください。
マシンの検出だけを行う場合は、[ステップ 3](#)に進みます。マシンを検出してインベントリする場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
- 3 (条件付き) マシンの詳細をインベントリせず、マシンの検出だけを行う場合：
 - 3a [Inventory] オプションを選択解除します。
デフォルトでは、[Inventory] オプションが選択されています。
 - 3b [Discover] をクリックします。
[Discover] ボタンに表示される数値は、指定したサブネットに含まれる個々の IP アドレスの数を示します。
- 4 (条件付き) マシンを検出してインベントリする場合は、[Inventory] ペインで、次を追加設定します：
 - 4a [ステップ 2](#) 追加したマシンに対する資格情報を指定します。

新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#) を参照してください。

これによって、**[Inventory]** ボタンが有効になります。

4b (オプション) マシンをインベントリしたら、それらのマシンの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#) を参照してください。

4c インベントリを実行するスケジュールを設定します。

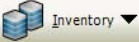
- ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ **[Inventory]** ドロップダウンリストの **[Now]** をクリックします。
 - ◆ **[Inventory]** ドロップダウンリストの **[Schedule]** をクリックし、**[Now]** > **[OK]** の順にクリックします。
- ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. **[Inventory]** ドロップダウンリストで、**[Schedule]** をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの 「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの 「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

4d **[Inventory]** をクリックします。

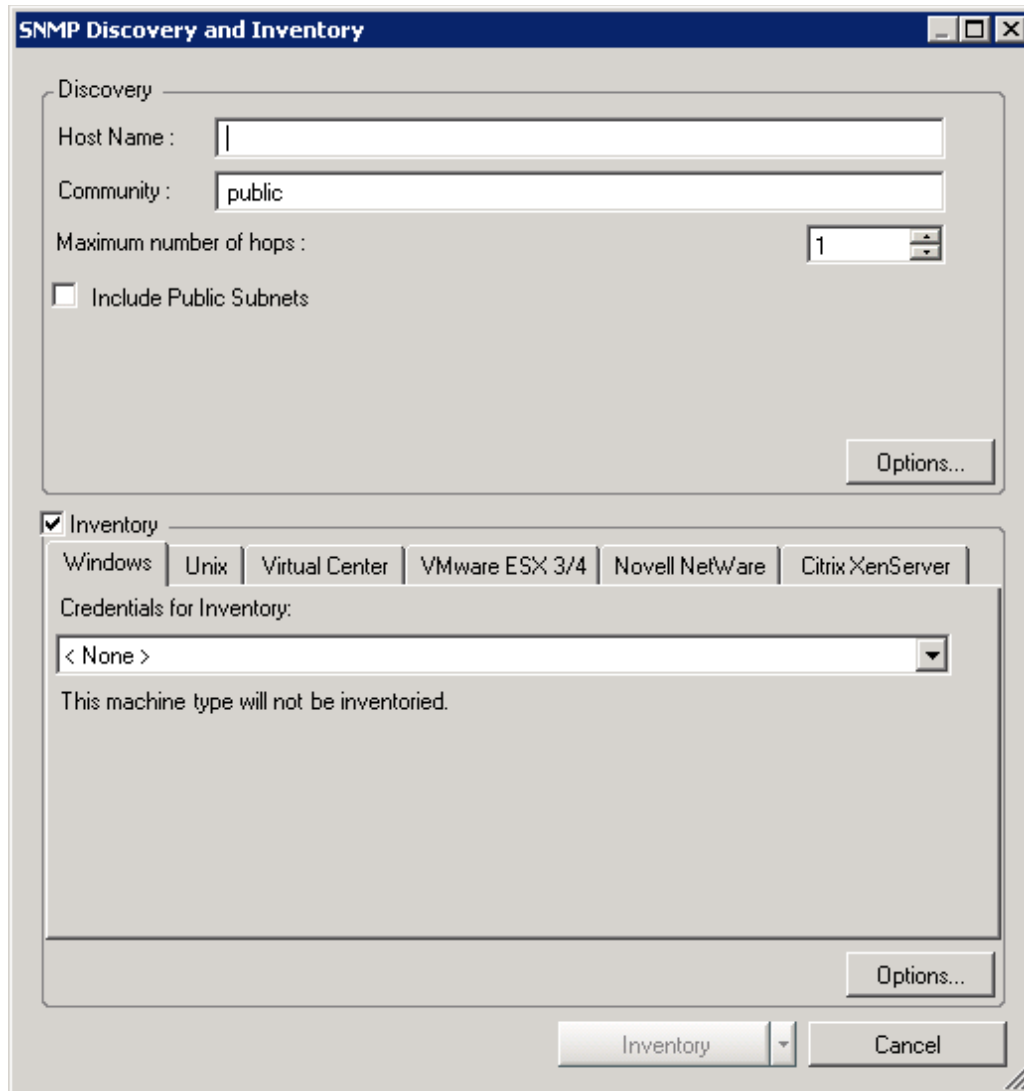
[Inventory] ボタンに表示される数値は、指定したサブネットに含まれる個々の IP アドレスの数を示します。

[SNMP]

シンプルネットワーク管理プロトコルを使用してマシンを検出し、オプションでインベントリするには：

1 **[Inventory]** ボタン  > **[SNMP]** の順にクリックするか、または **[Tools]** メニュー > **[Inventory]** > **[SNMP]** の順にクリックします。

[SNMP Discovery and Inventory] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Discovery] ペインで、次を設定します：
 - 2a ホスト名を指定します。
 - 2b SNMP コミュニティ名を指定します。デフォルトでは、これは「public」です。
 - 2c [Maximum number of Hops] で、ディスカバリが実行されるサーバを超えて行うホップの数を指定します。パブリックサブネットを含めるかどうかを指定します。
 - 2d 検出オプションを設定するには、[Options] ボタンをクリックします。詳細については、[49 ページのセクション 3.2.4 「検出のオプション」](#)を参照してください。マシンの検出だけを行う場合は、[ステップ 3](#)に進みます。マシンを検出してインベントリする場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
- 3 (条件付き) マシンの詳細をインベントリせず、マシンの検出だけを行う場合：
 - 3a [Inventory] オプションを選択解除します。
デフォルトでは、[Inventory] オプションが選択されています。
 - 3b [Discover] をクリックします。

4 (条件付き) マシンを検出してインベントリする場合は、[Inventory] ペインで、次を追加設定します：

4a ステップ 2 追加したマシンに対する資格情報を指定します。

新しい資格情報を指定する方法の詳細については、[45 ページのセクション 3.2.2 「インベントリの資格情報」](#) を参照してください。

これによって、[Inventory] ボタンが有効になります。

4b (オプション) マシンをインベントリしたら、それらのマシンの監視を開始したり、既存のグループに追加したりします。詳細については、[48 ページのセクション 3.2.3 「インベントリのオプション」](#) を参照してください。

4c インベントリを実行するスケジュールを設定します。

- ◆ インベントリを直ちに開始するには、次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Now] をクリックします。
 - ◆ [Inventory] ドロップダウンリストの [Schedule] をクリックし、[Now] > [OK] の順にクリックします。
- ◆ インベントリを後で実行するには、スケジュールを設定します：
 1. [Inventory] ドロップダウンリストで、[Schedule] をクリックします。
[Scheduling Options] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ [229 ページの 「\[Later\]」](#)
 - ◆ [229 ページの 「\[Recurrence\]」](#)
 3. フィールドに情報を入力します。
フィールドの詳細については、上に一覧表示されている適切なスケジュールをクリックします。

4d [Inventory] をクリックします。

3.2.2 インベントリの資格情報

検出されたマシンをインベントリするには、検出してインベントリする場合に表示されるダイアログボックスで [Inventory] チェックボックスを選択し、使用中のマシンのタイプに応じて、Windows、UNIX、Virtual Center、VMware ESX、Novell NetWare、または Citrix XenServer のマシンに対するログイン資格情報を指定します。

- ◆ [46 ページの 「Windows または VMware ESX 3/4 に対する資格情報の指定」](#)
- ◆ [46 ページの 「UNIX または Citrix XenServer に対する資格情報の指定」](#)
- ◆ [46 ページの 「Virtual Center に対する資格情報の指定」](#)
- ◆ [47 ページの 「Novell NetWare に対する資格情報の指定」](#)

リストまたは範囲内にある各マシンに対して、PlateSpin Recon では、一致するものが見つかるまで、各タイプの指定資格情報を試行します。資格情報が有効ではない場合、マシンはインベントリされません。

Windows または VMware ESX 3/4 に対する資格情報の指定

検出してインベントリする場合に表示されるダイアログボックスで、次の操作を実行します:

- 1 [Inventory] パネルで、使用中のマシンのタイプに応じて、[Windows] タブまたは [VMWare ESX 3/4] タブをクリックします。
- 2 [Credentials for Inventory] ドロップダウンリストで、資格情報を選択します。
新しい資格情報を追加するには、[<New Credential>] をクリックし、[Create Stored Credentials] ダイアログボックスで設定を行います。資格情報の追加に関する詳細については、[89 ページのセクション 4.2 「Credentials Manager」](#) を参照してください。

UNIX または Citrix XenServer に対する資格情報の指定

検出してインベントリする場合に表示されるダイアログボックスで、次の操作を実行します:

- 1 [Inventory] パネルで、使用中のマシンのタイプに応じて、[UNIX] タブまたは [Citrix XenServer] タブをクリックします。
- 2 [Credentials for Inventory] ドロップダウンリストで、資格情報を選択します。
新しい資格情報を追加するには、[<New Credential>] をクリックし、[Create Stored Credentials] ダイアログボックスで設定を行います。資格情報の追加に関する詳細については、[89 ページのセクション 4.2 「Credentials Manager」](#) を参照してください。
- 3 接続に対して特権ユーザ権を使用するには、[Use Sudo] チェックボックスを選択します。

PlateSpin Recon では、sudo ユーザ資格情報を使用して、Linux マシン (Xen を使用した RHEL、SLES、Ubuntu、CentOs、SLES) や Citrix XenServer マシンをインベントリできます。ただし、AIX マシンや Solaris マシンは、sudo ユーザ資格情報を使用してインベントリすることはできません。PlateSpin Recon ユーザは、ターゲットマシンでコマンドを実行する許可を持つ場合にのみ、sudo ユーザ資格情報を使用してマシンをインベントリすることができます。sudo ユーザ資格情報を使用してインベントリを実行するための許可を付与する方法の詳細については、[227 ページのセクション B.9 「Linux マシンのインベントリと監視を実行するための sudo 環境設定」](#) を参照してください。

ローカルポリシーによって、root ユーザとしての SSH セッションの確立が妨げられる場合があります。sudo 特権を持つユーザは、非 root ユーザとして SSH セッションを確立した後、sudo を使用して一時的に root ユーザ特権に「切り替える」ことによって、この制限を回避できます。これを行うには、ユーザのユーザ名とパスワードを使用して、資格情報を作成します。PlateSpin Recon では、root 特権を必要とするあらゆる操作を実行するために、sudo コマンドを使用します。

Virtual Center に対する資格情報の指定

検出してインベントリする場合に表示されるダイアログボックスで、次の操作を実行します:

- 1 [Inventory] パネルで、[Virtual Center] タブをクリックします。
- 2 [Credentials for Inventory] ドロップダウンリストで、資格情報を選択します。

新しい資格情報を追加するには、[<New Credential>] をクリックし、[Create Stored Credentials] ダイアログボックスで設定を行います。資格情報の追加に関する詳細については、[89 ページのセクション 4.2 「Credentials Manager」](#) を参照してください。

Virtual Center をインベントリするには、Virtual Center に対する読み込み専用のユーザ状態が少なくとも資格情報に必要となります。

Virtual Center では、Virtual Center がインストールされているマシンに対して管理者特権を持つユーザを、ユーザとして自動的に含めます。

Novell NetWare に対する資格情報の指定

- 1 インベントリする NetWare サーバ上にある Novell eDirectory で、PlateSpin Recon サーバ管理者と同じログイン資格情報を持つユーザを作成します。
- 2 ローカルセキュリティポリシーを PlateSpin Recon サーバ管理者に関連付けます：
 - 2a PlateSpin Recon サーバで、デスクトップの [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 - 2b [管理ツール] > [ローカルセキュリティポリシー] の順にダブルクリックします。
[ローカルセキュリティ設定] ウィンドウが表示されます。
 - 2c [ローカルポリシー] をクリックした後、[ユーザー権利の割り当て] をダブルクリックします。
 - 2d 管理者を次のポリシーに関連付けます：
 - ◆ オペレーティングシステムの一部として機能
 - ◆ トークンオブジェクトの作成
 - ◆ バッチジョブとしてログオン
 - ◆ サービスとしてログオン
 - ◆ プロセスレベルトークンの置き換え
- 3 推奨の Novell クライアントが PlateSpin Recon サーバにインストールされていることを確認します。
推奨の Novell クライアントに関する詳細については、[16 ページの「サポートしている Novell NetWare プラットフォーム」](#) を参照してください。
- 4 Novell クライアントから、[ステップ 1](#) で作成した管理者ユーザとして、PlateSpin Recon サーバにログインします。
- 5 PlateSpin Recon クライアントを起動します。
- 6 (左上角にある) [Inventory] ドロップダウンリストで、[Machines] をクリックします。
[Inventory Machines] ダイアログボックスが表示されます。
- 7 [Novell NetWare] タブをクリックします。
- 8 [Credentials for Inventory] ドロップダウンリストで、[<New Credential>] を選択します。
[Create Stored Machines] ダイアログボックスが表示されます。
- 9 NetWare 管理者のログイン資格情報を指定し、検証タイプとして [Novell NetWare Inventory] を選択します。
ユーザ名は、*Username.Context* 形式で指定してください。

Novell SYS: ボリュームに書き込みする許可が管理者にあることを確認してください。また、TCP ポート 524 がファイアウォールで開いていることも確認してください。詳細については、[15 ページのセクション 1.3 「サポートされているプラットフォーム」](#) を参照してください。

- 10 **[Launch Inventory Process as User]** ドロップダウンリストで、**[<New Credential>]** を選択します。

[Create Stored Machines] ダイアログボックスが表示されます。

- 11 次のフィールドに入力します：

[Username] : **ステップ 1** で作成した管理者ユーザ名を指定します。ユーザ名は、*hostname\username* 形式または *domain\username* 形式で指定する必要があります。*hostname\username* 形式でユーザ名を指定する場合、ホスト名はローカルホスト名にする必要があります。

[Password] : 管理者のパスワードを指定します。

[Validation Type] : **[Netware LSA]** を選択します。

[Hostname or IP of machine to validate against] : ここではローカルホストを指定します。

- 12 **[保存]** をクリックします。

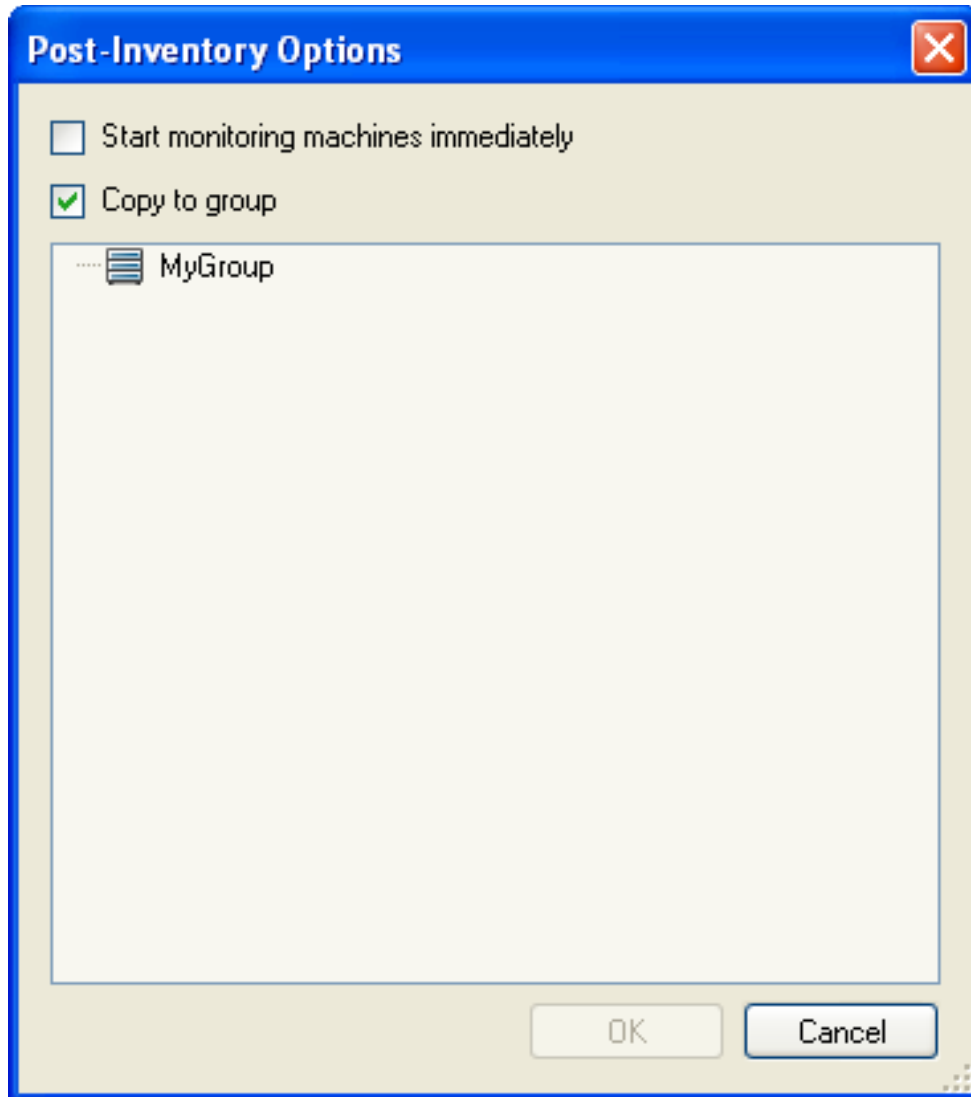
3.2.3 インベントリのオプション

インベントリを実行した直後に監視を開始する場合、またはユーザ定義グループにマシンをコピーする場合、ポストインベントリのオプションを設定する必要があります。検出してインベントリする場合に表示されるダイアログボックスで **[Inventory]** チェックボックスを選択した場合にのみ、これらのオプションを使用できます。

ポストインベントリのオプションを設定するには：

- 1 **[Inventory]** 領域の **[Options]** ボタンをクリックします。

[Post-Inventory Options] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 インベントリの完了直後に、検出された各マシンの監視を開始するには、[*Start monitoring machines immediately*] を選択します。
監視を後で開始する場合は、このオプションを選択しないでください。
- 3 [*Copy to group*] を選択した後、リストボックスに表示されたグループの中からターゲットグループを選択し、インベントリされたすべてのマシンをそのグループにコピーします。
- 4 [OK] をクリックします。

3.2.4 検出のオプション

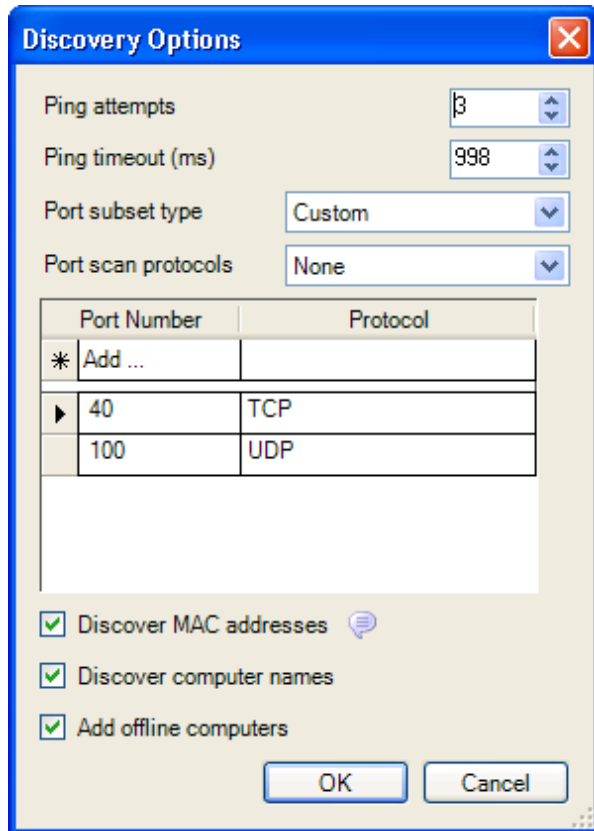
次のいずれかのインベントリ方法で検出してインベントリすることを選択した場合、追加の検出オプションを設定できます：

- ◆ [Windows Domain]
- ◆ [IP Range]

- ◆ [Subnet]
- ◆ [SNMP]

検出のオプションを設定するには：

- 1 [Discovery] ペインで、[Options] ボタンをクリックします。
[Discovery Options] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 希望に応じて、[Ping Attempts] オプションと [Ping Timeout] オプションを設定します。
- 3 [Port subset type] ドロップダウンリストで、次のいずれかのサブセットタイプを選択します：

- ◆ **[Most Common]** : 一般的な Windows ネットワークサービスに対するポートを含めます。
- ◆ **[All Standard]** : 標準のプロトコルによって使用される 1025 より低いポートを含めます。
- ◆ **[Custom]** : 指定したカスタマイズポートを含めます。

個々のスキャンプロトコルを特定のポートに割り当てるには：

1. [Port Number] カラムで [Add] をクリックし、ポート番号を入力します。
2. [Protocol] カラムで、ドロップダウンセルからプロトコルタイプ (TCP または UDP) を選択します。from the drop-down cell.

3. <Enter> を押します。
4. (オプション) 新しいポート番号を追加する場合は、[ステップ 1](#)～[ステップ 3](#)を繰り返します。
- 4 PlateSpin Recon サーバと同じ Ethernet セグメントにあるマシンの MAC アドレスを見つけるには、[*Discover MAC addresses*] を選択します。デフォルトではこのオプションが選択されています。
- 5 検出のポーリングにコンピュータ名を含めるには、[*Discover computer names*] を選択します。デフォルトではこのオプションが選択されています。
- 6 現在オフラインであるコンピュータも含めて検出するには、[*Add offline computers*] を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

3.2.5 インベントリデータの表示およびサーバの監視

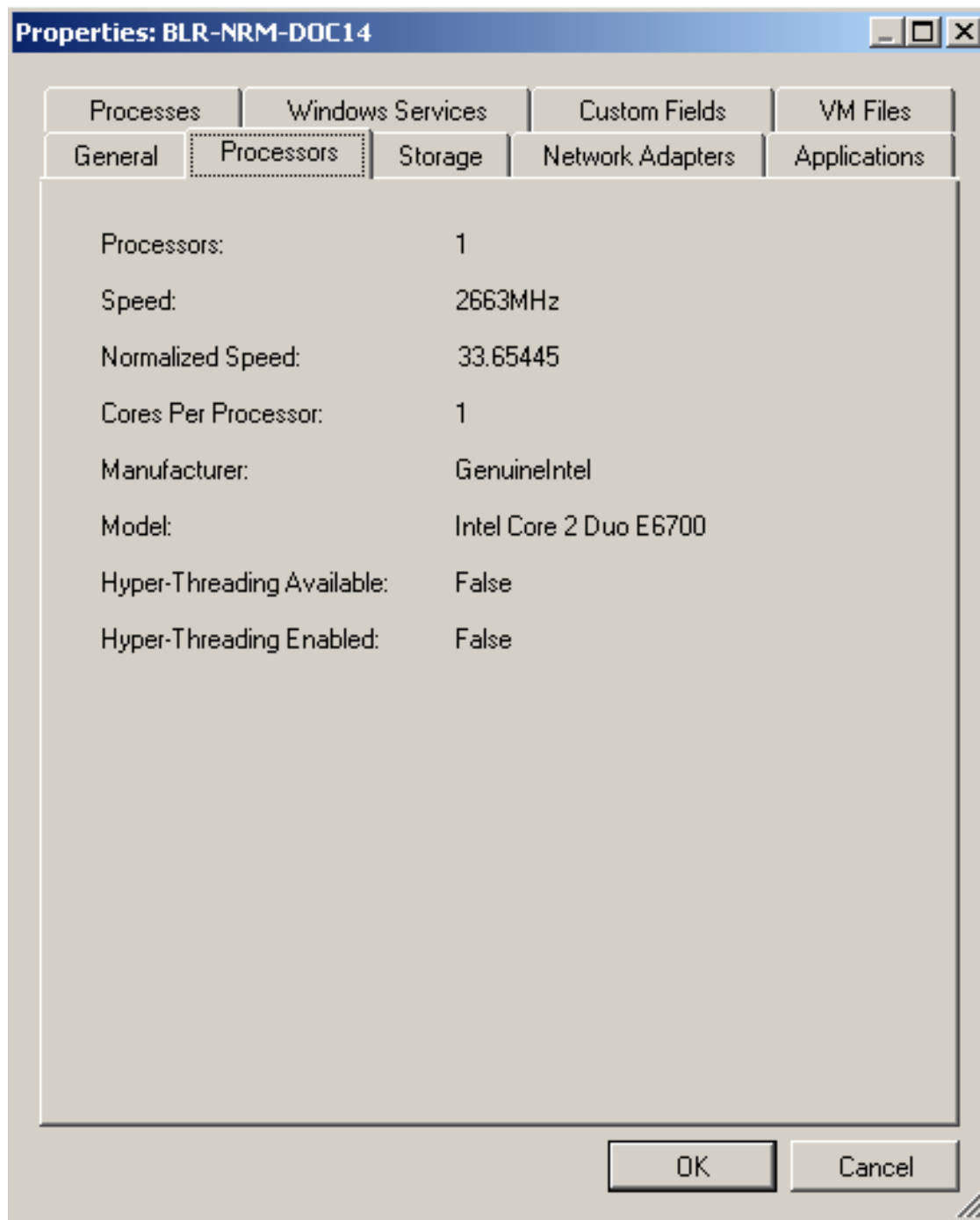
インベントリ操作が完了したら、Data Center Explorer ツリーに一覧表示されるサーバのインベントリデータを表示できます。動的データを表示するには、一定の期間、サーバを監視する必要があります。

- ◆ [51 ページ](#)の「プロパティの表示」
- ◆ [52 ページ](#)の「インベントリの更新」
- ◆ [53 ページ](#)の「サーバの監視による動的データの収集」
- ◆ [53 ページ](#)の「動的データの表示」
- ◆ [53 ページ](#)の「ログの表示」
- ◆ [53 ページ](#)の「カスタムのフィールド」
- ◆ [56 ページ](#)の「sudo ユーザ資格情報の使用による監視」

プロパティの表示

プロパティは、インベントリされたサーバに対する静的データを確認しやすくします。インベントリ情報を表示するには、サーバを右クリックし、[*Properties*] をクリックします。

図 3-1 [Properties] ダイアログボックスのサンプル表示



[Properties] ダイアログボックスで使用可能なタブは、表示するサーバのタイプによって異なります。

インベントリの更新

Data Center Explorer でサーバインベントリ情報を更新するには、1つまたは複数のサーバを右クリックし、メニューの [Refresh Inventory] をクリックします。

Inventory Refresh ジョブがスケジュールされ、Job Explorer で実行されます。

サーバの監視による動的データの収集

1 単一サーバを監視するには、インベントリされたそのサーバを右クリックし、[*Start Monitoring*] をクリックします。

複数のサーバを監視するには、それらのサーバを選択するか、該当の親グループ、フィルタ、またはサイトを選択して、[*Start Monitoring*] をクリックします。

ジョブが Job Explorer で作成されます。詳細については、[28 ページのセクション 2.6 「Job Explorer」](#) を参照してください。

2 データが収集されたら、サーバをクリックし、Chart Viewer で対応するチャートを表示します。少なくとも 5 分間分のデータが収集されると、Chart Viewer ではワークロードデータと使用率データを表示できます。

現在 PlateSpin Recon でサーバを監視していない場合でも、以前に収集されたサーバデータを含むチャートやレポートを表示することはできます。

複数のサーバを監視するには、個々を選択するか、グループ、フィルタ、またはサイトを使用することによって、これを実現できます。

監視を停止するには、監視されているサーバを右クリックし、[*Stop Monitoring*] を選択します。確認ダイアログボックスで、承認する場合は [Yes] をクリックし、ダイアログボックスを閉じて監視を続行する場合は [No] をクリックします。

動的データの表示

少なくとも 5 分間分のデータを収集すると、ワークロードデータと使用率データをチャートで表示できます。「分析」レポートには、少なくとも 1 時間分のデータが必要となります。データが不十分な場合、レポートは動的データなしに表示されます。収集されたデータは、監視されているサーバを選択することによって、チャートで表示できます。

詳細については、[97 ページのセクション 5.1 「Chart Viewer」](#) および [101 ページのセクション 5.2 「Report Explorer」](#) を参照してください。

ログの表示

ログファイルでは、監視されているサーバに対するデータ収集の状態が反映されます。

ログを検査するには、サーバをクリックして [Logs] をクリックし、[View Logs] をクリックします。

カスタムのフィールド

PlateSpin Recon でインベントリできないサーバ情報を入力するために、カスタムのフィールドを使用できます。これらの非インベントリのフィールドは、プランニングおよび統合に対する候補を識別しやすくします。情報は、可視テーブル名に格納されます。

カスタムのフィールドは、次のいずれかの方法で指定できます：

- ◆ [54 ページの「手動によるカスタムフィールドの指定」](#)
- ◆ [55 ページの「カスタムフィールドのインポート」](#)

手動によるカスタムフィールドの指定

複数のサーバに対してカスタムのフィールドを指定するには：

- 1 つまたは複数のサーバを Data Center Explorer で選択します。
- 2 選択したものを右クリックし、単一サーバの場合は [Properties] を選択し、複数のサーバの場合は [Set Custom fields] を選択します。
[Properties] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Custom Fields] タブをクリックします。
- 4 定義およびパラメータを表示するために、フィールドを選択します。

Properties: DEV

General Processors Disk Drives Network Adapters Applications
Processes Microsoft Virtual Server Windows Services **Custom Fields**

Rack Units	2
Energy Consumption (W)	330
Heat Dissipation (BTU/hr)	1125
Normalized Speed	4.714753

Heat Dissipation (BTU/hr)
Amount of heat generated by a server. Heat Dissipation (BTU/hr) = Energy...

Reset Reference Values

Company	
Department	
Location City	
Location State	
Location Country	
Function	
Rack	
Billing Code	
Usage	
Lease Expires	
Warranty Expires	

Billing Code
Billing code of the server

OK Cancel

- 5 データが入力されているものも含め、任意のフィールドで情報を入力したり、情報を選択したりします。
- 6 [OK] をクリックします。

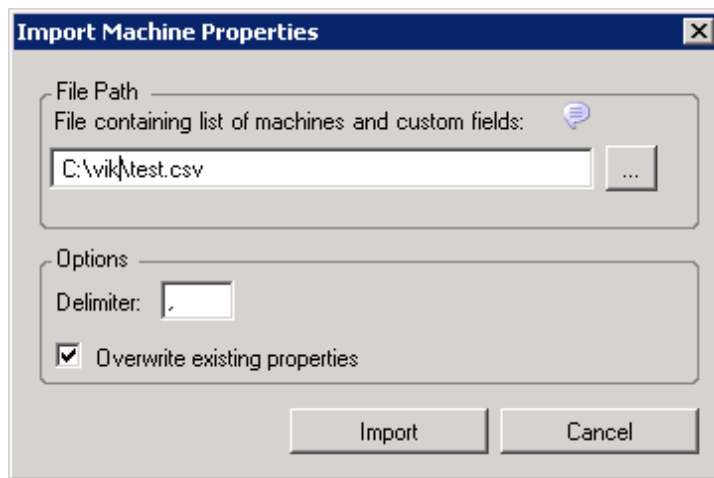
必要に応じて [Reset Reference Values] をクリックし、すべてのフィールドをデフォルトの値に戻します。

選択したサーバに対して、データベースが更新されます。レポートテンプレートでは、特定のカスタムフィールドに対してフィルタできます。

カスタムフィールドのインポート

PlateSpin Recon を使用すると、ローカルサイトにあるすべてのサーバに対してカスタムのフィールドをインポートできます。

- 1 Data Center Explorer で、[File] > [Import Machine Properties] の順にクリックします。
[Import Machine Properties] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 カスタムのフィールドを含む CSV ファイルを見つけるために、パスを入力します (または、隣にあるブラウズボタンを使用します)。

CSV ファイルを操作するには、次のガイドラインに従ってください：

- ◆ 最初の行には、コンマ (,) などの区切り記号で区切られたカスタムフィールドのラベルが含まれていなければなりません。
- ◆ 最初の行にある最初のカスタムフィールドのラベルは、Machine でなければなりません。残りのフィールドは任意の順序で含めることができます。
- ◆ 使用できるカスタムフィールドのラベルは、次のとおりです：

Rack Units
Normalized Speed
Company
Department
Location City
Location State
Location Country
Function

Rack
Billing Code
Usage
Lease Expires
Warranty Expires

- ◆ カスタムフィールドのラベル名では、大文字と小文字が区別されます。
- ◆ カスタムフィールドに対する値は、最初の行の後で指定する必要があり、カスタムフィールドに対応していなければなりません。
- ◆ 各行には、マシンに対するカスタムフィールドが含まれていなければなりません。
- ◆ Machine カスタムフィールドに対する値は、IP アドレスまたはマシン名にすることができます。指定したマシン名は固有でなければなりません。
- ◆ 各行の値は、コンマ (,) などの区切り記号で区切られていなければなりません。

サンプルの CSV ファイルは、次のとおりです：

```
Machine,Rack Units,Company,Lease Expires,Warranty Expires  
1.x.x.x,130,Novell,11/25/2009,1/1/2010
```

- 3 CSV ファイルで使用する区切り記号を指定します。デフォルトでは、これはコンマ (,) です。
- 4 (条件付き) 既存のカスタムフィールドを CSV ファイルに含まれる値で置換する場合は、*[Overwrite Existing Properties]* オプションを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- 5 データが入力されているものも含め、任意のフィールドで情報を入力したり、情報を選択したりします。
- 6 *[Import]* をクリックします。

sudo ユーザ資格情報の使用による監視

PlateSpin Recon 3.7.2 では、sudo ユーザ資格情報を使用して、Linux マシン (Xen を使用した RHEL、SLES、Ubuntu、CentOs、SLES) や Citrix XenServer マシンを監視できます。ただし、AIX マシンや Solaris マシンは、sudo ユーザ資格情報を使用して監視することはできません。PlateSpin Recon ユーザは、ターゲットマシンでコマンドを実行する許可を持つ場合にのみ、sudo ユーザ資格情報を使用してマシンを監視することができます。sudo ユーザ資格情報を使用して監視を実行するための許可を付与する方法の詳細については、[227 ページのセクション B.9 「Linux マシンのインベントリと監視を実行するための sudo 環境設定」](#) を参照してください。

3.3 フィルタの操作

[Filters] ノードには、ドメイン、サーバの型とモデル、オペレーティングシステム、状態、サブネットマスク、仮想マシンサーバ、およびワークグループに基づいて論理グループに整理された、インベントリ済みのサーバを一覧表示する追加のノードが含まれます。

フィルタを追加または削除することはできません。また、サーバをフィルタに追加することもできません。

3.4 グループの操作

[Groups] ノードには、ユーザ定義のサーバコレクションが含まれます。場所、機能、アプリケーションなどによってサーバを論理的にグループ化するには、グループを使用します。グループは、作成、削除、およびネストできます。サーバは複数のグループに属することができます。

- ◆ 57 ページのセクション 3.4.1 「グループの作成」
- ◆ 57 ページのセクション 3.4.2 「グループへのサーバのコピー」
- ◆ 57 ページのセクション 3.4.3 「グループからのサーバの削除」

3.4.1 グループの作成

1 Data Center Explorer で、[Groups] を右クリックし、[Create Group] をクリックします。

[Create Group] ダイアログボックスが表示されます。

2 グループ名を入力します。

3 [OK] をクリックします。

グループが作成され、そのグループにサーバをコピーすることができます。

3.4.2 グループへのサーバのコピー

1 Data Center Explorer で、1 つまたは複数のサーバを選択します。

2 選択したものをクリックし、[Copy to Group] をクリックします。

3 表示されるサブメニューで希望のグループをクリックします。

Data Center Explorer では、選択したグループの下にサーバが表示されます。

[All] ノード、[Filtered] ノード、または [Sites] ノードの下からサーバをドラッグし、既存のグループでドロップすると、そのグループにサーバをコピーできます。

3.4.3 グループからのサーバの削除

1 Data Center Explorer で、次のいずれかを実行します：

- ◆ 削除するサーバを右クリックし、[Delete] をクリックします。
- ◆ 削除するサーバを選択し、<Delete> キーを押します。

確認ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション) グループからサーバが削除されると、そのサーバの監視データが完全に削除されるようにするには、[Delete <Server> and associated monitoring data from the database] を選択します。

3 [Delete] をクリックします。

Data Center Explorer では、グループからサーバが削除されます。

3.5 サイトの操作

[Sites] ノードには、複数の場所から収集されたデータに関して分析およびレポートを行うために、論理的に整理されたサーバのセットが含まれます。

PlateSpin Recon の各インストールには、PlateSpin Recon のローカルインスタンスを使用して操作するマシンが存在する、デフォルトのローカルサイトが含まれます。

ローカルの PlateSpin Recon インスタンスの外部にあるデータを操作することはできますが、その場合、適切なサイトタイプの新しいサイトをまず作成する必要があります。

注：リモートサイトからインポートされたマシンは、データが同期された後にレポートおよびチャートで表示できます。ただし、これらのマシンをインベントリしたり監視したりすることはできません。このようなマシンをインベントリまたは監視するには、オリジナルのリモートサイトで該当の操作を実行し、マシンを再度インポートしなければなりません。その後、データを再び同期する必要があります。

次の表では、作成できるサイトの異なるタイプが説明されています。

表 3-4 サイトのタイプ

タイプ	説明
ローカル	PlateSpin Recon の他のインスタンスからエクスポートされた PlateSpin Recon スナップショット (*.prs ファイル) を操作するため。スナップショットは、PlateSpin Recon のローカルインスタンスからエクスポートされた後、デフォルトのローカルサイトにインポートできます。詳細については、 59 ページのセクション 3.6 「PlateSpin Recon スナップショットの操作」 を参照してください。
リモート PlateSpin Recon	リモートの PlateSpin Recon インスタンスによって収集されたデータに接続して操作するため。詳細については、 67 ページのセクション 3.8 「他の PlateSpin Recon インスタンスによって収集されたデータの操作」 を参照してください。
リモート	Microsoft Operations Manager 2005、Windows Performance Monitor (perfmon.exe)、HP Reporter、その他の汎用パフォーマンスデータ収集ツールのような、サポートされているサードパーティのパフォーマンス監視ツールによって収集されたデータを操作するため。詳細については、 69 ページのセクション 3.9 「他のパフォーマンス監視ツールによって収集されたデータの操作」 を参照してください。

PlateSpin Recon サイトを使用する場合、PlateSpin Recon サーバをマスタサーバとして指定し、単一 PlateSpin Recon 環境内ですべての分析タスクとレポートタスクを実行できます。

- ◆ [59 ページのセクション 3.5.1 「サイトの追加」](#)
- ◆ [59 ページのセクション 3.5.2 「サイトの削除」](#)
- ◆ [59 ページのセクション 3.5.3 「サイトの変更」](#)

3.5.1 サイトの追加

- 1 Data Center Explorer で任意の場所を右クリックし、[Sites] > [Add Site] の順にクリックします。
[Add Site] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 サイトに対して固有の名前を入力します。
- 3 [Type] ドロップダウンリストで、[Local] が選択されていることを確認します。
- 4 (オプション) このサイトに対して説明を入力します。
- 5 [Run Import Site Snapshot Wizard] オプションが選択解除されていることを確認します。
- 6 [OK] をクリックします。

Data Center Explorer では、サイトが作成され、[Sites] ノードの下に表示されます。

リモートサイトまたはリモート PlateSpin Recon サイトの追加に関する詳細については、[66 ページのセクション 3.7 「リモートデータの操作」](#) を参照してください。

3.5.2 サイトの削除

- 1 Data Center Explorer で、次のいずれかを実行します：
 - ◆ 削除するサイトを右クリックし、[Delete] をクリックします。
 - ◆ 削除するサイトを選択し、<Delete> キーを押します。[Confirm Delete] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Yes] をクリックします。
選択したサイトと関連リソースが、PlateSpin Recon によって Data Center Explorer から削除されます。

3.5.3 サイトの変更

- 1 Data Center Explorer で、変更するサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Edit Site] をクリックします。
[Edit Site] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要な変更を行います。
- 3 [OK] をクリックします。

3.6 PlateSpin Recon スナップショットの操作

PlateSpin Recon スナップショット (*.prs ファイル) には、PlateSpin Recon の他のインスタンスからエクスポートされた、またはバックアップとしての現インスタンスからの、マシン、レイター、レポートテンプレート、生成されたレポート、プロジェクト、シナリオ、およびサーバテンプレートに関するデータが含まれます。

PlateSpin Recon の以前のバージョンからエクスポートされたスナップショットをインポートすることもできます。この場合、データが PlateSpin Recon へ取り込まれる前に、スナップショットアップグレードが実行されます。考慮事項は、次のとおりです：

- ◆ 大きいスナップショットをインポートする場合(例: エクスポート前にスナップショットが圧縮されていた場合)、古いスナップショットのサイズの 2～5 倍のディスク容量を必要とします。
- ◆ PlateSpin Recon 3.0 以降からエクスポートされたスナップショットは、サポートされます。
- ◆ PlateSpin Recon 3.1 からのスナップショットは、スナップショットのエクスポート前にすべてのホットフィックスが PlateSpin Recon に適用されていた場合にのみサポートされます。
- ◆ Citrix XenServer のスナップショットのエクスポートは、サポートされません。

スナップショットは、デフォルトのローカルサイトまたは新しいローカルサイトへインポートできます。

- ◆ [60 ページのセクション 3.6.1 「PlateSpin Recon スナップショットのエクスポート」](#)
- ◆ [64 ページのセクション 3.6.2 「PlateSpin Recon スナップショットのインポート」](#)

3.6.1 PlateSpin Recon スナップショットのエクスポート

- 1 Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Export Snapshot] をクリックします。

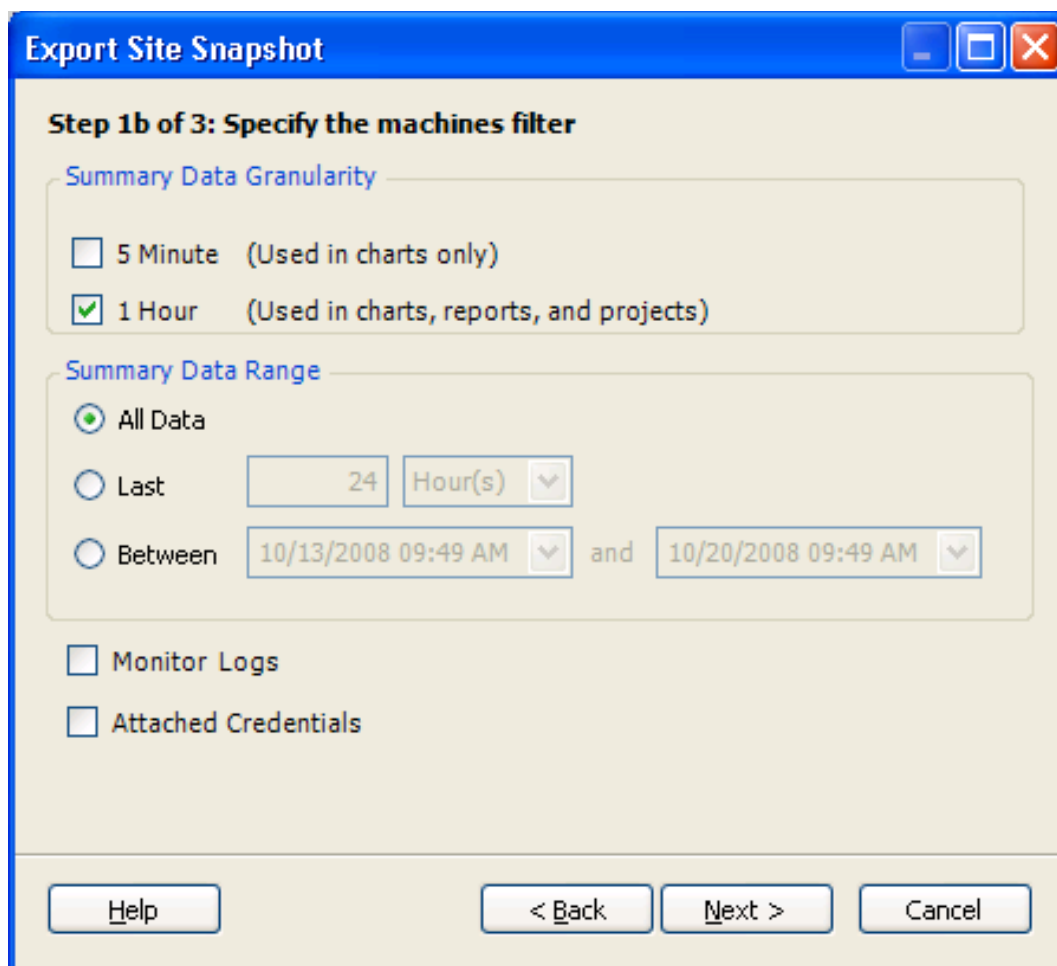
Export Site Snapshot Wizard が表示されます。

- 2 スナップショットに含めるエクスポートオブジェクトを、該当するオブジェクトの隣にあるチェックボックスをクリックすることによって選択します。

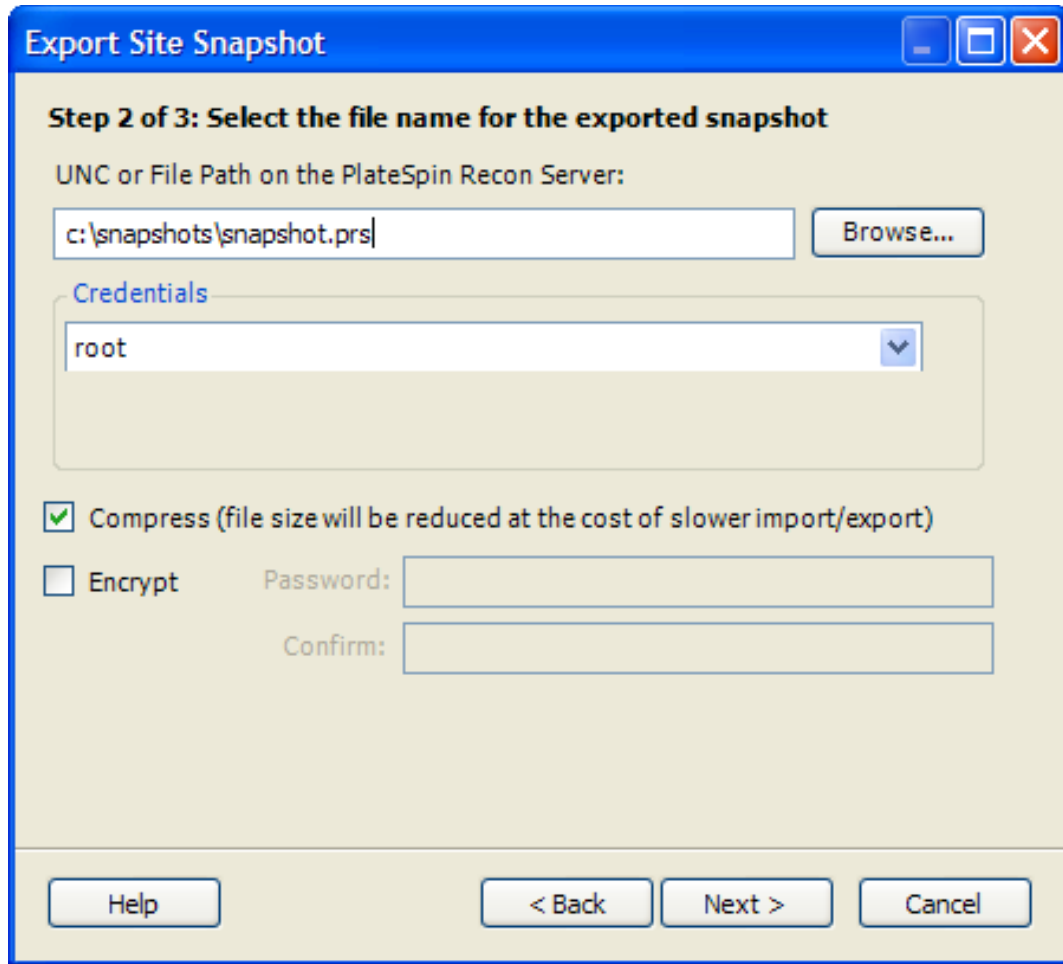
注：Citrix XenServer オブジェクトのエクスポートを選択することはできますが、スナップショットには含まれません。これは、Citrix XenServer のスナップショットのエクスポートはサポートされていないためです。

レポートテンプレートがスナップショットに含まれると、その生成されたレポートも含まれます。同様に、プロジェクトがスナップショットに含まれる場合、そのシナリオも含めることができます。

- 3 [Next] をクリックします。
スナップショットの一部として *Machines* をエクスポートすることを選択した場合は、[ステップ 4](#)に進みます。それ以外の場合は、[ステップ 6](#)に進みます。
- 4 [Step 1b] ダイアログボックスで、エクスポートするデータに対してサマリオプション(データ範囲タイムフレーム、ログまたは資格情報を含めるかどうかなど)を選択します。

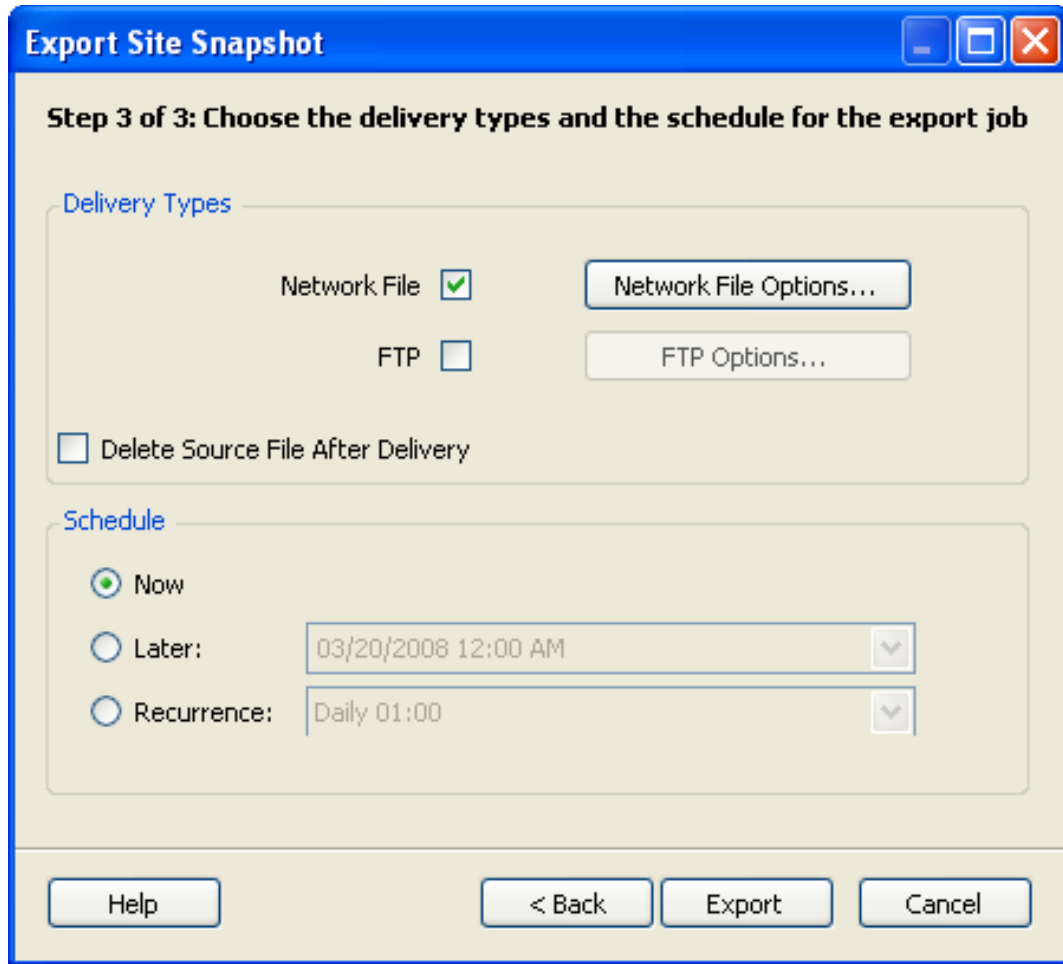


- 5 [Next] をクリックします。
[Step 2] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 エクスポートされるスナップショットに対してファイル名を指定します：
 - 6a スナップショットを保存する場所を示す UNC (\\<server>\<path>\<filename>) またはファイルパス (*drive:\directory\filename*) を指定します。[Browse] をクリックすることにより、場所をブラウズして選択することもできます。
 - 6b エクスポートされたスナップショットを保存する場所にアクセスするために、適切な資格情報を選択または作成します。この場所に対しては、書き込み許可が必要です。
 - 6c ファイルを圧縮するかどうかを指定します。
 - 6d ファイルを暗号化するかどうかを指定します。暗号化されるスナップショットファイルに対しては、暗号化解除のためのパスワードを指定して確認します。
- 7 [Next] をクリックします。

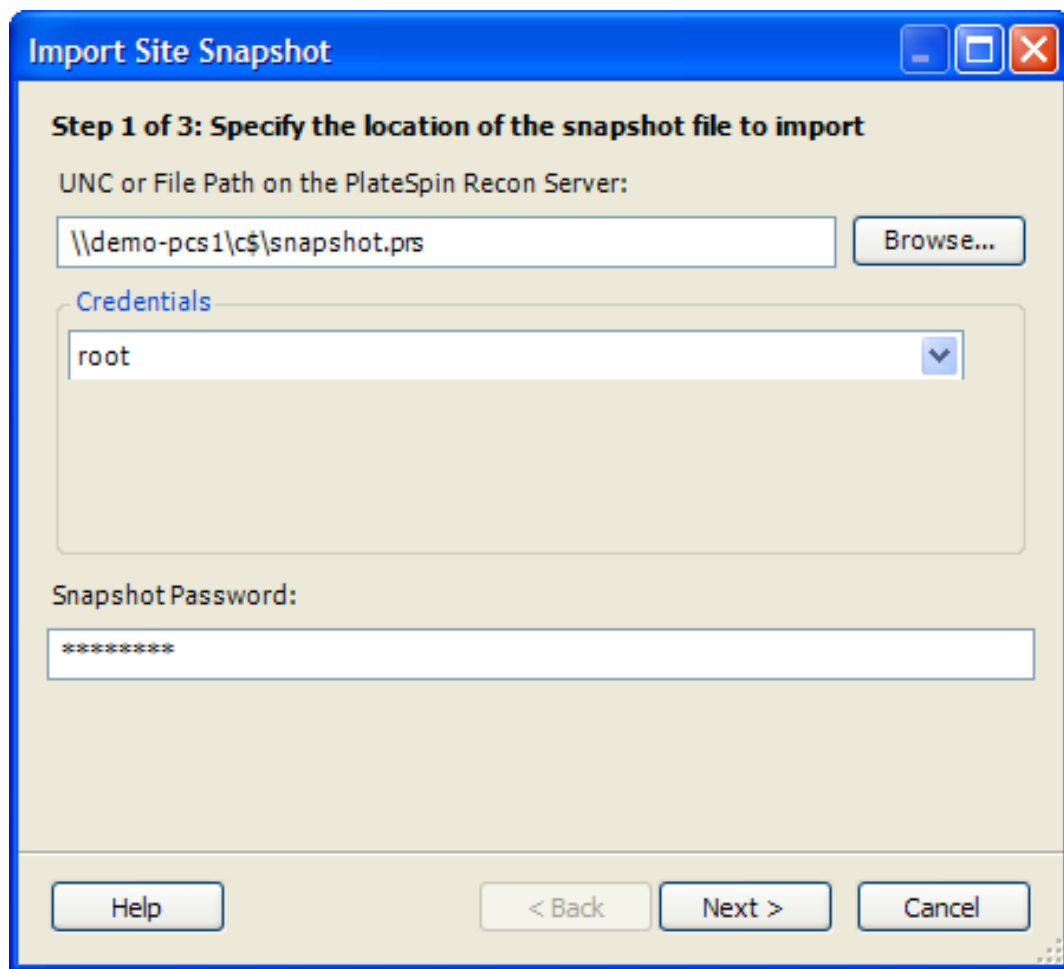
[Step 3] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 スナップショットの配信タイプと配信スケジュールを設定します。
 - 8a スナップショットをエクスポート後にネットワークまたはFTP上の場所へ配信する場合は、該当の配信タイプを選択します。配信方法オプションを設定するには、選択した配信方法の隣にある該当のオプションボタンをクリックします。配信の環境設定について不確かな場合は、システム管理者に尋ねてください。
ファイルパスへは PlateSpin Recon サーバがアクセスできる必要があります。
 - 8b (オプション) スナップショットを配信後に削除する場合は、[Delete Source File After Delivery] チェックボックスを選択します。
 - 8c スナップショットが配信されるスケジュールを設定します。
 - ◆ スナップショットを直ちに配信するには、[Now] を選択します。
 - ◆ スナップショットを後で配信するには、次のいずれかのスケジュールを選択します：
 - ◆ 229 ページの 「[Later]」
 - ◆ 229 ページの 「[Recurrence]」
- 9 [Export] をクリックします。
データスナップを PlateSpin Recon の別のインスタンスにインポートすることができます。

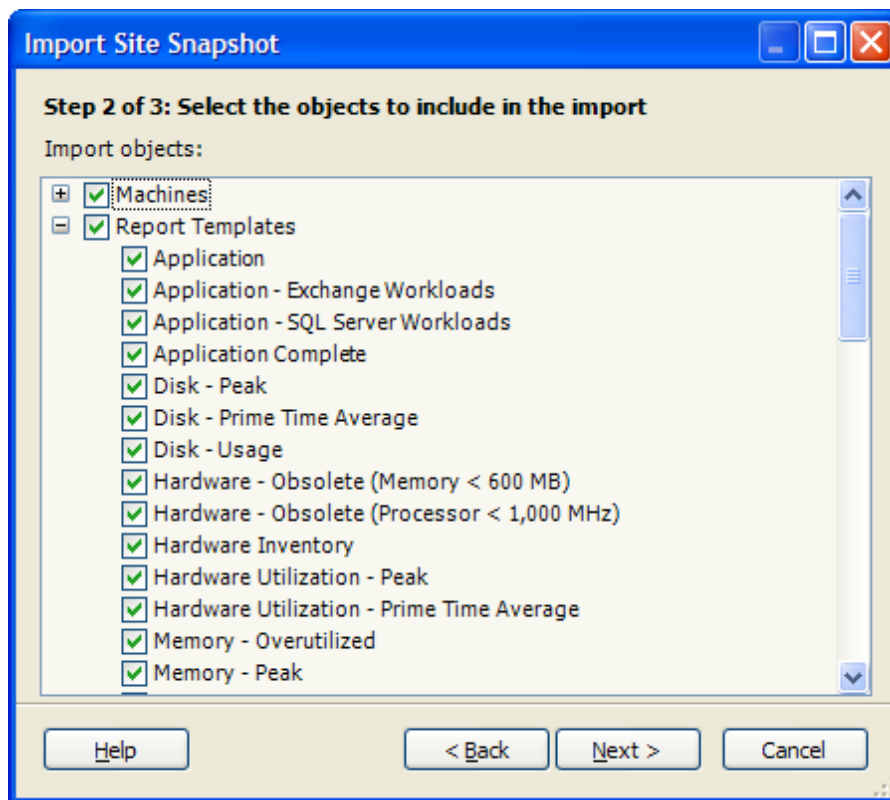
3.6.2 PlateSpin Recon スナップショットのインポート

- 1 必要なスナップショットのインポート先となるローカルサイトのタイプ (デフォルトのローカルサイトまたは新しいローカルサイト) を決定します。新しいローカルサイトにインポートするには、スナップショットをインポートする前にそのサイトを作成する必要があります。
- 2 Data Center Explorer で、ターゲットローカルサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Import Snapshot] をクリックします。
または
Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Import Snapshot] をクリックします。
Import Site Snapshot Wizard が表示されます。



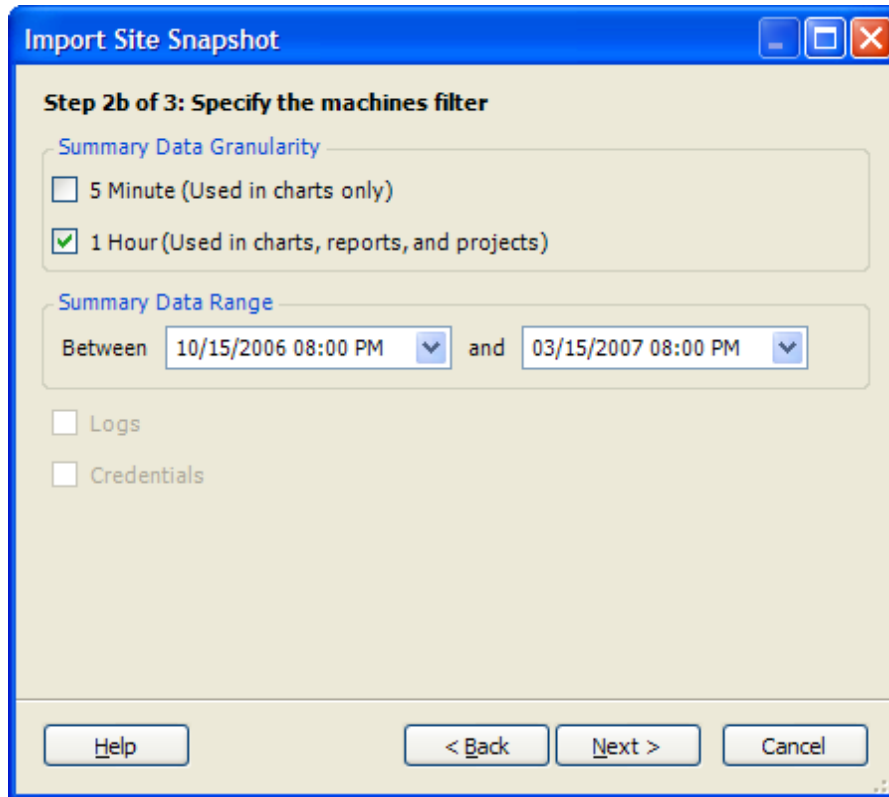
- 3 [Step 1] ダイアログボックスで、次のように設定を行います:
 - 3a インポートするスナップショットの UNC またはローカルファイルパスを指定するか、または [Browse] をクリックしてブラウズし選択します。
 - 3b その場所にアクセスするために必要な資格情報を選択または追加します。
 - 3c エクスポート時にファイルが暗号化されていた場合、スナップショットパスワードを入力して暗号化解除します。

- 4 [Next] をクリックします。
[Step 2] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 インポートするオブジェクトの隣にあるチェックボックスを選択します。
- 6 [Next] をクリックします。

インポートされるオブジェクトに監視データを持つマシンが含まれる場合に、[Step 2b] ダイアログボックスが表示されます。それ以外の場合は、[ステップ 9](#)に進みます。



- 7 マシンフィルタに対してデータのオプションを指定します。
- 8 [Next] をクリックします。
[Step 3] ダイアログボックスが表示されます。
- 9 [Import to Site] ドロップダウンリストで、必要なスナップショットのインポート先となるターゲットサイトを選択します。
- 10 [Import] をクリックします。
Data Center Explorer では、データがインポートされ、[Sites] ノードの下で操作できます。

3.7 リモートデータの操作

PlateSpin Recon のローカルインスタンスの外部にあるパフォーマンス監視データとリソース使用率データを操作すると、情報のソースにかかわらず、PlateSpin Recon の容量プランニング、分析、レポート、およびチャージバックの機能を活用できます。データは、1 回限りまたは繰り返してインポートできます。

3.8 他の PlateSpin Recon インスタンスによって収集されたデータの操作

複数の PlateSpin Recon インスタンスによって監視とデータ収集が処理されるセットアップなどにおいては、PlateSpin Recon の他のインスタンスによって収集されたパフォーマンスデータと使用率データを、中央の PlateSpin Recon インスタンスとして機能しているものと使用することにより、レポートを生成したり、統合プランを開発したりすることができます。

注：リモートサイトからインポートされたマシンは、データが同期された後にレポートおよびチャートで表示できます。ただし、これらのマシンをインベントリしたり監視したりすることはできません。このようなマシンをインベントリまたは監視するには、オリジナルのリモートサイトで該当の操作を実行し、マシンを再度インポートしなければなりません。その後、データを再び同期する必要があります。

PlateSpin Recon の別のインスタンスによって収集されたデータを操作するには：

- 1 リモート PlateSpin Recon インスタンスに接続するために、新しいリモート PlateSpin Recon サイトを作成します：
 - 1a Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Add Site] をクリックします。
[Add Site] ダイアログボックスが表示されます。

- 1b** [*Remote PlateSpin Recon*] を新しいサイトタイプとして選択し、名前やオプションの説明を含め、新しいサイトに対して必要な基本のパラメータを指定します。
- 1c** PlateSpin Recon サーバの URL を、次の形式で指定します：

```
http://hostname_or_IP_address_of_the_Recon_Server[:port]/platespin_372/recon_372
```

 例：http://10.0.0.0/platespin_372/recon_372
- 1d** [*Credentials*] ドロップダウンリストで、適切な資格情報を選択するか、または [*<New Credential>*] を選択して資格情報を追加します。
- 1e** データストリームが暗号化されるようにするには、[*Encrypt Data Stream*] チェックボックスが選択されていることを確認します。
- 1f** (オプション) リモートサーバとの接続のアクティビティを確認するには、[*Connection Test*] をクリックします。

1g [OK] をクリックします。

Data Center Explorer では、新しいサイトが [Sites] ノードに追加されます。

- 2 ステップ 1 で作成したリモート PlateSpin Recon サイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Import Machines] をクリックします。マシンノードがサイトに追加されます。
- 3 リモート PlateSpin Recon サイトを再度右クリックし、[Sites] を選択して [Synchronize Data] をクリックします。

3.9 他のパフォーマンス監視ツールによって収集されたデータの操作

Microsoft Operations Manager (MOM) 2005、Microsoft Windows Performance Monitor (perfmon.exe)、HP Reporter のような、他のパフォーマンス監視ソフトウェアによって収集されたパフォーマンスデータと使用率データは、インポートして操作することができます。また、PlateSpin Recon の「Performance Data Import」機能を使用することもできます。

注：他のパフォーマンス監視ツールからインポートされたマシンは、データが同期された後にレポートおよびチャートで表示できます。ただし、これらのマシンをインベントリしたり監視したりすることはできません。このようなマシンをインベントリまたは監視するには、オリジナルのリモートサイトで該当の操作を実行し、マシンを再度インポートしなければなりません。その後、データを再び同期する必要があります。

PlateSpin Recon では、選択したコネクタがどのようにデータを収集して集計するかにかかわらず、5 分間隔および 60 分間隔で収集されたデータの集計をサポートします。PlateSpin Recon の要件に基づくと、コネクタでは、60 分以内の間隔でデータを収集して集計する必要があります。使用率データの対象が 1 カ月を超える期間であるシステムに対しては特に、60 分の間隔で収集および集計されたコネクタデータをインポートすることが推奨されます。

信頼性の高い統合プランが PlateSpin Recon によって生成されるようにするには、PlateSpin Recon へインポートする前に 1 ～ 3 カ月分の期間に対して使用率データを収集することが推奨されます。

サードパーティのソフトウェアによって収集されたデータを操作可能にするには、次の操作を実行する必要があります：

- ◆ 適切なタイプの新しいリモートサイトを作成し、適切なコネクタを選択します。
- ◆ リモートマシンをインベントリします。
- ◆ 新しいサイトのデータを、リモート監視ツールによって生成されたものと同期します。
- ◆ [69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」](#)

3.9.1 必須パフォーマンスカウンタ

必要なパフォーマンスデータと使用率データが、必須カテゴリの PlateSpin Recon カウンタに対して実際に収集されることを確認する必要があります。

表 3-5 必須の PlateSpin Recon カウンタ

PlateSpin Recon カウンタ	表示形式
Processor utilization	合計プロセッサ時間の割合 (%)
Memory utilization	フリーバイトの合計数
Disk IO	バイト / 秒
Network IF I/O	バイト / 秒

注 : NetWare マシンでは、完全な統合に対して収集される 2 つのカウンタ (CPU および Disk) のみが必要となります。詳細については、[15 ページのセクション 1.3 「サポートされているプラットフォーム」](#) を参照してください。

必要に応じて PlateSpin Recon では、サードパーティのパフォーマンスデータと使用率データを必須 PlateSpin Recon 形式に変換するためのメカニズムを提供します。

- ◆ [70 ページの 「Microsoft Operations Manager \(MOM\) 2005 データの操作」](#)
- ◆ [72 ページの 「Windows PerfMon カウンタログの操作」](#)

Microsoft Operations Manager (MOM) 2005 データの操作

- 1 PlateSpin Management Pack for MOM 2005 (ナレッジベースの記事 [Q20903 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20903\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20903) を参照) をダウンロードしてインストールし、MOM を使用してデータを収集します。
- 2 MOM へ接続するために、新しいリモートサイトを作成します:
 - 2a Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Add Site] をクリックします。
[Add Site] ダイアログボックスが表示されます。

Add Site

Name: MySite Type: Remote

Description:

Connector Type: Microsoft Operations Manager 2005

Database Connection

Database Hostname: MyDB

Database Instance: OnePoint

Connection Timeout: 300 Query Timeout: 300

Database Credentials

MyDomain\MyName

Test Settings

OK Cancel

- 2b** [Remote] を新しいサイトのタイプとして選択し、名前やオプションの説明を含め、新しいサイトに対して必要な基本のパラメータを指定します。
- 2c** [Connector Type] ドロップダウンリストで、[Microsoft Operations Manager 2005] を選択します。
- 2d** リモートサーバに対してデータベースホスト名を入力します。データベースインスタンスは、デフォルトで「OnePoint」に設定されていますが、使用中の Microsoft Operation Manager 2005 データベースインスタンスを反映するよう変更しなければなりません。

- 2e 適切な資格情報を選択するか、または [*<New Credential>*] を選択して新しい資格情報を追加します。
- 2f (オプション) リモートデータベースとのコネクティビティを確認するには、[*Test Settings*] をクリックします。
- 2g [OK] をクリックします。

Data Center Explorer では、新しいサイトが [*Sites*] ノードに追加されます。
- 3 マシンをインベントリします：
 - 3a Data Center Explorer で、リモートサイトを右クリックし、[*Sites*] を選択して [*Inventory Machines*] をクリックします。

[*Inventory Machines*] ダイアログボックスが表示されます。
 - 3b インベントリするマシンの隣にあるチェックボックスを選択し、必要なインベントリパラメータを指定したら、[OK] をクリックします。
- 4 サイトデータを同期します：
 - 4a Data Center Explorer で、必要なサイトを右クリックし、[*Sites*] を選択して [*Synchronize Data*] をクリックします。
 - 4b 必要なマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。サイト内のマシンをすべて選択するには、サイトの隣にあるチェックボックスを選択します。
 - 4c 必要なデータ範囲オプション、スケジューリングオプション、および繰り返しオプションを選択します。
 - 4d [OK] をクリックします。

Windows PerfMon カウンタログの操作

- 1 Windows Performance Monitor (perfmon.exe) を設定し、PlateSpin Recon が必要とするカウンタデータを収集します。69 ページのセクション 3.9.1 「[必須パフォーマンスカウンタ](#)」を参照してください。
- 2 CSV ファイルにデータをエクスポートします。詳細については、該当の Windows ドキュメントを参照してください。
- 3 Windows Performance Monitor ログを操作するために、新しいリモートサイトを作成します：
 - 3a Data Center Explorer で右クリックし、[*Sites*] を選択して [*Add Site*] をクリックします。

[*Add Site*] ダイアログボックスが表示されます。

Add Site

Name: MySite Type: Remote

Description:

Connector Type: Performance Monitor

UNC or File Path on the PowerRecon Server: C:\PerfMonData\Import\PerfMonSite\11-2008.csv Browse...

Credentials: MyDomain\MyName

Test Settings

OK Cancel

- 3b [Remote] を新しいサイトのタイプとして選択し、名前やオプションの説明を含め、新しいサイトに対して必要な基本のパラメータを指定します。
- 3c [Connector Type] ドロップダウンリストで、[Performance Monitor] を選択します。
- 3d Performance Monitor からエクスポートされたデータを含む CSV ファイルへのパスを入力します (または、ブラウズして選択します)。

- 3e** 必要な資格情報を選択するか、または [*<New Credential>*] を選択して新しい資格情報を追加します。
- 3f** (オプション) UNC またはローカルファイルパスのアクセスを確認するには、[*Test Settings*] をクリックします。
- 3g** [OK] をクリックします。
- Data Center Explorer では、新しいサイトが [Sites] ノードに追加されます。
- 4** マシンをインベントリします：
- 4a** Data Center Explorer で、リモートサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Add Site] をクリックします。
- [Inventory Machines] ダイアログボックスが表示されます。
- 4b** インベントリするマシンの隣にあるチェックボックスを選択し、必要なインベントリパラメータを指定したら、[OK] をクリックします。
- 5** サイトデータを同期します：
- 5a** Data Center Explorer で、必要なサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Synchronize Data] をクリックします。
- 5b** 必要なマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。サイト内のマシンをすべて選択するには、サイトの隣にあるチェックボックスを選択します。
- 5c** 必要なデータ範囲オプション、スケジューリングオプション、および繰り返しオプションを選択します。
- 5d** [OK] をクリックします。

3.10 PlateSpin Recon での HP Reporter データの使用

PlateSpin Recon には、専用の HP Reporter コネクタがあります。これによって、PlateSpin Recon では HP Reporter 3.8 データベースに接続し、チャート、レポート、および統合プランニングに対してパフォーマンスデータとリソース使用率データをインポートすることができます。

PlateSpin Recon のチャートとレポートを生成するには、どの HP Reporter 収集データでも使用できます。ただし、統合プランニングに対しては、特定の PlateSpin Recon カウンタによって収集されたデータに相関する特定の使用率データを収集するように、Reporter を設定する必要があります。詳細については、69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」を参照してください。

HP Reporter は、PlateSpin Recon と完全に同じ形式ではデータを収集しないため、Reporter 収集メトリックスからのデータを PlateSpin Recon カウンタに変換する適切な式を指定する必要があります。

- ◆ 75 ページのセクション 3.10.1 「メトリックスをカウンタに変換するための式の使用」
- ◆ 75 ページのセクション 3.10.2 「式の例」
- ◆ 76 ページのセクション 3.10.3 「HP Reporter データの操作」

HP Reporter のデータ収集 / 集計間隔は、HP Reporter メトリックリストの作成中に指定されます。

3.10.1 メトリックスをカウンタに変換するための式の使用

式を使用すると、次の情報を PlateSpin Recon の HP Reporter コネクタに提供できます：

- ◆ PlateSpin Recon が必要とするメトリックスを含む Reporter メトリックリスト
- ◆ Reporter によって使用される単位から、PlateSpin Recon で必要とされる単位に、データを変換する方法

有効な HP Reporter コネクタ式は、必要な HP Reporter メトリックリストの名前、ドット (.) 文字、およびメトリックを PlateSpin Recon カウンタに変換する算術式で順に構成されます。算術式には、Reporter の収集されたメトリックス、数値定数、および算術演算子のいずれも含めることができます。

注：異なる式では異なるメトリックリストを使用できますが、1つの式では、同じメトリックリストによって収集されたメトリックスしか使用できません。

たとえば、PlateSpin Recon では、オペレーティングシステムに対して使用可能なフリーバイト数で表示されたメモリ使用率データを必要としますが、Reporter では、同じデータを次の2つの異なるメトリックスを使用して収集します：

- ◆ 使用されたメモリの割合 (GBL_MEM_UTIL)
- ◆ ギガバイトでのメモリの合計サイズ (GBL_MEM_PHYS)

この場合、収集されたメトリックデータを PlateSpin Recon カウンタ形式に変換するのに適した形式は、次のようになります：

$GBL_MEM_PHYS*(100-GBL_MEM_UTIL)*1024*1024*1024/100$

3.10.2 式の例

CODA エージェントを使用して収集できる HP Reporter メトリックスの例と、対応する変換式は、次のとおりです。統合プランニングを行うには、4つのカウンタすべてに対するデータが PlateSpin Recon で必要となることに注意してください。HP Reporter では複数の異なるエージェントを使用してメトリックデータを収集でき、また異なる HP Reporter メトリックスを使用して同じ PlateSpin Recon カウンタを計算することもできるため、このリストは完全ではなく、例としてのみ提供されています。

表 3-6 HP Reporter メトリックスの例

PlateSpin Recon カウンタ	HP Reporter メトリックス	変換式
Processor Utilization	GBL_CPU_TOTAL_UTIL	<MetricList>.GBL_CPU_TOTAL_UTIL
	BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL	<MetricList>.BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL
Memory Utilization	GBL_MEM_PHYS および GBL_MEM_UTIL	<MetricList>.(GBL_MEM_PHYS*(100- GBL_MEM_UTIL))*1024*1024*1024/100
	GBL_MEM_FREE	<MetricList>.(GBL_MEM_FREE)*1024*1024

PlateSpin Recon カウンタ	HP Reporter メトリックス	変換式
Disk Utilization	GBL_DISK_PHYS_BYTE_RATE	<MetricList>.GBL_DISK_PHYS_BYTE_RATE
	BYDSK_PHYS_READ_BYTE_RATE	<MetricList>.BYDSK_PHYS_READ_BYTE_RATE
Network Utilization	BYNETIF_OUT_BYTE_RATE および BYNETIF_IN_BYTE_RATE	<MetricList>.BYNETIF_OUT_BYTE_RATE + BYNETIF_IN_BYTE_RATE

特定の HP Reporter メトリックスおよび PlateSpin Recon カウンタに対するデータは、各デバイスインスタンスに対して個別に収集されます。たとえば、BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL メトリックは、システムの各 CPU に対して異なる使用率の値を提供します。異なるデバイスインスタンスを区別するには、HP Reporter メトリックリストを設定する際に、デバイス識別文字列を持つメトリックをリストに含めてください。

デバイスインスタンス名が含まれているため、PlateSpin Recon の HP Reporter コネクタでは次のメトリックスを識別します：

表 3-7 PlateSpin Recon HP Reporter メトリックス

機能領域	メトリック
プロセッサ	BYCPU_ID
ディスク	BYDSK_DEVNAME または BYDSK_ID
ネットワークインタフェースカード	BYNETIF_NAME または BYNETIF_ID
ファイルシステム	FS_DIRNAME、FS_DEVNAME、または FS_DEVNO

3.10.3 HP Reporter データの操作

- 1 必要なパフォーマンス測定カテゴリと使用率測定カテゴリのデータを収集するよう、HP Reporter を設定します。詳細については、[69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」](#) を参照してください。
- 2 (条件付き) Oracle で HP Reporter を使用している場合は、Oracle クライアントソフトウェアを PlateSpin Recon サーバホストにインストールします。詳細については、該当の Oracle ドキュメントを参照してください。
- 3 HP Reporter データベースへ接続するために、新しいリモートサイトを作成します：
 - 3a Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Add Site] をクリックします。
[Add Site] ダイアログボックスが表示されます。

Add Site

Name: Type:

Description:

Connector Type:

Settings **Counters**

Database Connection

Server Name :

Database Name :

Connection Timeout : Query Timeout :

Database Type:

Database Port:

Database Credentials

Test Settings ⚠

OK Cancel

- 3b 名前を指定し、オプションで説明も指定します。
- 3c [Type] ドロップダウンリストで、[Remote] を選択します。
- 3d [Connector Type] ドロップダウンリストで、[HP Reporter] を選択します。
HP Reporter 関連の設定フィールドとカウンタフィールドが表示されます。
- 3e [Settings] タブで、HP Reporter データベースへの接続に必要な次の情報を提供します：
 - ◆ データベースホスト名

- ◆ データベース名またはデータベースインスタンス名
 - ◆ 接続タイムアウトおよびクエリタイムアウト
HP Reporter からの大きいデータセットを同期する場合、[*Connection timeout*] および [*Query timeout*] に対する値として、設定しない/無制限のタイムアウトを示す「0」を設定しなければならないことがあります。
 - ◆ データベースタイプ
 - ◆ ポート番号 (非デフォルトのポート番号を使用する場合)
 - ◆ データベースに接続するための有効な資格情報
- 3f** [*Counters*] タブでは、HP Reporter メトリックスを PlateSpin Recon カウンタに変換する際にシステムが使用するカウンタ式を、4つの必要なパフォーマンスデータカテゴリと使用率データカテゴリに対して提供します。詳細については、[75 ページのセクション 3.10.1 「メトリックスをカウンタに変換するための式の使用」](#)を参照してください。
- 3g** [*OK*] をクリックします。
Data Center Explorer では、新しいサイトが [*Sites*] ノードに追加されます。
- 4** マシンをインベントリします：
- 4a** Data Center Explorer で、[ステップ 3](#) で作成したリモートサイトを右クリックし、[*Sites*] を選択して [*Inventory Machines*] をクリックします。
[*Inventory Machines in Site site_name*] ダイアログボックスが表示されます。
 - 4b** インベントリするマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。
 - 4c** 必要な資格情報を選択するか、または [*<New Credential>*] を選択して新しい資格情報を追加します。
 - 4d** [*OK*] をクリックします。
- 5** サイトデータを同期します：
- 5a** Data Center Explorer で、必要なサイトを右クリックし、[*Sites*] を選択して [*Synchronize Data*] をクリックします。
 - 5b** 必要なマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。サイト内のマシンをすべて選択するには、サイトの隣にあるチェックボックスを選択します。
 - 5c** 必要なデータ範囲オプション、スケジューリングオプション、および繰り返しオプションを選択します。
 - 5d** [*OK*] をクリックします。

HP Reporter との PlateSpin Recon の使用に関する詳細については、ナレッジベースの記事 [Q21088 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=21088\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=21088) を参照してください。

3.11 「Performance Data Import」機能による PlateSpin Recon への汎用データのインポート

PlateSpin Recon 用の強固な Performance Data Import コネクタが PlateSpin によって開発されているため、ユーザは、市場に出ている多数のサードパーティツールから PlateSpin Recon へと、収集されたパフォーマンスデータをインポートし、チャート作成機能、レポートインテグレーション機能、および統合プランニング機能を活用することができます。

収集されたデータを、専用の場所および形式から、PlateSpin Recon 監視データベースのテーブルセットに移動/移行すると、PlateSpin Recon では、そのデータをインポートして、他のパフォーマンスデータの場合と同様に利用できます。スケジュールインポートまたは繰り返しインポートを設定し、PlateSpin Recon 分析が 1 回限りのものにならないようにすることもできます。

パフォーマンスデータ収集ツールのほとんどすべてでは、収集したデータを格納するために異なる方法と形式が使用されます。オリジナルの形式にかかわらず、あらゆるデータでも PlateSpin Recon が正常にインポートできるようにするには、ETL (Extract, Transform, and Load) ツールを使用する必要があります。このツールタイプでは、データを取得して変換した後、PlateSpin Recon が検索場所として想定するテーブル内にロードします。80 ページのセクション 3.11.2 「PlateSpin Recon へインポートするデータの準備」を参照してください。

インポートされるデータ内のワークロードは、通常の状況下で PlateSpin Recon がインベントリできるタイプでなければなりません。インポートされるワークロードと PlateSpin Recon との間に必要なポートはすべて、開いている必要があります。

他のリモートデータコネクタの場合と同様に、インポートされるデータには、各時間に対して 1 つまたは複数のデータポイントが含まれている必要があります。また、統合プランニング機能を使用するには、特定のカウンタがデータ内に存在しなければなりません。69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」を参照してください。

- ◆ 79 ページのセクション 3.11.1 「Performance Data Import」テーブルのデータ構造
- ◆ 80 ページのセクション 3.11.2 「PlateSpin Recon へインポートするデータの準備」

3.11.1 「Performance Data Import」テーブルのデータ構造

汎用パフォーマンスデータのインポートに使用されるテーブルには、次の 4 つがあります：

- ◆ **ImportComputer テーブル**：PlateSpin Recon へインポートされるコンピュータに関する情報を含みます。
- ◆ **ImportCounter テーブル**：ImportComputer テーブル内のコンピュータに対して収集されたすべてのカウンタに関する情報を含みます。
- ◆ **ImportCounterInstance テーブル**：各コンピュータに対する各カウンタの名前付きインスタンスに関する情報を含みます。コンピュータ、カウンタ、およびインスタンス名の組み合わせは、固有でなければなりません。
- ◆ **ImportData テーブル**：インポートされる監視データを含みます。

各テーブルには、プライマリキーとして機能し、新しい行がテーブルに挿入されるとデータベースサーバによって自動的に生成される、1 つの ID フィールドがあります。

表 3-8 ImportComputer テーブル

カラム名	タイプ	説明
ID	整数	自動的に生成されます。

カラム名	タイプ	説明
Name	varchar(255)	コンピュータのネットワーク名。 これは、コンピュータのアドレスまたは名前です。これにより、PlateSpin Recon では、ネットワークを通じてコンピュータを呼び出すことができます。

表 3-9 ImportCounter テーブル

カラム名	タイプ	説明
ID	整数	自動的に生成されます。
Name	varchar(255)	カウンタの固有の名前。 これは、PlateSpin Recon チャートに表示されるとおりのカウンタの名前です。事前定義されたカウンタ名がいくつか存在します。 69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」 を参照してください。

表 3-10 ImportCounterInstance テーブル

カラム名	タイプ	説明
ID	整数	自動的に生成されます。
Computer	整数	ImportComputer テーブルへの参照。
Counter	整数	ImportCounter テーブルへの参照。
InstanceName	整数	特定のコンピュータの指定カウンタインスタンスの名前。

表 3-11 ImportData テーブル

カラム名	タイプ	説明
ID	整数	自動的に生成されます。
Instance	整数	どのコンピュータ、カウンタ、およびカウンタインスタンスに対してこのデータ値が収集されたのかを、PlateSpin Recon に通知します。
ObservationDate	DateTime	データが収集された日付と時刻。
ObservationValue	Float	カウンタの値。

3.11.2 PlateSpin Recon ヘインポートするデータの準備

サードパーティの場所と形式からデータを移行するには、ETL (Extract, Transform, and Load) ツールを使用する必要があります。このようなツールは、市場に多数出ています：

オープンソース : CloverETL、Enhydra Octopus、Pentaho Data Integration、および Talend Open Studio。

SQL クエリなどの専用データ操作スクリプトを記述することもできます。ただし、そのようなタスクの詳細については、このドキュメントの範囲に収まりません。サードパーティツールについては、該当のドキュメントを参照してください。スクリプトについては、言語および要件に関して組織内の参考資料を参照してください。

商用 : Informatica PowerCenter、Inaplex Inaport、および Altova MapForce。

選択するツールにかかわらず、データ変換ワークフローは同じです：

- ◆ ImportComputer テーブルにインポートして書き込むワークロードのホスト名を取得します
- ◆ 必要なカウンタの名前を ImportCounter テーブルに書き込みます
- ◆ 上のカウンタに関連するすべてのパフォーマンスデータを取得して書き込みます

汎用インポートデータを操作するには：

- 1 必要なパフォーマンス測定カテゴリと使用率測定カテゴリのデータを収集します。詳細については、[69 ページのセクション 3.9.1 「必須パフォーマンスカウンタ」](#) を参照してください。
- 2 収集されたパフォーマンスデータを抽出して変換し、PlateSpin Recon の「Performance Data Import」テーブルにロードします。
詳細については、[78 ページのセクション 3.11 「Performance Data Import」機能による PlateSpin Recon への汎用データのインポート](#)、[79 ページのセクション 3.11.1 「Performance Data Import」テーブルのデータ構造](#)、および [80 ページのセクション 3.11.2 「PlateSpin Recon へインポートするデータの準備」](#) を参照してください。
- 3 「Performance Data Import」テーブルへ接続するために、新しいリモートサイトを作成します：
 - 3a Data Center Explorer で右クリックし、[Sites] を選択して [Add Site] をクリックします。
[Add Site] ダイアログボックスが表示されます。

Add Site

Name: MySite

Type: Remote

Description:

Connector Type: Performance Data Import

Delete temporary data from import tables when job completes?

Test Settings

OK Cancel

- 3b** 名前を指定し、オプションで説明も指定します。
- 3c** [Type] ドロップダウンリストで、[Remote] を選択します。
- 3d** [Connector Type] ドロップダウンリストで、[Performance Data Import] を選択します。
[Delete data from tables when done?] チェックボックスが表示されます。
- 3e** ステップ 2 でロードしたデータの「Performance Data Import」テーブルを空にするには、[Delete data from tables when done?] チェックボックスを選択します。

これらのテーブルを空にすることを PlateSpin Recon に対して許可しない場合は、別のインポートを実行する前に手動でテーブルを空にする必要があります。

3f [OK] をクリックします。

Data Center Explorer では、新しいサイトが [Sites] ノードに追加されます。

4 マシンをインベントリします：

4a Data Center Explorer で、**ステップ 3** で作成したリモートサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Inventory Machines] をクリックします。

[Inventory Machines in Site sitename] ダイアログボックスが表示されます。

4b インベントリするマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。

4c 必要な資格情報を選択するか、または [<New Credential>] を選択して新しい資格情報を追加します。

4d [OK] をクリックします。

5 サイトデータを同期します：

5a Data Center Explorer で、必要なサイトを右クリックし、[Sites] を選択して [Synchronize Data] をクリックします。

5b 必要なマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。サイト内のマシンをすべて選択するには、サイトの隣にあるチェックボックスを選択します。

5c 必要なデータ範囲オプション、スケジューリングオプション、および繰り返しオプションを選択します。

繰り返しインポートを実行するには、一致する繰り返し ETC (Extract, Transform, and Load) プロセスを設定し、PlateSpin Recon の「Performance Data Import」テーブル内のデータを更新する必要があります。詳細については、該当のソフトウェアベンダのドキュメントを参照してください。

5d [OK] をクリックします。

3.12 Windows マシンに対するディスク使用率カウンタの収集

PlateSpin Recon 3.7.2 では、ターゲット Windows マシンでの Windows Disk Counters アドオンの展開および展開解除は、そのターゲットマシンの監視の開始と停止に連結していません。ターゲットマシンをインベントリした後、適切なアドオンをそのターゲットマシンに展開することにより、追加の監視カウンタに対してデータを取得することができます。その後、PlateSpin Recon によって追加のデータが収集されないようにするには、ターゲットマシンからアドオンを展開解除できます。PlateSpin Recon 3.7.2 によって現在提供されているのは、Windows Disk Counters アドオンのみです。デフォルトでは、ターゲットマシンの監視の一環として、ディスクカウンタが収集されます。

PlateSpin Recon 3.7.2 により、インベントリされた Windows マシンの監視データを収集する粒度を選択する柔軟性も与えられます。PlateSpin Recon 3.7.2 では、Windows Disk Counters アドオンを展開することにより、インベントリされた Windows マシンに対してディスクレベルおよびボリュームレベルの追加カウンタを収集することもできます。PlateSpin Recon によって追加のデータが収集されないようにするには、ターゲットマシンからアドオンを展開解除します。アドオンは、Windows マシンで展開したり展開解除したりすることができます。アドオンを展開したり展開解除したりするためのオプションは

Citrix XenServer マシンや Virtual Center マシンに対して使用可能ですが、Windows Disk Counters アドオンは、Citrix XenServer マシンおよび Virtual Center マシンをホストしている Windows 仮想マシンで展開または展開解除されます。

Windows Disk Counters アドオンでは、次の追加ディスク使用率カウンタに対してデータを収集します：

- ◆ PhysicalDisk_TotalSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_FreeSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_UsedSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_PercentFreeSpace
- ◆ PhysicalDisk_PercentUsedSpace
- ◆ PhysicalDisk_UnpartitionedSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_PartitionedSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_PercentUnpartitionedSpace
- ◆ PhysicalDisk_PercentPartitionedSpace
- ◆ LogicalDisk_UsedMegaBytes
- ◆ LogicalDisk_PercentUsedSpace

ターゲット Windows マシンでアドオンを展開すると、このようなマシンのディスク使用率データとディスク割り当てデータは、「ディスク割り当て」レポートと「ボリューム使用率」レポートで取得できます。レポートの詳細については、[97 ページの第 5 章「チャートとレポートの生成および表示」](#)を参照してください。

注：PlateSpin Recon では、非 Windows マシンの追加ディスク使用率カウンタに対するデータをデフォルトで収集します。

次の節を参照してください：

- ◆ [84 ページのセクション 3.12.1 「アドオンの展開」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 3.12.2 「アドオンの展開解除」](#)

3.12.1 アドオンの展開

PlateSpin Recon のアドオンは、ターゲット Windows マシンをインベントリした後、そのマシンの監視の開始前または開始後に、そのマシンで展開できます。

ターゲット Windows マシンでアドオンを展開するには：

- 1 Data Center Explorer で、ターゲット Windows マシンを右クリックして [Add-On] をクリックし、[Deploy] を選択します。
[Deploy Add-On] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Add-On Name] ドロップダウンリストで、展開するアドオンを選択します。デフォルトでは、[Windows Disk Counters Add-On] が選択されています。

PlateSpin Recon では現在、Windows Disk Counters アドオンの展開のみをサポートしています。

- 3 (条件付き) リモートレジストリサービスに依存サービスが含まれる場合、そのようなリモートレジストリサービスと依存サービスを再起動する方法を決定します。
- アドオンの展開後にリモートレジストリサービスとその依存サービスが自動的に再起動するよう設定する場合は、[*Automatically restart the services which are dependent on the Remote Registry Service*] チェックボックスを選択します。
 - リモートレジストリサービスとその依存サービスを後に手動で再起動する場合は、[*Automatically restart the services which are dependent on the Remote Registry Service*] チェックボックスが選択解除された状態にします。

重要: リモートレジストリサービスに依存サービスが含まれない場合、Windows Disk Counters アドオンを展開すると、そのリモートレジストリサービスはターゲットマシンで自動的に再起動します。

- 4 [OK] をクリックします。

展開ジョブが完了すると、ターゲットの 32 ビット Windows マシンでは HWInputMonPofInfo.dll、ターゲットの 64 ビット Windows マシンでは HWInputMonPofInfo64.dll が、それぞれ展開されます。machine。これらの DLL は、追加のカウンタを収集するために拡張 DLL としてターゲットマシンで実行する PerfMon に対して登録されます。PlateSpin Recon サーバにある `PlateSpinRecon_installation_directory\services\monitoring\windows` ディレクトリのコンテンツは、ターゲットマシンの `%systemroot%\PlateSpinRecon-DiskUtil` ディレクトリにコピーされます。`%systemroot%` は、`c:\WINDOWS` や `c:\WINNT` のような、WINDOWS ディレクトリの完全なパスです。

- 5 (条件付き) **ステップ 3** でリモートレジストリサービスとその依存サービスを手動で再起動することを選択した場合、ターゲットマシンでサービスを再起動します。
- 6 (条件付き) ターゲットマシンの監視中にアドオンを展開した場合は、次のタスクを実行します：
- 6a ターゲットマシンの監視を停止します。
 - 6b ターゲットマシンの監視を開始します。

重要: ターゲットマシンの開始を停止して開始しなかった場合、Windows ディスク使用率カウンタデータは収集されません。

- 7 アドオンの展開状態を表示するには、Data Center Explorer で [Properties] をクリックした後、[General] タブをクリックします。展開状態は、[Notes] にメッセージとして表示されます。

たとえば、アドオンの展開に成功した場合は、次のメッセージが表示されます：

Windows Disk Counter Add-on is deployed.

ターゲット Windows マシンで Windows Disk Counters アドオンを展開した後にマシンオブジェクトを PlateSpin Recon クライアントから削除すると、結果としてそのマシンで次が実行されます：

- ◆ ターゲット Windows マシンのリモートレジストリサービスに依存サービスが含まれない場合、Windows Disk Counter アドオンに関連するすべてのファイルが削除され、PerfMon カウンタが展開解除された後、リモートレジストリサービスが再起動されません。ただし、このような操作を示すメッセージは、PlateSpin Recon クライアントの Job Explorer では表示されません。
- ◆ ターゲット Windows マシンのリモートレジストリサービスに依存サービスが含まれる場合、Windows Disk Counter アドオンに関連するすべてのファイルが削除され、PerfMon カウンタは展開解除されますが、リモートレジストリサービスは再起動しません。ただし、このような操作を示すメッセージは、PlateSpin Recon クライアントの Job Explorer では表示されません。

3.12.2 アドオンの展開解除

- 1 Data Center Explorer で、PlateSpin Recon アドオンを展開解除するターゲット Windows マシンを右クリックして [Add-On] をクリックし、[UnDeploy] を選択します。

[UnDeploy Add-On] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [Add-On Name] ドロップダウンリストで、展開解除するアドオンを選択します。デフォルトでは、[Windows Disk Counters Add-On] が選択されています。

PlateSpin Recon では現在、Windows Disk Counters アドオンの展開解除のみをサポートしています。

- 3 (条件付き) リモートレジストリサービスに依存サービスが含まれる場合、そのようなりモートレジストリサービスと依存サービスを再起動する方法を決定します。
 - ◆ アドオンの展開解除後にリモートレジストリサービスとその依存サービスが自動的に再起動するよう設定する場合は、[Automatically restart the services which are dependent on the Remote Registry Service] チェックボックスを選択します。
 - ◆ 後でリモートレジストリサービスとその依存サービスを手動で再起動する場合は、[Automatically restart the services which are dependent on the Remote Registry Service] チェックボックスが選択解除された状態にします。

重要： リモートレジストリサービスに依存サービスが含まれない場合、Windows Disk Counters アドオンを展開解除すると、そのリモートレジストリサービスはターゲットマシンで自動的に再起動します。

- 4 [OK] をクリックします。

展開解除が完了すると、ターゲットマシンでは %systemroot%\PlateSpinRecon-DiskUtil ディレクトリが削除されます。ターゲットの 32 ビット Windows マシンで実行している PerfMon からは HWInputMonPofInfo.dll、ターゲットの 64 ビット Windows マシンで実行している PerfMon からは HWInputMonPofInfo64.dll が、それぞれ登録解除されます。

- 5 (条件付き) **ステップ 3** でリモートレジストリサービスとその依存サービスを手動で再起動することを選択した場合、ターゲットマシンでサービスを再起動します。
- 6 (条件付き) ターゲットマシンの監視中にアドオンを展開解除した場合は、次のタスクを実行します：
 - 6a ターゲットマシンの監視を停止します。
 - 6b ターゲットマシンの監視を開始します。

注: ターゲットマシンの監視を停止して開始しなかった場合、次のエラーが発生します:

Category does not exist

エラーをトラブルシューティングする方法の詳細については、[194 ページの「Windows マシンを監視すると、「Category does not exist」というエラーが監視ログに表示される](#)」を参照してください。

ターゲット Windows マシンからアドオンを展開解除すると、そのターゲットマシンの [Properties] ページ ([General] タブ > [Notes] セクション) からアドオン展開メッセージが削除されます。

PlateSpin Recon サーバおよび PlateSpin Recon クライアントの ツール

この節では、ログインアカウント情報の管理、データセンターの資産の分析、および操作の監視を向上させる Novell PlateSpin Recon ユーティリティについて説明します。

- ◆ 89 ページのセクション 4.1 「サーバおよびクライアントのオプション」
- ◆ 89 ページのセクション 4.2 「Credentials Manager」
- ◆ 91 ページのセクション 4.3 「PlateSpin Analyzer」

4.1 サーバおよびクライアントのオプション

サーバおよびクライアントの設定へは、[Options] ダイアログボックス ([Tools] > [Options]) からアクセスできます。サーバの設定はそのままにし、Novell PlateSpin テクニカルサポートから指示があった場合にのみ値を変更することが強く推奨されます。

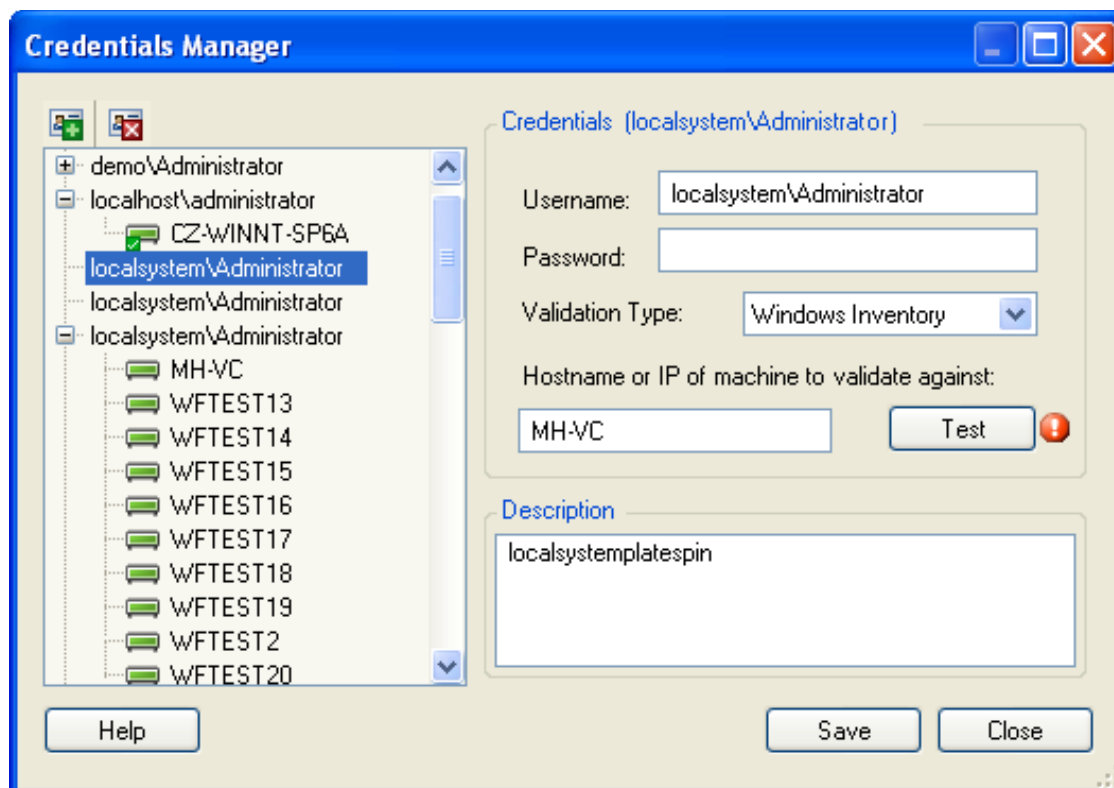
一部のクライアント設定を構成できます。たとえば、さまざまな外部アプリケーションのパスを指定したり、ソフトウェアアップデートを確認するためのオプションを変更したりする必要がある場合があります。

サーバおよびクライアントのオプションをデフォルトの値にリセットするには、[Reset All] をクリックします。


4.2 Credentials Manager

サーバへのアクセスに必要な資格情報を作成して管理するには、Credentials Manager を使用します。[Credentials Manager] ダイアログボックスでは、新しい資格情報の作成、保存された資格情報の削除、および資格情報の編集を実行できます。

図 4-1 [Credentials Manager] ダイアログボックス



4.2.1 資格情報の作成

- 1 PlateSpin Recon クライアントで、[Tools] メニュー > [Credential Manager] の順にクリックします。
[Credential Manager] ウィンドウが表示されます。
- 2 [New] アイコンをクリックします。
- 3 [Credentials] ペインで、ユーザ名とパスワードを指定します。

注： Windows インベントリ資格情報を追加する場合は、次のいずれかの形式でユーザ名とドメイン名を指定する必要があります：*domain_name\username* または *username@domain_name*。例：*platespin\reconuser*。

- 4 [Validation Type] ドロップダウンリストで、プラットフォームに適切な検証タイプを選択します。使用可能なオプションには、[Windows Inventory]、[Unix Inventory]、[Virtual Center Inventory]、[VMware ESX/4 Inventory]、[Novell Netware Inventory]、[NetWare LSA]、[Citrix XenServer Inventory]、[Database]、および [Other] があります。
デフォルトでは、[Other] が選択されています。
- 5 (オプション) 資格情報を検証する対象のマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。[Test] をクリックし、指定した資格情報を検証します。
- 6 (オプション) ユーザ名が同一の資格情報が複数ある場合、それらを区別するために説明を指定します。
- 7 [Save] をクリックして、資格情報を保存します。

資格情報が PlateSpin Recon で保存され、Credential Manager の左ペインに一覧表示されます。


- 8 (オプション) 新しい資格情報を追加するには、[ステップ 1](#)～[ステップ 7](#)を繰り返します。
- 9 [\[閉じる\]](#) をクリックします。

4.2.2 資格情報の削除

資格情報は、サーバに割り当てられている場合にのみ削除できます。

注: 資格情報がサーバに割り当てられている場合、左ペインでそのようなサーバの隣にプラス記号 (+) が表示されます。資格情報がどのマシンに割り当てられているかを確認するには、プラス記号をクリックするか、または資格情報をダブルクリックします。

資格情報を削除するには:

- 1 PlateSpin Recon クライアントで、[\[Tools\]](#) メニュー > [\[Credential Manager\]](#) の順にクリックします。
[\[Credential Manager\]](#) ウィンドウが表示されます。
- 2 次のいずれかの方法で資格情報を削除します:
 - 左ペインで、削除する資格情報を選択し、[\[Delete\]](#) アイコン  をクリックするか、または <Delete> キーを押します。
 - 左ペインで、削除する資格情報を右クリックし、[\[Delete\]](#) をクリックします。

4.3 PlateSpin Analyzer

PlateSpin Analyzer では、ネットワークをすばやく分析し、指定した Windows サーバや UNIX/Linux サーバのインベントリ、監視、または変換が PlateSpin Recon で成功するかどうかを判断します。これは、インベントリおよび変換という 2 つの異なるタイプのテストを実行します。

- [91 ページのセクション 4.3.1 「PlateSpin Analyzer の使用」](#)
- [94 ページのセクション 4.3.2 「インベントリおよび監視のテスト」](#)
- [95 ページのセクション 4.3.3 「変換テスト」](#)

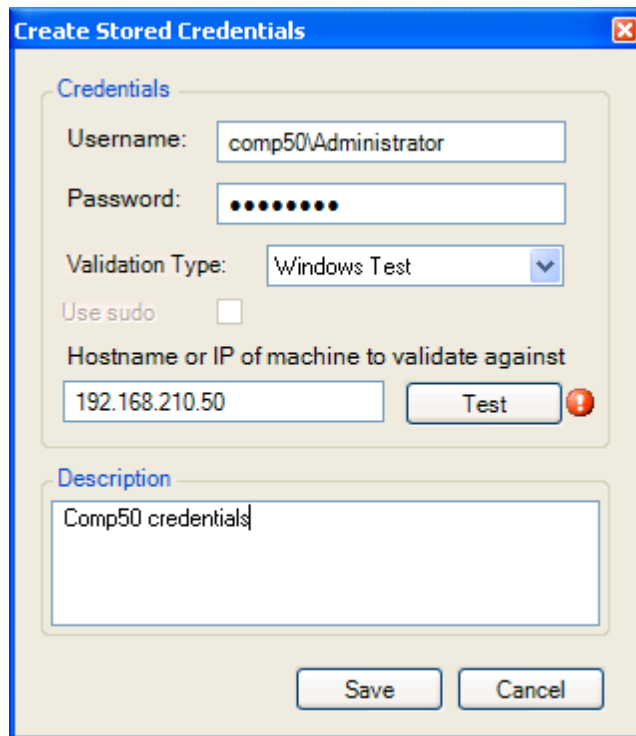
4.3.1 PlateSpin Analyzer の使用

- 1 [\[Tools\]](#) > [\[Analyze Servers\]](#) の順にクリックします。
[\[PlateSpin Analyzer\]](#) ウィンドウが表示されます。
- 2 [\[Select Credential\]](#) ドロップダウンリストでは、新しい資格情報を追加するか、または CSV ファイルに指定されている資格情報とマシンを使用するかを選択できます。
新しい資格情報を作成する場合は、[ステップ 3](#)に進みます。CSV ファイルを使用する場合は、[ステップ 4](#)に進みます。

3 (条件付き) 新しい資格情報を作成することをステップ 2 で選択した場合は、次の操作を実行します:

3a [Create Stored Credentials] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを指定します。

図 4-2 [Create Stored Credentials] ダイアログボックス



注: Windows マシンを分析する場合は、次のいずれかの形式でユーザ名とドメイン名 / ホスト名を指定する必要があります: `domain_name\username` または `hostname\username`。

3b [Validation Type] ドロップダウンリストで、[Windows Test] または [Unix Test] を選択します。

PlateSpin Analyzer では Unix サーバまたは Linux サーバの分析をサポートしませんが、これらのサーバを資格情報の検証に対して使用することはできません。

3c (オプション) 資格情報の説明を入力します。

3d [Save] をクリックします。

注: [Save] が無効な場合は、資格情報が正しい形式で入力されていることを確認します。

3e [Domain Name] ドロップダウンリストで、使用可能なオプション ([Domain Name]、[IP/Host Name]、または [IP Range]) を 1 つ選択します。

3f ステップ 3e での選択肢に該当する空のフィールドに値を入力します。たとえば、[Domain Name] を選択した場合は、ドメイン名を入力します。

3g ステップ 5 に進みます。

- 4 (条件付き) CSV ファイルに指定されている資格情報とマシンを使用することを [ステップ 2](#) で選択した場合は、その CSV ファイルへの完全なパスを空のフィールドに入力します。隣にあるブラウズボタンを使用すると、ファイルをブラウズして選択できます。

CSV ファイルを操作する際には、次のガイドラインに従ってください：

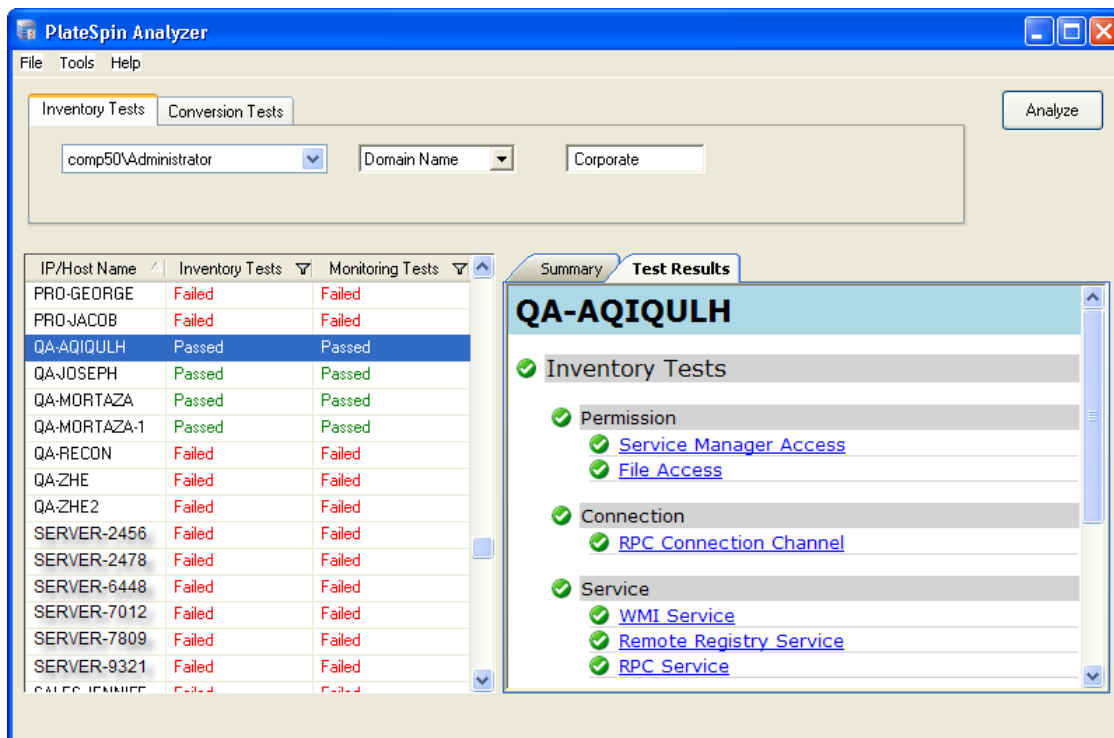
- ◆ 値は次の順序で指定されなければなりません：
ホスト名または IP アドレス
<ホスト名または IP アドレスまたはドメイン名 >\ユーザ名
パスワード
説明
プラットフォーム
TRUE または FALSE
- ◆ CSV ファイルでは、UNIX および Windows のプラットフォームに対して TRUE または FALSE の値を指定する必要があります。ただし、この値は UNIX プラットフォームでのみ考慮され、Windows プラットフォームでは無視されます。UNIX プラットフォームに TRUE の値を指定した場合、指定されたユーザには `sudo` 特権が割り当てられます。
- ◆ 各行には、マシンに対するカスタムフィールドが含まれていなければなりません。
- ◆ [Machine] カスタムフィールドの値は、IP アドレスまたはホスト名にすることができますが、固有でなければなりません。
- ◆ 各行に含まれる値は、コンマ (,) などの区切り記号で区切る必要があります。

サンプルの CSV ファイルは、次のとおりです：

```
DEV-SINISAR, platespin\user1, abc, Description test, Windows, FALSE
```

- 5 [Analyze] をクリックし、プロセスが完了するまで待機します。

図 4-3 PlateSpin Analyzer の [Analysis]



分析が完了すると、左ペインに「Passed」または「Failed」と表示されます。結果の詳細を表示するには、右ペインの [Test Results] タブをクリックします。いずれかのテストから失敗の結果が返された場合、PlateSpin Recon が正常にホストをインベントリするには、まずは原因を解決する必要があります。通常、失敗の結果は、権限が不十分であるか、必要なサービスが実行されていないことを示します。

4.3.2 インベントリおよび監視のテスト

インベントリテストは、3つのグループに分割され、それぞれにテストのサブセットが含まれます。

表 4-1 インベントリテストのグループ

主なテストグループ	テストグループサブセット	説明
許可	Service Manager アクセス	Service Manager を開く許可がユーザにあることを検証します。
	ファイルアクセス	インベントリされるマシンの System32 ディレクトリに正しいアクセス許可が付与されていることを検証します。
接続	RPC 接続チャンネル	DNS/NETBIOS 名を解決することによって RPC 接続チャンネルを確立できるかどうかを判断します。

主なテストグループ	テストグループサブセット	説明
サービス	WMI サービス	インベントリされるクライアントマシンで WMI (Windows Management Instrumentation) サービスが有効化されており、実行しているかどうかを判断します。
	リモートレジストリサービス	クライアントマシンでリモートレジストリサービスが有効化されていることを検証します。
	RPC サービス	クライアントマシンで RPC (リモートプロシージャコール) サービスが有効化されていることを検証します。

監視テストは 2 つの主なグループに分割され、それぞれにテストのサブセットが含まれます：

表 4-2 監視テストのグループ

サービス	RPC サービス	クライアントマシンで RPC サービスが実行していることを検証します。
	DCOM サービス	クライアントマシンで DCOM サービスが実行していることを検証します。
ポート	TCP ポート 135	TCP ポート 135 と 445 が使用可能であるかどうかを判断します。より確実な情報を取得するには、1024 を超えるすべての TCP ポートに対してポートスキャナを実行することを検討してください。
	TCP ポート 445	

4.3.3 変換テスト

変換テストは、PlateSpin Portability Suite の PlateSpin Analyzer ツールによって実行されるものに類似していません。詳細については、ナレッジベースの記事 [Q20478 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20478\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20478) を参照してください。

チャートとレポートの生成および表示

5

インベントリデータと監視データは、PlateSpin Recon によって収集された後、チャートまたはカスタマイズ可能なレポートで分析用に表示することができます。Chart Viewer および Report Explorer には、収集された情報がさまざまな形式で表示されます。

- ◆ 97 ページのセクション 5.1 「Chart Viewer」
- ◆ 101 ページのセクション 5.2 「Report Explorer」
- ◆ 109 ページのセクション 5.3 「レポートテンプレートの編集」
- ◆ 120 ページのセクション 5.4 「ビューのカスタマイズ」
- ◆ 126 ページのセクション 5.5 「レポートの生成」
- ◆ 129 ページのセクション 5.6 「Document Viewer」

5.1 Chart Viewer

チャートには、ワークロードデータと使用率データがグラフィック表示されます。特定のサーバに対するチャートを表示するには、そのサーバを Data Center Explorer で選択するか、またはそのサーバに属する 1 つのセルをレポートビューでクリックします。複数のサーバを Data Center Explorer で選択し (サーバを選択する際に <Ctrl> または <Shift> を押す)、複数のサーバに対するチャートをレンダリングすることもできます。この場合、チャートは自動的にレンダリングされませんが、[Create Chart] ボタンが Chart Viewer に表示されます。チャートをレンダリングするには、[Create Chart] をクリックしてください。

チャートを操作するには、次の節を確認してください：

- ◆ 98 ページのセクション 5.1.1 「チャートのコントロールおよびコマンド」
- ◆ 99 ページのセクション 5.1.2 「式のタイプ」
- ◆ 100 ページのセクション 5.1.3 「詳細のレベル」
- ◆ 100 ページのセクション 5.1.4 「データタイプの統計値」
- ◆ 100 ページのセクション 5.1.5 「サーバインスタンス」
- ◆ 100 ページのセクション 5.1.6 「日付範囲の事前設定」
- ◆ 100 ページのセクション 5.1.7 「予測」

Chart Viewer に表示される時刻はすべて現地時間です。レポートに表示される時刻は、UTC 時間です。

5.1.1 チャートのコントロールおよびコマンド

図 5-1 チャートのコントロール

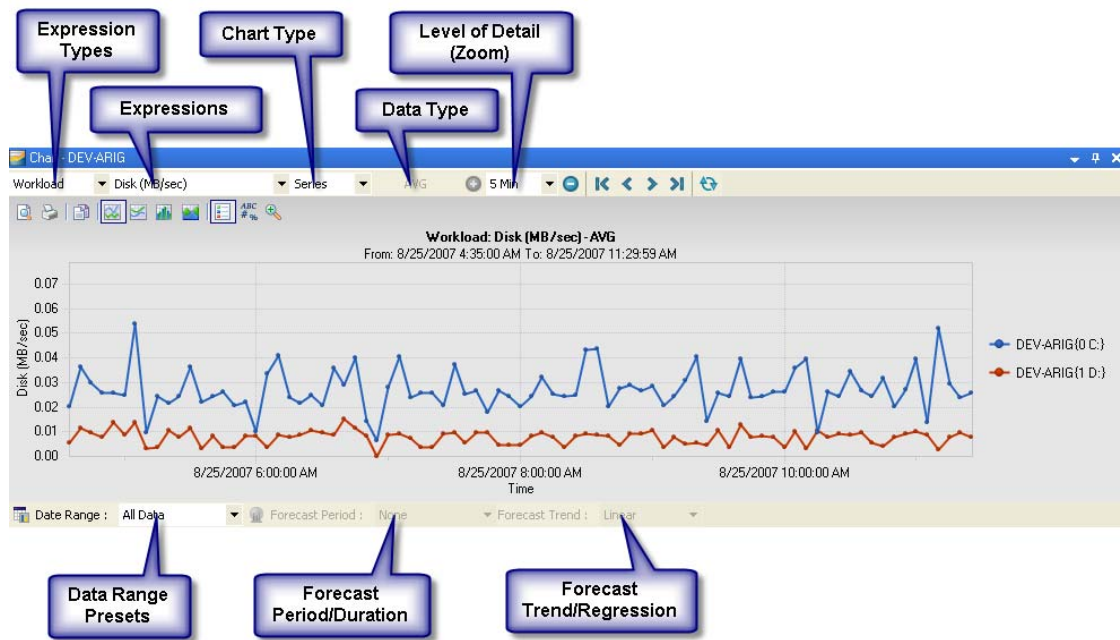


















表 5-1 Chart Viewer のコマンド

コマンド	説明
	Print Preview: 印刷前にチャートをプレビューします。
	Print: チャートを印刷します。
	Copy To Clipboard: クリップボードにチャートをコピーします。
	Line: 連続するデータの 2 点間に直線を表示します。
	Curve: 連続するデータの 2 点間に曲線を表示します。
	Candlestick: サンプルデータの変異性を表示します。このボタンは、ローソク足チャートにのみ表示されます。
	Stacked Bar: 複数のサーバからの累積したワークロードデータを表示します。これは、使用率以外の式のタイプに使用できます。
	Stacked Area: 複数のサーバからの累積したワークロードデータを表示します。これは、使用率以外の式のタイプに使用できます。
	Legend Box: 各データオブジェクトの視覚的な手がかりと説明を示します。凡例は、チャートのデータをすばやく確認する場合に非常に便利です。
	Point Labels: チャートの値のラベルを表示します。
	Zoom: 通常表示と拡大表示を切り替えます。

コマンド	説明
	Zoom In/Zoom Out: 収集されたデータに対するチャートの粒度を調整します。100ページのセクション 5.1.3 「詳細のレベル」を参照してください。
	Navigate Beginning/Back/Forward/End: 表示されているデータをスクロールします。
	Historical Data Settings: 予測の基となる履歴データ時間範囲を選択します。
	Forecast Settings: 予測の期間とアルゴリズムを選択します。 このボタンは、毎日または毎週の系列チャートあるいはプロファイルチャートに対してのみ有効になります。
	Refresh All Data From Server: 画面をリフレッシュします。

5.1.2 式のタイプ

式は、現在表示されているチャートで確認できる個々の一連データです。使用可能なタイプと式の組み合わせを選択すると、チャートがレンダリングされ、新しいメトリックスが表示されます。使用可能な式のリストは、式のタイプや選択したマシンによって異なります。

表 5-2 式のタイプ

タイプ	使用可能な式	説明
ワークロード	ワークロードに対して使用できる式の完全なリストについては、216ページのセクション B.4.3 「ワークロード」を参照してください。	プロセッサ速度、メモリ、ディスク領域、ネットワーク、および時間のディメンションが定量化された、サーバで実行しているオペレーティングシステム、アプリケーション、およびデータスタック。
使用率	使用率に対して使用できる式の完全なリストについては、215ページのセクション B.4.2 「使用率」を参照してください。	ワークロードとリソースの間の調整 (% 使用率) を示します。
カウンタ	カウンタ値には、Windows システムから取得するために使用される Windows Performance Monitor カウンタに基づいて名前が付けられます。名前には、Performance Monitor カテゴリと、アンダースコアで結合されたカウンタ名が含まれます。たとえば、Memory/PagesPerSecond の場合、「Memory_PagesPerSecond」になります。 使用可能なカウンタの完全なリストについては、210ページの「プラットフォームカウンタ」を参照してください。	オペレーティングシステムから収集されたパフォーマンスのプリミティブ測定。

5.1.3 詳細のレベル

ドロップダウンリストで、収集されるデータに対する粒度のレベルを (時間に関して) 次のの中から選択します :

- ◆ **[5 Min]** : 5 分間隔で収集されるデータの平均値。(系列チャートのみ。)
- ◆ **[1 Hour]** : 1 時間間隔で収集されるデータのサマリ。(系列チャートおよびローソク足チャートのみ。)
- ◆ **[1 Day]** : 1 日間にわたるワークロードを示します。これは、1 日の各時間に対応する 24 個の値 (0 ~ 23) から構成されます。各値は、該当の時間に対して観測されたすべての値からピーク値を取得することによって計算されます。(すべてのチャートタイプ。)
- ◆ **[1 Week]** : 1 週間にわたるワークロードを示します。(すべてのチャートタイプ。)

5.1.4 データタイプの統計値

次のデータタイプ統計値は、各時間に対して収集され 1 時間以上のズームレベルが指定されている場合に選択できます。このオプションは、系列チャートに対してのみ使用できます。

- ◆ **AVG:** すべての値の平均。
- ◆ **MAX:** 最大持続負荷。
- ◆ **MIN:** 最小持続負荷。
- ◆ **STDEV:** 標準偏差。

注 : 標準偏差値は、Virtual Center カウンタに対して計算されません。

- ◆ **Peak AVG:** (1 日間または 1 週間のみ) ピーク平均値は、レポート期間中における各 12 時間間隔または各日で最高の期間に対する値の平均を表します。

5.1.5 サーバインスタンス

現在選択されているリソース (式) のインスタンスをすべて表示するには、ドロップダウンリストをクリックします。そのリソースに対するチャートデータを表示するには、各インスタンスを選択します。チャートをレンダリングするために複数のサーバを使用した場合は、すべてのサーバに対するリソースの全インスタンスが表示されます。インスタンスは、系列チャートとプロファイルチャートに対しては凡例として表示され、ローソク足チャートに対してはツールバーにあるドロップダウンリストに表示されます。



5.1.6 日付範囲の事前設定

ドロップダウンリストから、[Last 3 days]、[Last 7 days]、[Last Month]、または [All Data] を選択します。より特定の日付範囲オプションに対しては、[<Custom>] を選択して、[Advanced Date Filter Settings] ダイアログボックスを開いてください。

5.1.7 予測

予測は、系列チャートとプロファイルチャートに対して 1 日または 1 週間の詳細レベルで使用できます。予測をチャートで使用するには、少なくとも 3 日間分の監視データが必要です。

予測をチャートビューに追加するには：

- 1 プロファイルチャートを表示します。
- 2 **[Date Range]** ドロップダウンリストをクリックし、予測の基となる期間を選択します。
- 3 (オプション) 高度な日付フィルタ設定に対しては、**[Historical Data Settings]**  をクリックします。
[Advanced Date Filter Settings] ダイアログボックスが表示されます。希望の設定を任意に選択し、**[OK]** をクリックします。
- 4 **[Forecast Period]** ドロップダウンリストをクリックし、予測に対する期間を選択します。
- 5 (オプション) 高度なカスタム予測設定に対しては、**[Forecast Settings]**  をクリックします。
[Advanced Forecast Settings] ダイアログボックスが表示されます。希望の設定を任意に選択し、**[OK]** をクリックします。
- 6 **[Forecast>Trend]** ドロップダウンリストをクリックし、予測傾向または回帰方法を選択します。

5.2 Report Explorer

Report Explorer は、レポートを整理および生成するために使用されます。

- ◆ [101 ページのセクション 5.2.1 「Report Explorer のテンプレートノード」](#)
- ◆ [104 ページのセクション 5.2.2 「コマンド」](#)
- ◆ [105 ページのセクション 5.2.3 「「分析」レポート」](#)
- ◆ [105 ページのセクション 5.2.4 「「VM ディスクパーティション割り当て」レポート」](#)
- ◆ [108 ページのセクション 5.2.5 「レポートテンプレートの操作」](#)

5.2.1 Report Explorer のテンプレートノード

Report Explorer の階層は、さまざまなレポートテンプレートを持つテンプレートノードから構成されています。

表 5-3 Report Explorer テンプレートノード

テンプレートノード	レポートテンプレート	ノードの説明
分析	アプリケーション - Exchange のワークロード	ハードウェア使用率やワークロードサイズなどの動的データをレポートिंगするため。
	アプリケーション - SQL Server のワークロード	
	ディスク - 30 日間予測平均	
	ディスク - ピーク	
	ハードウェア使用率 - 30 日間予測平均	
	ハードウェア使用率 - ピーク	
	メモリ - 30 日間予測平均	
	メモリ - 使用率が高い	
	メモリ - ピーク	
	メモリ - 使用率が低い	
	ネットワーク - 30 日間予測平均	
	ネットワーク - ピーク	
	プロセッサ - 30 日間予測平均	
	プロセッサ - 使用率が高い	
	プロセッサ - ピーク	
	プロセッサ - 使用率が低い	
	リソース使用率傾向	
	ボリューム使用率 - 平均	
	ボリューム使用率 - ピーク	
	ワークロードサイズ - 30 日間予測平均	
ワークロードサイズ - ピーク		
チャージバック	コスト割り当て	IT 部門で負担した料金がサービスを使用している部署に移転されたことをレポートングするため。180 ページのセクション 7.4 「チャージバックレポートング」を参照してください。
統合	プロジェクト	Consolidation Planning Module でプロジェクト、シナリオ、およびサーバに関してレポートングするため。このノード内でテンプレートを使用する方法の詳細については、165 ページのセクション 6.7 「統合レポートの参照」を参照してください。
	シナリオサマリ	
	ワークロード割り当て	

テンプレートノード	レポートテンプレート	ノードの説明
統合プロジェクト サンプル	良好統合候補 インベントリサマリ 不良統合候補 使用率サマリ 条件付き書式が設定されている ワークロードリスト	一般的に使用されるサンプル統合レポート。
診断	エラーレポート 不足しているデータ - 詳細 不足しているデータ - サマリ	監視データがチャートから不足する原因を引き起こすエラーを診断するため。
ディスク	ディスク割り当て ディスクインベントリ	「ディスク割り当て」レポートは、最後に収集された監視データに基づいて生成されます。 マシンの物理ディスクのサイズとタイプをレポートिंगするため。
インベントリ	ハードウェア - 旧形式 ハードウェアインベントリ 消費電力と冷却 仮想マシンサーバ候補 仮想マシン状態 VM ファイルレポート VM スナップショットレポート VM スプロールレポート	オペレーティングシステム、プロセッサ速度、メモリ、ディスク領域、ネットワーク、消費電力、冷却などの静的データをレポートिंगするため。
再利用	ディスク再利用 メモリ再利用 電力オン VM 再利用 ボリューム再利用	リソースが効率的に使用されるようにするために再利用できる要素に関してレポートिंगするため。
ソフトウェア	アプリケーション > アプリケーションインベントリ アプリケーション完了 > アプリケーション完了インベントリ プロセス > プロセスインベントリ サービス > サービスインベントリ サービス完了 > サービス完了インベントリ	インストール済みのアプリケーションとサービス、および実行中のプロセスをレポートिंगするため。







テンプレートノード	レポートテンプレート	ノードの説明
仮想インフラストラクチャ	クラスタ環境設定	仮想マシンと仮想マシンホストに関してレポートを行うため。
	リソースプール環境設定	
	VI 環境設定	
	仮想センターレポート	
	VM クラスタ	
	VM 詳細レポート	
	VM ホストパーティション配置	
	VM パーティション配置	
	VM リソースプール	
	VM 仮想インフラストラクチャ	
ボリューム	ボリュームインベントリ	マシンの各論理ボリュームに関連付けられている領域およびファイルシステムをレポートを行うため。

102 ページの表 表 5-3 に示されているように、各レポートノード内には、そのまま使用できるテンプレート、またはソート、フィルタ、およびビュー選択のオプションを使用してカスタマイズできるテンプレートが、1 つまたは複数含まれています。「分析」、「チャージバック」、「ディスク」、「インベントリ」、「ソフトウェア」、および「ボリューム」に対するレポートテンプレートは追加できます。

5.2.2 コマンド

次の Report Explorer コマンドへは、レポートテンプレートまたは生成されたレポートを右クリックすることによりアクセスできます：

表 5-4 Report Explorer のコマンド

コマンド	ツールのヒント / 説明
	Create Report Template: 選択したレポートノードに基づいて新しいレポートテンプレートを作成します。
	Copy Report Template: レポートテンプレートをコピーします。
	Edit Report Template: レポートテンプレートまたはレポートに対してグループ、ビュー、フィルタ、サマリ、および予測を設定することによって、レポートを編集します。
	Generate Report: 選択したレポートテンプレートに基づいてレポートを生成します。
	View Report: 既存の (以前に生成された) レポートを表示します。
	Send Report: 生成されたレポートを、電子メール経由で、あるいは FTP サーバまたはネットワーク上の場所へ送信します。
	Delete: 選択したレポートまたはテンプレートを削除します。

5.2.3 「分析」レポート

「分析」レポートでは、ハードウェア使用率やワークロードサイズなどの動的データが使用されます。監視されているサーバのワークロードまたは使用率を表示するには、「分析」レポートを生成します。指定した期間にわたって式に対する単一値(最大、最小、ピーク、平均)を取得するために便利な履歴データが含まれた状態で、レポートが表示されます。使用率が高いサーバリソースや、使用率が低いサーバリソースを識別するには、このデータを使用してください。

注: データは、「分析」レポートが生成される1時間前までに収集される必要があります。データが不十分な場合、レポートは動的データなしに表示されます。

各データポイントに対する詳細な履歴データを取得するには、レポートセルをクリックして、関連する詳細チャートを表示します。

インベントリされたすべてのマシンの分析を完了できるよう、監視データのないマシンはデフォルトで「分析」レポートに含まれます。

図 5-2 「分析」レポートのサンプル

Hardware Utilization - Peak							
Machine	Operating System	Memory			Processor		
Host	Type	Size (MB)	Used (%)		Total Speed (Mhz)	%	
			PEAK	Hour		PEAK	Hour
DEV-YONINAJ	Windows XP	2048.0	91.3	14	3990.0	55.2	13
DEV-PREETS	Windows 2003	2048.0	36.8	16	5984.0	2.8	16
DEV-NADERS	Windows 2003	2048.0	43.4	18	3990.0	3.8	19
DEV-CYRILM	Windows 2003	2040.0	15.2	14	3740.0	3.4	13
DEV-TONYL	Windows 2003	3584.0	61.8	16	6384.0	25.3	18
DEV-MICHAELB	Windows XP	2048.0	94.1	18	6384.0	12.2	13
DEV-MIRAG	Windows 2003	2048.0	93.6	19	5984.0	27.8	19
DEV-EDWARDC	Windows 2003	2048.0	37.4	15	3990.0	1.6	15
DEV-TONYP	Windows 2003	2048.0	85.2	21	3990.0	17.1	18
DEV-MIRCEAA	Windows XP	2048.0	56.5	20	3994.0	26.5	16
DEV-ARIG	Windows 2003 (64bit)	4032.0	71.6	15	5320.0	31.3	13
DEV-WILSONT	Windows 2003	2048.0	90.6	20	3740.0	39.9	10
DEV-GEORGED	Windows 2003	3072.0	73.2	19	3990.0	24.1	13

5.2.4 「VM ディスクパーティション割り当て」レポート

ディスクパーティションの配置状態を表示する次の2つのレポートが、PlateSpin Recon 3.7.2 によって新たに提供されます:

- ◆ 106 ページの「VM ホストパーティション配置」レポート
- ◆ 107 ページの「VM パーティション配置」レポート

「VM ホストパーティション配置」レポート

「VM ホストパーティション配置」レポートには、PlateSpin Recon がサポートする ESX サーバのディスクパーティション配置状態が表示されます。次の表では、「VM ホストパーティション配置」レポートによって生成および表示されるデータが説明されています:

カテゴリ	フィールド	追加の詳細
オペレーティングシステム	Version	
ディスク	Disk Type	
	Storage Type	
	Alignment Boundary Size (KB)	<p>[Alignment Boundary Size] の値は、パーティションの開始オフセットを定義します。たとえば、EMC CLARiiON ストレージベンダでは、64KB 境界にパーティションを配置するために、128 の開始ブロックを推奨しています。</p> <p>64KB 境界値は、VMware 推奨事項 (http://www.vmware.com/pdf/esx3_partition_align.pdf) に従って、デフォルトで使用されます。ただし、それぞれのディスクまたはディスクアレイには、64KB の配置境界がありません。ご使用のマシンに対するディスクの配置境界については、該当のストレージベンダの推奨事項またはシステムガイドを参照してください。</p>
パーティション	Name	
	File System	
	Starting Offset (bytes)	
	Alignment Status	<p>ディスクパーティション配置の状態は、次のいずれかになります：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Aligned ◆ Unaligned ◆ Indeterminate: パーティションの開始オフセット値が適切にインベントリされていないか、またはその値がゼロ (0) に設定されていることを意味します。

「VM ホストパーティション配置」レポートには、境界サイズが異なる外部ディスクに対する配置状態が表示されますが、その配置状態は正しくない場合があります。正しい配置状態を取得するには、レポートテンプレートに含まれるディスクの境界サイズが正しいことを確認してください。

レポートテンプレートに含まれるディスクの境界サイズを表示または変更するには：

- 1 Report Explorer で *Virtual Infrastructure* をブラウズし、[VM Host Partition Alignment] レポートテンプレートを右クリックして、[Edit Report Template] をクリックします。
[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Custom Attributes] タブをクリックします。

3 パーティションディスクに対して [Alignment Boundary Size] の値を確認し、必要に応じて変更します。

デフォルトの配置境界は 64KB です。外部ディスクの配置境界サイズについては、社内のストレージ管理者または該当のディスクベンダにお問い合わせください。

4 [OK] をクリックします。

「VM パーティション配置」レポート

「VM パーティション配置」レポートには、PlateSpin Recon がサポートする ESX ホストマシンで実行される Windows または Linux の仮想マシンのディスクパーティション配置状態が表示されます。ディスクパーティション配置状態は、ESX ホストマシンの VMFS パーティションに常駐するディスクに対するものです。ホストマシンは、インベントリされている場合とインベントリされていない場合があります。インベントリされている仮想マシンのデータは、該当のホスト下でグループ化され、ホストがインベントリされていない仮想マシンのデータは、「ホストのない VM」としてグループ化されます。

次の表では、「VM パーティション配置」レポートによって生成および表示されるデータが説明されています：

カテゴリ	フィールド	追加の詳細
オペレーティングシステム	Type	
	Edition	
	Version	
Disk	Disk Type	
	Storage Type	
	Alignment Boundary Size (KB)	[Alignment Boundary Size] は、パーティションの開始オフセットを定義します。たとえば、EMC CLARiiON ストレージベンダでは、64KB 境界にパーティションを配置するために、128 の開始ブロックを推奨しています。 64KB 境界値は、 VMware 推奨事項 (http://www.vmware.com/pdf/esx3_partition_align.pdf) に従って、デフォルトで使用されます。ただし、それぞれのディスクまたはディスクアレイには、64KB の配置境界がありません。ご使用のマシンに対するディスクの配置境界については、該当のストレージベンダの推奨事項またはシステムガイドを参照してください。
パーティション	Name	
	File System	
	Starting Offset (bytes)	

カテゴリ	フィールド	追加の詳細
	Alignment Status	<p>ディスクパーティション配置の状態は、次のいずれかになります：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Aligned ◆ Unaligned ◆ Indeterminate: パーティションの開始オフセット値が適切にインベントリされていないか、またはその値がゼロ (0) に設定されていることを意味します。

ESX ホストで実行する仮想マシンにアタッチされた外部ディスクに対して配置状態をレポートすることはサポートされていませんが、「VM パーティション配置」レポートには、外部ディスクに対する配置状態も表示されます。ただし、外部ディスクの境界サイズが異なる場合は、配置状態が正しくないことがあります。正しい配置状態を取得するには、レポートテンプレートに含まれるディスクの境界サイズが正しいことを確認してください。

レポートテンプレートに含まれるディスクの境界サイズを表示または変更するには：

- 1 Report Explorer で *Virtual Infrastructure* をブラウズし、[*VM Partition Alignment*] レポートテンプレートを右クリックして、[*Edit Report Template*] をクリックします。

[*Edit Report Template*] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [*Custom Attributes*] タブをクリックします。

- 3 パーティションディスクに対して [*Alignment Boundary Size*] の値を確認し、必要に応じて変更します。

デフォルトの配置境界は 64KB です。外部パーティションディスクの配置境界サイズについては、社内のストレージ管理者または該当のディスクベンダに問い合わせてください。

- 4 [OK] をクリックします。

5.2.5 レポートテンプレートの操作

- ◆ [108 ページの「レポートテンプレートの作成」](#)
- ◆ [109 ページの「レポートテンプレートのコピー」](#)
- ◆ [109 ページの「レポートテンプレートの削除」](#)

レポートテンプレートの作成

- 1 Report Explorer で、作成するレポートタイプに対するレポートタイプノードを右クリックし、メニューから [*Create Report Template*] を選択します。

[*Create Report Template*] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 既存のテンプレートを編集するための手順とガイドラインを使用して、テンプレート設定を定義します。 [109 ページのセクション 5.3「レポートテンプレートの編集」](#) を参照してください。

3 [OK] をクリックします。

Report Explorer のレポートタイプノードの下に、新しいテンプレートが表示されます。

レポートテンプレートのコピー

1 Report Explorer で、コピーするレポートテンプレートを右クリックし、メニューから [Copy Report Template] を選択します。

テンプレート名に (COPY) が追加された状態で、[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション) テンプレート名を編集します。

3 [OK] をクリックします。

テンプレートの新しいコピーが Report Explorer に表示されます。

レポートテンプレートの削除

1 Report Explorer で、削除するレポートテンプレートを右クリックし、メニューから [Delete] を選択します。

[Confirm Delete] ダイアログボックスが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

レポートテンプレートが Report Explorer から削除されます。

5.3 レポートテンプレートの編集

PlateSpin Recon には、レポートを生成するために使用できる、標準で事前定義されたテンプレートのライブラリが含まれています。テンプレートは、レポートに含まれるコンテンツと、そのコンテンツが表示される形式を指定します。

- ◆ [110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)
- ◆ [116 ページのセクション 5.3.2 「「チャージバック」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [117 ページのセクション 5.3.3 「「統合」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [117 ページのセクション 5.3.4 「「統合プロジェクトサンプル」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [117 ページのセクション 5.3.5 「「診断」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [118 ページのセクション 5.3.6 「「ディスク」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [118 ページのセクション 5.3.7 「「インベントリ」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [118 ページのセクション 5.3.8 「「再利用」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [119 ページのセクション 5.3.9 「「ソフトウェア」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [119 ページのセクション 5.3.10 「「仮想インフラストラクチャ」 レポートテンプレート」](#)
- ◆ [119 ページのセクション 5.3.11 「「ボリューム」 レポートテンプレート」](#)

PlateSpin Recon レポーティング機能を使用すると、特定のビジネス要件を満たすように、ほとんどのレポートテンプレートをカスタマイズすることができます。ほとんどのレポートへは、コンテンツとサマリに加えて、タイムフレーム、レポート表示、およびその他多数の要素が含まれるように設定できます。ユーザは、変更されたテンプレートを保存し、そのテンプレートからレポートを生成できます。

「統合」レポート以外のすべてのレポートに対しては、テンプレートをコピーして、各コピーを編集することができます。これにより、オリジナルが保持されます。代替レポートを生成するには、変更されたテンプレートを使用してください。

レポートテンプレートを編集するには、そのテンプレートを右クリックし、メニューから [Edit Report Template] を選択します。[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。

5.3.1 レポートテンプレートのオプションタブ

レポートテンプレートをカスタマイズするために使用できるオプションは、選択したレポートテンプレートのタイプによって異なります。

- ◆ 110 ページの「[Group] タブ」
- ◆ 110 ページの「[Views] タブ」
- ◆ 111 ページの「[Field Filter] タブ」
- ◆ 113 ページの「[Row Filter] タブ」
- ◆ 113 ページの「[Columns] タブ」
- ◆ 113 ページの「[Time Period] タブ」
- ◆ 113 ページの「[Options] タブ」
- ◆ 113 ページの「[Date Filter] タブ」
- ◆ 114 ページの「[Summaries] タブ」
- ◆ 115 ページの「[Forecast] タブ」
- ◆ 115 ページの「[Custom Attributes] タブ」

[Group] タブ

レポートに含めるフィルタまたはサーバグループを選択できます。Filters、Groups、または Sites のノード内では、固有のグループまたは条件を選択する必要があります。Filters、Groups、または Sites のノードは、第 1 レベルの論理グループです。レポートテンプレートで論理グループのみを選択した場合、生成されたレポートは空になります。

グループの詳細については、57 ページのセクション 3.4「グループの操作」を参照してください。

[Views] タブ

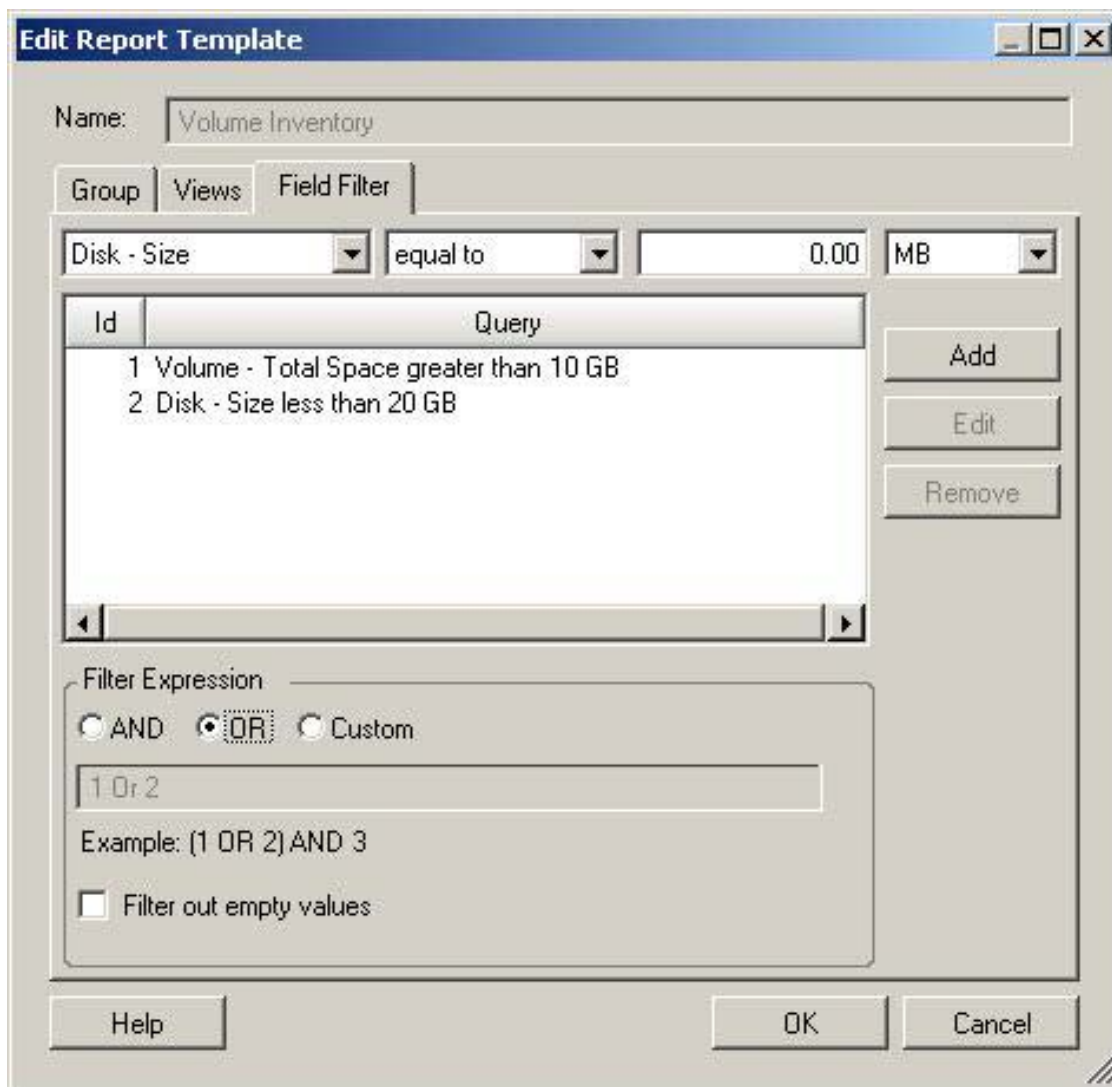
[<Views] タブには、デフォルトビューと以前に作成されたビューを含め、レポートに対して使用可能なビューが表示されます。ビューを並べ替えるには、矢印ボタンを使用してください。レポートに表示するビューを決定するには、[Visible] カラムのチェックボックスを使用してください。

別のビューをレポートに追加するには、[Add] をクリックします。既存のビューを編集するには、そのビューを選択して [Edit] をクリックします。詳細については、120 ページのセクション 5.4.1「レポートビューの作成および編集」を参照してください。ビューを削除するには、そのビューを選択して [Delete] をクリックします。

[Field Filter] タブ

設定した制約に基づいてサーバをフィルタし、式を使用することにより、レポートコンテンツを縮小または拡大するために制約が使用および解釈される方法を指定することができます。

図 5-3 [Field Filter] タブ



クエリステートメントを追加するには：

- 1 [Field Filter] ページの上部にあるフィールドとドロップダウンリストに、クエリ制約を入力および指定します。
最初のドロップダウンリストで選択したリソースによっては、単位数フィールドが存在しない場合があります。
- 2 [Add] をクリックします。
クエリステートメントが、クエリのリストに追加されます。

クエリステートメントを編集するには：

- 1 クエリステートメントを選択します。
- 2 [Edit] をクリックします。
ページの上にあるフィールドに、クエリ設定がコピーされます。
- 3 必要に応じて設定を編集します。
- 4 [Add] をクリックします。
選択したクエリステートメントが、新しい設定で更新されます。

クエリステートメントを削除するには：

- 1 削除するクエリステートメントを選択します。
- 2 [Remove] をクリックします。
選択したクエリステートメントが削除されます。

フィルタ式は、クエリステートメントが評価される方法を決定します。

フィルタは、レポートビューに対して使用できるサーバに影響を与えます。

表 5-5 フィルタ式

フィルタ式	説明
AND	収集されたサーバのプールにサーバが追加されるようにするには、すべてのクエリステートメントが真 (True) でなければなりません。たとえば、複数のクエリステートメントが存在する場合、最初のクエリステートメントが評価され、一部のサーバが収集されます。次に、最初のクエリステートメントによって収集されたサーバに対して 2 番目のクエリステートメントが評価され、この 2 番目のクエリステートメントに同意しないサーバがプールから削除されます。これが、すべてのクエリステートメントを通じて続行されます。
OR	すべてのクエリステートメントは個別に評価されます。たとえば、複数のクエリステートメントが存在する場合、最初のクエリステートメントが評価され、一部のサーバが収集されます。次に、2 番目のクエリステートメントが評価され、最初のクエリステートメントによって収集されなかったサーバを、最初のクエリステートメントによって収集されたサーバのプールに追加します。これが、すべてのクエリステートメントを通じて続行されます。
Custom	カスタム式を使用すると、クエリステートメントを評価する方法を指定できます。OR と AND の条件は、混在させて使用することができます。かっこを使用すると、評価を制御できます。式では、クエリステートメント ID 番号を使用してください。 [Custom] を選択した場合、関連するフィールドを空にすることはできません。

指定したクエリに含まれるフィールドに対して Null 値を持つマシンを除外する場合は、[Filter out empty values] チェックボックスを選択します。

[Row Filter] タブ

レポートに含める行または含めない行を決定するために使用されます。これは、レポートに含めるマシンや含めないマシンを制御する *[Field Filter]* タブとは異なりますが、「Field Filter」条件を管理するためのガイドラインは、ここでも適用できます。111 ページの「*[Field Filter]* タブ」を参照してください。

このオプションは、「アプリケーション完了」レポートと「ソフトウェア完了」レポートに対してのみ使用できます。

[Columns] タブ

生成されたレポートに表示されるカラムを、そのテンプレートに基づいてカスタマイズできます。このページでの設定に関する詳細については、131 ページの **ステップ 1** を参照してください。

このオプションは、「ソフトウェア」レポートテンプレートに対してのみ使用できます。

[Time Period] タブ

使用する期間をレポートに対して指定できます。このページでの設定は、*[Date Filter]* ページの上部での設定と同じです。113 ページの「*[Date Filter]* タブ」および 117 ページの **セクション 5.3.5 「診断」レポートテンプレート** を参照してください。

このオプションは、「診断」レポートテンプレートに対してのみ使用できます。

[Options] タブ

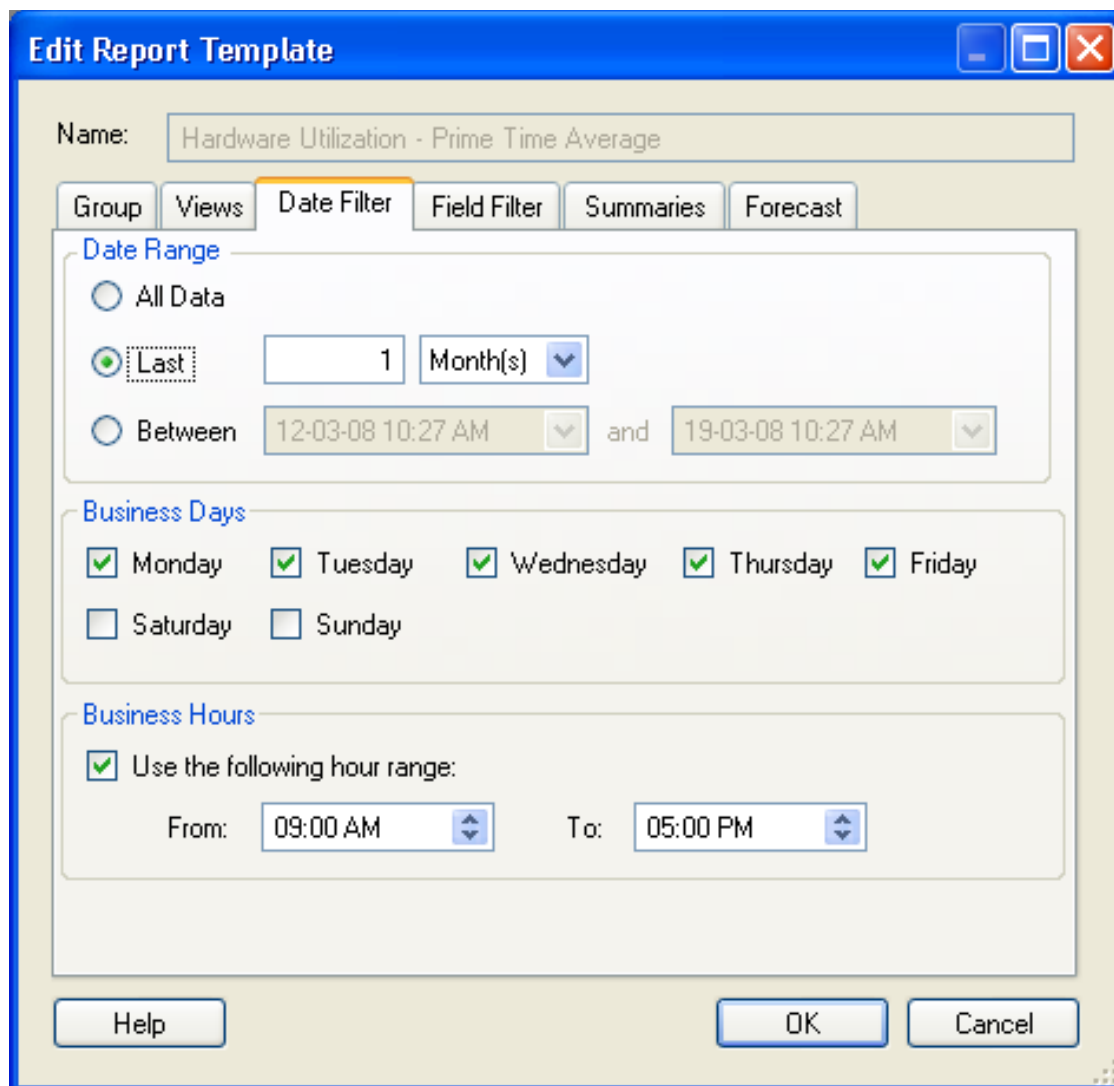
カウンタ設定レポートモードをレポートに対して指定できます。117 ページの **セクション 5.3.5 「診断」レポートテンプレート** を参照してください。

このオプションは、「不足しているデータの診断」レポートテンプレートに対してのみ使用できます。

[Date Filter] タブ

レポートでサマリデータ値を計算するための日付と時間の範囲を設定できます。たとえば、監視されるすべてのサーバに対し、業務時間にわたって集計されたワークロードデータを表示するには、過去 1 カ月の収集範囲で、月曜日から金曜日の 9:00AM ~ 5:00PM を選択します：

図 5-4 [Date Filter] タブ



[Summaries] タブ

平均 (AVG)、最大 (MAX)、最小 (MIN)、および標準偏差 (STDEV) のデータタイプを集計します。AVG データは、収集されたデータの「平均」、「ピーク時間」、または「合計」によって計算できます。

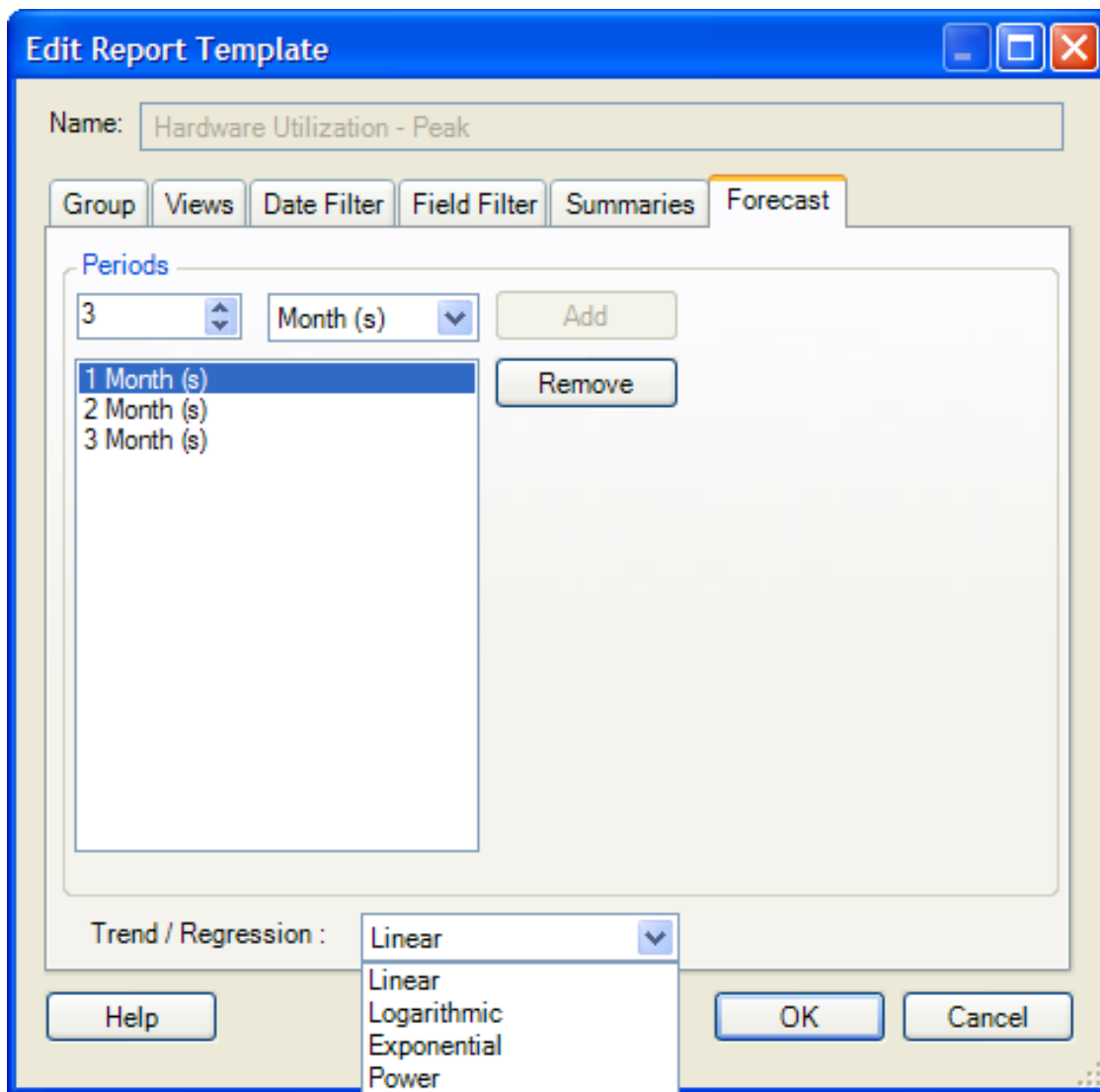
計算のタイプ :

- ◆ [Average] : 業務日と業務時間にわたるすべての時間の値の平均。
- ◆ [Peak Hour] : 最高の時間値に基づく計算。
- ◆ [Total] : タイムフレーム内にあるすべてのデータポイントの合計。たとえば、1 時間という期間に対するディスク IO/秒は、「10 ディスク IO/秒 x 60 秒 x 60 分 = 36000」になります。計算されたデータを含むカラムを表示するには、レポートの [Summary Rows] カラムを選択してください。

[Forecast] タブ

履歴期間に対するサマリデータに基づいて、ワークロードと使用率を将来に向けて予測します。これにより、データセンターのアーキテクトは、将来のニーズを見込んで適宜計画することができるようになります。

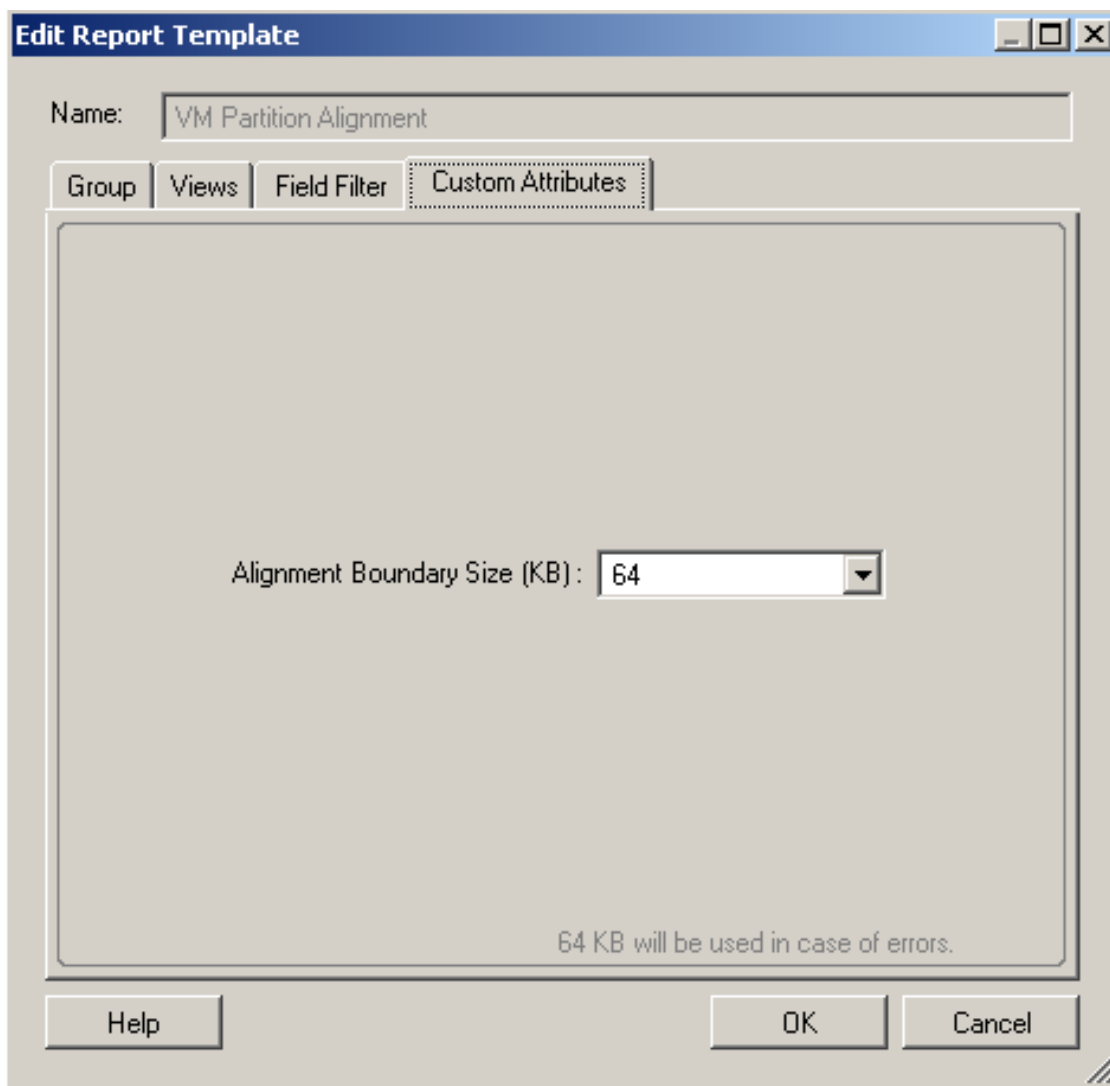
図 5-5 [Forecast] タブ



[Custom Attributes] タブ

配置する必要があるディスクパーティションに対して、サイズを KB で選択または指定できます。デフォルト値は 64KB です。指定した配置境界サイズは、ディスクパーティションオフセット値を計算するために使用されます。このタブは、「VM パーティション配置」レポートテンプレートと「VM ホストパーティション配置」レポートテンプレートに対してのみ使用できます。

図 5-6 [Custom Attributes] タブ



5.3.2 「チャージバック」レポートテンプレート

「チャージバック」レポートテンプレートは、「分析」レポートテンプレートの場合と同じ方法で編集します。[Group] タブ、[Views] タブ、および [Field Filter] タブの詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)を参照してください。

「チャージバック」レポートでは、テーブルビューのみをサポートします。テーブルビューの詳細については、[121 ページの「テーブルビューの作成および編集」](#)を参照してください。[Date Filter] タブ、[Summaries] タブ、および [Forecast] タブの詳細については、[108 ページのセクション 5.2.5 「レポートテンプレートの操作」](#)を参照してください。

5.3.3 「統合」レポートテンプレート

「プロジェクト」レポート、「シナリオサマリ」レポート、および「ワークロード割り当て」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。「インベントリ」レポートテンプレートや「分析」レポートテンプレートの場合とは異なり、特定の「統合」レポートテンプレートのバージョンは一度に1つしか使用できません。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] をクリックします。適切な [Default Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、[Save] をクリックします。

「統合」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.3.4 「統合プロジェクトサンプル」レポートテンプレート

「統合プロジェクトサンプル」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] をクリックします。適切な [Default Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、[Save] をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)を参照してください。

「統合プロジェクトサンプル」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.3.5 「診断」レポートテンプレート

「診断」レポートテンプレートは、[Edit Report Template] ダイアログボックスでオプションを変更することにより編集します。このダイアログボックスにアクセスするには、Report Explorer で「診断」レポートテンプレートを右クリックし、メニューの [*Edit Report Template*] を選択します。

ダイアログボックスで使用できるタブは、選択した「診断」レポートテンプレートによって異なります：

- ♦ [Group] : [110 ページの「\[Group\] タブ」](#)を参照してください。
- ♦ [Views] : [120 ページのセクション 5.4.1 「レポートビューの作成および編集」](#)を参照してください。
- ♦ [Time Period] : レポートの基となる期間を選択します。レポートには、その期間内でデータが不足している任意の間隔が含まれます。

- ◆ **[Options]** : 「不足しているデータ」レポートに対してのみ。レポートに含める間隔を決定するために、レポートモードを選択します：
 - ◆ **[Online]** : すべてのカウンタでデータが不足している間隔を含めます。
 - ◆ **[CPM]** : CPM カウンタでデータが不足している間隔を含めます。
 - ◆ **[Full]** : いずれかのカウンタでデータが不足している間隔を含めます。

5.3.6 「ディスク」レポートテンプレート

「ディスク」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、**[Edit Report Template]** をクリックします。適切な **[Default Settings]** ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、**[Save]** をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#) を参照してください。

「ディスク」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#) を参照してください。

5.3.7 「インベントリ」レポートテンプレート

「インベントリ」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、**[Edit Report Template]** をクリックします。適切な **[Default Settings]** ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、**[Save]** をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#) を参照してください。

「インベントリ」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#) を参照してください。

5.3.8 「再利用」レポートテンプレート

「再利用」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、**[Edit Report Template]** をクリックします。適切な **[Default Settings]** ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、**[Save]** をクリックします。

「再利用」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.3.9 「ソフトウェア」レポートテンプレート

「ソフトウェア」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] をクリックします。適切な [Default Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、[Save] をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)を参照してください。

「ソフトウェア」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.3.10 「仮想インフラストラクチャ」レポートテンプレート

「仮想インフラストラクチャ」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] をクリックします。適切な [Default Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、[Save] をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)を参照してください。

「仮想インフラストラクチャ」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.3.11 「ボリューム」レポートテンプレート

「ボリューム」レポートは、編集可能なテンプレートに基づいています。テンプレートはコピーまたは編集することができます。レポートを表示する前に、テンプレートを希望どおりに編集してください。

- 1 Report Explorer で、希望のレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] をクリックします。適切な [Default Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 必要なレポートカラム、データソートオプション、およびサマリ行を選択し、[Save] をクリックします。オプションのタブに関する詳細については、[110 ページのセクション 5.3.1 「レポートテンプレートのオプションタブ」](#)を参照してください。

「ボリューム」レポートテンプレートのその他の環境設定オプションに関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

5.4 ビューのカスタマイズ

この節では、レポートビュー (具体的にはテーブルビューとチャートビュー) のカスタマイズについて説明します。

- ◆ 120 ページのセクション 5.4.1 「レポートビューの作成および編集」
- ◆ 122 ページのセクション 5.4.2 「ヒストグラムチャート」
- ◆ 124 ページのセクション 5.4.3 「散布チャート」
- ◆ 125 ページのセクション 5.4.4 「使用状況チャート」

5.4.1 レポートビューの作成および編集

- ◆ 120 ページの 「レポートへのビューの追加」
- ◆ 120 ページの 「レポートビューの編集」
- ◆ 121 ページの 「レポートからのビューの削除」
- ◆ 121 ページの 「テーブルビューの作成および編集」
- ◆ 121 ページの 「チャートビューの作成および編集」

レポートへのビューの追加

- 1 Report Explorer で、カスタマイズするレポートテンプレートを右クリックし、[*Edit Report Template*] を選択します。
[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Views] タブをクリックします。
デフォルトビューや以前に作成されたビューが表示された状態で、[Views] ページが開きます。
- 3 [Add] をクリックします。
[Create View (Step 1: General Settings)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 新しいビューに対して固有の名前を入力します。
- 5 チャートビューの場合は、121 ページの 「チャートビューの作成および編集」 に進みます。テーブルビューの場合は、121 ページの 「テーブルビューの作成および編集」 に進みます。

レポートビューの編集

- 1 [Edit Report Template] ダイアログボックスの [Views] ページで、ビューを選択します。
- 2 [Edit] をクリックします。
選択したビュータイプに対して、[Create View (Step 2: Customization)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 チャートビューの場合は、121 ページの 「チャートビューの作成および編集」 に進みます。テーブルビューの場合は、121 ページの 「テーブルビューの作成および編集」 に進みます。

レポートからのビューの削除

- 1 [Edit Report Template] ダイアログボックスの [Views] ページで、ビューを選択します。
- 2 一時的にビューを削除するには、[Visible] チェックボックスを選択解除します。完全にビューを削除するには、[Delete] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。

テーブルビューの作成および編集

- 1 [Type] 領域で [Table] を選択し、[Next] をクリックします。
[Step 2: Customization] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [General] タブで、レポートに表示するカラムタイトルを選択します。
カラムの配置、条件付き書式、カラムのソート、およびサマリ行に関する詳細については、[130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」](#) を参照してください。
- 3 レポートビューに予測カラムを作成するには、[Forecast] タブを使用します。
[Create forecast columns and display] : 予測カラムが必要でない場合は、このチェックボックスをクリアします。選択した場合、このオプションによって次のカラムオプションが使用可能になります：
 - ◆ **[Original Values]** : オリジナルの値を表示します。
 - ◆ **[Change (%)]** : オリジナルの値からの変更率を表示します。
 - ◆ **[Change (Units)]** : オリジナルの値からの変更を単位数で表示します。予測は、テーブルビューでのみサポートされます。
- 4 テーブルビューで行をグループ化するには、[Groups] タブを使用します。レポートグループの詳細については、[132 ページの「グループの追加または変更」](#) を参照してください。
- 5 マトリックスカラムをテーブルビューに追加するには、[Matrix] タブを使用します。レポートマトリックスの詳細については、[133 ページの「マトリックスの追加または変更」](#) を参照してください。
- 6 [Finish] をクリックし、[Edit Report Template] ダイアログボックスにある使用可能なビューのリストにビューを追加します。

チャートビューの作成および編集

- 1 [Type] 領域で [Chart] を選択します。
- 2 ドロップダウンリストからチャートタイプ (ヒストグラム、散布チャート、または使用状況チャート) を選択します。(「分析」レポートに対してのみ。)
- 3 ドロップダウンリストから式を選択します。一覧表示される式は、選択したチャートタイプによって異なります。
- 4 [Next] をクリックしてビューを表示します。ヒストグラムチャートタイプの場合、[Settings] ダイアログボックスが表示されます。これを使用すると、[122 ページのセクション 5.4.2 「ヒストグラムチャート」](#) で説明されているように、さまざまなオプションを設定できます。
- 5 [OK] をクリックします。

ビューが表示された状態で、[Create View (Step 2: Customization)] ダイアログボックスが開きます。

- ◆ 散布チャートの場合、[Chart View Settings] ダイアログボックスも表示されます。これを使用すると、[124 ページのセクション 5.4.3 「散布チャート」](#) で説明されているように、さまざまなデータ、サマリ、およびソートのオプションを設定できます。
 - ◆ 「分析」レポートに対しては、*使用状況*チャートタイプを使用することもできます。[Usage] を選択して [Next] をクリックしてください。[Usage View Settings] ダイアログボックスが表示されます。これを使用すると、[125 ページのセクション 5.4.4 「使用状況チャート」](#) で説明されているように、さまざまなオプションを設定できます。
- 6 チャートに適切な [Settings] ダイアログボックスに戻り、指定されているオプションを変更するには、[Customize] をクリックします。
 - 7 チャートを印刷または変更するには、[Create View] ダイアログボックスのチャートの上部にあるさまざまなボタンを使用します。
 - 8 [Finish] をクリックします。

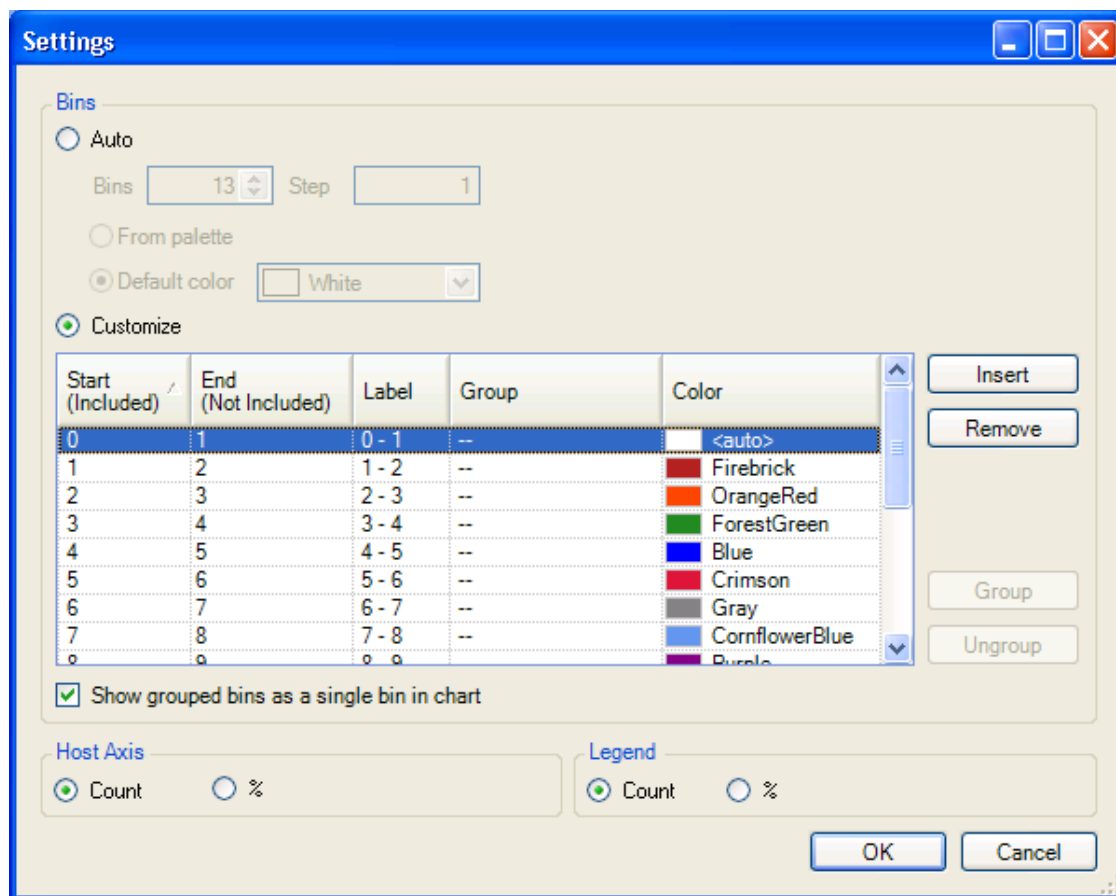
ビューが、[Edit Report Template] ダイアログボックスにある使用可能なビューのリストに表示されます。

5.4.2 ヒストグラムチャート

ヒストグラムチャートのコンテンツを変更するには、[Create View (Step 2: Customization)] ダイアログボックスで [Customize] をクリックします。

[Settings] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-7 [Settings] ダイアログボックス



ヒストグラムに対するデフォルト設定には、ステップサイズが1である5つのビンが含まれています。

[Auto]

ヒストグラムで使用されるビンやステップサイズに対して異なる数を指定するには、[Auto] を選択します。ヒストグラムバーに対する色をパレットから自動的に生成するには、[From palette] をクリックします。すべてのヒストグラムバーに対して1つのデフォルト色を選択するには、[Default color] をクリックします。

[Customize]

変更が必要なビンの上部境界または下部境界を変更するには、[Customize] を選択します。対応するヒストグラムバーに対するカスタムのラベルと色は、オプションで指定します。

現在ハイライトされているビンの下に新しいビンを挿入するには、[Insert] ボタンをクリックします。適切な [Start] カラム、[End] カラム、および [Label] カラムが、新しいビンに合わせて自動的に調整されますが、これらはカスタマイズすることができます。

現在ハイライトされているビンを削除するには、[Remove] ボタンをクリックします。適切な [Start] カラム、[End] カラム、および [Label] カラムが、自動的に調整されます。

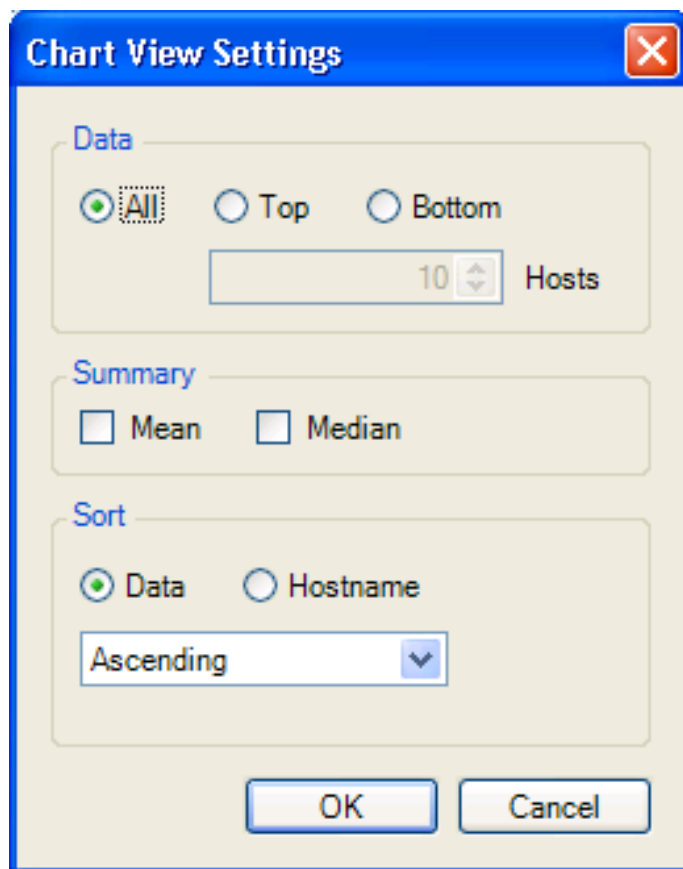
任意の数の連続ビンまたは非連続ビンを選択して、[Group] ボタンをクリックすると、それらをグループ化することができます。任意の1つのビンに対し、[Group] カラムでグループの名前を入力します。その名前は、グループの全メンバーに対して自動的に割り当てられます。

グループ化されたビンを単一ビンとしてチャートに表示するには、該当のチェックボックスを選択します。

5.4.3 散布チャート

散布チャートのコンテンツを変更するには、[Create View (Step 2: Customization)] ダイアログボックスで [Customize] をクリックします。[Chart View Settings] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-8 [Chart View Settings] ダイアログボックス



[Data] 領域では、チャートに含めるデータの量を選択します。すべてのデータを含めるには [All] を選択し、データの最高値または最低値にチャートを制限するには [Top] または [Bottom] を適宜選択します。[Top] または [Bottom] を選択した場合は、含める値の数 (最大 25 個まで) を指定します。

[Summary] 領域では、[Mean]、[Median]、または両方のチェックボックスを選択することにより、チャートに含める線を指定します。これらの値は、表示される値だけではなく、すべての値に基づきます。

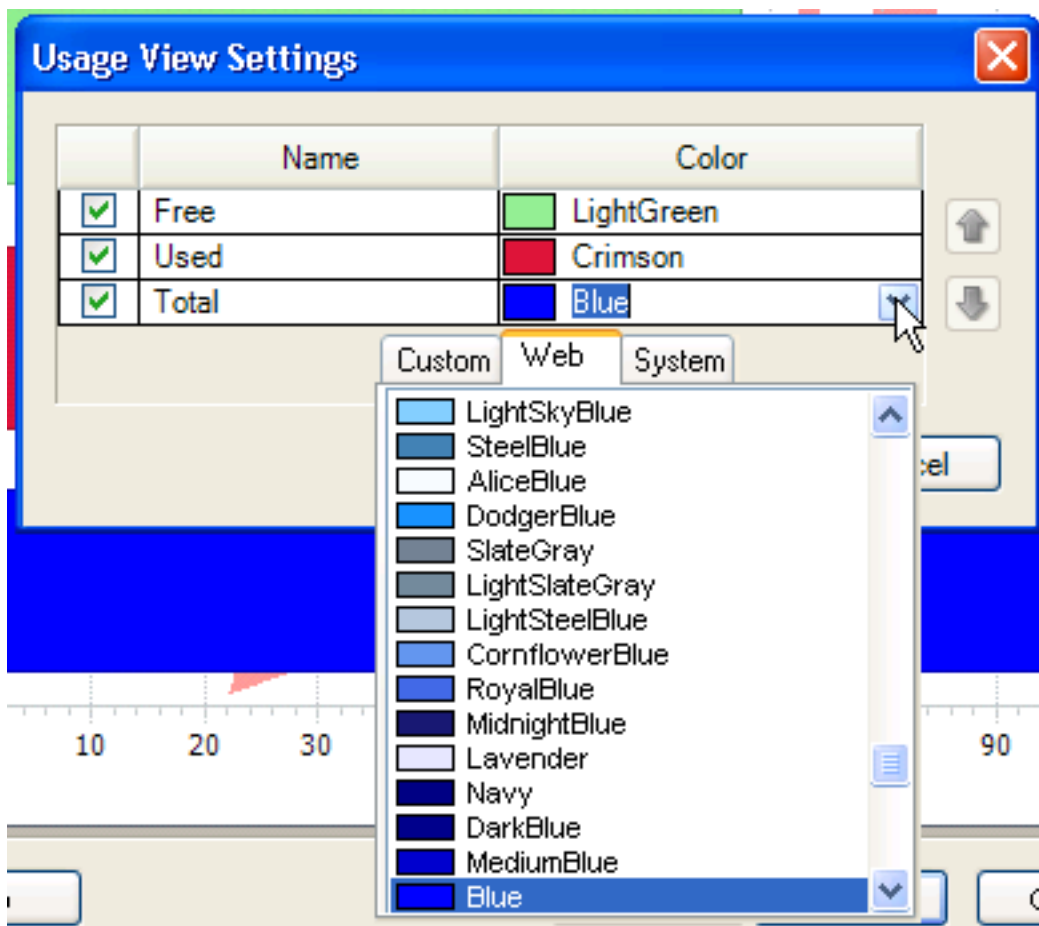
[Sort] 領域では、データの量またはアルファベット順のホスト名に基づいて、チャートを昇順または降順のどちらでソートするかを指定します。

チャートを表示するには、[OK] をクリックします。

5.4.4 使用状況チャート

使用状況チャートは、「分析」レポートテンプレートに固有です。使用状況チャートのコンテンツを変更するには、[Create View (Step 2: Customization)] ダイアログボックスで [Customize] をクリックします。[Usage View Settings] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-9 [Usage View Settings] ダイアログボックス



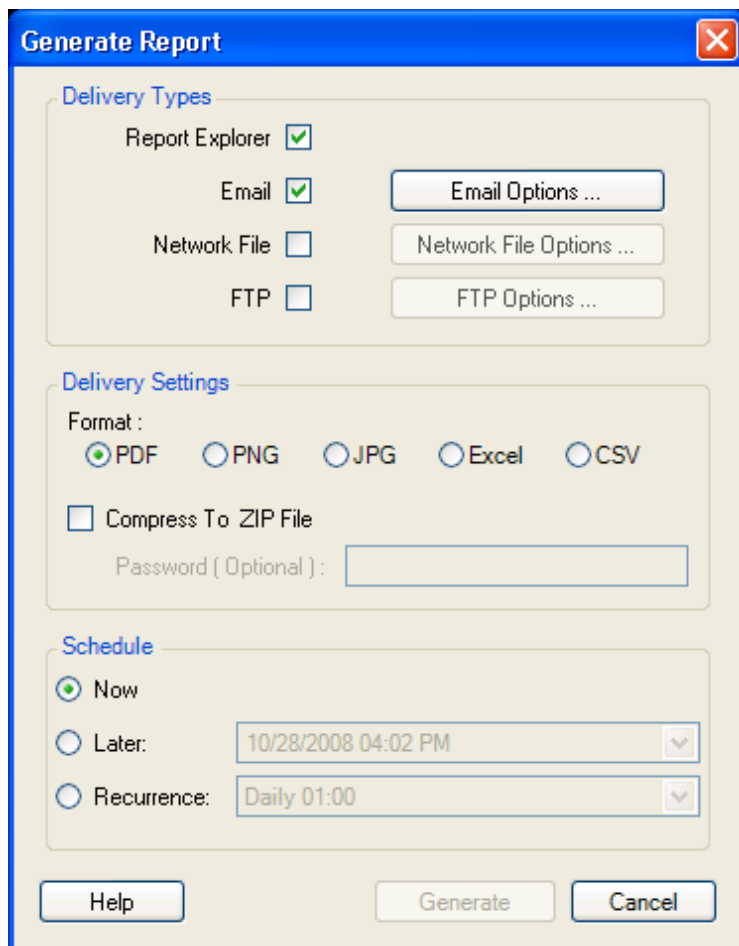
チャートに含めるバーを決定するには、適切なチェックボックスを選択します。希望する場合は、[Color] セクションのドロップダウンリストを使用して、チャートのバーに色を割り当てます。

レポートでバーを左または右に移動するには、そのバーを選択し、上矢印または下矢印を適宜クリックします。チャートを表示するには、[OK] をクリックします。

5.5 レポートの生成

- 1 レポートテンプレートを選択し、[Generate Report] をクリックします。
[Generate Report] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-10 [Generate Report] ダイアログボックス



- 2 レポートに対して配信タイプを選択します。デフォルトでは、レポートは Report Explorer に配信されます。その他の配信オプションには、次が含まれます：
 - ◆ 電子メールで送信
 - ◆ ネットワークファイルに保存
 - ◆ FTP サーバにアップロード
- 3 配信オプションを設定します：
 - ◆ 電子メール配信オプションに対しては、[Email Options] をクリックします。
[Email Delivery Options] ダイアログボックスが表示されます。
 - ◆ 要求された情報を提供します。[To] フィールドには 1 名の受信者しか必要ありませんが、複数の受信者を入力する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。[CC] フィールドと [BCC] フィールドは空白のままにしておかまいません。[Subject] と [Name] に提供されているデフォルト値は、変更することができます。[From] にはアドレスが必須ですが、[Reply To] は空白のままにしておかま

かまいません。[SMTP Server] と [SMTP Port] は、入力必須です。資格情報が SMTP サーバに必要なということはまずあり得ませんが、そのような場合にのみ、[Credentials] はオプションです。

Email Delivery Options

Recipients

To: YourName@YourDomain.com;YourName2@YourDomain.com

Cc:

Bcc:

Message

Subject: Recon Report

From

Name: PlateSpin Recon

Email: MyName@MyDomain.com

Reply To:

SMTP Settings

SMTP Server: smtp.MyDomain.com

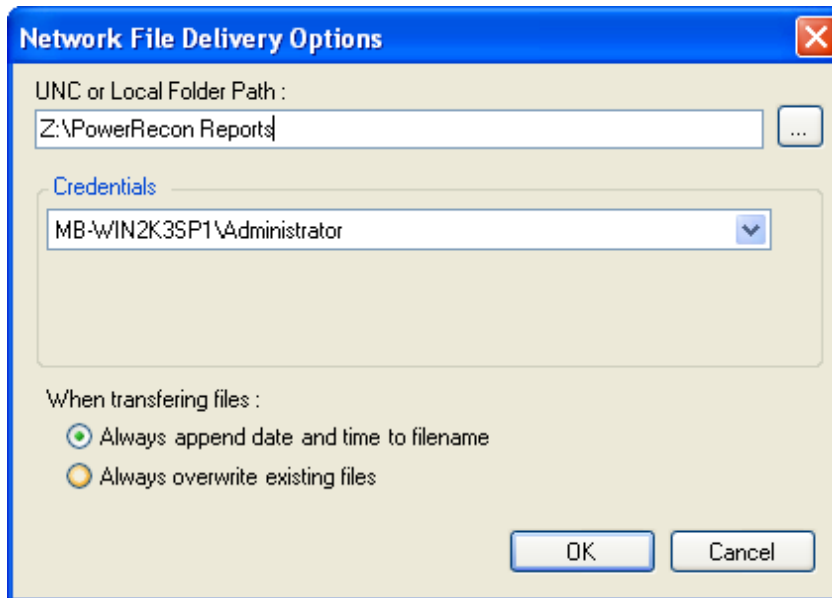
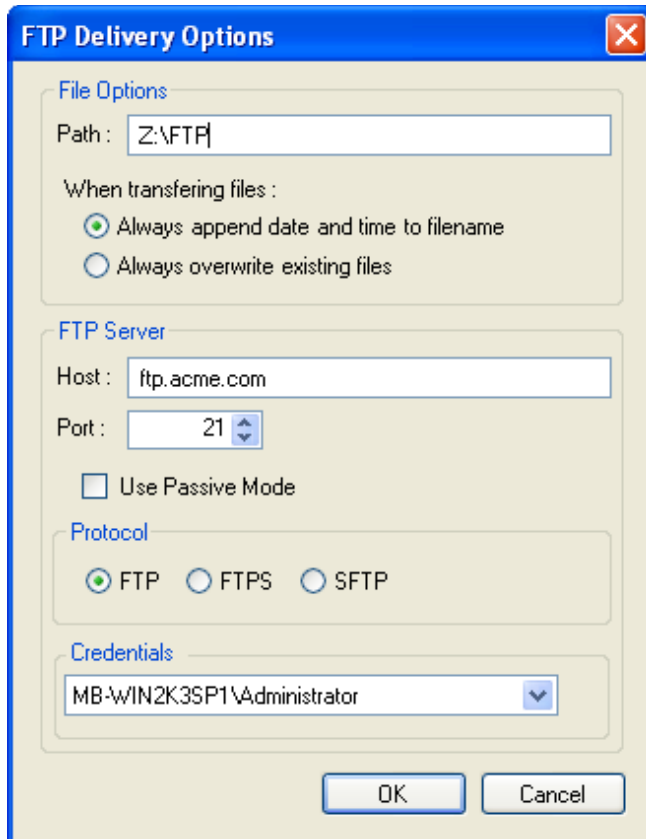
SMTP Port: 25

Credentials

platespin\Administrator

OK Cancel

- ◆ FTP とネットワークファイルの配信タイプに対しては、隣にあるオプションボタンを適宜クリックしてダイアログボックスを開き、FTP パスや UNC/ ローカルフォルダパスを指定します。指定した場所に保存されているレポートを後の繰り返しで上書きするか、または指定のファイル名に日付と時刻を追加することによって以前のレポートを保持するかを選択します。



- ◆ Report Explorer 以外の配信オプションの場合、レポートのデフォルト形式は *PDF* です。使用可能な配信形式は、その他にもいくつかあります。
- 4 希望する場合は、該当のチェックボックスを選択して、ZIP ファイルにレポートを圧縮できます。そのファイルは、オプションでパスワード保護できます。

5 [Schedule] 領域でオプションを設定することにより、レポートを直ちに生成するか、後で生成するか、または定期的な実行間隔で生成するかを指定することもできます。スケジューリングオプションの詳細については、229 ページの付録 C 「スケジューリングオプション」を参照してください。

6 [Generate] をクリックします。

レポートは、生成されると、指定の配信タイプを使用して配信されます。配信タイプに Report Explorer が含まれる場合、レポートは、いつでもすばやく表示できるようにキャッシュされます。Report Explorer では、レポートの生成に使用されたレポートテンプレートの下にアイテムが追加され、そのレポートが生成された日付と時刻が名前として付けられます。

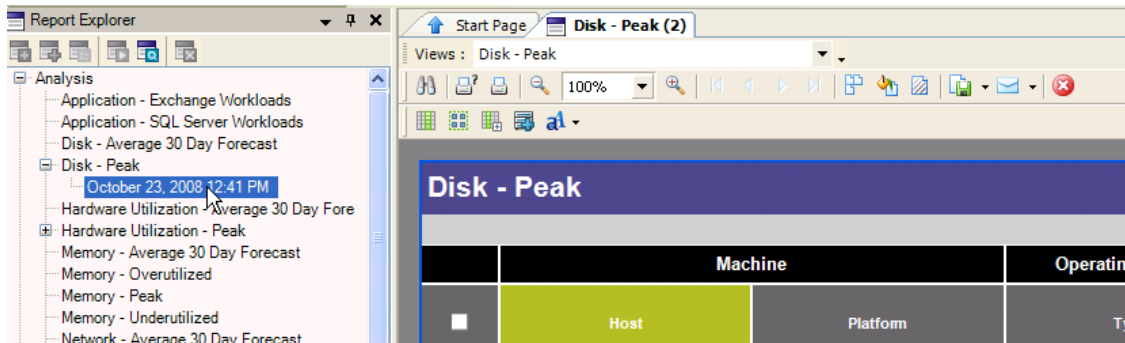
注： Excel 形式に正常にエクスポートできるのは、テーブルを含むレポートのみです。ヒストグラムまたはチャートを含むレポートは、Excel 形式にエクスポートできません。

レポートを表示するには、生成されたインスタンスをダブルクリックしてください。レポートは、Document Viewer に表示されます。詳細については、126 ページのセクション 5.5 「レポートの生成」を参照してください。レポートを削除するには、そのレポートを右クリックし、メニューの [Delete Report] を選択してください。

5.6 Document Viewer

レポートを Document Viewer で表示するには、レポートテンプレートからレポートを生成してそのレポートのインスタンスをダブルクリックするか、または以前に生成したレポートインスタンスをダブルクリックします。126 ページのセクション 5.5 「レポートの生成」を参照してください。

図 5-11 Document Viewer に表示されているレポート

















使用可能な最初のビューを通じてレポートが表示された状態で、新しいタブ付きページが Document Viewer に追加されます。異なるビューに切り替えるには、[Views] ドロップダウンリストをクリックし、適切なビューを選択します。ビューの詳細については、120 ページのセクション 5.4.1 「レポートビューの作成および編集」を参照してください。

- ◆ 130 ページのセクション 5.6.1 「コマンド」
- ◆ 130 ページのセクション 5.6.2 「レポートのカスタマイズ」
- ◆ 134 ページのセクション 5.6.3 「レポートの表示」

- ◆ 134 ページのセクション 5.6.4 「レポートの印刷およびエクスポート」
- ◆ 135 ページのセクション 5.6.5 「レポートからグループへのサーバのコピー」

5.6.1 コマンド

表 5-6 Document Viewer のコマンド

コマンド	ツールのヒント / 説明
	Columns: 表示用にカラムコンテンツを選択します。
	Groups: レポートにグループを追加したり、レポートの既存のグループを変更したりします。
	Matrix: レポートにマトリックスを追加したり、レポートの既存のマトリックスを変更したりします。
	Copy to Group: 選択したサーバをグループにコピーします。
	Font Size: フォントサイズ (小、中、または大) を変更します。
	Print/Quick Print: プリンタとその設定を選択したり、現デフォルトのプリンタと設定を使用して直ちにレポートを単に印刷したりすることを可能にする、[Print Options] ダイアログボックスを表示します。
	Search: 検索用に [Find] ダイアログボックスを開きます。
	Zoom Out/Zoom Percent/Zoom In: 増分 / 減分でズームインまたはズームアウトしたり、ズーム設定を指定したりします。
	Multiple Pages: レポートの複数ページを同時に表示できるように、表示ズーム設定を縮小します。
	Color Background: レポートの背景色の設定を可能にするダイアログボックスを表示します。
	Watermark: レポートに対するウォーターマーク (ドラフト、トップシークレット、イメージなど) を設定できるダイアログボックスを表示します。
	Export Document: PDF、HTML、テキスト、CSV、MHT、Excel、RTF、またはイメージの形式にエクスポートします。
	Send via Email: レポートを添付ファイルとして、電子メールを介して送信します。まず最初にファイルがローカルで保存された後、その保存されたファイルが添付された状態で、デフォルトのメールクライアントが起動します。使用可能なファイル形式は、PDF、MHT、RTF、Excel、CSV、テキスト、またはイメージです。
	Exit: レポートプレビューページを閉じます。


5.6.2 レポートのカスタマイズ

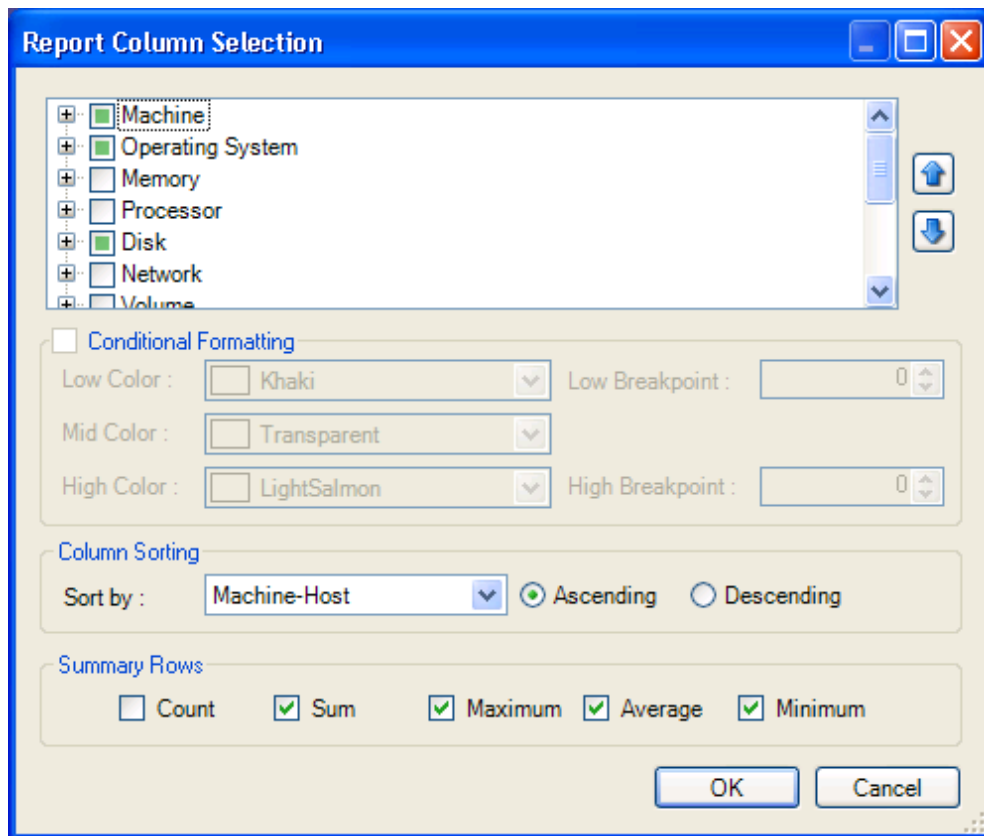
レポートは、生成された後、さらに調整してカスタマイズすることができます。これには、レポートに含めるカラムの変更、フォントの変更、グループ/マトリックスの追加や変更が含まれます。これらのカスタマイズ設定は、Document Viewer で表示され、エクスポートされたレポートに含まれますが、テンプレートに対しては保存されません。

- ◆ 131 ページの 「カラムのカスタマイズ」

- ◆ 132 ページの「レポートのフォントサイズの変更」
- ◆ 132 ページの「グループの追加または変更」
- ◆ 133 ページの「マトリックスの追加または変更」

カラムのカスタマイズ

- Document Viewer で、[Columns]  をクリックします。
[Report Column Selection] ダイアログボックスが表示されます。



- レポートに表示されるカラムの配置を変更するには、該当のカラムを選択して矢印ボタンを適宜クリックします(カラムは、ツリー階層で高い位置に配置するほど、レポートでは左側に表示される)。数値フィールドに対しては、条件付き書式を選択できます。カスタムの色とブレークポイントを選択したり、デフォルト設定を使用したりすることができます。

レポートでは、次がハイライトされます：


- ◆ 低カラーで、低ブレークポイントよりも低いすべての値
- ◆ 中カラーで、低ブレークポイントと高ブレークポイントとの間にあるすべての値
- ◆ 高カラーで、高ブレークポイントよりも高いすべての値

[Transparent] を選択すると、値はハイライトされません。

- 3 レポートをソートするには、[Sort by] ドロップダウンリストから条件を選択します。チャートを昇順または降順のどちらでソートするかを指定します。グループ化されたレポートの場合、カラムをグループ化することによってレポート全体がソートされるため、これによってグループ内での順序が制御されます。

[Summary Rows] 領域のチェックボックスを適宜選択することにより、オプションでサマリ行をテーブルに追加することができます。PlateSpin Recon では、数値カラムに対して、カウント、合計、最大、平均、または最小を計算して表示できます。


レポートのフォントサイズの変更

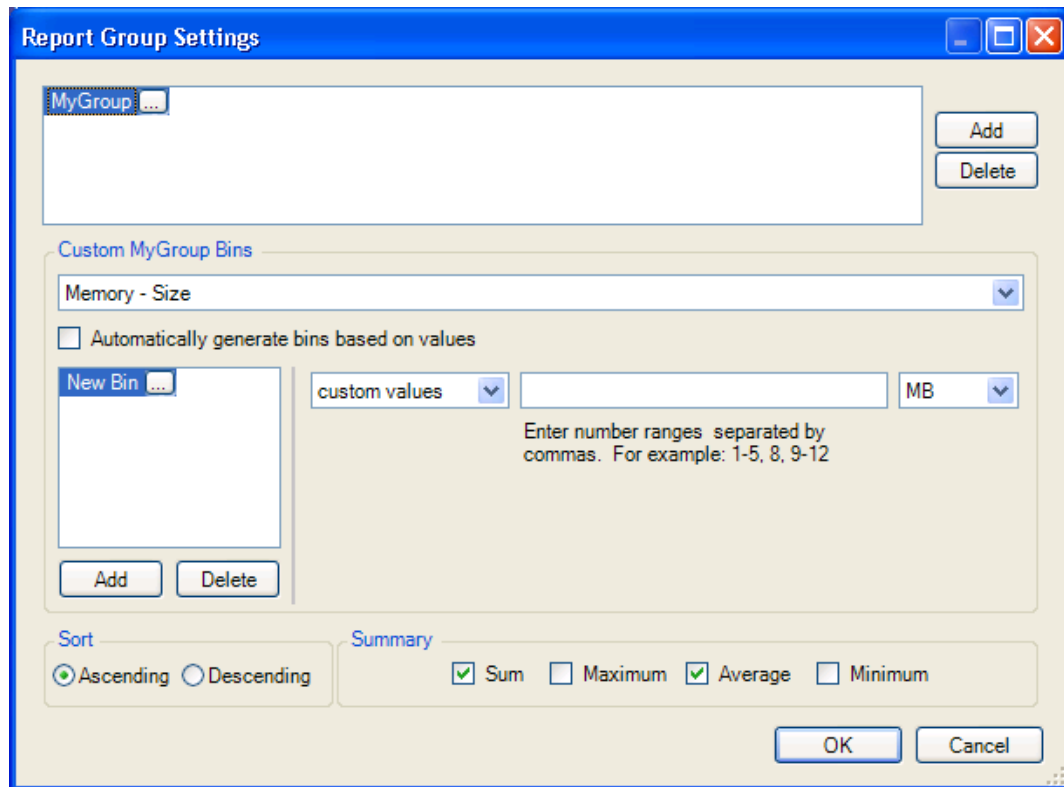
- 1 Document Viewer で、[Font]  をクリックします。次のオプションを含むドロップダウンメニューが表示されます：

- ◆ [Small Font]
- ◆ [Medium Font]
- ◆ [Large Font]

希望のフォントサイズをクリックします。Document Viewer に表示されるレポートに対して、変更が適用されます。

グループの追加または変更


- 1 Document Viewer で、[Groups]  をクリックします。
[Report Group Settings] ダイアログボックスが表示されます。

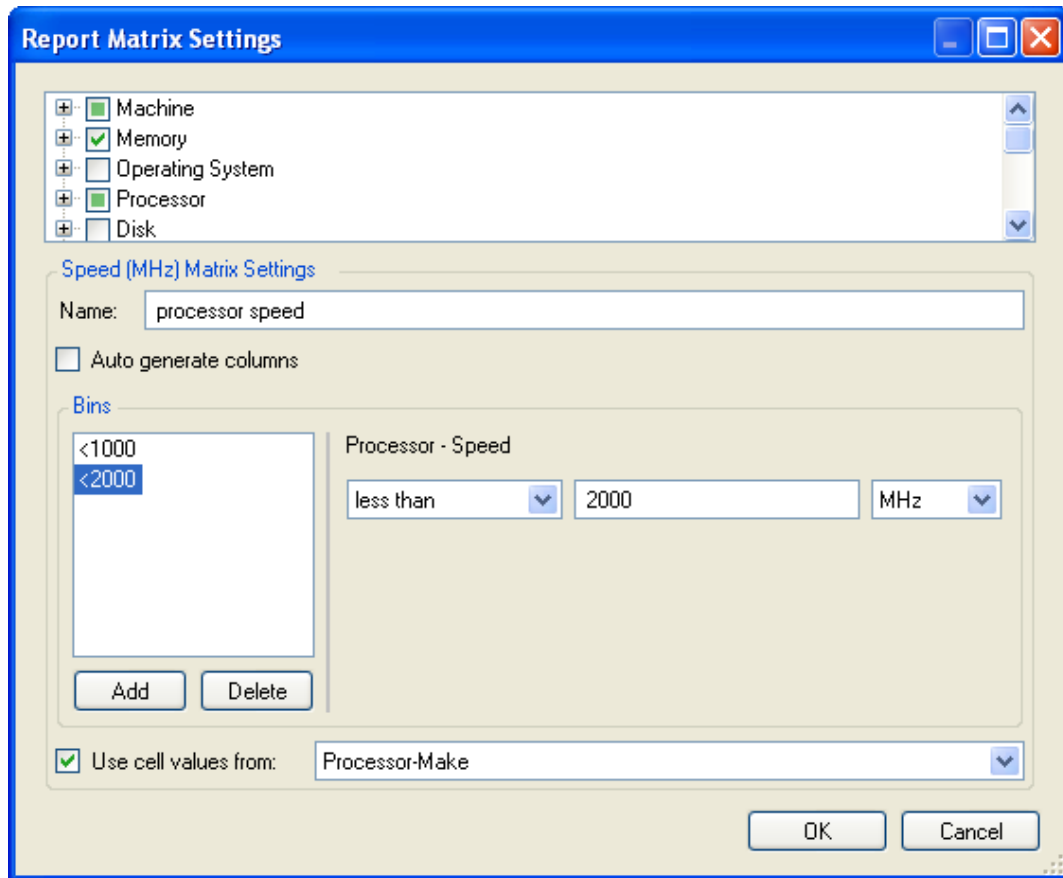


- 2 上部リストボックスの隣にある [Add] をクリックし、グループ名を入力します。

- 3 どの要素別にグループ化するかを指定するために、[Custom <groupname> Bins] 領域のドロップダウンリストから適切な要素を選択します。
- 4 次のいずれかを実行します：
 - ◆ [Automatically generate bins based on values] チェックボックスを選択します。
 - ◆ 下部領域にある [Add] をクリックし、カスタムビンを作成して名前を付けます。各カスタムビンに対して、式を1つ定義します。
- 5 グループに対して希望のソート順序を選択します。
- 6 テーブルに含めるサマリ行を選択します。これによって、各ビンに対する値が集計されます。
- 7 グループまたはビンを変更するには、そのグループまたはビンの名前を選択し、それ自体を編集するか、またはその関連設定を編集します。グループまたはビンを削除するには、適切な [Delete] ボタンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

マトリックスの追加または変更

- 1 Document Viewer で、[Matrix]  をクリックします。
[Report Matrix Settings] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 上部リストボックスで、マトリックスを作成するための要素を選択します。
- 3 選択した各要素に対して、そのマトリックスの**名前**を入力します。

4 次のいずれかを実行します：

- ◆ [Auto generate columns] を選択し、要素の固有の各値に対して、カラムを1つ作成します。
 - ◆ [Add] をクリックして、カスタムカラムを追加します。各カラムに対して、名前を指定し、式を1つ定義します。
- 5 [Use cell values from] を選択し、適切なマトリックスセルに配置する値を指定します。このチェックボックスを選択しなかった場合、マトリックスカラムの値は「True」または「False」になります。
- 6 マトリックスをレポートから削除するには、該当のマトリックスの隣にあるチェックボックスを選択解除します。マトリックスを変更するには、そのマトリックスを選択し、関連設定を変更します。ピンは、そのピンの名前を選択して [Delete] をクリックすることにより、削除できます。


5.6.3 レポートの表示

- ◆ 134 ページの「[「診断」レポート](#)」
- ◆ 134 ページの「[レポートの複数ページ](#)」



「診断」レポート


「不足しているデータ - サマリ」レポートの行をクリックし、対応する「不足しているデータ - 詳細」レポートおよび「エラーレポート」を表示します。

レポートの複数ページ

複数ページを一度に表示するには、[Multiple Pages]  をクリックします。同時に表示するページ数を、横方向と縦方向に対してそれぞれ選択します。表示するページ数が多くなるほど、テキストは小さくなります。指定できる範囲は、「1x1」ページから「5x10」ページの間です。

5.6.4 レポートの印刷およびエクスポート

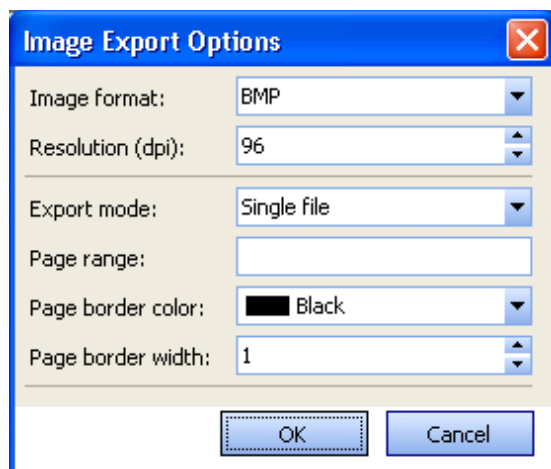
[Print] ダイアログボックスを開くには、[Print]  をクリックし、現デフォルトのプリンタ設定を使用してレポートを直ちに印刷するには、[Quick Print]  をクリックします。

PDF、HTML、テキスト、CSV、MHT、Excel、RTF、イメージなどの形式にデータをエクスポートするには、[Export Document]  をクリックします。希望の形式は、ドロップダウンリストから選択します。特定のセッション中に選択した最新の形式でデータを自動的にエクスポートするには、[Export Document] をクリックします。セッション中に形式を選択しなかった場合は、デフォルト形式の PDF が使用されます。

イメージ形式

ドキュメントをイメージとしてエクスポートすることを選択した場合、[Image Export Options] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-12 [Image Export Options] ダイアログボックス



このダイアログボックスを使用すると、エクスポート結果となるイメージのタイプを複数の中 (bmp、emf、wmf、gif、jpg、png、および tiff を含む) から選択できます。また、次のオプションを指定して、この操作の出力を制御することもできます：

[Resolution (dpi)] : 使用するイメージ解像度。解像度が高くなるほど、エクスポートされたファイルのサイズは大きくなることに注意してください。

[Export mode] : どのようにイメージをエクスポートするかを選択できます：

- ◆ **[Single file]** : カラムヘッダの単一セットが最上部にある、1つの長いイメージ。
- ◆ **[Single file page-by-page]** : カラムヘッダの1セットが各ページの最上部にある、複数の個々のページから構成されている、1つの長いイメージ。
- ◆ **[Different files]** : 単一ページのイメージが各ファイルに含まれている、複数の個別のファイルから成る1セット。このオプションを選択した場合、個別の各ファイルの名前は、指定のファイル名の末尾に番号 (すべてのページがエクスポートされるまでこの番号は増加する) が追加されたものになります。たとえば、2ページから成るレポートに対して「MyImage.bmp」という名前を指定した場合、エクスポートされる2つのファイルの名前は、それぞれ順に「MyImage01.bmp」、「MyImage02.bmp」になります。

[Page range] : エクスポート対象となる、レポート内のページの範囲。たとえば、20ページから成るレポートで、最初の5ページ分と、10ページ目をエクスポートするには、「1-5,10」と指定します。


[Page border color] : レポートのページ罫線に使用する色。

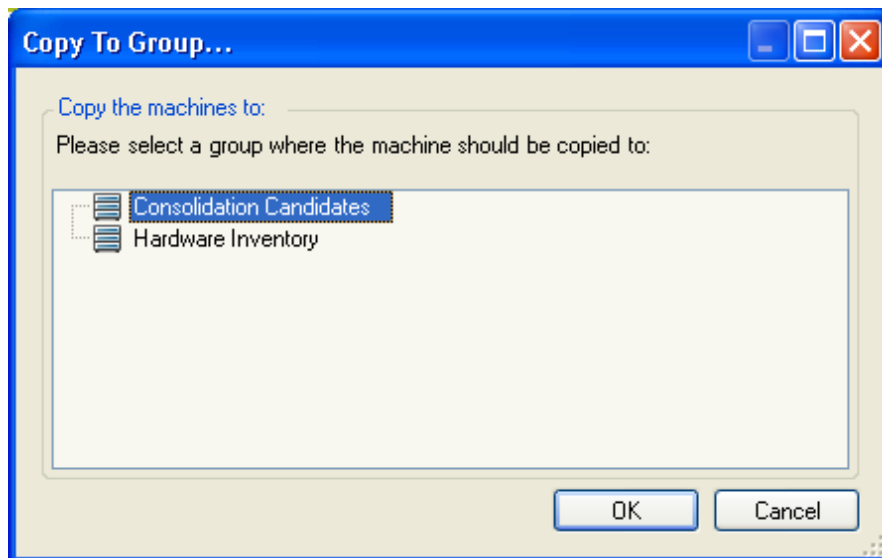
[Page border width] : ページ罫線の幅。

5.6.5 レポートからグループへのサーバのコピー

表示されているサーバをレポートから Data Center Explorer グループにコピーすると便利な場合があります。すべてのレポートにサーバが表示されるわけではなく、このようなタイプのレポートには [Copy To Group] ツールが現れません。グループはすでに存在している必要があります。57 ページのセクション 3.4 「グループの操作」を参照してください。

サーバをグループにコピーするには：

- 1 レポートで、グループに追加するサーバの隣にあるチェックボックスを選択します。
- 2 [Copy To Group]  をクリックします。
[Copy To Group] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 ターゲットグループを選択し、[OK] をクリックします。コピーせずに終了するには、[Cancel] をクリックします。

この節では、PlateSpin Recon サーバの統合機能と保護機能について説明します。

- ◆ [137 ページのセクション 6.1 「サーバ統合の概要」](#)
- ◆ [138 ページのセクション 6.2 「プロジェクトの作成」](#)
- ◆ [143 ページのセクション 6.3 「サーバテンプレートの作成と編集」](#)
- ◆ [151 ページのセクション 6.4 「統合候補の識別」](#)
- ◆ [151 ページのセクション 6.5 「統合シナリオの操作」](#)
- ◆ [163 ページのセクション 6.6 「インベントリレポートの生成」](#)
- ◆ [165 ページのセクション 6.7 「統合レポートの参照」](#)
- ◆ [170 ページのセクション 6.8 「Portability Suite を使用したシナリオの実装」](#)

6.1 サーバ統合の概要

PlateSpin Recon の Consolidation Planning Module を使用すると、各ワークロードでの統合シナリオをスケールアップしたりスケールアウトすることが可能になります。シナリオは、ターゲットサーバの最小数を判断したり、これらのサーバ間でワークロードの均衡を取ったりするのに役立ちます。

Consolidation Planning Module の重要な利点には、次が含まれます：

- ◆ ワークロードの数を分散することにより、サーバ使用率を最大化する。
- ◆ プロセッサ、メモリ、ディスク、ネットワーク、および時間の 5 つのディメンションでソフトウェアのワークロードの均衡を取ることで、リソースの競合を最小限に抑える。
- ◆ 高度なワークロードのサイジングと最適化により、追加サーバのニーズをなくす。
- ◆ ディザスタリカバリ計画により保護されているサーバを識別する。

サーバ統合の評価を行うための重要な段階は、次のとおりです：

- 1 PlateSpin Recon クライアントのサーバを検出して一覧表示します。詳細については、[32 ページのセクション 3.2 「データセンターのリソースの検出およびインベントリ」](#)を参照してください。
- 2 サーバのインベントリを実行し、統計データを収集します。詳細については、[32 ページのセクション 3.2 「データセンターのリソースの検出およびインベントリ」](#)を参照してください。
- 3 サーバを監視し、動的データを収集します。詳細については、[51 ページのセクション 3.2.5 「インベントリデータの表示およびサーバの監視」](#)を参照してください。
- 4 統合プロジェクトを作成します。詳細については、[138 ページのセクション 6.2 「プロジェクトの作成」](#)を参照してください。
- 5 統合するサーバを選択します。詳細については、[151 ページのセクション 6.4 「統合候補の識別」](#)を参照してください。
- 6 最適な統合シナリオを識別します。詳細については、[151 ページのセクション 6.5 「統合シナリオの操作」](#)を参照してください。

6.2 プロジェクトの作成

プロジェクトは、統合候補、保護候補、ワークロード、およびシナリオを任意に組み合わせることで構成できます。統合候補は、仮想マシンに移動させるネットワークワークロードです。保護候補は、ディザスタリカバリのために待機中の VM 複製を作成する際のワークロードです。


プロジェクトのシナリオは、ユーザが作成して比較します。「プロジェクト」レポートはシナリオの比較結果から構成され、環境に最適な統合シナリオを判断できるよう支援します。

プロジェクトを作成する前に、統合候補を識別し、グループ化してください。識別された候補を使用すると、プロジェクトの統合シナリオを作成して比較できます。

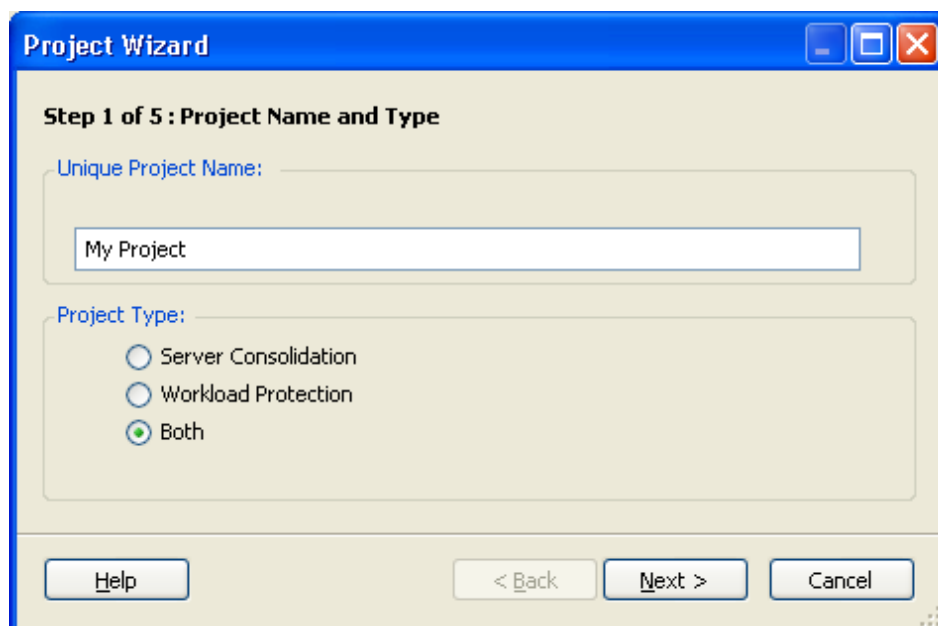
注：プロジェクトの開始前に各ワークロードに対して少なくとも 24 時間分のデータを収集することが推奨されます。

新規プロジェクトを作成する方法：

1 次のいずれかを実行します：

- ◆ [Consolidation] 、[New Project] の順にクリックします。
- ◆ Project Explorer で、 をクリックします。

Project Wizard の [Step 1 of 5: Project Name and Type] ダイアログボックスが表示されます。



2 プロジェクトに対して固有のプロジェクト名を入力します。

3 次のいずれかのプロジェクトタイプを選択します：

- ◆ **[Server Consolidation]**：このプロジェクトでは、同時実行および CPU とメモリヘッドスペースの要件に関連して最適なワークロード配置の推奨が示されます。

- ◆ **[Workload Protection]** : このプロジェクトでは、ディザスタリカバリに対するワークロード展開の推奨が示されます。既存の仮想サーバを指定するか、またはサーバテンプレートを使用してシナリオを構築してください。
- ◆ **[Both]** : このプロジェクトでは、統合と保護の両方に対する推奨が示されます。たとえば、サーバを最適に統合し、残りのヘッドルームはデータ保護のためにプロビジョニングします。

同じプロジェクト内では、統合と保護の両方に対してワークロードをプロビジョニングすることはできません。

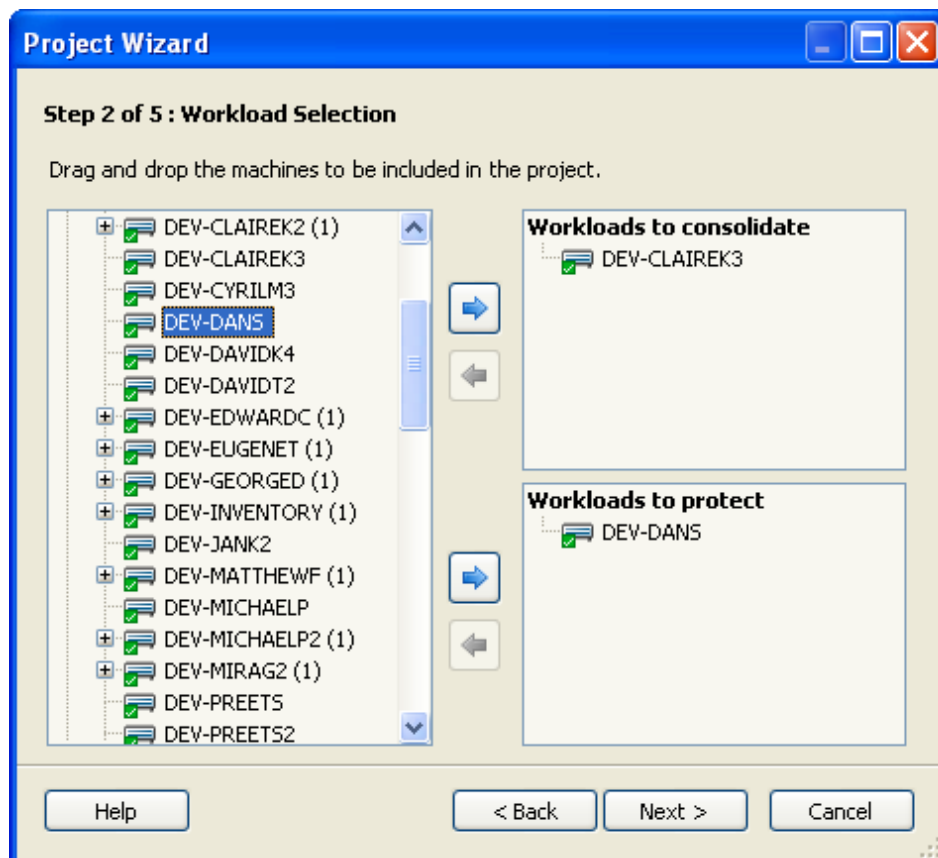
4 [Next] をクリックします。

[Step 2 of 5: Workload Selection] ダイアログボックスが表示されます。

5 プロジェクトに含めるワークロードを識別します。

6 プロジェクトに含めるワークロードを識別し、次のいずれかの方法で、それらを [Workloads to Consolidate] パネルに含めるか、 [Workloads to Protect] パネルに含めます:

- ◆ 左側のツリーからワークロードをドラッグし、右側の [Workloads to Consolidate] パネルまたは [Workloads to Protect] パネルにドラッグします。
- ◆ 右側のペインのサーバを選択し、それらを追加するパネルを指す矢印をクリックします。



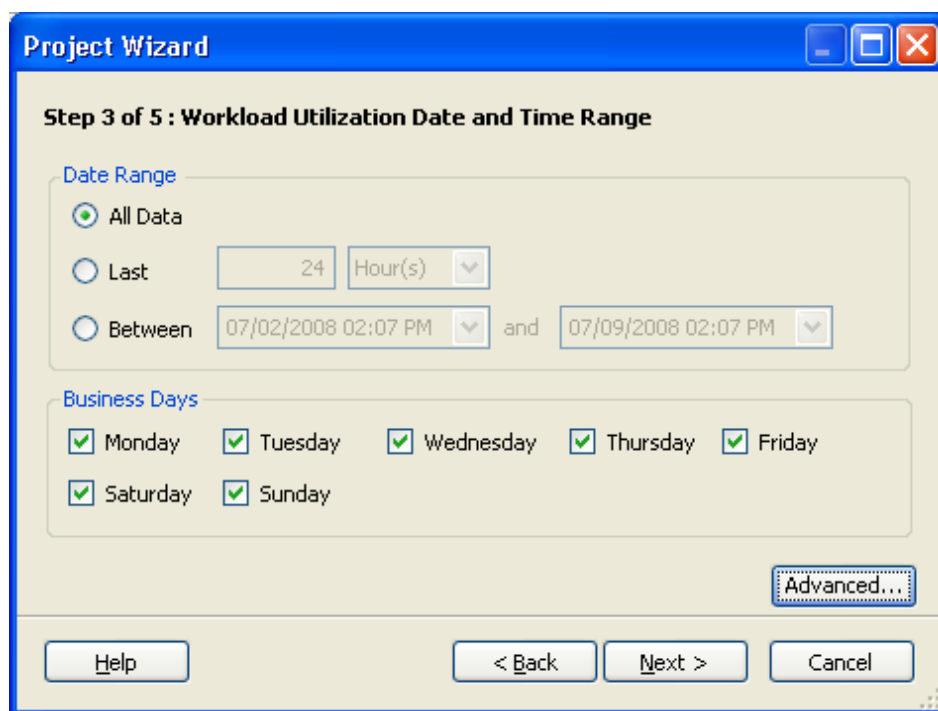
既存の仮想ホストが PlateSpin Recon によりインベントリされている場合、ターゲットサーバの候補としてそれらをプロジェクトに追加できます。既存のサーバは、シナリオ生成時にサーバテンプレートよりも優先します。使用中の環境に存在する統合または保護に使用する仮想ホストがある場合はそれらを選択します。ターゲットサーバを [Protection or Consolidation] パネルにドロップします。

注 : PlateSpin Recon は常に Solaris 10 マシンを統合のターゲットサーバと見なします。そのマシンはデフォルトでグローバルゾーンが有効に設定されているからです。したがって、Solaris 10 マシンを統合ソースと見なすことはできません。

[Workloads to Consolidate] パネルまたは [Workloads to Protect] パネルからサーバを削除し、パネルでサーバを選択し、サーバリストを指し示す矢印をクリックします。同じプロジェクト内で統合と保護のために、サーバをターゲットに設定できません。

7 [Next] をクリックします。

[Step 3 of 5: Workload Utilization Date and Time Range] ダイアログボックスが表示されます。



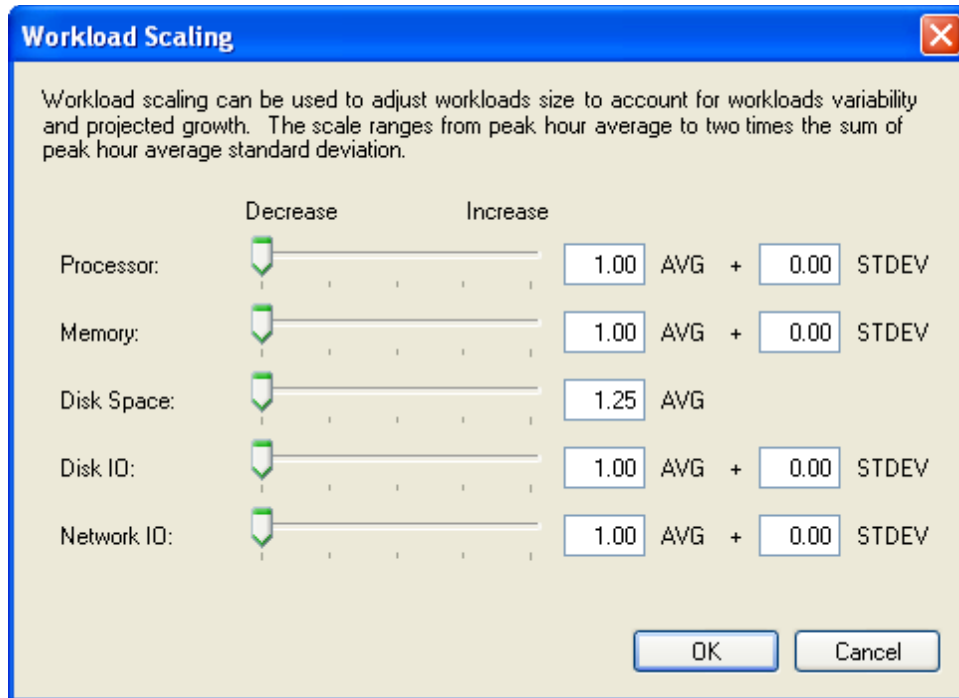
8 ワークロードデータを集計する日付と時間の範囲を設定します。

[Date Range] および [Business Days] は、ワークロードの 24 時間プロファイルを計算するために必要です。

9 (オプション) ワークロードのスケール係数を設定するには、[Advanced] をクリックします。

[Workload Scaling] ダイアログボックスが表示されます。

10 スライドコントロールを使用して、値またはタイプを希望の数値に調整します。



ワークロードの可変性と予測される増大を考慮に入れて、ワークロードは5つのディメンション全体にスケールできます。ターゲットサーバのワークロードに割り当てられるサーバリソースは、スケールされたワークロードに基づきます。ワークロードをスケールアップすると、より多くのリソースが必要になり、結果として統合比率が低くなる可能性があります。スケール用のポインタを動かすと、ワークロードのスケール係数が変化します。

ピーク時の平均以下にワークロードをスケールすることはできません。

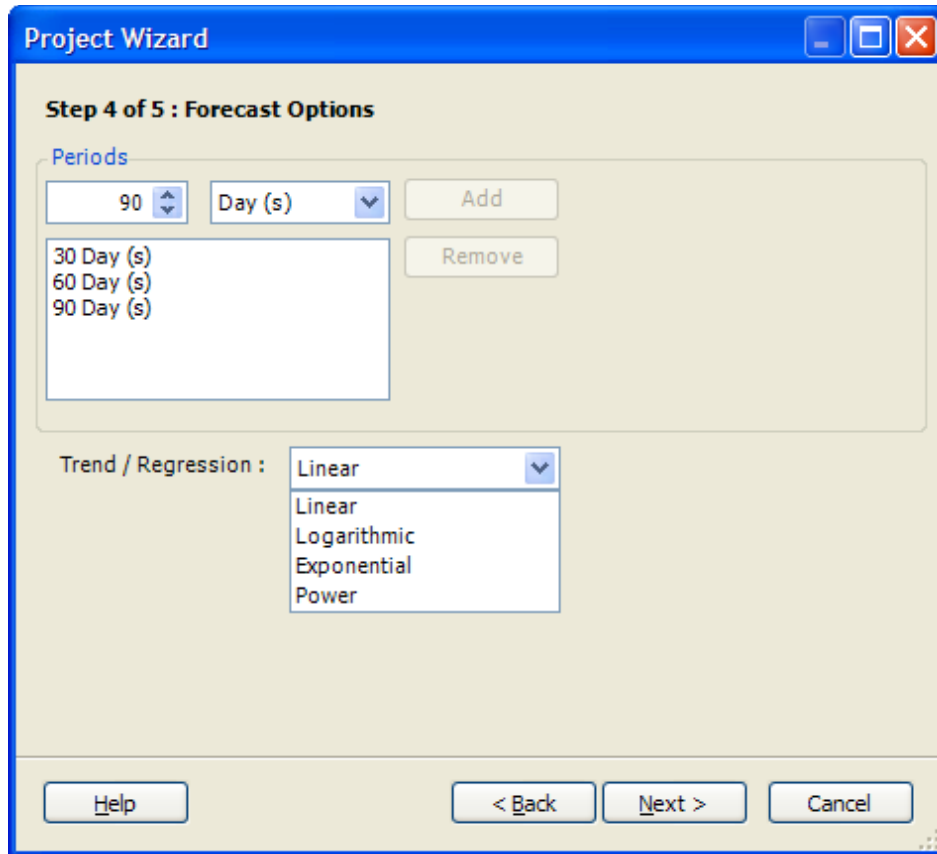
11 [OK] をクリックします。

12 [Next] をクリックします。

[Step 4 of 5: Forecast Options] ダイアログボックスが表示されます。

13 予測オプションと傾向タイプを選択します。

ワークロードは、将来の増大を考慮に入れて予測できます。



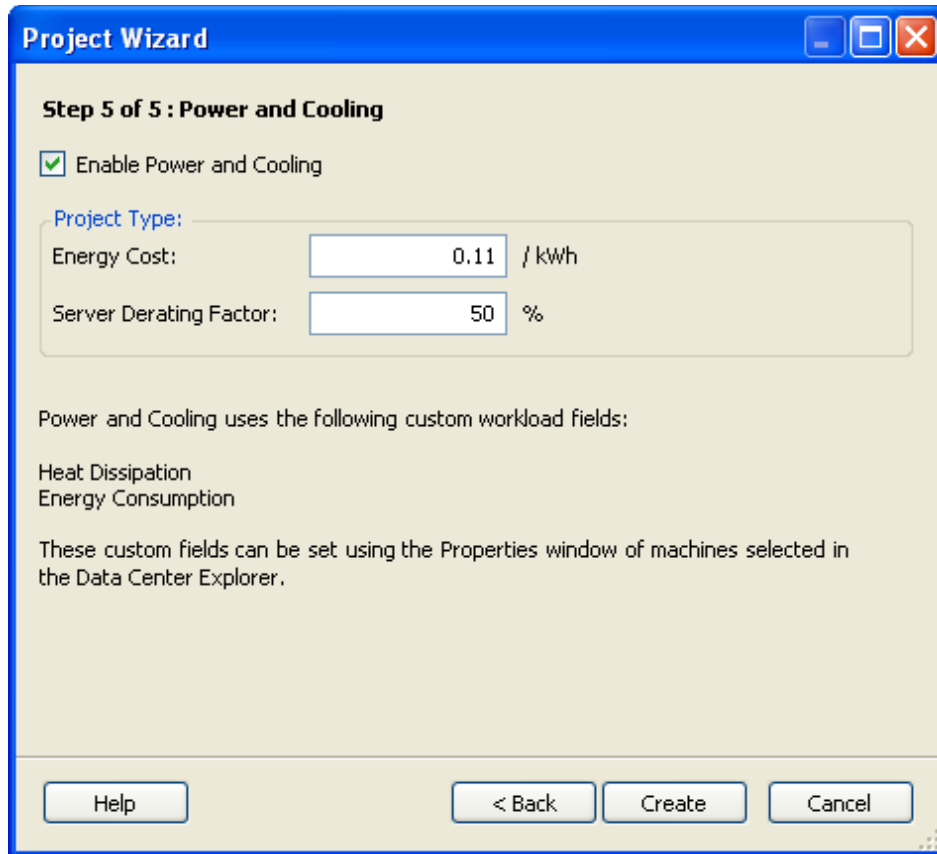
14 [Next] をクリックします。

[Step 5 of 5: Power and Cooling] ダイアログボックスが表示されます。

15 [Project Type] の値を指定するか、または値が含まれないようにするには [Enable Power and Cooling] チェックボックスを選択解除します。

[Energy Cost] : キロワット時間あたりのエネルギーのコスト。

[Server Derating Factor] : 平均サーバによる合計エネルギー消費の割合。たとえば、800 ワットの定格のサーバが、50% の軽減係数のサーバで 400 ワットを使用します。



16 [Create] をクリックします。

新しいプロジェクトが Project Explorer に表示されます。




プロジェクトを作成するときに、ワークロードの 24 時間プロファイルが計算されます。これには、各ワークロードに対して 24 時間にわたるプロセッサ速度 (MHz)、メモリ (MB)、使用されるディスク容量 (GB)、ディスク I/O (MB/秒)、およびネットワーク IO (MB/秒) の計算が含まれます。24 時間プロファイルは、1 日の各時間に対応する 24 個のワークロードの値 (0 ~ 23) から構成されます。24 時間プロファイルの各値は、該当の時間に対して観測されたすべての値からピーク値を取得することによって計算されます。

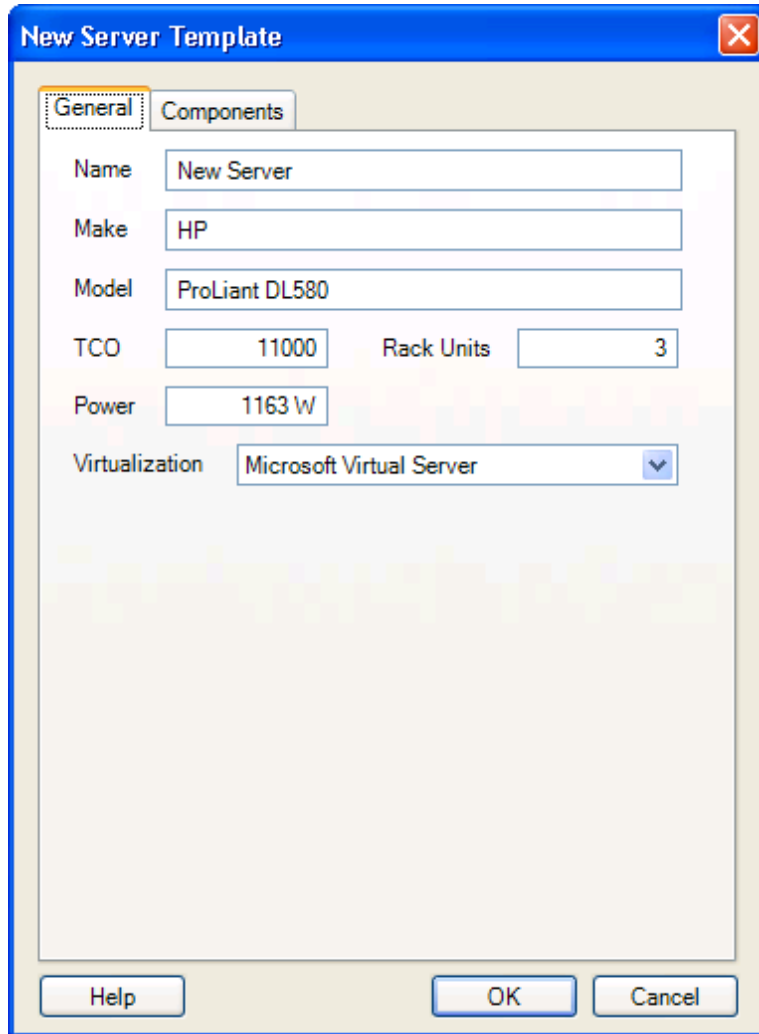
6.3 サーバテンプレートの作成と編集

サーバテンプレートは、統合シナリオで使用するサーバを定義するために使用されます。固有のコンポーネントと使用率しきい値をもつサーバテンプレートを作成します。一般的に、サーバテンプレートは、統合シナリオのスケールアップとスケールアウトに使用されます。作成されたサーバテンプレートは、ワークロードの統合のためのターゲットサーバとして使用されます。

- ◆ 144 ページのセクション 6.3.1 「新規サーバテンプレートの作成」
- ◆ 148 ページのセクション 6.3.2 「既存のサーバテンプレートを編集します。」
- ◆ 150 ページのセクション 6.3.3 「サーバテンプレートをコピーします。」

6.3.1 新規サーバテンプレートの作成

- 1 [Consolidation] 、[Server Templates] の順にクリックします。
[Server Template Manager] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 をクリックします。
[New Server Template] ダイアログボックスが表示されます。



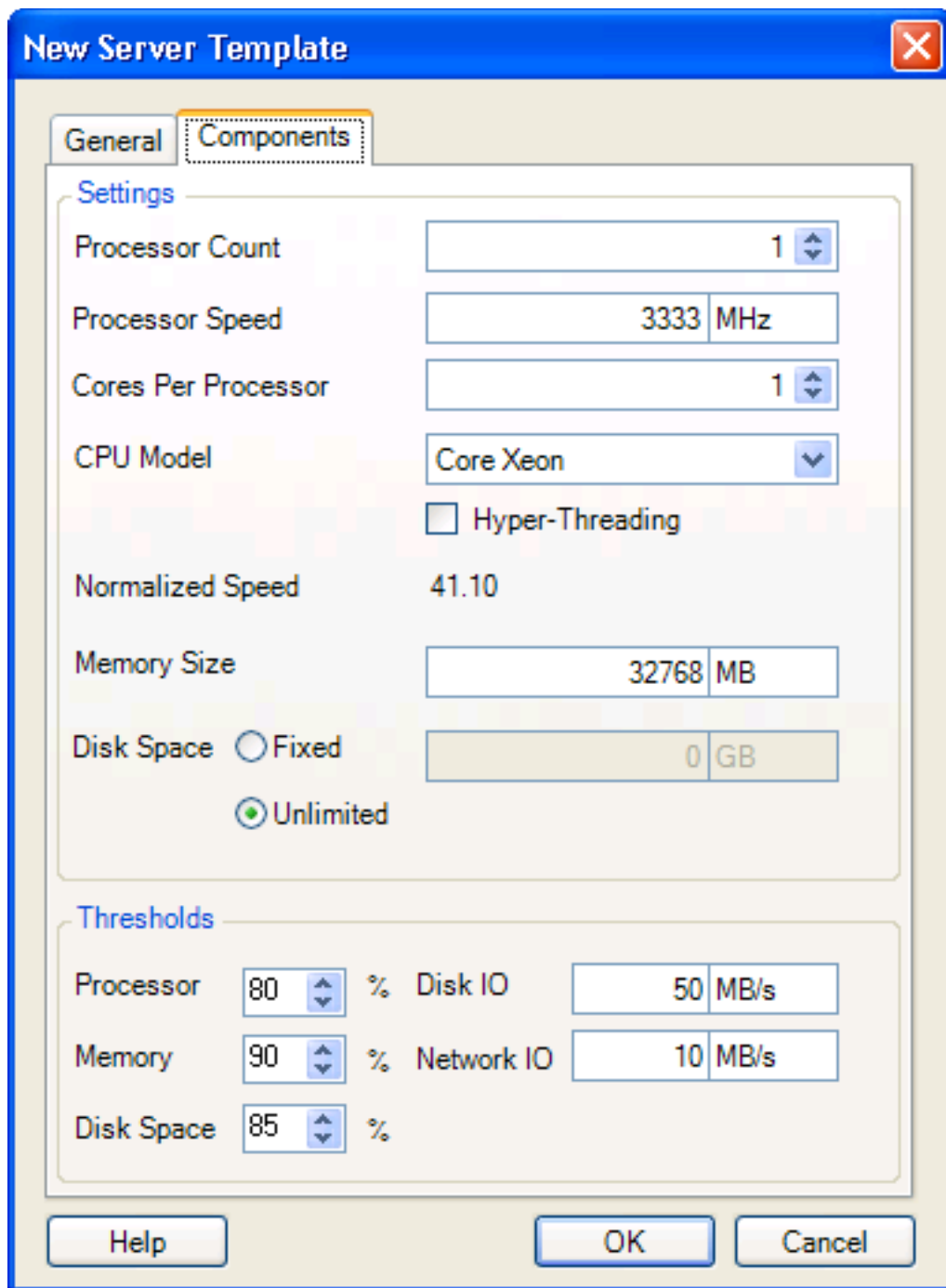
The screenshot shows a dialog box titled "New Server Template" with a blue border and a close button in the top right corner. It has two tabs: "General" (selected) and "Components". The "General" tab contains several input fields: "Name" with the text "New Server", "Make" with "HP", "Model" with "ProLiant DL580", "TCO" with "11000", "Rack Units" with "3", "Power" with "1163 W", and "Virtualization" with a dropdown menu showing "Microsoft Virtual Server". At the bottom of the dialog are three buttons: "Help", "OK", and "Cancel".

- 3 [General] ページで、次を指定します：

ユーザインタフェース	必須	説明
Name	○	作成されるテンプレートの名前。
Make	×	サーバの製造元。
Model	×	サーバモデル。
TCO	×	総所有コスト。
Rack Units	×	ラックユニット数。

ユーザインタフェース	必須	説明
Power	×	消費電力 (ワット数)。
Virtualization	○	仮想化プラットフォーム : <ul style="list-style-type: none"> ◆ Citrix XenServer ◆ Microsoft Hyper-V ◆ Microsoft Virtual Server ◆ None - なし ◆ Solaris 10 Zones ◆ Virtual Iron ◆ VMware ESX ◆ VMware ESX 3 ◆ VMware ESX 4 ◆ VMware GSX ◆ VMware Server ◆ SLES XenServer

4 [Components] タブをクリックし、[Components] ページで次のように指定します :



ユーザインタフェース	必須	説明
設定		
Processor Count	<input type="radio"/>	合計プロセッサ数。
Processor Speed	<input type="radio"/>	サーバが実行できる秒あたりの命令数 (MHz または GHz 単位)。使用できる最大プロセッサ速度は、266MHz です。

ユーザインタフェース	必須	説明
Memory	○	サーバのメモリサイズ (MB または GB 単位)。
Cores Per Processor	○	プロセッサごとのコア数。
CPU Model	○	CPU のモデル : <ul style="list-style-type: none"> ◆ Pentium IV ◆ Core ◆ Xeon ◆ Core Xeon ◆ Athlon ◆ Opteron ◆ Intel Nehalem
Hyper-Threading	×	ハイパースレッディングが使用可能かどうかを指定します。
Normalized Speed	読み込み専用	プロセッサ能力の単位なしの測定値。これは、さまざまなプロセッサアーキテクチャ間でのより現実的な比較を示します。
Memory Size	○	使用するメモリの大きさ。使用可能な最小メモリサイズは、256MB です。
Disk Space	○	サーバに必要なディスク容量 (GB または TB)。ターゲットサーバを SAN または NAS に接続している場合は、[Unlimited] を選択します。SAN または NAS の場合、ディスク容量は制限要因ではありません。[Fixed] を使用している場合、指定可能な最小ディスク容量は 1GB です。
しきい値		
Processor	×	プロセッサ使用率。デフォルトで、使用率は 80% に設定されます。
Memory	×	メモリ使用率。デフォルトで、使用率は 90% に設定されます。
Disk Space	×	最大ディスク使用率しきい値。デフォルトで、使用率は 85% に設定されます。
Disk IO	×	許可される最大ディスク I/O。デフォルトで、Max IO は 50MB/ 秒に設定されます。
Network IO	×	最大ネットワーク IO。デフォルトで、ネットワーク IO は 10MB/ 秒に設定されます。

しきい値は、Consolidation Planning Module がサーバテンプレートに対して想定できる使用率のレベルを指定します。これは、統合シナリオの結果に影響します。つまり、使用率のしきい値が低いと、シナリオのワークロードをホストするために必要なサーバが多くなります。

たとえば、180GB のメモリを必要とするワークロードは、使用率のしきい値が 90% に設定されている場合、200GB のメモリを持つサーバに統合できます。しかし、メモリ使用率のしきい値が 50% に設定されている場合、100GB のメモリのみが使用されるため、統合されるワークロードは少なくなります。

使用率のしきい値は、最初は上記の表に一覧表示されたデフォルトに設定されていますが、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。

5 [OK] をクリックします。



新しく作成されたテンプレートが、[Server Template] リストに追加されます。

6.3.2 既存のサーバテンプレートを編集します。

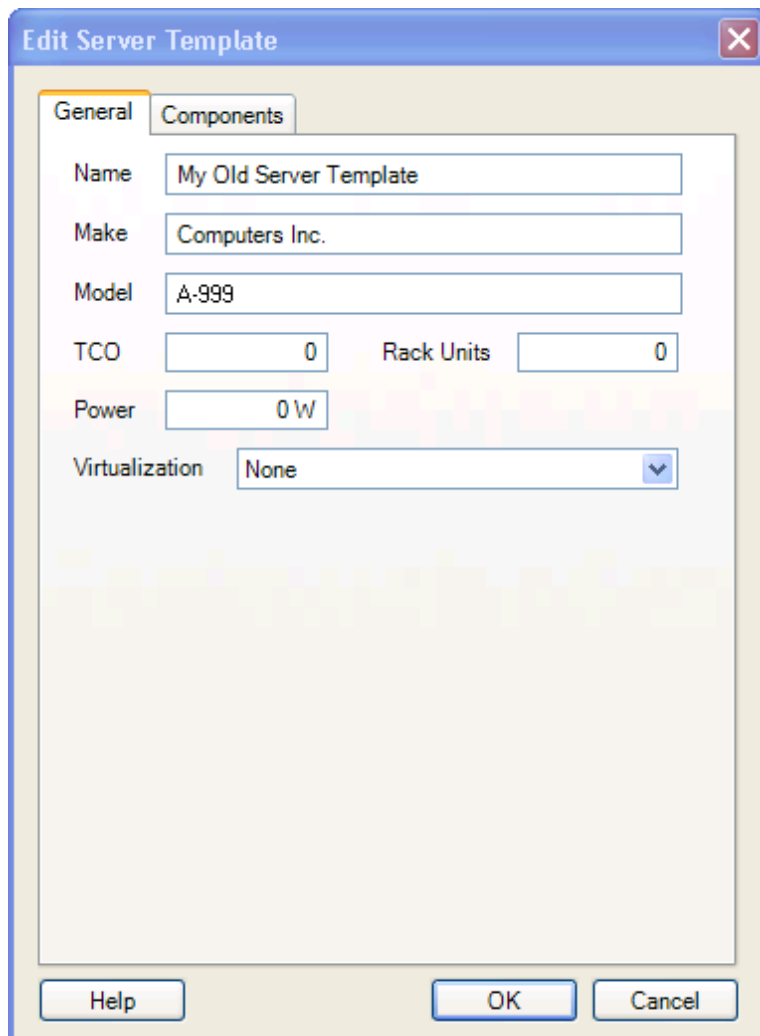
1 [Consolidation] 、[Server Templates] の順にクリックします。

[Server Template Manager] ダイアログボックスが表示されます。

2 次のいずれかを実行します：

- 編集するサーバテンプレートを選択し、をクリックします。
- 編集するサーバテンプレートを右クリックし、 [Edit] をクリックします。

[Edit Server Template] ダイアログボックスが表示されます。



The screenshot shows the 'Edit Server Template' dialog box with the following fields and values:

Field	Value
Name	My Old Server Template
Make	Computers Inc.
Model	A-999
TCO	0
Rack Units	0
Power	0 W
Virtualization	None

3 [General] ページで、次の情報を使用して希望の修正を行います：

ユーザインタフェース	必須	説明
Name	<input type="radio"/>	作成されるテンプレートの名前。
Make	<input type="checkbox"/>	サーバの製造元。
Model	<input type="checkbox"/>	サーバモデル。
TCO	<input type="checkbox"/>	総所有コスト。
Rack Units	<input type="checkbox"/>	ラックユニット数。
Power	<input type="checkbox"/>	消費電力 (ワット数)
Virtualization	<input type="radio"/>	仮想化プラットフォーム : <ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft Virtual Server ◆ Virtual Iron ◆ VMware ESX ◆ VMware ESX 3 ◆ VMware ESX 4 ◆ VMware GSX ◆ VMware Server ◆ Citrix XenServer ◆ Microsoft Hyper-V ◆ SLES XenServer ◆ None - なし

4 [Components] タブをクリックし、次の情報を使用して希望の修正を行います :

ユーザインタフェース	必須	説明
設定		
Processor Count	<input type="radio"/>	合計プロセッサ数。
Processor Speed	<input type="radio"/>	サーバが実行できる秒あたりの命令数 (MHz または GHz 単位)。使用できる最大プロセッサ速度は、266MHz です。
Memory	<input type="radio"/>	サーバのメモリサイズ (MB または GB 単位)。
Cores Per Processor	<input type="radio"/>	プロセッサごとのコア数。
CPU Model	<input type="radio"/>	CPU のモデル : <ul style="list-style-type: none"> ◆ Pentium IV ◆ Core ◆ Xeon ◆ Core Xeon ◆ Athlon ◆ Opteron

ユーザインタフェース	必須	説明
Hyper-Threading	×	ハイパースレッディングが使用可能かどうかを指定します。
Normalized Speed	読み込み専用	プロセッサ能力の単位なしの測定値。これは、さまざまなプロセッサアーキテクチャ間でのより現実的な比較を示します。
Memory Size	○	使用するメモリの大きさ。使用可能な最小メモリサイズは、256MB です。
Disk Space	○	サーバに必要なディスク容量 (GB または TB)。ターゲットサーバを SAN または NAS に接続する場合、ディスク容量は制限要因ではないため、[Unlimited] を選択してください。[Fixed] を選択した場合に指定できる最小ディスク容量は、1GB です。
しきい値		
Processor	×	プロセッサ使用率。デフォルトで、使用率は 80% に設定されます。
Memory	×	メモリ使用率。デフォルトで、使用率は 90% に設定されます。
Disk Space	×	最大ディスク使用率しきい値。デフォルトで、使用率は 85% に設定されます。
Disk IO	×	許可される最大ディスク I/O。デフォルトで、Max IO は 50MB/ 秒に設定されます。
Network IO	×	最大ネットワーク IO。デフォルトで、ネットワーク IO は 10MB/ 秒に設定されます。



しきい値は、Consolidation Planning Module がサーバテンプレートに対して想定できる使用率のレベルを指定します。これは、統合シナリオの結果に影響します。つまり、使用率のしきい値が低いと、シナリオのワークロードをホストするために必要なサーバが多くなります。

たとえば、180GB のメモリを必要とするワークロードは、使用率のしきい値が 90% に設定されている場合、200GB のメモリを持つサーバに統合できます。しかし、メモリ使用率のしきい値が 50% に設定されている場合、100GB のメモリのみが使用されるため、統合されるワークロードは少なくなります。

使用率のしきい値は、最初は上記の表に一覧表示されたデフォルトに設定されていますが、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。



5 [OK] をクリックします。

6.3.3 サーバテンプレートをコピーします。

1 [Consolidation] 、[Server Templates]  の順にクリックします。

[Server Template Manager] ダイアログボックスが表示されます。

2 次のいずれかを実行します：

- ◆ コピーするサーバテンプレートを選択し、 をクリックします。
- ◆ コピーするサーバテンプレートを右クリックし、 [Copy] をクリックします。

[New Server Template] ダイアログボックスに、テンプレート情報が入力されて表示されます。

3 テンプレートの名前を変更し、他の必要な修正を行います。

4 [OK] をクリックします。

テンプレートがコピーされ、[Server Template Manager] のリストに表示されます。

6.4 統合候補の識別

このアクティビティには、統合するサーバの選択が含まれます。ここでは、統合要件を満たすサーバのセットを検索して、そのサーバのセットから統合候補を選択できるように、インベントリと分析のレポートを生成することが必要になります。詳細については、[126 ページのセクション 5.5 「レポートの生成」](#) を参照してください。

6.5 統合シナリオの操作

シナリオを使用すると、1つ以上の統合の代替対象の作成と評価をすばやく行うことができます。比較目的には複数のシナリオを生成することが推奨されます。こうすることで、最適な統合シナリオを判断できるようになります。


シナリオには、次の2つのタイプがあります：

- ◆ **サーバの最小数を判断する**：PlateSpin Recon では、ワークロードの均衡を取るために必要な特定のタイプのターゲットサーバの数を判断します。このタイプのシナリオでは、1つのサーバテンプレートのみを使用できます。
- ◆ **サーバの数を指定する**：統合するターゲットサーバの数とタイプを設定します。PlateSpin Recon は、選択したターゲットに対してワークロードの最適な分配を計算します。このタイプのシナリオでは、複数のサーバテンプレートを使用できます。

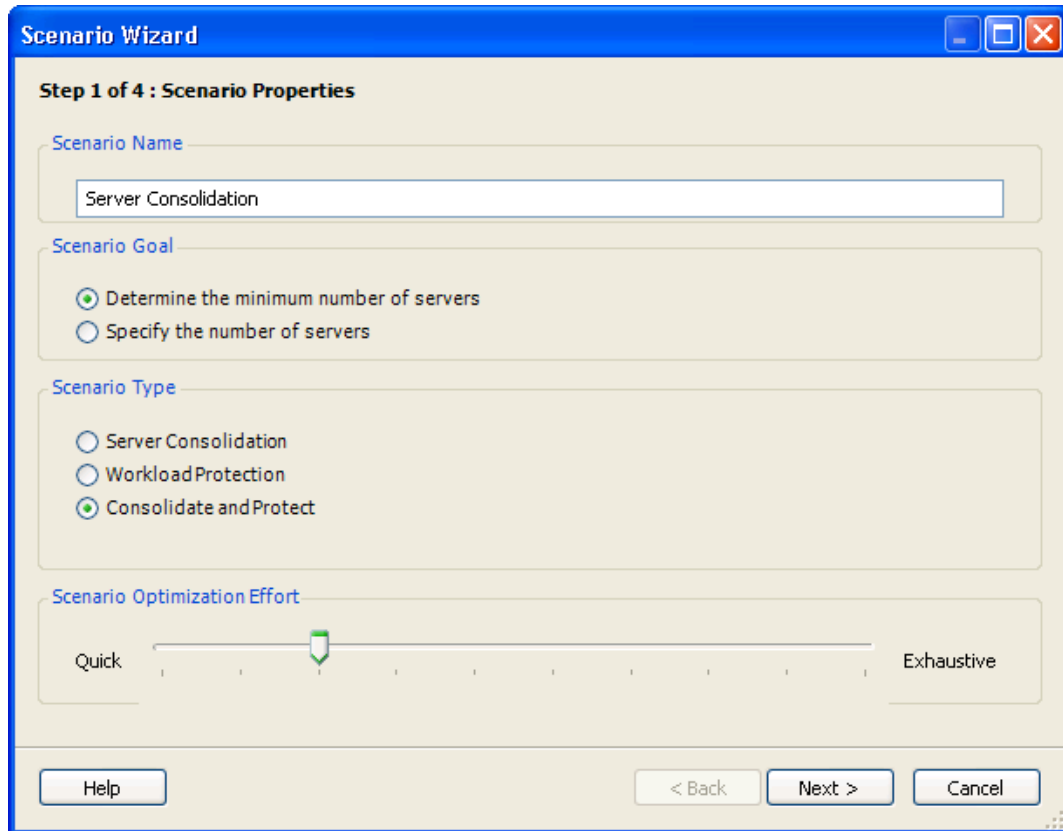
PlateSpin Recon によりサポートされている仮想化プラットフォームを実行するインベントリされたマシンは、ターゲットサーバと見なされます。

- ◆ [151 ページのセクション 6.5.1 「サーバの最小数の判断」](#)
- ◆ [157 ページのセクション 6.5.2 「サーバの数の指定」](#)
- ◆ [162 ページのセクション 6.5.3 「統合シナリオの結果」](#)
- ◆ [163 ページのセクション 6.5.4 「シナリオの編集」](#)
- ◆ [163 ページのセクション 6.5.5 「シナリオの削除」](#)

6.5.1 サーバの最小数の判断

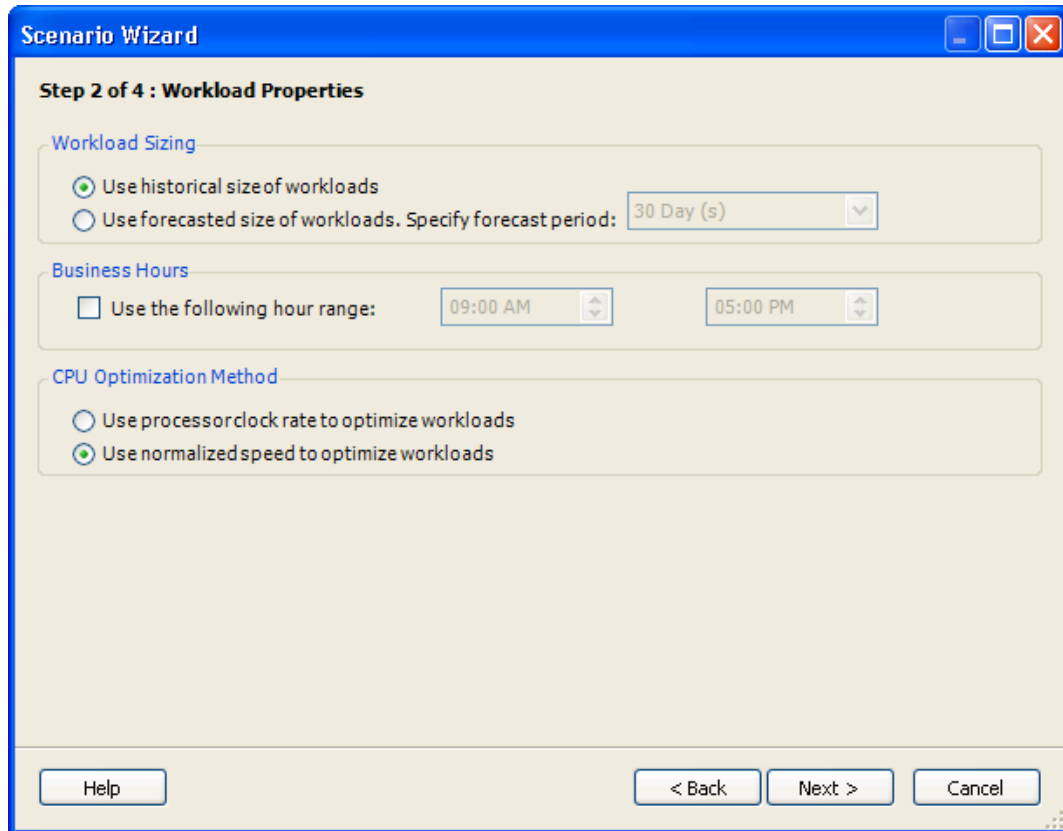
1 [Project Explorer] タブでプロジェクトを選択し、[New Scenario]  をクリックします。

Scenario Wizard の [Step 1 of 4: Scenario Properties] ダイアログボックスが表示されます。



使用可能なシナリオタイプは、プロジェクトの作成中に指定したプロジェクトタイプにより決定されます。

- 2 シナリオに対して固有の名前を指定します。
- 3 [Scenario Goal] ペインで、[*Determine the minimum number of servers*] を選択します。
この目標により、指定タイプのターゲットサーバの最小数がワークロードの均衡を取るために決定されます。このオプションで使用できるサーバテンプレートは、1つのみです。
- 4 シナリオタイプを選択します。
このステップは、シナリオの基となるプロジェクトに *Both*(サーバ統合とワークロード保護) として設定された目標がある場合にのみ適用します。
- 5 [Scenario Optimization Effort] スライダーを調整します。
[Quick] は、より速いもののそれほど徹底的ではなく、[Exhaustive] は、より時間がかかりますがより綿密です。
- 6 [Next] をクリックします。
[Step 2 of 4: Workload Properties] ダイアログボックスが表示されます。



7 ワークロードのサイジングを指定します。

- ◆ **[Use historical size of workloads]** : ワークロードの履歴サイズに基づいてシナリオを作成します。
- ◆ **[Use forecasted size of workloads. Specify forecast period]** : 指定した予測期間の後でワークロードの予測サイズに基づいてシナリオを作成します。

保護のみのプロジェクトに基づくシナリオでは、これらの値はグレー表示されます。

8 指定した時間範囲でワークロードと使用率の式を平均するには、**[Use the Following hour range]** チェックボックスを選択し、社内環境での業務時間に合わせて、開始と終了の時間を設定します。

ここで指定する時間は、このシナリオまたはこのシナリオ下のノード用に作成されるすべてのレポートに対して使用されます。レポートテンプレートによって業務/ピーク時間が直接制御されることはありません。統合とプランニングのチャートでは、指定した業務時間とすべての 24 時間データポイントの両方を使用します。

9 使用する CPU 最適化の方法を指定します。

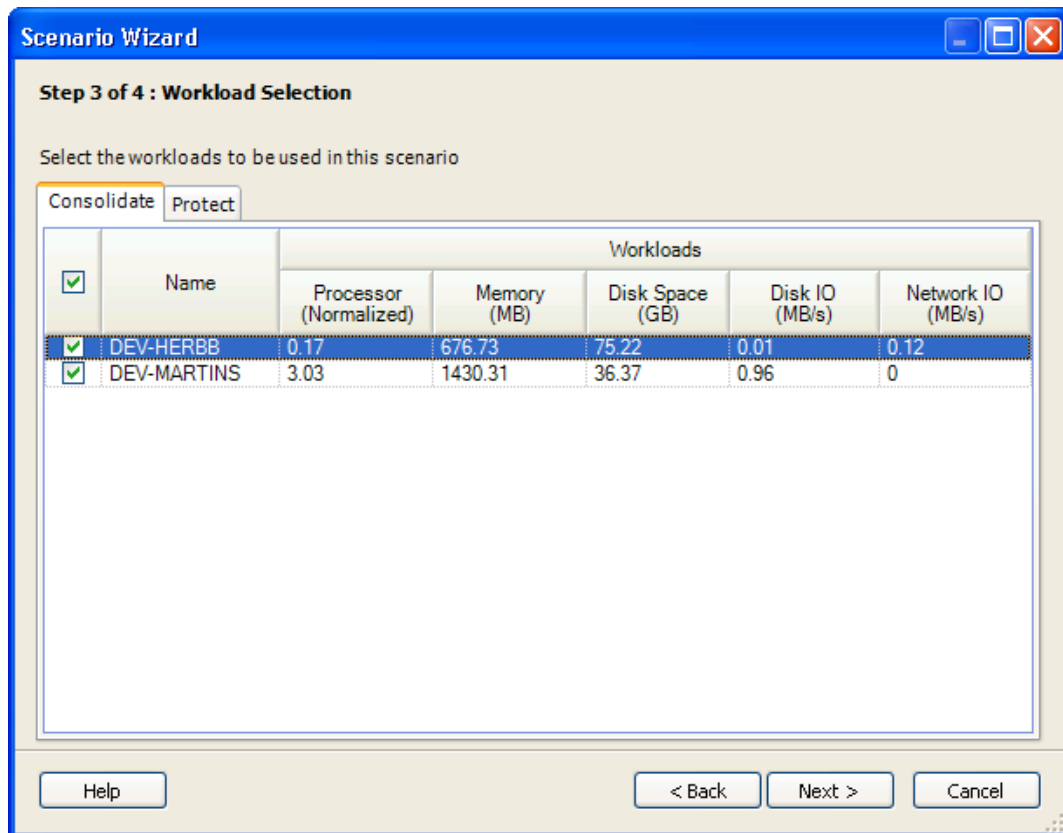
- ◆ **[Use processor clock rate to optimize workloads]** : 実際のプロセッサクロックに基づいて CPU を最適化します。
- ◆ **[Use normalized speed to optimize workloads]** : 標準化された値に基づいて CPU を最適化します。詳細については、[221 ページのセクション B.6 「CPU の標準化」](#)を参照してください。

このシナリオに基づく統合チャートは、選択した方法によって異なります。
[Use normalized speed to optimize workloads] を選択すると、このシナリオに基づいて作成した統合チャートのプロセッサ使用率と容量の値でも標準化された値が使用されます。

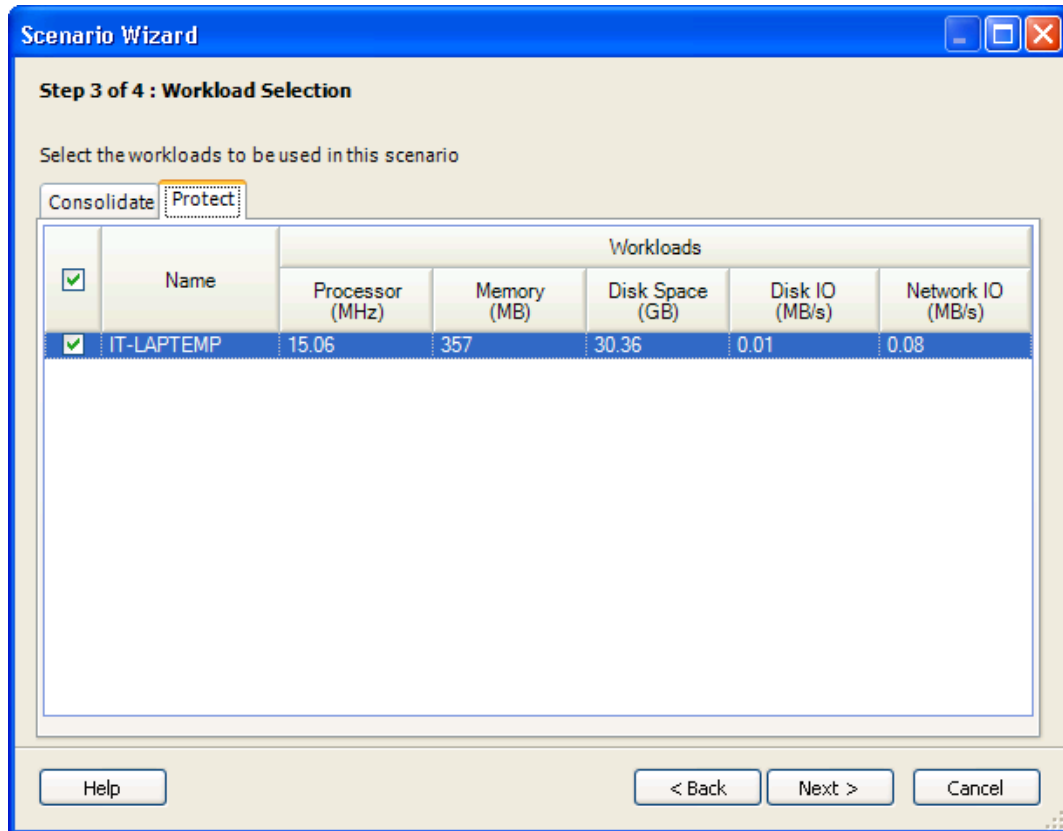
[Normalized Speed] カラムは、デフォルトでレポートに表示されません。これは、シナリオサマリやワークロード割り当てのレポートで、最適化の方法に [Use normalized speed to optimize workloads] を選択した場合にも当てはまります。保護のみのプロジェクトに基づくシナリオでは、これらの値はグレー表示されません。

10 [Next] をクリックします。

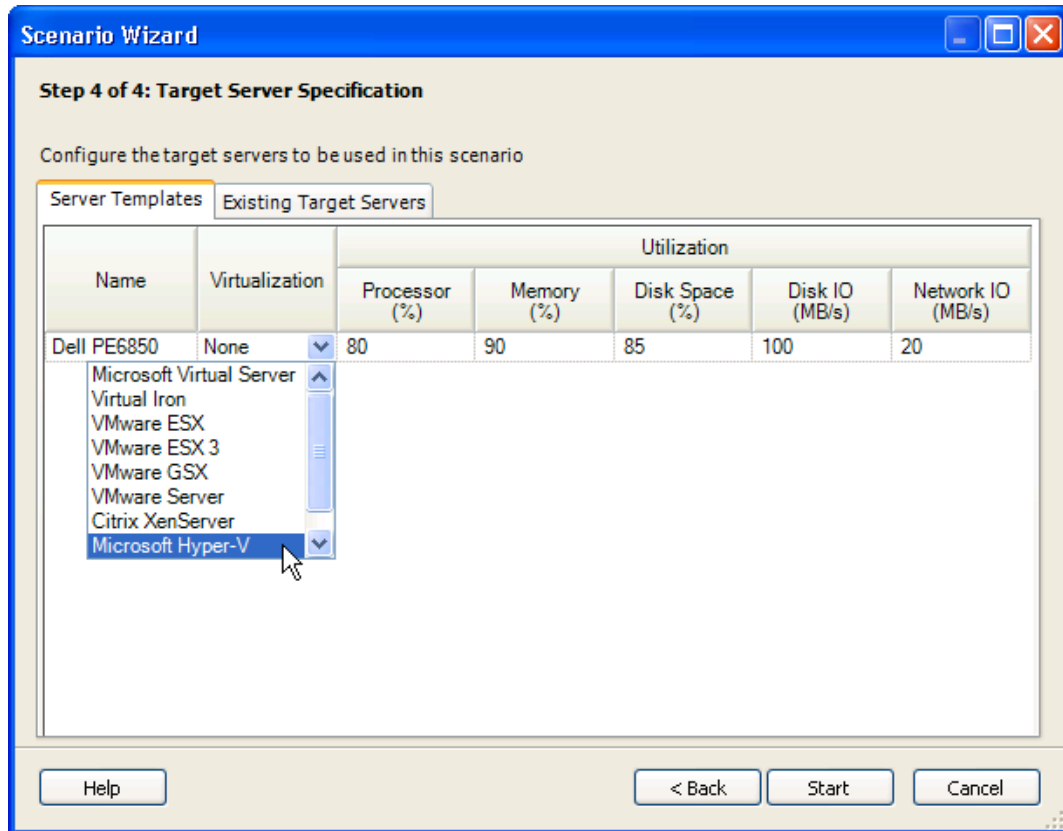
[Step 3 of 4: Workload Selection] ダイアログボックスが表示されます。



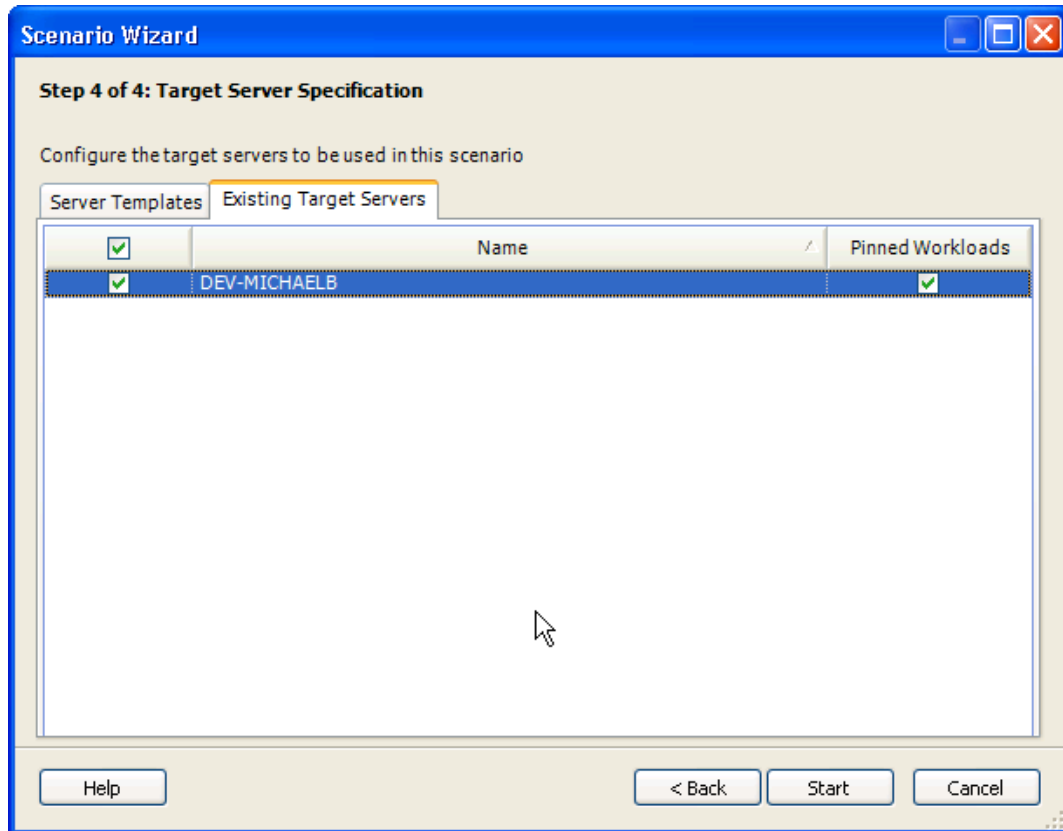
11 シナリオタイプに基づいて、ワークロードまたはサーバを選択します。



- 12 (条件付き) [Scenario Type] に対してサーバ統合を指定した場合、シナリオに統合するサーバを選択します。
デフォルトでは、統合のプロジェクトで指定されたサーバがすべて選択されます。
- 13 (条件付き) [Scenario Type] に対してワークロード保護を指定した場合、[Protect] タブでワークロードを選択します。
デフォルトでは、保護のプロジェクトで指定されたワークロードがすべて選択されます。
- 14 [Next] をクリックします。
[Step 4 of 4: Target Server Specification] ダイアログボックスが表示されます。



- 15 [Name] ドロップダウンリストで、使用するサーバテンプレートを選択します。
 または
 [New Server] を選択して新しいサーバテンプレートを作成します。(使用できるサーバテンプレートは1つです)
 既存のターゲットサーバに対してのみ統合する場合でも、サーバテンプレートは少なくとも1つ指定する必要があります。
- 16 (オプション) [Virtualization] ドロップダウンリストで、使用する仮想化プラットフォームを選択します。
- 17 (オプション) [Existing Target Servers] タブを選択し、プロジェクトに含まれているサーバを使用します。
 プロジェクトに既存のターゲットサーバが指定されていない場合、このオプションを使用することはできません。



18 シナリオに使用する既存のターゲットサーバを選択して [*Pinned Workload*] チェックボックスを選択し、特定のターゲットサーバ上に現存するワークロードを統合後もサーバに残します。

19 [*Start*] をクリックします。

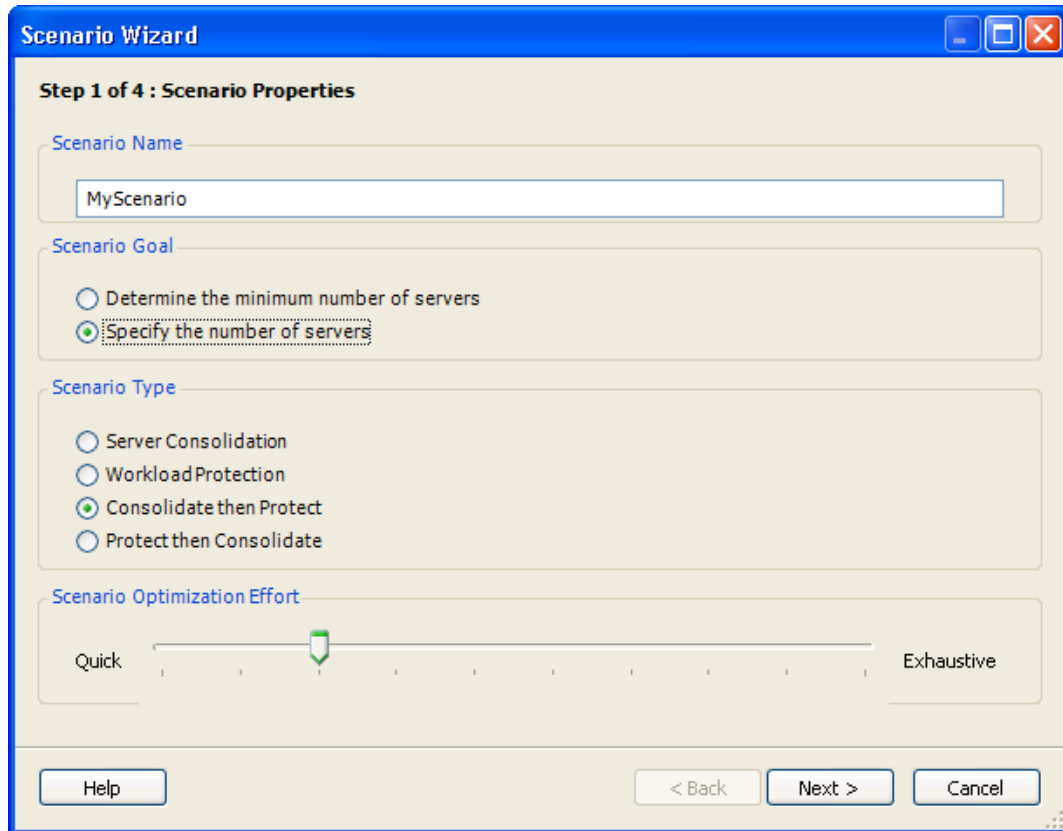
Create Scenario ジョブが実行されます。

進行状況は [Job Explorer] ウィンドウで見ることができます。シナリオは、作成されるとベースプロジェクトの [Scenarios] に表示されます。

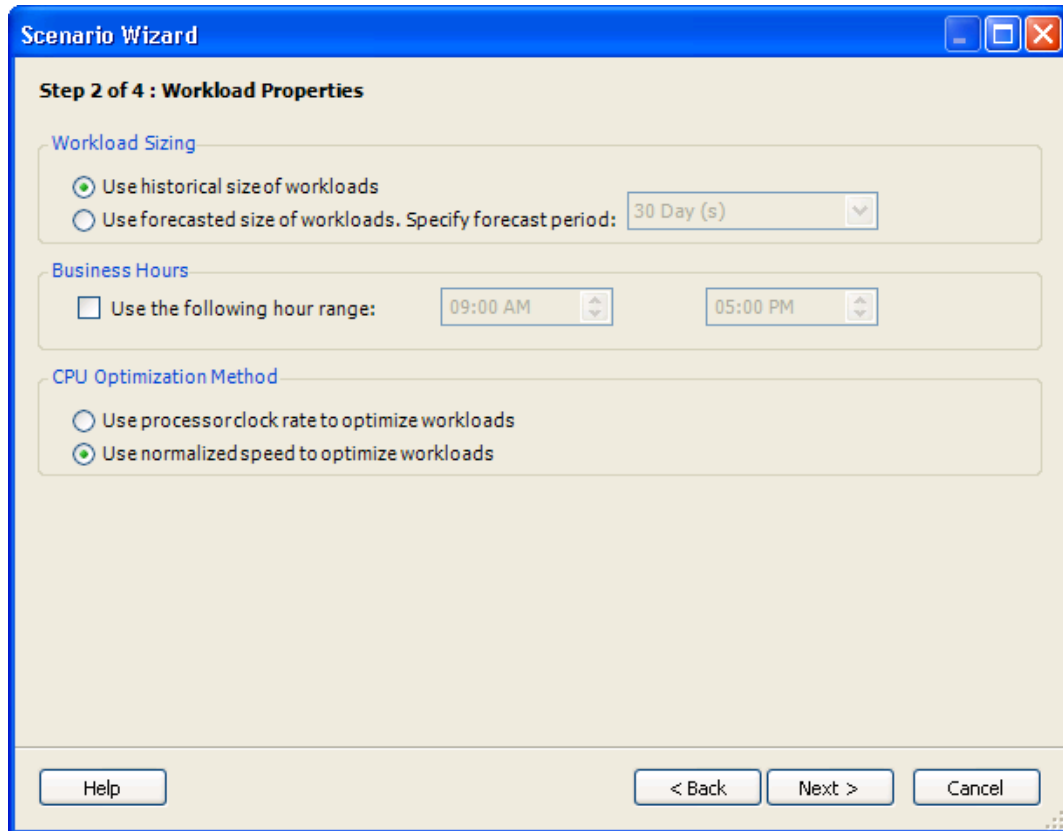
6.5.2 サーバの数の指定

1 [*New Scenario*] をクリックします。

Scenario Wizard の [Step 1 of 4: Scenario Properties] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 固有のシナリオ名を入力します。
- 3 [Scenario Goal] ペインで、[Specify the number of servers] を選択し、統合に対するターゲットサーバの数とタイプを設定します。
このオプションでは複数のサーバテンプレートを使用できます。
- 4 シナリオタイプを選択します。
指定したテンプレートの数が不適切な場合に一部のワークロードが統合されないようにするには、[Consolidate then Protect] を選択すると、アルゴリズムがテンプレートへの統合ワークロードにできる限り多く適合します。[Protect then Consolidate] を選択すると、逆になります。
- 5 [Scenario Optimization Effort] スライダーを調整します。
[Quick] は、より速いもののそれほど徹底的ではなく、[Exhaustive] は、より時間がかかりますがより綿密です。
- 6 [Next] をクリックします。
[Step 2 of 4: Workload Properties] ダイアログボックスが表示されます。



7 ワークロードのサイジングを指定します。

- ◆ **[Use historical size of workloads]** : ワークロードの履歴サイズに基づいてシナリオを作成します。
- ◆ **[Use forecasted size of workloads. Specify forecast period]** : 指定した予測期間の後でワークロードの予測サイズに基づいてシナリオを作成します。

保護のみのプロジェクトに基づくシナリオでは、これらの値はグレー表示されます。

8 指定した時間範囲でワークロードと使用率の式を平均するには、**[Use the Following hour range]** チェックボックスを選択し、社内環境での業務時間に合わせて、開始と終了の時間を設定します。

ここで指定する時間は、このシナリオまたはこのシナリオ下のノード用に作成されるすべてのレポートに対して使用されます。レポートテンプレートによって業務/ピーク時間が直接制御されることはありません。統合とプランニングのチャートでは、指定した業務時間とすべての 24 時間データポイントの両方を使用します。

9 使用する CPU 最適化の方法を指定します。

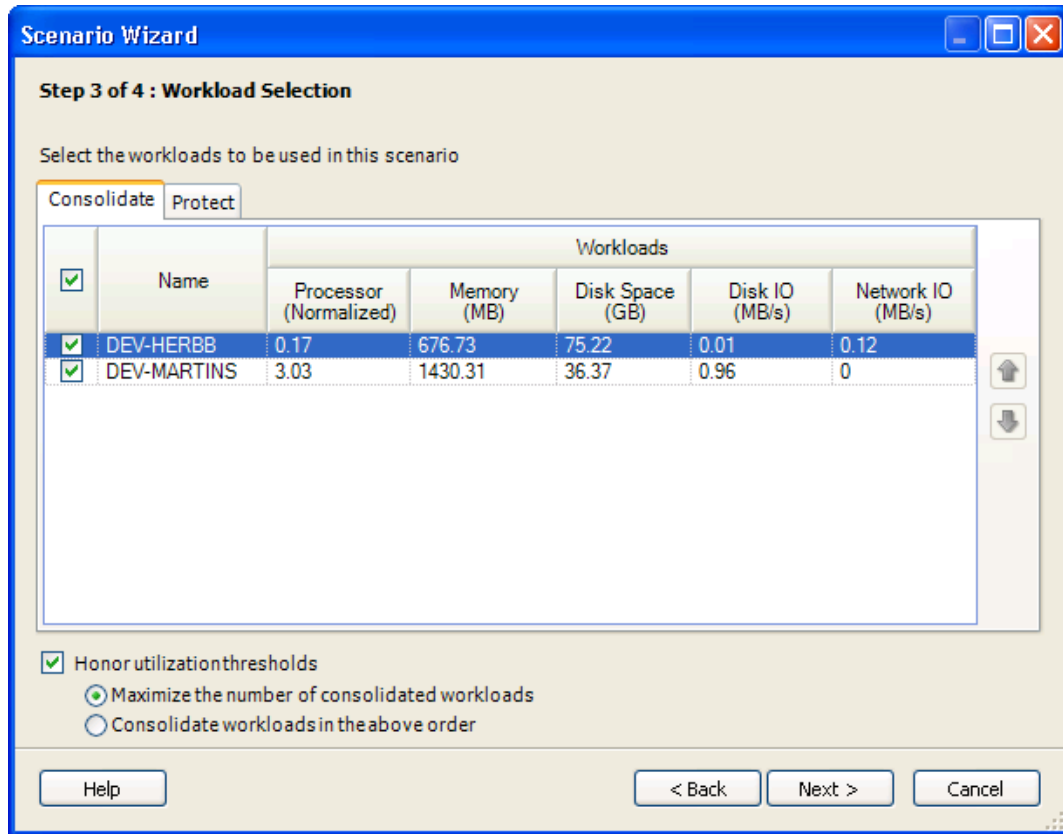
- 9a **[Use processor clock rate to optimize workloads]** : 実際のプロセッサクロックに基づいて CPU を最適化します。詳細については、[221 ページのセクション B.6 「CPU の標準化」](#) を参照してください。
- 9b **[Use normalized speed to optimize workloads]** : 標準化された値に基づいて CPU を最適化します。

このシナリオに基づく統合チャートは、選択した方法によって異なります。
[Use normalized speed to optimize workloads] を選択すると、このシナリオに基づいて作成した統合チャートのプロセッサ使用率と容量の値でも、標準化された値が使用されます。

[Normalized Speed] 関連カラムは、デフォルトでレポートに表示されません。これは、シナリオサマリやワークロード割り当てのレポートで、最適化の方法に [Use normalized speed to optimize workloads] を選択した場合にも当てはまります。保護のみのプロジェクトに基づくシナリオでは、これらの値はグレー表示されません。

- 10 [Next] をクリックします。

[Step 3 of 4: Workload Selection] ダイアログボックスが表示されます。



- 11 (条件付き) [Scenario Type] に対してサーバ統合を指定した場合、シナリオに統合するサーバを選択します。

デフォルトでは、統合のプロジェクトで指定されたサーバがすべて選択されます。

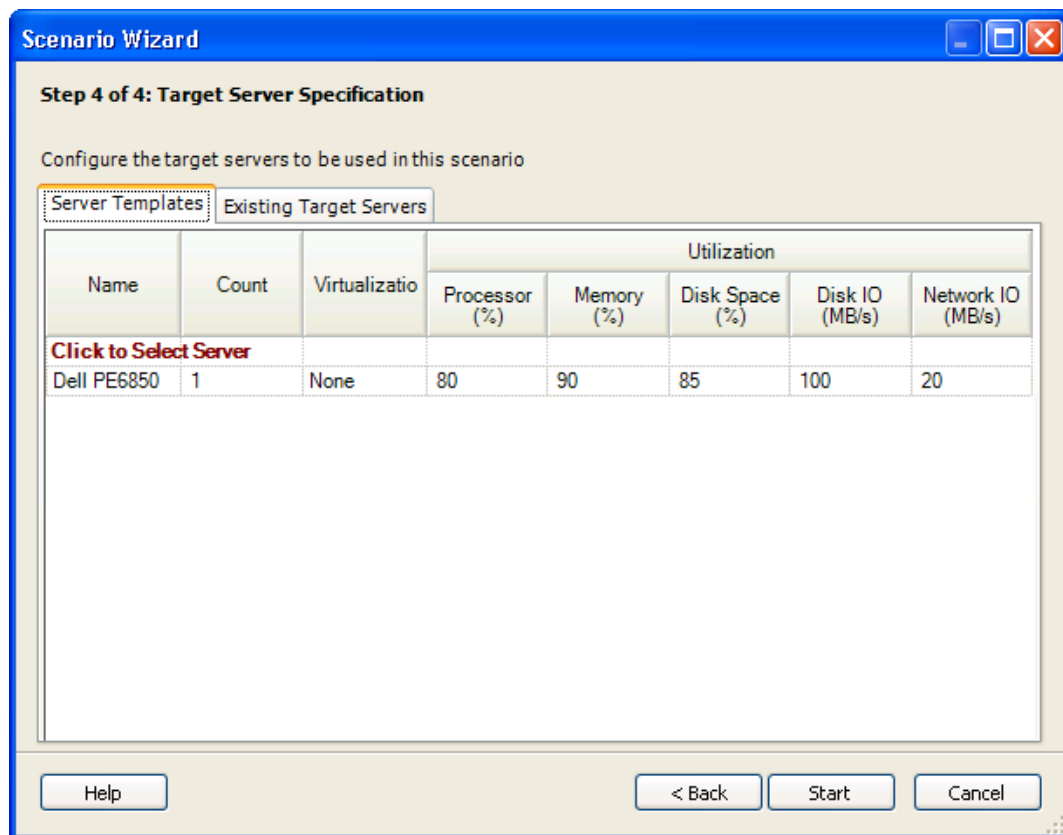
- 12 (条件付き) [Scenario Type] に対してワークロード保護を指定した場合、[Protect] タブでワークロードを選択します。

デフォルトでは、保護のプロジェクトで指定されたワークロードがすべて選択されます。

ターゲットサーバをセットとしてシナリオを実行する場合、ターゲットサーバのセット数がすべてのワークロードを収容するには十分なリソースを持たないケースがあります。

デフォルトでは、[*Honor utilization thresholds*] が選択されます。これによって、設定しきい値より低いターゲットサーバの合計使用率が維持されます。ワークロードの合計が指定サーバの使用率しきい値に違反することはありません。

- 13 次のいずれかのオプションを選択することにより、統合の優先度を定義します：
- ◆ **[Maximize the number of consolidated workloads]** : 最大数のワークロードを統合することを目標として、ワークロードが統合に対して選択されます。表示される順序は関係ないため、上下の矢印は無効になります。
 - ◆ **[Consolidate workloads in the above order]** : 特定の順序で、統合に対してのみワークロードが優先度が付けられます。これにより、特定のワークロードが統合されるようになります。希望の統合優先度順にワークロードを移動させるには、上下の矢印を使用してください。
- 14 [Next] をクリックします。
[Step 4 of 4: Target Server Specification] ダイアログボックスが表示されます。



- 15 [Name] ドロップダウンリストで、使用するサーバテンプレートを選択します。
または
[Click to Select Server] を選択して新しいサーバテンプレートを作成します。
- 16 各サーバテンプレートにカウントを指定します。
- 17 (条件付き) プロジェクトで指定されている既存のサーバターゲットを使用する場合、[Existing Target Servers] タブをクリックしてサーバを選択します。
このオプションは、プロジェクトに既存のターゲットサーバがある場合にのみ使用できます。

18 [Start] をクリックします。

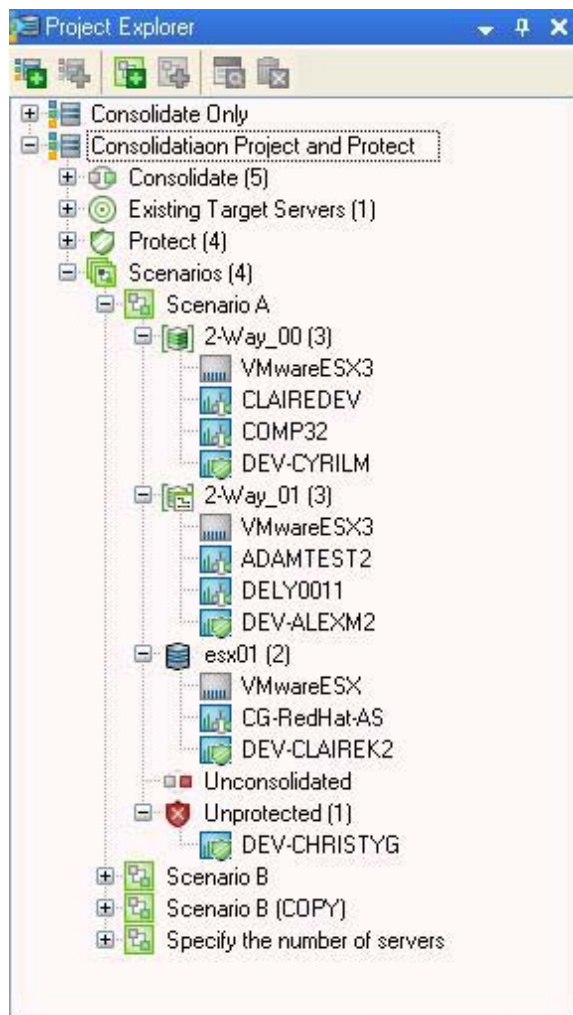
Create Scenario ジョブが実行されます。

進行状況は [Job Explorer] ウィンドウで見ることができます。シナリオは、作成されるとベースプロジェクトの [Scenarios] に表示されます。

6.5.3 統合シナリオの結果

シナリオの結果は、使用するワークロードと選択したサーバテンプレートによって異なります。より大きなターゲットサーバでは、より高い統合率が得られます。作成されたシナリオは、Project Explorer に表示されます。次の図にあるアイコンの説明については、[234 ページの表表 D-6](#)にある Project Explorer アイコンのリストを参照してください。

図 6-1 Project Explorer



仮想化オーバーヘッド: 仮想プラットフォームで構成されたサーバテンプレートをシナリオへの入力として選択した場合、選択した仮想プラットフォームに関連するオーバーヘッドが、各ターゲットサーバ下に追加ワークロードとして表示され、その仮想プラットフォームにちなんだ名前が付けられます。仮想オーバーヘッドワークロードは移動できません。


未統合ワークロード: シナリオ作成プロセス中に統合されなかったサーバを一覧表示します。使用率のしきい値を超えずにサーバを追加できない場合、ワークロードは拒否されます。これらのサーバは、シナリオの [Unconsolidated] の下に一覧表示されます。未統合ワークロードをサーバに移動すると、使用率しきい値に違反することがあります。

非保護ワークロード: シナリオ作成中に保護されなかったサーバを一覧表示します。使用率のしきい値を超えずにサーバを追加できない場合、ワークロードは拒否されます。これらのサーバは、シナリオの [Unprotected] の下に一覧表示されます。非保護のワークロードをサーバに移動すると、使用率しきい値に違反することがあります。

6.5.4 シナリオの編集

Project Explorer では、ワークロードをターゲットサーバ間で、あるいは [Unconsolidated] または [Unprotected] からターゲットサーバにドラッグアンドドロップすることにより移動できます。また、ワークロードを右クリックしてメニューの [Unconsolidate Workload] をクリックすることもできます。

6.5.5 シナリオの削除

- 1 Project Explorer でシナリオを選択します。
- 2  をクリックします。

6.6 インベントリレポートの生成

- [163 ページのセクション 6.6.1 「統合基準を満たすサーバの検出」](#)
- [164 ページのセクション 6.6.2 「統合候補の選択」](#)

6.6.1 統合基準を満たすサーバの検出

- 1 Report Explorer で、[Inventory] メニューの [Hardware Inventory Report] を右クリックし、[Edit Report Template] を選択します。
[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Group] タブをクリックし、このテンプレートに基づいてレポートを作成する場合に使用するフィルタまたはグループを選択します。
- 3 [Views] タブをクリックし、表示を選択します。リストの隣にあるボタンを使用して、表示を追加または編集します。詳細については、[120 ページのセクション 5.4 「ビューのカスタマイズ」](#) を参照してください。
- 4 [Field Filter] タブをクリックします。ドロップダウンリストを使用して、クエリパラメータを指定します。[111 ページの「\[Field Filter\] タブ」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 Report Explorer で、[Hardware Inventory] を右クリックし、[Generate Report] を選択します。
- 7 [Now] に対してレポートをスケジュールし、[Delivery Type] に対しては Report Explorer のデフォルトを受け入れます。

8 [Generate] をクリックします。

レポートが生成された日時として表示されるレポートインスタンスは、Report Explorer のレポートテンプレートの下に表示され、統合要件を満たすサーバが示されたレポートは、Document Viewer でプレビューできます。

6.6.2 統合候補の選択

1 「ハードウェア使用率 - ピーク」に対しては、Report Explorer で [Analysis] レポートテンプレートを右クリックし、メニューの [Edit Report Template] を選択します。

[Edit Report Template] ダイアログボックスが表示されます。

2 [Group] タブで、[163 ページのステップ 1](#) と同じ選択を行います。

3 [Views] タブで、テーブルの表示を選択し、[Edit] をクリックします。

[Create View] ダイアログボックスが表示されます。

4 [General] タブで、レポートに作成するサマリ行を選択します (計算されたデータを含むカラムに適用される)。

5 [Finish] をクリックします。

[Edit Report Template] ダイアログボックスが再び表示されます。

6 監視された全サーバに対する使用率の式を表示するために、[Date Filter] タブで日時の範囲を設定します。

7 [Field Filter] タブで、ドロップダウンリストを使用し、[163 ページのステップ 1](#) で選択したクエリパラメータを指定します。

8 [Summaries] タブで、[AVG] を選択します。

9 [Calculation type] ドロップダウンリストをクリックし、タイプを選択します：

- [Average] : 業務日と業務時間にわたるすべての時間の値の平均。
- [Peak Hour] : 最高の時間値に基づく計算。
- [Total] : タイムフレーム内にあるすべてのデータポイントの合計。たとえば、1 時間という期間に対するディスク IO/ 秒は、「10 ディスク IO/ 秒 x 60 秒 x 60 分 = 36000」になります。計算されたデータを含むカラムのレポートに作成するには、[Summary Rows] を選択してください。

10 [OK] をクリックします。

11 Report Explorer の [Analysis] の下で、編集した「ハードウェア使用率 - ピーク」レポートテンプレートを右クリックし、メニューの [Generate Report] をクリックします。[Delivery Type] に対しては、Report Explorer のデフォルトを受け入れます。

12 [Generate] をクリックします。

レポートが生成された日時として表示されるレポートインスタンスは Report Explorer のレポートテンプレートの下に表示され、レポートは Document Viewer でプレビューできます。

[163 ページのステップ 1](#) と [164 ページのステップ 1](#) で生成された 2 つのレポートを比較して対比することは、統合ニーズの判断に役立ちます。

その際には、生成されたレポートを表示している間セルをクリックし、サーバ/ワークロード計測でカスタマイズ可能なチャートを表示すると便利です。詳細については、[97 ページのセクション 5.1 「Chart Viewer」](#) を参照してください。

6.7 統合レポートの参照

統合レポートは分析に使用できます。Report Explorer で生成されるほかの PlateSpin Recon のレポートとは違い、統合レポートは Project Explorer で生成されます。生成された統合レポートは、ほかの PlateSpin Recon のレポートと同様に、Document Viewer で表示されます。また、統合レポートは保存できず、必要になるたびに生成しなければなりません。

使用可能な統合レポートのタイプは、次のとおりです：

- ◆ 「プロジェクト」レポート
- ◆ 「シナリオサマリ」レポート
- ◆ 「ワークロード割り当て」レポート
- ◆ 「未統合」レポート
- ◆ 「非保護」レポート

「プロジェクト」、「シナリオサマリ」、および「ワークロード割り当て」のレポートは、テンプレートに基づきます。テンプレートは、Report Explorer を通じて編集できます。統合レポートテンプレートの編集に関する詳細については、[117 ページのセクション 5.3.3 「統合」レポートテンプレート](#) を参照してください。

異なるタイプの統合レポートに関する詳細については、次の節を参照してください：

- ◆ [165 ページのセクション 6.7.1 「プロジェクト」レポート](#)
- ◆ [165 ページのセクション 6.7.2 「シナリオサマリ」レポート](#)
- ◆ [168 ページのセクション 6.7.3 「ワークロード割り当て」レポート](#)
- ◆ [169 ページのセクション 6.7.4 「未統合ワークロード」レポート](#)
- ◆ [169 ページのセクション 6.7.5 「非保護ワークロード」レポート](#)

6.7.1 「プロジェクト」レポート

「プロジェクト」レポートは、統合シナリオを比較します。

このレポートを表示するには、プロジェクトをダブルクリックします。「プロジェクト」レポートは、Document Viewer に表示されます。

図 6-2 「プロジェクト」レポートのサンプル

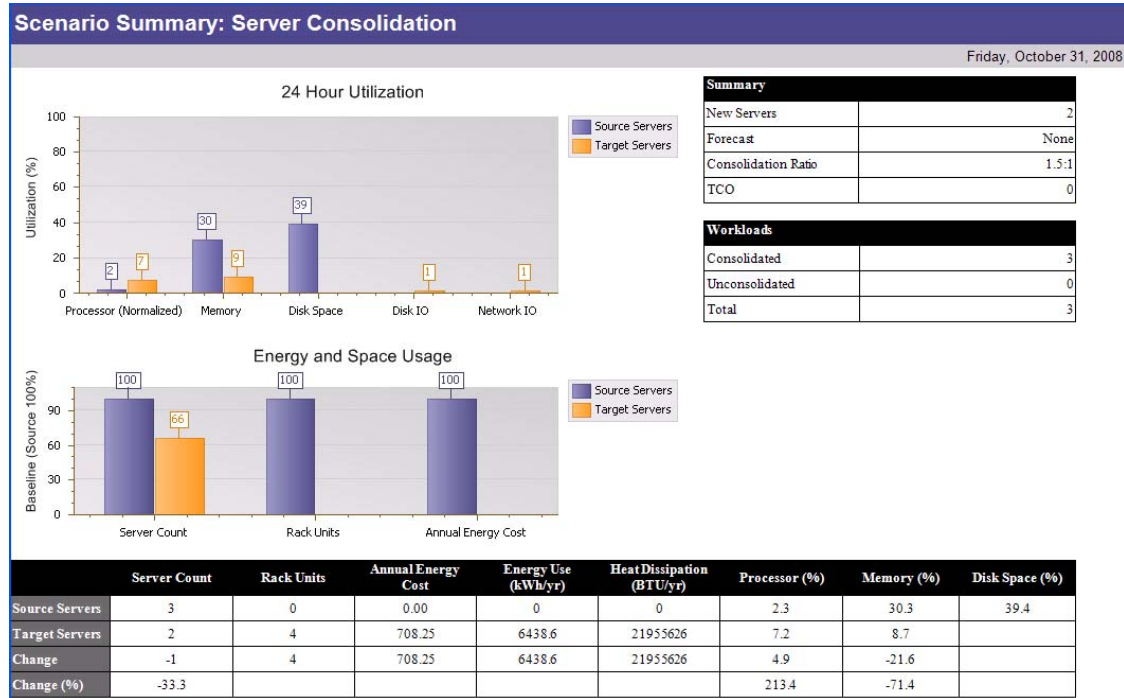
Project: Consolidation and Protection											
											Friday, October 31, 2008
Scenario	Utilization (%)			Workloads		New Servers					
Name	Processor (Speed)	Processor (Normalized)	Memory	Consolidated	Protected	Count	Consolidation Ratio	Protection Ratio	TCO	Rack Units	Power (W)
Before Consolidation	2.41	2.30	30.32	0	0	--	--:1	--	--	--	--
Server Consolidation	11.11	7.21	8.87	2	1	2	1.00:1	0.5:1	0	4	1470
Summary Statistics											
Max	11.10	7.20	8.70	2	1	2	1.0:1	0.5:1	0	4	1470
Avg	11.10	7.20	8.70	2	1	2	1.0:1	0.5:1	0	4	1470
Min	11.10	7.20	8.70	2	1	2	1.0:1	0.5:1	0	4	1470

6.7.2 「シナリオサマリ」レポート

「シナリオサマリ」レポートは、サーバ統合で特定のインフラを使用する値の評価に役立ちます。

選択したシナリオをダブルクリックすると、Document Viewer では「シナリオサマリ」レポート、Chart Viewer では 24 時間プロファイル積み重ね使用率チャートがそれぞれ表示されます。

図 6-3 「シナリオサマリ」レポートのサンプル



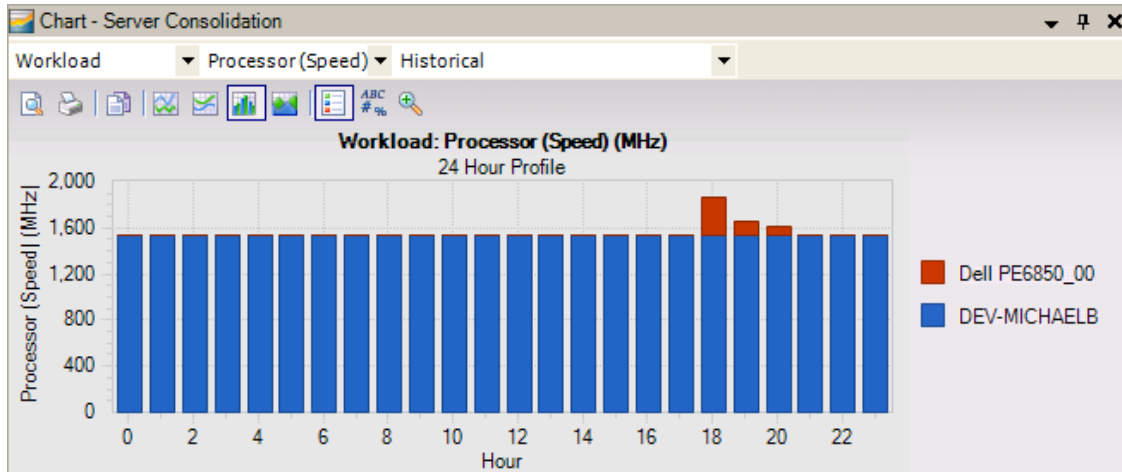
ターゲットサーバが複数ある場合、サマリ統計テーブルは SUM、AVG、MAX、および MIN の値と共に表示されます。

図 6-4 レポートサマリ統計テーブルのサンプル

Machine		Processor	Memory	Disk		Network
Name	Workloads	% MHz used (%)	Used (%)	Used (%)	IO (%)	IO (%)
DEV-MICHAELB	0	24.0	27.0	--	0.0	0.0
Dell PE6850_00	3	3.2	7.5	--	1.0	1.0
Summary Statistics						
Sum	3					
Max	3	24.0	27.0	--	1.0	1.0
Avg	2	13.6	17.3	--	0.5	0.5
Min	0	3.2	7.5	--	0.0	0.0

サーバの任意のセルをクリックすると、ターゲットサーバに割り当てられたすべてのワークロードを持つ 24 時間プロファイル積み重ねチャートが対応して表示されます。

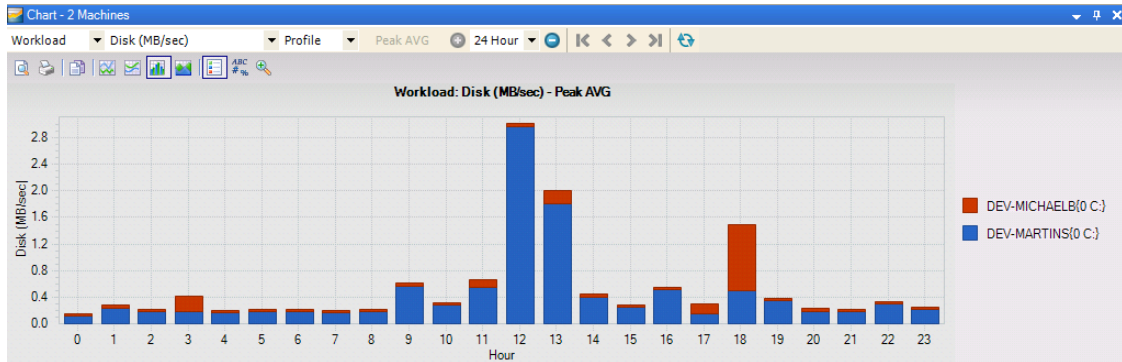
図 6-5 24 時間プロファイル積み重ねチャートのサンプル



24 時間プロファイルチャートの外観

Data Center Explorer と Consolidation Planning Module では、24 時間 (24H) プロファイルの表示が若干異なります。Data Center Explorer で表示されるのは 24 時間プロファイルです。監視されるマシンをいくつか選択し、[Create Chart] をクリックして [Profile] を選択します。ワークロードプロファイルチャートは、タイプごとにそれぞれ個別のリソースインスタンスに対するものであり、各インスタンスとリソースに対して異なる色を表示します。これらの値は、それぞれ与えられた時間に合わせて積み重ねられます。これは、監視期間にわたる特定時間のすべてのインスタンスごとに最大値を出します。積み重ねられたこれらの値が、そこで合計されます。

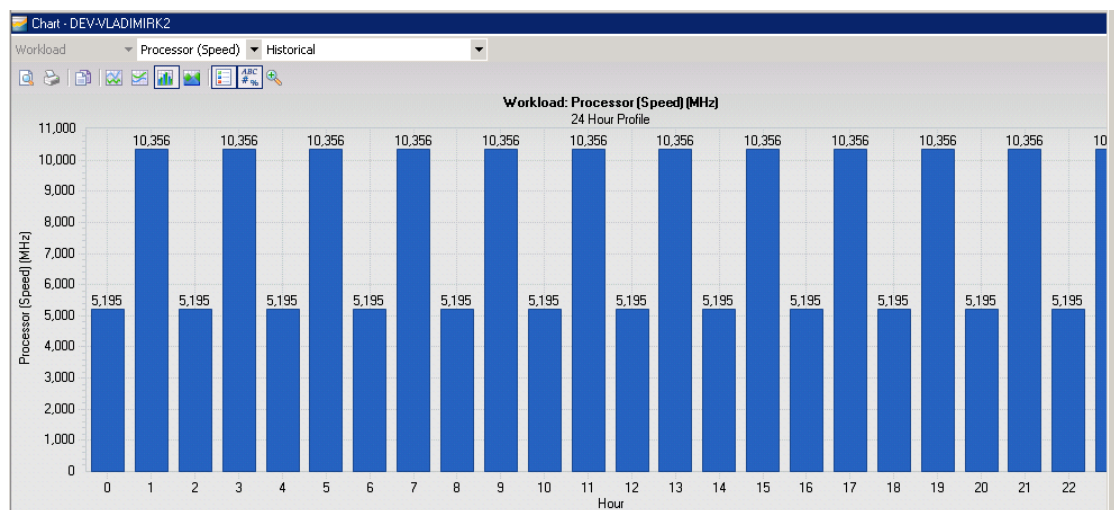
図 6-6 積み重ね値の合計



これは、特定のリソースインスタンスで最大使用率に達している時間をハイライトします。このアプローチは、個別のリソースインスタンスの最大使用率を判断する場合に特に便利です。

Consolidation Planning Module では、24 時間チャートは、各時間に対して合計されるインスタンスとリソースの値を持っており、その時間ごとの合計の最大が識別されます。

図 6-7 Consolidation Planning Module の 24 時間チャート



これは、ワークロードのサマリリソース消費を判断するのに必要になります。

6.7.3 「ワークロード割り当て」レポート

「ワークロード割り当て」レポートでは、サーバに割り当てられているワークロードと、各割り当てサーバでのワークロードの使用率を確認できます。要件に従ってワークロード割り当てを修正することにより、プロジェクトを作成する際に別の種類のサーバオプションを検討することが可能になります。

「ワークロード割り当て」レポートは、個別のターゲットサーバ、またはシナリオに含まれるすべてのターゲットサーバに対して使用できます。

- ◆ 168 ページの「個別のサーバ」
- ◆ 169 ページの「すべてのサーバ」

個別のサーバ

「ワークロード割り当て」レポートと 24 時間プロファイルチャートを表示するには、*Project Explorer* でターゲットサーバをダブルクリックします。

注: 1 時間のサマリデータがない場合、24 時間プロファイルはワークロードに対して作成できません。

割り当てレポートの任意のサーバをクリックすると、ターゲットサーバに割り当てられたすべてのワークロードを持つ 24 時間プロファイル積み重ねチャートが対応して表示されます。ターゲットサーバに対して使用率の値が表示されます。

図 6-8 割り当てレポートで生成した 24 時間プロファイル積み重ねチャート



すべてのサーバ

現シナリオのすべてのサーバに対する「ワークロード割り当て」レポートを表示するには：

- 1 シナリオを右クリックし、ドロップダウンメニューから [View Report] > [View Workload Assignment Report] の順に選択します。

6.7.4 「未統合ワークロード」レポート

「未統合ワークロード」レポートでは、統合計画に含まれていない統合候補ワークロードと、それらが PlateSpin Recon に含まれなかった理由の説明を確認できます。

このレポートを表示するには、シナリオを右クリックして [View Report] を選択し、[View Unconsolidated Report] をクリックします。「未統合」レポートは、Document Viewer に表示されます。

図 6-9 「未統合」レポートのサンプル

Unconsolidated Report		
B384 Project > B384 Scenario2 > Unconsolidated		April 6, 2007
Machine		
<input type="checkbox"/>	Machine Name	Reason
<input type="checkbox"/>	DEV-DAVIDT	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	DEV-NADERS	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	DEV-BORISB	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	DEV-DAVIDK	There are not enough resources in any of the available containers

6.7.5 「非保護ワークロード」レポート

「非保護ワークロード」レポートでは、保護計画に含まれていない統合候補ワークロードと、それらが PlateSpin Recon に含まれなかった理由の説明を確認できます。

このレポートを表示するには、シナリオを右クリックして [View Report] を選択し、[View Unprotected Report] をクリックします。「非保護」レポートは、Document Viewer に表示されます。

図 6-10 「非保護」レポートのサンプル

Unprotected Report		
Project 2 Protect > Scenario A > Unprotected		Monday, April 09, 2007
Machine		
<input type="checkbox"/>	Machine Name	Reason
<input type="checkbox"/>	DEV-DSBUILD	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	FOGBUGZ	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	VM-SRC3	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	VM-SRC6	There are not enough resources in any of the available containers
<input type="checkbox"/>	YONINAVM	There are not enough resources in any of the available containers

6.8 Portability Suite を使用したシナリオの実装

展開するシナリオとサーバを識別したら、PlateSpin Portability Suite を使用して統合と保護を実装できます。シナリオ全体を実装したり、シナリオ内またはシナリオの個別サーバ内でコンテナを分けたりすることができます。

PlateSpin Recon 3.7 では、PlateSpin Portability Suite 8.0.0 をサポートします。PlateSpin Recon 3.7.2 では、さらに PlateSpin Portability Suite 8.1.2 と 8.1.3 もサポートします。

シナリオを実装するには：

- 1 Project Explore r で、シナリオを右クリックし、[*Implement using Portability Suite*] を選択します。

[*Implementing scenario <name> using Portability Suite (Step 1 of 2)*] ダイアログボックスが表示されます。

Implementing scenario MyScenario (2) using PortabilitySuite

Step 1 of 2:
PortabilitySuite Settings

Specify the PortabilitySuite Server you will be using for the consolidation.

PortabilitySuite Server URL: http://localhost/PortabilitySuite
Network Name: Default
PortabilitySuite Credential: gsx01\administrator

Destination

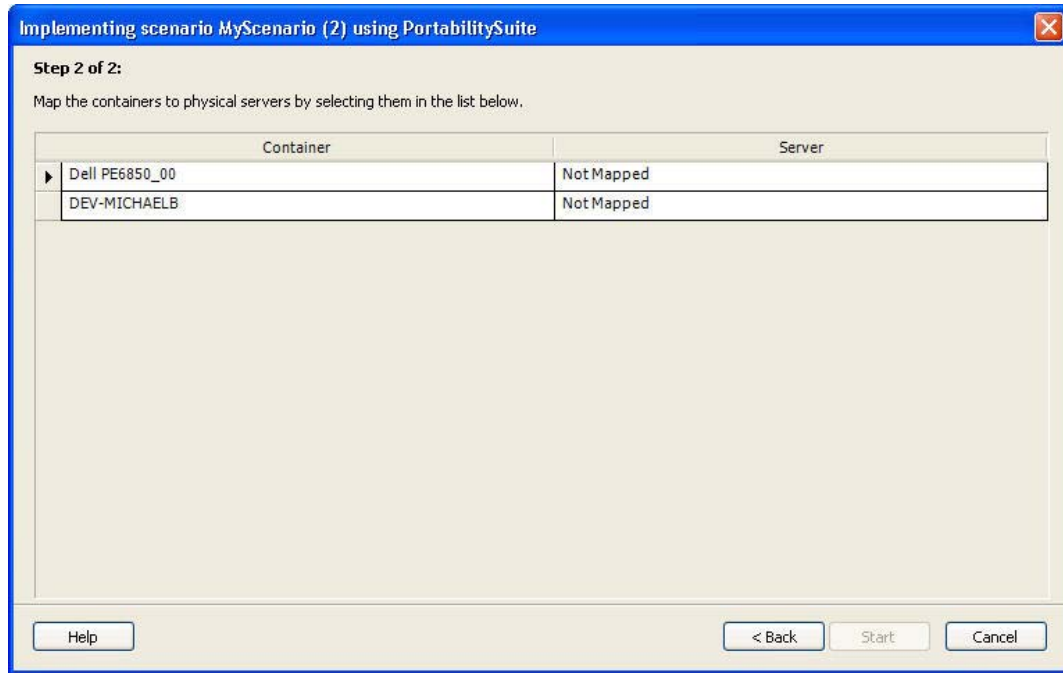
Specify the folder relative to the server where the PortabilitySuite jobs should be saved. Note that the folder should be accessible by the account assigned to the PlateSpin Recon Service.

Directory: c:\temp

Help < Back Next > Cancel

- 2 [*Portability Suite Server URL*] と [*Network name*] の値を確認します。

- 3 ドロップダウンリストを使用して、Portability Suite がシナリオまたはコンテナ内のサーバを検出して変換するのに使う資格情報を選択または作成します。
- 4 Portability Suite ジョブの保存先となるディレクトリを指定します。
- 5 [Next] をクリックします。
[Step 2 of 2] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [Not Mapped] をクリックします。
一致するカラムが表示されるまで、テーブルがドロップダウンします。
複数のコンテナを統合しようとする場合は、ターゲットサーバへのコンテナのマッピングは1対1になります。すでにサーバにマップされている使用できないコンテナは、グレー表示されます。コンテナがマップされていない場合、またはコンテナを含んでいたシナリオが削除されている場合、そのようなコンテナをもう一度使用可能にすることができます。
- 7 [Start] をクリックします。
ジョブが開始すると、PlateSpin Recon では次が実行されます：
 - ◆ サーバを認証します。
 - ◆ Portability Suite でサーバ検出を作成して実行します。
 - ◆ 170 ページのステップ 1 で指定したファイルの場所に、変換ジョブを作成して保存します。デフォルトの場所は、c:\temp です。
 ジョブが完了したら、[PlateSpin Portability Suite Client] ウィンドウ ([File] > [Load Job]) を使用することにより、保存された変換ジョブを Portability Suite マシンにコピーして読み込むことができます。

6.8.1 phantom サーバまたは既存のターゲットサーバの実装

「phantom」(サーバテンプレート)または既存のターゲットサーバレベルで実装するステップは、シナリオの実装に類似しています。つまり、phantom または既存のターゲット仮想マシンサーバを右クリックし、[*Implement Using Portability Suite*] を選択してください。

phantom サーバは、既存のターゲット仮想マシンサーバを示している場合、その既存のサーバにマップすることができます。Portability Suite によってジョブが作成されると、ソースとターゲットのサーバが自動的に構成されます。

phantom をターゲット仮想マシンサーバにマップして展開するには：

- 1 phantom を右クリックし、[*Edit Mapping*] を選択します。

[*Server Mapping*] ダイアログボックスが表示され、仮想マシンを含む使用可能なサーバが一覧表示されます。各マシンに対してデータが一覧表示され、一致カラムには、マシンが phantom に対する一致であるかどうかを示されます。

テスト	結果
CPU	Failure: ターゲットサーバの処理能力がソースサーバの処理能力よりも低い。 Warning: ターゲットサーバに必要以上の処理能力がある。この警告は、ターゲットサーバの処理能力がソースサーバに比べて 500Mhz 以上高い場合に表示されます。 Pass: CPU の一致を容認できます。
ディスク	Failure: ターゲットサーバのディスク容量がソースサーバのディスク容量よりも少ない。 Warning: ターゲットサーバのディスク容量が必要以上に多い。この警告は、ターゲットサーバのディスク容量がソースサーバに比べて 50GB 以上余分にある場合に表示されます。 Pass: ディスクの一致を容認できます。
メモリ	Failure: ターゲットサーバのメモリがソースサーバよりも少ない。 Warning: ターゲットサーバに必要以上のメモリがある。この警告は、ターゲットサーバのメモリがソースサーバに比べて 512MB 以上ある場合に表示されます。 Pass: メモリの一致を容認できます。

- 2 [*Server Mapping*] ダイアログボックスで、phantom のマップ先となるターゲット仮想マシンサーバを選択し、[*OK*] をクリックします。
- 3 新しくマップした phantom を右クリックし、[*Implement Using Portability Suite*] を選択します。
- 4 *Implementing Server Using Portability Suite Wizard* を、[170 ページの「シナリオを実装するには」](#)の説明どおりに完了します。
- 5 [*Start*] をクリックします。

この節では、PlateSpin Recon の柔軟なチャージバック機能の使用について説明します。

- [173 ページのセクション 7.1 「チャージバックについての理解」](#)
- [173 ページのセクション 7.2 「レイターの使用」](#)
- [176 ページのセクション 7.3 「レイターの管理」](#)
- [180 ページのセクション 7.4 「チャージバックレポートニング」](#)

7.1 チャージバックについての理解

PlateSpin Recon の柔軟なチャージバックレポートニング機能を使用すると、仮想化されたリソースの実際の使用状況に基づいてコストを計算できます。その後、IT 部門では、そのようなコストを異なる事業部や部門に割り当てることができます。

PlateSpin Recon は、リソースが多くワークロード間で共有されているコンピューティングリソースの仮想化プールの一部である場合であっても、使用されているリソースの追跡、割り当て、および報告を可能にするだけでなく、レポートを生成して適切な事業部にそれらを配信できるようにします。

チャージバックシステムを設定するには：

- 1 使用状況に対して適切な料金を割り当てるために、レイターを作成します。
レイターを作成する方法の詳細については、[176 ページのセクション 7.3.1 「レイターの作成」](#)を参照してください。
- 2 追跡する特定のマシンにレイターをアタッチします。
マシンにレイターをアタッチする方法の詳細については、[179 ページのセクション 7.3.4 「マシンへのレイターのアタッチ」](#)を参照してください。
- 3 「チャージバック」レポートを生成します。
「チャージバック」レポートの生成方法に関する詳細については、[126 ページのセクション 5.5 「レポートの生成」](#)を参照してください。

注：チャージバックを使用するマシンを独自のグループにまとめると便利です。詳細については、[57 ページのセクション 3.4 「グループの操作」](#)を参照してください。

7.2 レイターの使用

レイターとは、一定時間内のリソース (またはリソースの一部) の使用に対して、請求可能な使用料を割り当てるためのメトリックです。これにより、リソース使用状況データが通貨の値に変換されます。レイターには、次の 3 つのタイプがあります：

- **割り当てレイター：**これらのレイターは、仮想マシンにのみアタッチできます。これらのレイターは、仮想マシンサーバのリソースコストを収集し、リソースの使用状況に基づいたコストの適切な割合を、レイターがアタッチされているそれぞれの仮想マシンに割り当てます。

- ◆ **定額レイター**：これらのレイターは、リソースに定額で料金を割り当てます。たとえば、使用されるディスク容量の定額レイター料金は、1GB あたり月額 1 ドルになる、といった具合です。
- ◆ **階層化レイター**：これらのレイターは、異なる使用状況レベルに対して異なる定額が設定されたリソースに値を割り当てます。たとえば、使用メモリに関して、階層化レイターによる課金を行った場合、1 日あたり 0 ～ 512MB までは 0 ドル、512MB を超える分は 1MB ごとに 0.05 ドル課金される、といった具合です。

次の節を参照してください：

- ◆ [174 ページのセクション 7.2.1 「レイターのリソース」](#)
- ◆ [175 ページのセクション 7.2.2 「レイターの料金」](#)
- ◆ [175 ページのセクション 7.2.3 「仮想サーバのレイター方式」](#)

7.2.1 レイターのリソース

レイターは、リソースの最大使用率、または一定期間内の平均使用率に応じて料金を計算します。例外的に、料金が時間単位のデータに対して課金される場合、平均使用率のみを使用して計算されます。

表 7-1 レイターのリソース

リソース	説明
Uptime (Hours)	<p>料金は、レポートの中で指定された期間中に PlateSpin Recon によって監視されたネットワークエンティティの時間に基づきます。</p> <p>定額レイターおよび階層化レイターでは、[Measurement] および [Time Period] はグレー表示されます。割り当てレイターでは、[Method] もグレー表示されます。</p>
VC_ProcessorTime (hour)	<p>時間ごとの平均使用状況が計算され、レポートの中で指定された期間中の時間平均すべての合計が課金に使用されます。</p> <p>[Measurement] および [Time Period] はグレー表示されます。</p>
Processor (MHz)	<p>[Time Period] に対して「Hour」を選択すると、「Maximum」が選択されていても平均値が強制的に使用されます。</p>
Memory Used (MB)	
Network (MB/sec)	
Disk (MB/sec)	
Disk Space Used (GB)	
Disk Writes (MB/sec)	
Total Processor (Count)	<p>静的なカウンタ課金は静的な値に対して行われます。</p> <p>[Measurement] および [Time Period] はグレー表示されます。</p>
Total Memory (MB)	<p>静的なカウンタ課金は静的な値に対して行われます。</p> <p>[Measurement] および [Time Period] はグレー表示されます。</p>

リソース	説明
Total Disk (GB)	静的なカウンタ。課金は静的な値に対して行われます。 [Measurement] および [Time Period] はグレー表示されます。

注：前のテーブルで説明されている *VC_ProcessorTime* は別として、*VC_specific* カウンタは、チャージバックには不要で、役に立つこともありません。そのため、このカウンタはレイターの作成時には使用できません。必要に応じて、標準メモ리카ウンタ (使用メモリおよび合計メモリ) を使用します。

7.2.2 レイターの料金

定額レイターおよび階層化レイター：料金は、使用状況のすべての測定に対して、マシンに割り当てられたコストの額を表します。たとえば、週あたり 3GB のディスク領域が使用されるごとに、使用料金が適用されます。階層化レイターの場合、料金の値を階層ごとに入力する必要があります。

割り当てレイター：料金は、仮想マシンサーバリソースの総コストを表します。たとえば、仮想マシンサーバのディスク容量に関して、1,000 ドルの月額料金をレイターに含めることができます。レイターがアタッチされているすべての仮想マシンには、選択したリソースの使用状況に比例して、1,000 ドルの中から一定の金額が割り当てられます。たとえば、前述のレイターに基づくと、仮想マシンサーバに、それぞれが 50%、25%、および 10% のディスク領域 (仮想サーバの使用量または仮想サーバの容量のいずれか) を使用する 3 つの仮想マシンが含まれている場合、チャージバックコストとして、それぞれに月額 500 ドル、250 ドル、および 100 ドルが割り当てられます。

重要：Solaris ゾーンでチャージバックを使用する場合、割り当てレイターは、ゾーンではなく、ホストに対する使用料金を次の式を使用して計算します：

$$\text{◆ 料金} = \text{単価} * (\text{ゾーンの総リソース} / \text{ホストの総リソース})$$

ゾーンおよびホストに同数のリソース (CPU、ディスク、またはメモリ) が存在する場合は期待どおりの結果になりますが、これらの数が異なる場合、コスト割り当てレポート内に予期しない結果が表示される可能性があります。

たとえば、ホストには CPU が 2 つあり、ゾーンには CPU が 1 つしかない状況で、プロセッサリソースに対してレイター内の料金が 1 ドルに指定されている場合、料金は、前述の式を用いると 0.50 ドルという結果になります。

ゾーンと比較してかなり多数のリソースがホストに存在する場合、特に、メモリおよびディスクのリソースに目を向けると、結果的には料金が非常に少額になります。「チャージバックコスト割り当て」レポートは、小数点以下 2 桁までしか表示されないため、理論的には変換によってこれらの小さな値が失われてしまい、レポート上の料金がゼロと表示される可能性があります。

7.2.3 仮想サーバのレイター方式

仮想サーバのレイター方式は、レイターがアタッチされている仮想マシンに割り当てられるコストが、仮想マシンサーバのリソースの総使用量の割合、または仮想マシンサーバのリソースの総容量の割合のいずれに基づいて計算されるかを決定します。

たとえば、仮想マシンサーバが 1,000GB のディスク容量を持つ状況で、実際に使用されているのが 800GB の場合、200GB のディスク容量を使用する仮想サーバは、仮想サーバの容量の 20%、または仮想サーバの使用量の 25% を使用していることとなります。料金が月額 1,000 ドルの場合、仮想マシンに課金されるのは、仮想サーバの容量を選択すると 200 ドルで、仮想サーバの使用量を選択すると 250 ドルとなります。

7.3 レイターの管理



レイターは、[Rater Explorer] ウィンドウを使用して管理します。レイターは、追加、編集、または削除することができるほか、検出されたマシンに対してアタッチまたはデタッチすることもできます。Rater Explorer では、現在のレイターとそのアタッチ状況も表示できます。

1 つのマシンに複数のレイターを持たせることができ、1 つのレイターを複数のマシンで使用することができます。料金の評価は、1 マシン対 1 レイターベース (つまり、レイターは一度に 1 つのマシンからのデータを考慮する) で実行されます。

- ◆ [176 ページのセクション 7.3.1 「レイターの作成」](#)
- ◆ [178 ページのセクション 7.3.2 「レイターの削除」](#)
- ◆ [178 ページのセクション 7.3.3 「レイターの編集」](#)
- ◆ [179 ページのセクション 7.3.4 「マシンへのレイターのアタッチ」](#)
- ◆ [180 ページのセクション 7.3.5 「マシンからのレイターのデタッチ」](#)

7.3.1 レイターの作成

1 Rater Explorer で、次のいずれかを実行します：

- ◆  アイコンをクリックします。
- ◆ 作成するレイタータイプを右クリックし、 [New] をクリックします。

[New Rater] ダイアログボックスが表示されます。

New Rater

Rater Type: Allocation Rater Flat Rater Tiered Rater

General

Name:

Description:

Measure

Resource: ▼

Measurement: Average Maximum

Time Period: Hour Day Week Month

Factor:

Charge

Charge: ▼

Help OK Cancel

2 レイタータイプを選択します。

ステップ 1 でレイタータイプを右クリックして新しいレイターの作成を選択した場合、そのレイタータイプが自動的に選択されます。レイタータイプの詳細については、173 ページのセクション 7.2 「レイターの使用」を参照してください。

3 レイターの名前を指定します。

4 (オプション) 説明を指定します。

5 [Resource] ドロップダウンリストで、レイターのリソースを選択します。

リソースは、使用量をカウントするのが目的であるため、カウンタとも呼ばれます。リソースの詳細については、174 ページのセクション 7.2.1 「レイターのリソース」を参照してください。

6 グレー表示されていない場合は、使用するオプションを [Measurement] および [Time Period] で選択します。

[Measurement] に対して [Average] を選択すると、[Time Period] に対して選択した期間全体における平均値が使用されます。[Maximum] を選択すると、[Time Period] に対して選択した期間内のすべての平均値の中から、最大の平均値が使用されます。たとえば、時間別データには 1 日に 24 個の平均値があるため、それらの 24 個の平均値すべての中で最大の平均値が、料金の値に対して使用されます。

- 7 [Factor] オプションで、課金に使用するために選択されているリソース単位の倍数である「係数」を指定します。
たとえば、使用されたディスク領域 3GB ごとに、2 ドルを課金するとします。この場合、[Factor] には「3」を指定します。
- 8 [Charge] オプションで、レイターの料金 (金銭価値) を指定し、ドロップダウンリストから通貨タイプを選択します。
詳細については、[175 ページのセクション 7.2.2 「レイターの料金」](#) を参照してください。
- 9 (オプション) 割り当てレイターの場合 (仮想マシンのみ)、[Method] ドロップダウンリストから仮想サーバのレイター方式を選択します。
詳細については、[175 ページのセクション 7.2.3 「仮想サーバのレイター方式」](#) を参照してください。
- 10 [OK] をクリックします。
新しいレイターが、[Rater Explorer] ウィンドウの適切なレイタータイプの下に表示されます。



7.3.2 レイターの削除

[Rater Explorer] ウィンドウで、次のいずれかを実行します：

- ◆ 削除するレイターを選択し、 アイコンをクリックするか、または <Delete> を押しします。
- ◆ 削除するレイターを右クリックし、 [Delete] をクリックします。

7.3.3 レイターの編集

1 Rater Explorer で、次のいずれかを実行します：

- ◆ 編集するレイターを選択し、 アイコンをクリックします。
- ◆ 編集するレイタータイプを右クリックし、 [Edit] をクリックします。

[Edit Rater] ダイアログボックスが表示されます。

2 レイターの値を希望どおりに編集します。

注：レイタータイプを編集することはできません。レイタータイプを変更するには、レイターを削除してから、希望のタイプのレイターを同じ名前で新規に作成する必要があります。

3 [OK] をクリックします。

確認のプロンプトウィンドウが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

レイターの名前を変更した場合、古い名前を持つレイターは [Rater Explorer] ウィンドウから削除され、新しい名前を持つレイターが [Rater Explorer] ウィンドウに追加されます。



マシンにアタッチされたレイターを削除しても、削除されたレイターに固有のチャージバック計算からマシンが除外されるだけで、マシンには影響はありません。

7.3.4 マシンへのレイターのアタッチ

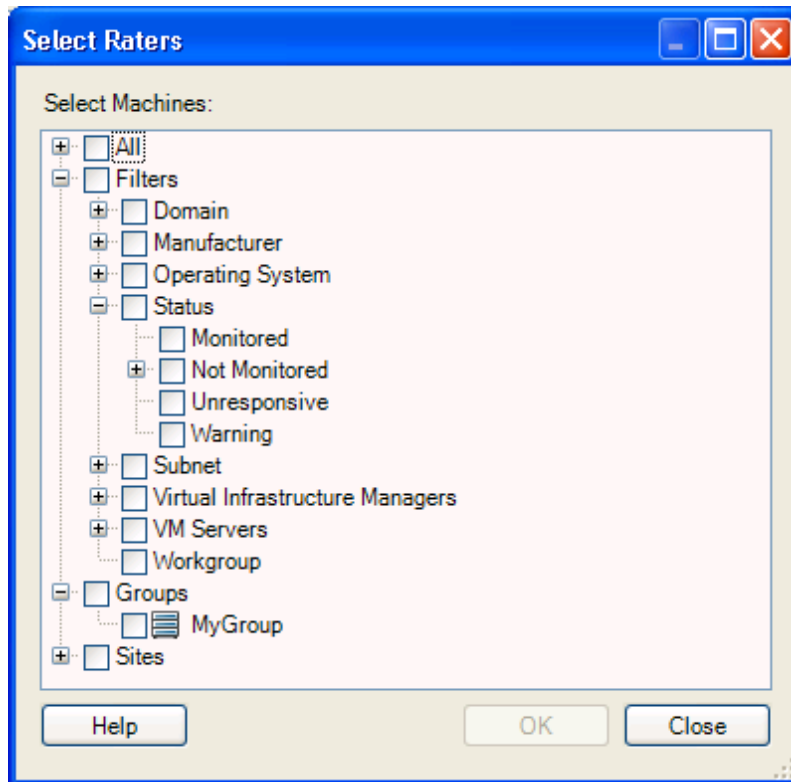
マシンは、そのリソースにレイターがアクセスできるようにするために、インベントリされる必要があり、ほとんどの場合、監視される必要があります。その後、レイターをマシンにアタッチすることで、マシンにコストを計算させ、レポート用とそのコストを使用可能にする必要があります。

PlateSpin Recon では、料金を計算するために、インベントリデータを使用する合計プロセス、合計メモリ、および合計ディスクを除くすべてのカウンタに関する監視データが必要です。

1 Rater Explorer で、次のいずれかを実行します：

- ◆ マシンにアタッチするレイターを選択し、 アイコンをクリックします。
- ◆ 編集するレイタータイプを右クリックし、 [Attach] をクリックします。

[Select Raters] ダイアログボックスが表示されます。



また、[Data Center Explorer] ウィンドウを使用して、レイターをマシンにアタッチすることもできます。レイターの追加先となるマシンを右クリックし、メニューから [Chargeback] をクリックします。[Raters for machine_name] ウィンドウが表示され、その中でレイターを選択し、[Add] ボタンまたは [Remove] ボタンを選択することで、レイターを追加または削除できます。このウィンドウでレイターを追加または削除すると、[Rater Explorer] ウィンドウでレイターをアタッチまたはデタッチした場合と同じ結果になります。

2 レイターの追加先となるマシンの隣にあるチェックボックスを選択します。

マシンは複数選択することができます。



レイターは、[Select Raters] ダイアログボックスから選択することで、グループ、サイト、またはフィルタにアタッチできます。

3 [OK] をクリックします。

レイターをアタッチしたマシンが、[Rater Explorer] ウィンドウ内のそのレイターの下に表示されます。

7.3.5 マシンからのレイターのデタッチ

Rater Explorer で、次のいずれかを実行します：

- ◆ レイターのデタッチ元であるマシンを選択し、 アイコンをクリックします。
- ◆ レイターのデタッチ元であるマシンを右クリックし、 [Detach] をクリックします。

レイターは直ちにデタッチされ、[Rater Explorer] ウィンドウ内のレイターの下にマシンが表示されなくなります。

7.4 チャージバックレポーティング

[Report Explorer] ウィンドウ内のチャージバックノードの下にあるコスト割り当てレポートを使用して、特定の期間に対するチャージバック値を計算し、チャージバックのデータを含むレポートを生成します。「チャージバック」レポートには、「インベントリ」レポートで使用可能なカラムに加え、マシンにアタッチされているレイター、それらのタイプ、計算済みのコスト、および説明を含めることができます。

- ◆ [180 ページのセクション 7.4.1 「IT チャージバックコストを計算するレポートの生成」](#)
- ◆ [180 ページのセクション 7.4.2 「計算済みコストの生成」](#)

7.4.1 IT チャージバックコストを計算するレポートの生成

特定の事業部向けの IT チャージバックコストを計算するレポートを生成するには、[Chargeback - Calculated Cost] カラムがレポートに含まれていることを確認します。[Create View] ダイアログボックスの [Groups] タブで、[Machine - Department] や [Machine - Billing Code] などのカラム別のグループを作成します。

生成されたレポートには、すべての部門、請求コード、またはグループ化に使用されるその他のカラムの合計チャージバックコストが含まれます。

レポートの生成に関する詳細については、[97 ページの第 5 章「チャートとレポートの生成および表示」](#)を参照してください。

7.4.2 計算済みコストの生成

「コスト割り当て」レポート内の [Calculated Cost] に対する値は、マシンがアタッチされているレイターおよび指定された期間に基づいて生成されます。

図 7-1 レイターのサンプル

The image shows a Windows-style dialog box titled "Edit Rater". At the top, there are three radio buttons for "Rater Type": "Allocation Rater", "Flat Rater" (which is selected), and "Tiered Rater". Below this, there are three sections: "General", "Measure", and "Charge".

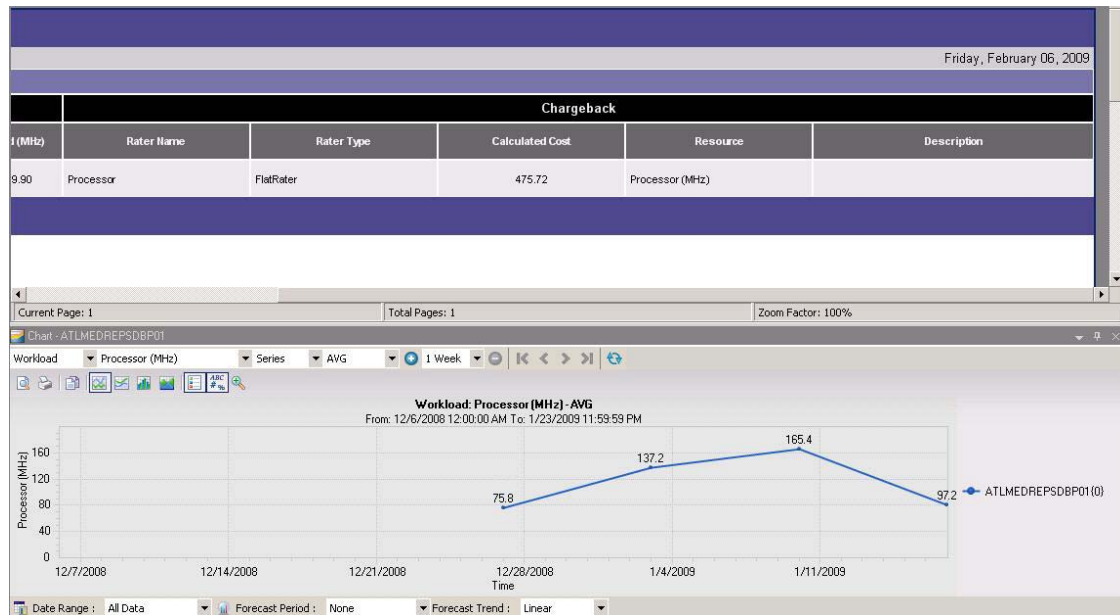
- General:** A text box for "Name" contains "MyRater". A larger text box for "Description" is empty.
- Measure:** A dropdown menu for "Resource" is set to "Processor (MHz)". Below it are four radio buttons for "Time Period": "Hour", "Day", "Week" (selected), and "Month". Below that are two radio buttons for "Measurement": "Average" (selected) and "Maximum". A text box for "Factor" contains "1.00".
- Charge:** A text box for "Charge" contains "1.00". To its right is a dropdown menu for currency, set to "US Dollar (USD)".

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "Help", "OK", and "Cancel".

前述のレイターにアタッチされているマシンは、1MHzのプロセッサ使用量につき毎週1.00ドル課金されます。

このマシンについてコスト割り当てレポートが実行されると、PlateSpin Reconは、レポート内で週ごとのその週のプロセッサの使用量の合計を計算し、その値にレイターで指定された料金を掛けます。次の図は、プロセッサ使用量チャートのサンプルと、結果の「チャージバックコスト割り当て」レポートを示しています。

図 7-2 チャートのサンプルとそれに関連する「チャージバック」レポート



4つのデータポイントが合計されて単位コストが掛け合わされることで、計算済みコストが生成されます。この計算の値とレポートに示されている値がわずかに異なるのは、チャートの値が小数点以下1桁に四捨五入されているためです。この例では、次のようになります：

- ◆ $(75.8 + 137.2 + 165.4 + 97.2) * 1.00 = 475.6$

PlateSpin Recon の仮想インフラ管理ツールは、データセンターにおける仮想インフラストラクチャの管理を容易にします。このようなツールには、Virtual Center の監視機能や、Virtual Center により管理される仮想マシンに関する最新情報を取得するために定期的なインベントリジョブを設定する機能が含まれます。また、「VM スプロールレポート」は、データセンターの仮想マシンの年代、最終変更、最終起動日時などの情報を提供するために、1 回または定期的に生成できます。

- ◆ 183 ページのセクション 8.1 「Virtual Center のインベントリと監視」
- ◆ 185 ページのセクション 8.2 「VM スプロールレポート」
- ◆ 185 ページのセクション 8.3 「「仮想マシン状態」レポート」

8.1 Virtual Center のインベントリと監視

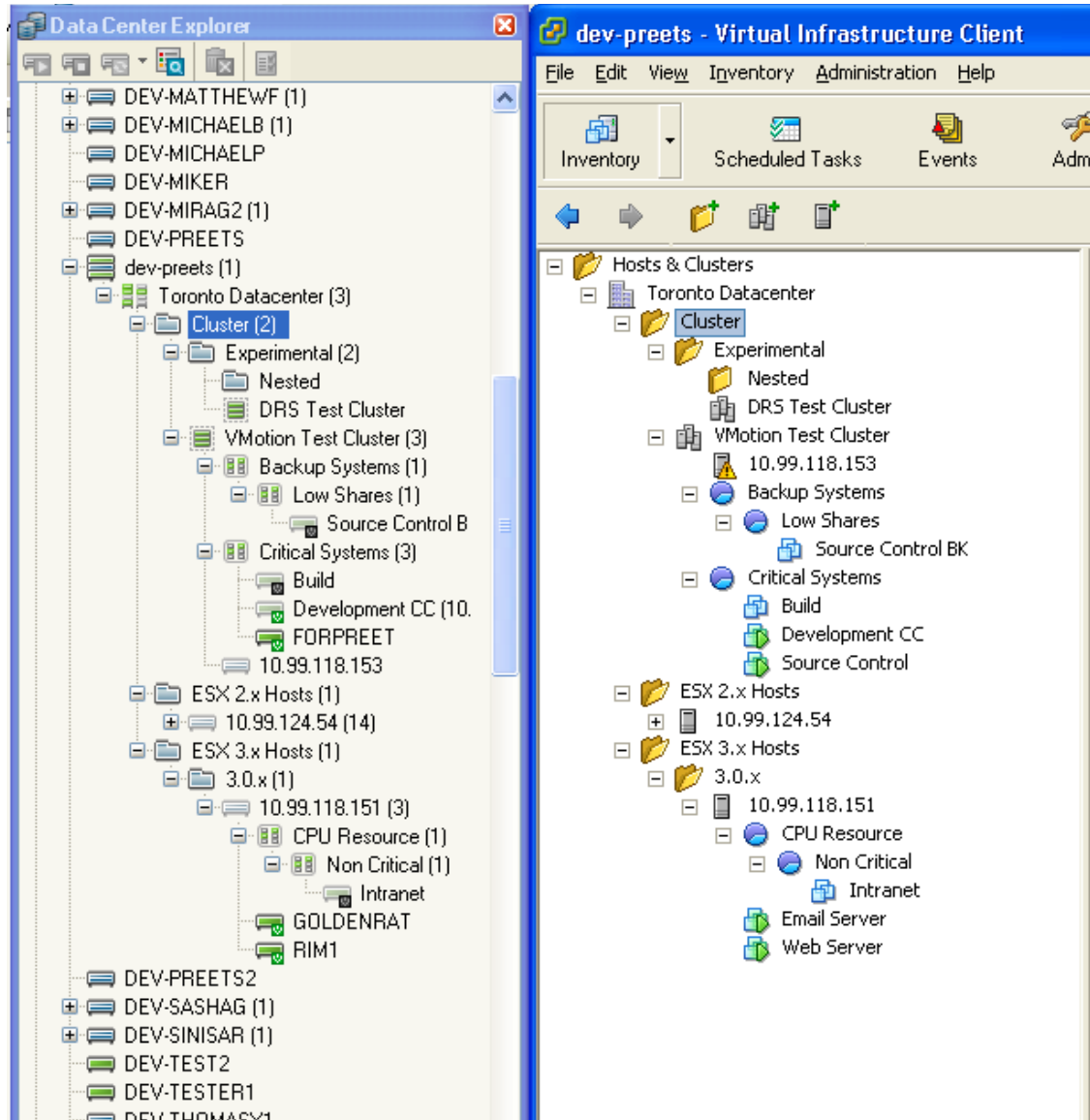
Virtual Center の直接のインベントリと監視機能により、複数の仮想マシンを個別にインベントリするのではなく、1 か所の集中管理されたポイントからより効果的にインベントリできるようになります。

Virtual Center を通じた監視は、Virtual Center および ESX ホストにより検出される仮想マシンのリソース使用状況のピクチャであるため、仮想マシンを直接監視する場合とは異なる情報を提供します。この情報は、仮想マシンがそれぞれ独自のリソース使用率についてレポートするものよりも正確です。たとえば、割り当てられた処理能力の 90% を使用している仮想マシンは、そのプロセッサの使用状況を 90% として報告します。しかし、実際には、ホストプロセッサの能力の 30% しか割り当てられていない場合があります。この違いについては、仮想マシンが使用しているホストプロセッサの割合をレポートする Virtual Center を通じて監視することによってのみ検出できます。

この違いは、物理サーバを仮想マシンに統合するだけの場合に比べて、仮想マシンの使用状況の管理と最適化に焦点を当てたデータセンターなどの場所ではより便利になります。

Virtual Center がインベントリされると、その関連付けられたマシンが Data Center Explorer に階層で表示されます。これは、すべてのデータセンター、フォルダ、クラスタ、およびプールを含む VMware Virtual Infrastructure Client 階層を反映するものです。

図 8-1 Data Center Explorer と VMware Virtual Infrastructure Client の比較



Virtual Center のインベントリ機能では、Virtual Center の一部であるすべてのマシンを検出するため、それらをインベントリし、監視できます。仮想マシンが Virtual Center を通じてインベントリされている場合、Virtual Center にノードとして表示されるだけでなく、Data Center Explorer の [All] の下にインベントリされたマシンとしても表示されます。いずれのノードもその後、監視の開始のために使用できます。

Virtual Center のクラスタを右クリックすると、Virtual Center で設定されているそのプロパティを表示できます。

Virtual Center の一部である仮想マシンが監視される際には、プロセッサ時間などの特定の値が、仮想マシンから、および Virtual Center を通じて、直接収集されます。Virtual Center を通じて収集される値には、VC という文字が先頭に付けられます (例: VC_ProcessorTime)。

Virtual Center をインベントリする方法の詳細については、[34 ページの「\[Virtual Center\]」](#)を参照してください。

8.2 VM スプロールレポート

「VM スプロールレポート」では、PlateSpin Recon が検出したすべての仮想マシンに関する情報を、それらのサーバの情報と共に表示します。

注: VM がクラスタの下にあり、親ホスト ESX マシンが PlateSpin Recon によりインベントリされていない場合、VM はこのレポートの Cluster グループの下に表示されます。

このレポートは、データセンターに常駐する仮想マシンの数と場所を追跡するために使用できます。「VM スプロールレポート」情報は、仮想マシンのホストサーバから取得されます。

Citrix XenServer プールも PlateSpin Recon によりインベントリされ、これらのプールは Virtual Center と同様に扱われます。また、「VM スプロールレポート」は、これらのプールに関するレポートिंगに対しても使用できます。

「VM スプロールレポート」テンプレートは、Reports Explorer の [Inventory Reports] セクションにあります。「インベントリ」レポートの詳細については、[108 ページのセクション 5.2.5 「レポートテンプレートの操作」](#)を参照してください。

8.3 「仮想マシン状態」レポート

「仮想マシン状態」レポートは、VM Servers フィルタにあるマシンのみを表示します。これは、Reports Explorer の [Inventory Reports] セクションの下にあります。インベントリレポートの詳細については、[108 ページのセクション 5.2.5 「レポートテンプレートの操作」](#)を参照してください。

トラブルシューティング

A

この節では、Novell PlateSpin Recon の使用時に発生する可能性がある問題とその解決方法について説明します。

- ◆ 189 ページの「オペレーティングシステムが再フォーマットされたマシンで、インベントリ更新や監視に失敗する」
- ◆ 189 ページの「Citrix XenServer に対するディスクパーティションが表示されない」
- ◆ 189 ページの「PlateSpin Recon で、Citrix XenServer 4.0 マシンに接続されている FC SAN ディスクのインベントリに失敗する」
- ◆ 190 ページの「Solaris マシンや Linux マシンのインベントリに失敗し、エラーが返される」
- ◆ 190 ページの「ESX 3.0 に対して Disk IO メトリックスを使用できない」
- ◆ 190 ページの「Queue Length メトリックスが Virtual Center と ESX に対して収集されない」
- ◆ 190 ページの「Windows マシンの監視に失敗し、レジストリキーへのアクセスに関連するエラーが返される」
- ◆ 191 ページの「AIX マシンに対するエラーがディスクパーティションカウンタによって報告される」
- ◆ 191 ページの「Citrix XenServer の loop7 パーティションが、新しいディスクとしてインベントリおよび監視される」
- ◆ 191 ページの「Connoi ハードウェアにインストールされた Windows オペレーティングシステムに対して、プロセッサモデルを検出できない」
- ◆ 191 ページの「PlateSpin Recon のインベントリにサーバを追加しようとする、問題が発生する」
- ◆ 192 ページの「PlateSpin Recon のスナップショットからマシンをインポートすることに失敗する」
- ◆ 192 ページの「Windows XP マシンの監視中に、警告メッセージが監視ログに記録される」
- ◆ 192 ページの「新規に追加したディスクまたはボリュームに対するデータ収集の監視が、Windows マシンで遅延する」
- ◆ 193 ページの「ディスク使用率に関連するカウンタのデータが、Solaris サーバに対して収集されないことがある」
- ◆ 193 ページの「Solaris の切断されているディスクに対して、いくつかのディスクカウンタのデータが正しく表示されない」
- ◆ 193 ページの「重複した SMBIOS ID が仮想マシンにある場合、ESX マシンのインベントリに失敗する」
- ◆ 193 ページの「Windows マシンの監視に失敗することがある」
- ◆ 194 ページの「Windows マシンのディスク使用状況に基づく「ディスク分析」レポートまたはレイターの生成に失敗することがある」
- ◆ 194 ページの「Windows マシンを監視すると、「Category does not exist」というエラーが監視ログに表示される」

- ◆ 196 ページの「W3P サービスによって高メモリが消費されている、または W3P サービスがシステムメモリ不足の例外により終了した」
- ◆ 196 ページの「ワークロードに対するチャートを表示すると Disk Space (GB) の値が存在するが、シナリオでは Disk Space % が 0 と表示される」
- ◆ 196 ページの「Windows 2008 SP1 Hyper-V で実行されている仮想マシンを監視すると、% Total Run Time カウンタに関するエラーが表示される」
- ◆ 197 ページの「Citrix XEN サーバで実行されている Windows 仮想マシンを監視すると、Xen_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond カウンタと Xen_PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond カウンタに関するエラーが表示されることがある」
- ◆ 197 ページの「Windows Disk Counters アドオンを Windows Server 2008 SP2 Hyper-V ホストとそのゲスト仮想マシンで実行することを選択した場合、そのアドオンの展開や展開解除に失敗する」
- ◆ 197 ページの「割り当てレイターを使用して「コスト割り当て」レポートを生成できない」
- ◆ 198 ページの「sudo ユーザ資格情報を使用した Linux マシンの監視に失敗することがある」
- ◆ 198 ページの「レガシネットワークアダプタで構成されており、Windows Server 2008 SP1/SP2/R2 Hyper-V ホストで実行される仮想マシンに対し、HyperV_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond の値が正しくない」
- ◆ 199 ページの「Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除した後、リモートレジストリサービスの再起動に失敗し、エラーが返される」
- ◆ 199 ページの「Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除すると、「The process cannot access the file because it is being used by another process」というエラーが返されることがある」
- ◆ 200 ページの「CSV を使用してインベントリされたマシンに対するインベントリのリフレッシュと監視に失敗することがある」
- ◆ 200 ページの「UNIX マシンの大規模なセットに対して [Stop Monitoring] と [Start Monitoring] を連続してクリックすると、エラーが発生することがある」
- ◆ 201 ページの「PlateSpin Recon クライアントでは、ジョブが完了した後でも、そのジョブの状態が「実行中」と誤表示されることがある」
- ◆ 201 ページの「PlateSpin Recon の監視サービスを停止するのにかなりの時間がかかったり、PlateSpin Recon の監視サービスの再起動に失敗したりすることがある」
- ◆ 201 ページの「Log Explorer に「Client data may be out of date」という警告が表示されることがある」
- ◆ 202 ページの「PlateSpin Recon の監視サービスがメモリ不足の例外により終了した」
- ◆ 202 ページの「Portability Suite から PlateSpin Recon ジョブをロードすると、資格情報に固有のエラーが表示されることがある」
- ◆ 202 ページの「Solaris マシンのインベントリに失敗する」
- ◆ 202 ページの「予測プロジェクトに対するシナリオの作成に失敗し、メモリ不足の例外が返されることがある」
- ◆ 203 ページの「PostgreSQL データベースから「分析」レポートを生成するのにかなりの時間がかかることがある」

- ◆ 203 ページの「指数近似予測を使用してプロジェクトが作成された場合、シナリオの作成に失敗することがある」
- ◆ 203 ページの「AIX マシンにアタッチされているディスクのストレージタイプが「不明」と表示される」
- ◆ 203 ページの「Citrix Xen 仮想マシンを含むスナップショットのインポートに失敗する」

オペレーティングシステムが再フォーマットされたマシンで、インベントリ更新や監視に失敗する

ソース： PlateSpin Recon - インベントリと監視。

説明： マシンがインベントリされた後でそのマシンのオペレーティングシステムを再フォーマットした場合、インベントリ更新や監視に失敗する。

考えられる原因： マシンに関連付けられている資格情報や監視プラグインが、オリジナルのオペレーティングシステムに対応している。

アクション： PlateSpin Recon クライアントの Data Center Explorer で、次のタスクを実行してください：

- 1 オペレーティングシステムが再フォーマットされたマシンから既存のオブジェクトを削除します。
- 2 マシンをインベントリまたは監視します。

マシンをインベントリまたは監視する方法の詳細については、[32 ページのセクション 3.2 「データセンターのリソースの検出およびインベントリ」](#)を参照してください。

Citrix XenServer に対するディスクパーティションが表示されない

ソース： PlateSpin Recon - インベントリ。

説明： インベントリされた Citrix XenServer のディスクパーティションが、そのサーバの [Properties] ページにある [Storage] タブに表示されない。

考えられる原因： Citrix XenServer は、デフォルトにより論理ボリュームに対してはフォーマットされているが、パーティションに対してはフォーマットされていない。現時点では、LVM のインベントリとレポートの機能が PlateSpin Recon にはない。

アクション： なし。

PlateSpin Recon で、Citrix XenServer 4.0 マシンに接続されている FC SAN ディスクのインベントリに失敗する

ソース： PlateSpin Recon - インベントリ。

説明： Citrix XenServer 4.0 マシンに接続されている FC SAN ディスクが、PlateSpin Recon でインベントリされない。結果として、Citrix XenServer の [Properties] ページにある [Storage] タブにディスクが表示されない。

考えられる原因: FC SAN ディスクの識別をサポートするオペレーティングシステムコマンドと Xen API が、PlateSpin Recon がない。

アクション: なし。

Solaris マシンや Linux マシンのインベントリに失敗し、エラーが返される

ソース: PlateSpin Recon - インベントリ。

説明: Solaris マシンや Linux マシンのインベントリに失敗し、エラーが返される。

考えられる原因: Solaris マシンまたは Linux マシンの /tmp ディレクトリに、十分な空き領域がない。

アクション: Solaris マシンまたは Linux マシンをインベントリする前に、該当のマシンの /tmp ディレクトリに最低 50M の空き領域があることを確認してください。

ESX 3.0 に対して Disk IO メトリックスを使用できない

ソース: PlateSpin Recon。

説明: Chart Viewer で、Disk IO% カウンタが ESX 3.0 に対して表示されない。

考えられる原因: ESX 3.0 では、Disk IO% の計算に使用される必須カウンタをサポートしていない。

アクション: なし。

Queue Length メトリックスが Virtual Center と ESX に対して収集されない

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: QueueLength メトリックスが、直接または vCenter を通じて監視される ESX のどのタイプのストレージボリューム (ローカルまたは共有) に対しても収集されない。

考えられる原因: Virtual Center と ESX では、QueueLength メトリックスに対する必須カウンタをサポートしていない。

アクション: なし。

Windows マシンの監視に失敗し、レジストリキーへのアクセスに関連するエラーが返される

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: Windows マシンの監視に失敗し、次のエラーが監視ログに含まれる:

```
Access to the registry key key_number is denied.
```

考えられる原因: レジストリキーが、他のアプリケーションによって同時に読み込まれている。

アクション: このエラーは無視してください。他のアプリケーションによってレジストリキーが解放されると、PlateSpin Recon では自動的にデータを収集します。

AIX マシンに対するエラーがディスクパーティションカウンタによって報告される

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

説明： 次のカウンタのデータが、AIX マシンに対して収集されない：

- ◆ PhysicalDisk_PartitionedSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_UnpartitionedSpaceGB
- ◆ PhysicalDisk_PercentPartitionedSpace
- ◆ PhysicalDisk_PercentUnpartitionedSpace

また、警告メッセージがログに表示される。この警告メッセージには問題の解決方法も含まれている。

考えられる原因： PlateSpin Recon では、AIX に対するディスクパーティションカウンタをフェッチするために、意図的に `lspv` コマンドを使用する。このコマンドが AIX マシンで実行されると、マシンはハングしたりスピードダウンしたりすることがある。AIX では、これは既知の問題である。

アクション： 警告メッセージ内で推奨されているタスクを実行してください。

Citrix XenServer の loop7 パーティションが、新しいディスクとしてインベントリおよび監視される

ソース： PlateSpin Recon - インベントリと監視。

説明： XenServer ツールをインストールするために、Citrix XenServer ホストの VM の `/dev/xvd` にある DVD ドライブに XenServer ツール ISO をマウントすると、その Citrix XenServer ホストによって、マウントした ISO と同じサイズのディスクパーティションが作成される。Citrix XenServer のインベントリまたは監視を実行した場合、PlateSpin Recon では、そのディスクパーティションを新しいディスクと見なし、loop7 としてマシンのプロパティとチャートにレポートする。

アクション： なし。

Connoi ハードウェアにインストールされた Windows オペレーティングシステムに対して、プロセッサモデルを検出できない

ソース： PlateSpin Recon - インベントリと監視。

アクション： なし。

PlateSpin Recon のインベントリにサーバを追加しようとすると、問題が発生する

ソース： PlateSpin Recon - インベントリ。

説明： PlateSpin Recon のインベントリにサーバを追加しようとすると、次のエラーメッセージを含む問題が発生することがある：

```
Network Path Not found
```

```
Access Denied
```

```
The RPC Server is unavailable
```

```
Failed. The Network location cannot be reached
```

アクション: ナレッジベースの記事 [Q20525 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20525\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20525): Troubleshooting problems when adding servers to the PlateSpin Recon Inventory を参照してください。

PlateSpin Recon のスナップショットからマシンをインポートすることに失敗する

ソース: PlateSpin Recon - スナップショット。

説明: PlateSpin Recon のスナップショットからマシンをインポートしようとすると、次のエラーメッセージが表示されることがある:

```
Cannot import MachineObject 'MACHINE-NAME [MACHINE-NAME]'
```

アクション: ナレッジベースの記事 [Q20900 \(http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20900\)](http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20900): Cannot import MachineObject error when importing a machine from a snapshot を参照してください。

Windows XP マシンの監視中に、警告メッセージが監視ログに記録される

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: Windows XP マシンの監視中に、次の警告メッセージが監視ログに記録される:

```
The interface is unknown counter_name.
```

考えられる原因: 監視されているターゲット Windows マシンで、リモートレジストリサービスが停止状態になっている。

アクション: [Microsoft サポート技術情報文書番号 923416 \(http://support.microsoft.com/kb/923416\)](http://support.microsoft.com/kb/923416) を参照してください。

新規に追加したディスクまたはボリュームに対するデータ収集の監視が、Windows マシンで遅延する

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: 監視されている Windows マシンに新しいディスクやボリュームを追加した場合、その新しいディスクまたはディスクのデータが直ちに収集されず、PlateSpin Recon のチャートに反映されない。

考えられる原因: ターゲット Windows マシンで監視を開始すると、PlateSpin Recon では、そのマシンに存在するディスクとボリュームに対してのみデータをレポートする。

アクション: Windows マシンに新しいディスクやボリュームを追加した後、そのマシンの監視を停止して再開してください:

- 1 Data Center Explorer で、ターゲット Windows マシンに移動します。
- 2 ターゲットマシンを右クリックし、[*Stop Monitoring*] をクリックします。
- 3 ターゲットマシンを再度右クリックし、[*Start Monitoring*] をクリックします。

ディスク使用率に関連するカウンタのデータが、Solaris サーバに対して収集されないことがある

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

考えられる原因： Solaris マシンに接続されている外部ディスクにラベルが付いていない。

アクション： Solaris マシンに接続されている外部ディスクにラベルを割り当ててください。

Solaris の切断されているディスクに対して、いくつかのディスクカウンタのデータが正しく表示されない

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

説明： Solaris マシンの切断されているディスクに対して、次のカウンタのデータが「ゼロ (0)」と誤表示される：

- ◆ DiskBytesPerSecond
- ◆ DiskAverageQueueLength
- ◆ DiskTransfersPerSecond
- ◆ DiskPercentIdleTime
- ◆ Disk IO%

考えられる原因： 外部ディスクが適切に切断されていない。

アクション： 次のいずれかの方法で、Solaris マシンのファイルシステムをクリーンアップしてください：

- ◆ devfsadm -C コマンドを実行します。
- ◆ マシンを再起動します。

重複した SMBIOS ID が仮想マシンにある場合、ESX マシンのインベントリに失敗する

ソース： PlateSpin Recon - インベントリと監視。

考えられる原因： PlateSpin Recon では、SMBIOS ID を使用して、マシンの固有性を確立する。ESX マシンの仮想マシンが同じ SMBIOS ID を持つ場合、データのインポート中に ESX マシンのインベントリに失敗する。

アクション： ESX マシンの仮想マシンが固有の SMBIOS ID を持つことを確認してください。

Windows マシンの監視に失敗することがある

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

説明： Window マシンの監視に失敗し、次のエラーメッセージが監視ログに記録される：

The network path was not found

考えられる原因： ネットワーク共有リソースとして Windows マシンにアクセスできない。

アクション： Windows マシンでネットワーク共有リソースを有効にしてください。

考えられる原因： リモートレジストリサービスがターゲット Windows マシンで実行されていない。

アクション： Windows マシンでリモートレジストリサービスを手動で開始してください。

Windows マシンのディスク使用状況に基づく「ディスク分析」レポートまたはレイターの生成に失敗することがある

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

説明： Windows マシンのディスク使用状況に基づく「ディスク分析」レポートまたはレイターの生成に失敗し、次のメッセージが監視ログに記録される：

```
The component Disk Space Used(GB) does not have enough hourly summary data for the machine IP_address.
```

考えられる原因： ターゲット Windows マシンに Disk Utilization アドオンが展開されていない。

アクション： 次の操作を実行してください：

- 1 ターゲット Windows マシンに Disk Utilization アドオンを展開します。

Disk Utilization アドオンの展開に関する詳細については、[83 ページのセクション 3.12 「Windows マシンに対するディスク使用率カウンタの収集」](#)を参照してください。

- 2 Windows マシンを最低 1 時間監視します。
- 3 「ディスク分析」レポートまたはレイターを生成します。

Windows マシンを監視すると、「Category does not exist」というエラーが監視ログに表示される

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

考えられる原因： Windows マシンで [Undeploy Add-On] をクリックした後、[Stop Monitoring] と [Start Monitoring] を順にクリックすることにより監視を停止して再開しなかった。

アクション： 最初に [Stop Monitoring]、次に [Start Monitoring] をクリックすることにより、Windows マシンで監視を再開してください。

考えられる原因： Windows Disk Counters アドオンを、Recon PlateSpin クライアントの [Undeploy Add-On] オプションによってではなく、手動でマシンから展開解除した。

アクション： PlateSpin Recon クライアントで次の操作を実行してください：

- 1 Windows Disk Counters アドオンを手動で展開解除した Windows マシンオブジェクトを右クリックします。
- 2 [Undeploy Add-On] をクリックします。
- 3 Windows マシンオブジェクトを右クリックします。
- 4 [Stop Monitoring] をクリックします。

5 Windows マシンオブジェクトを右クリックします。

6 [Start Monitoring] をクリックします。

考えられる原因: PlateSpin Recon サーバで次のコマンドを実行し、システムエラーが発生した:

```
net view \\IPaddress_of_remote_machine
```

アクション: システムエラーをトラブルシューティングするには、そのシステムエラーのコードに該当する Microsoft サポート技術情報文書を参照してください。

考えられる原因: PlateSpin Recon の [Windows Disk Counters Add-On] オプションによるデータ収集が、PerfMon によって無効にされている。

アクション: Windows マシンで次の操作を実行してください:

1 Registry Editor で、
HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ReconWinMonitoring\Performance
に移動します。

2 レジストリキーの Disable Performance Counters 値を 0 に変更します。

3 リモートレジストリサービスを再起動します。

考えられる原因: ターゲット Windows マシンの PerfMon が破損している。

アクション: [Microsoft サポート技術情報文書: パフォーマンスカウンターライブラリの値を手動で修正する方法](http://support.microsoft.com/kb/300956) (http://support.microsoft.com/kb/300956) を参照して、Performance カウンタを再構築してください。

考えられる原因: ターゲット Windows マシンのイベントログに、イベント ID が 1015 の Perflib エラーが表示されている:

```
Event ID 1015 Source Perflib
Event ID 1015
Source Perflib
Type Error
Description The timeout waiting for the performance data
collection function "<function name>" in the "<dll name>"
Library to finish has expired. There may be a problem with
this extensible counter or the service it is collecting data
from or the system may have been very busy when this call was
attempted.
```

アクション: デフォルトにより、システムではすべてのサービスに対して 10 秒の収集タイムアウト期間を使用します。失敗しているサービスに対して、この期間を上書きしてください:

1 Registry Editor で、HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\<service-name>\Performance に移動します。

2 Collect Timeout の値を増加させます。

3 リモートレジストリサービスを再起動します。

考えられる原因: リモート Windows マシンで PerfMon カウンタを読み込むための十分な特権がない。

アクション：「システムパフォーマンスのプロファイル」と「単一プロセスのプロファイル」のユーザ特権ポリシーを通じて PerfMon カウンタを読み込むための十分な特権を付与してもらうよう、リモートマシンの管理者に要求してください。

考えられる原因：Windows Disk Counters アドオンの展開を構成中に [Automatically restart the services which are dependent on the Remote Registry Service] チェックボックスを選択したが、このアドオンの展開後に、リモートレジストリサービスとその依存サービスを手動で再起動しなかった。

アクション：Windows Disk Counters アドオンを展開したターゲット Windows マシンで、リモートレジストリサービスとその依存サービスを手動で再起動してください。

W3P サービスによって高メモリが消費されている、または W3P サービスがシステムメモリ不足の例外により終了した

ソース：PlateSpin Recon。

考えられる原因：PlateSpin Recon クライアントが 48 時間以上未使用のまま開かれている場合、W3P サービスによって Recon クライアントセッションのデータがキャッシュされ、結果として W3P サービスではメモリ不足となる。

アクション：W3P サービスが終了した場合は、PlateSpin Recon クライアントを閉じて W3P サービスを起動した後、PlateSpin Recon クライアントを起動してください。

アクション：W3P サービスは終了していなくても、W3P サービスのメモリ消費量が高い場合は、PlateSpin Recon クライアントを再起動してください。

ワークロードに対するチャートを表示すると Disk Space (GB) の値が存在するが、シナリオでは Disk Space % が 0 と表示される

ソース：PlateSpin Recon。

説明：シナリオを作成するための合計ディスク容量が無制限のサーバテンプレートを選択した場合、次の動作が既知である：

- ◆ サーバテンプレートおよびそのテンプレートに割り当てられているワークロードに表示される Disk Space (%) の使用率に対するチャートでは、y が常にゼロ (0) になる。
- ◆ サーバテンプレートの「ワークロード割り当て」レポートでは、Disk Used (%) のカラムに空 (--) の値が表示される。

アクション：なし。

Windows 2008 SP1 Hyper-V で実行されている仮想マシンを監視すると、% Total Run Time カウンタに関するエラーが表示される

ソース：PlateSpin Recon - 監視。

説明：Windows 2008 SP1 Hyper-V で実行されている仮想マシンを監視すると、% Total Run Time カウンタに関する次のエラーメッセージが、ノードに対する監視ログにレポートされる：

Cannot get instance information for counter % Total Run Time in category Hyper-V Hypervisor Virtual Processor on computer w2k8vm204

考えられる原因: Microsoft パフォーマンスライブラリ API は期待どおりに機能しないため、Hyper-VHypervisor Virtual Processor カウンタカテゴリに一覧表示される % Total Run Time カウンタに対するデータ収集によってエラーが発生する。

アクション: なし。

Citrix XEN サーバで実行されている Windows 仮想マシンを監視すると、Xen_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond カウンタと Xen_PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond カウンタに関するエラーが表示されることがある

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: Citrix XEN サーバで実行されている Windows 仮想マシンを監視すると、次の問題が発生することがある:

- ◆ 次のカウンタの監視中に、HANDLE_INVALID 例外が発生する:
 - ◆ Xen_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond
 - ◆ Xen_PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond
- ◆ 例外はなくても、Xen_Processor_PercentProcessorTime カウンタに対してデータが収集されない。

考えられる原因: XEN API が期待どおりに機能しない。

アクション: なし。

Windows Disk Counters アドオンを Windows Server 2008 SP2 Hyper-V ホストとそのゲスト仮想マシンで実行することを選択した場合、そのアドオンの展開や展開解除に失敗する

ソース: PlateSpin Recon - Windows Disk Counters アドオンの展開または展開解除

考えられる原因: Windows ホストで Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除すると、その Windows 仮想マシンに対しても、展開または展開解除の操作が内部的にトリガされる。展開または展開解除の候補として Windows ホストとその Windows 仮想マシンを同時に選択した場合、Windows 仮想マシンに対して 2 つの展開または展開解除のジョブがトリガされ、エラーが発生することがある。

アクション: Windows Disk Counters アドオンの展開または展開解除は、ホストマシンとゲスト仮想マシンに対してそれぞれ個別に実行してください。

割り当てレイターを使用して「コスト割り当て」レポートを生成できない

ソース: PlateSpin Recon - レポート。

考えられる原因: 割り当てレイターの場合、料金は仮想マシンサーバリソースの総コストを表している。仮想マシンのホストマシンは、インベントリおよび監視される必要がある。ホストマシンがインベントリおよび監視されていない場合、「コスト割り当て」レポートに次の汎用エラーメッセージが表示される:

Error was encountered during calculation for chargeback.

該当する警告メッセージはすべて、「コスト割り当て」レポートのジョブログファイル (*Recon_server_installation_directory*\logs\workflow ディレクトリにある) に記録される。

アクション: 仮想マシンのホストマシンをインベントリして監視してください。

sudo ユーザ資格情報を使用した Linux マシンの監視に失敗することがある

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: sudo ユーザ資格情報を使用した Linux マシンの監視に失敗し、次のエラーメッセージが表示される:

```
sudo: sorry, you must have a tty to run sudo
```

考えられる原因: ターゲットマシンの */etc/sudoers* 環境設定ファイルに、*Defaults requiretty* 設定が含まれる。

アクション: 次の操作を実行してください:

- 1 Linux コンソールプロンプトで、visudo を実行します。
これによって、*/etc/sudoers* 環境設定ファイルが VI Editor で開きます。
- 2 次の行をコメントアウトします:
Defaults requiretty
- 3 Recon PlateSpin クライアントの Data Center Explorer ビューで、Linux マシンを右クリックし、[*Stop Monitoring*] をクリックします。
- 4 Linux マシンを右クリックし、[*Start Monitoring*] をクリックします。

レガシネットワークアダプタで構成されており、Windows Server 2008 SP1/SP2/R2 Hyper-V ホストで実行される仮想マシンに対し、HyperV_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond の値が正しくない

ソース: PlateSpin Recon - 監視。

説明: 仮想マシンがレガシネットワークアダプタで構成されており、Windows Server 2008 SP1/SP2/R2 Hyper-V ホストで実行される場合、HyperV_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond カウンタの値が「ゼロ (0)」と誤表示される。

考えられる原因: HyperV サーバの HyperV_NetworkInterface_BytesTotalPerSecond カテゴリの Bytes Received/sec カウンタまたは Bytes Sent/sec カウンタに対して、Microsoft パフォーマンスライブラリ API が期待どおりに機能しない。

アクション: なし。

Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除した後、リモートレジストリサービスの再起動に失敗し、エラーが返される

ソース： PlateSpin Recon - Windows Disk Counters アドオンの展開または展開解除。

説明： Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除すると、ターゲットマシンでリモートレジストリサービスが自動的に再起動します。このサービス再起動プロセスが失敗して、エラーが返されることがあります。該当のエラーメッセージは、job.log 内に表示されます。

アクション： Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除した後で、リモートレジストリサービスの再起動中にエラーが報告された場合は、ターゲットマシンの PerfMon から Disk Performance カウンタの DLL を展開解除してください：

- 1 ターゲットマシンで、Registry Editor を開きます。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ReconWinMonitoring キーに移動します。このキーが存在する場合は、%SystemRoot%\PlateSpinRecon-DiskUtil ディレクトリが存在することを意味します。次の操作を実行します：
 - 2a ターゲットマシンのコマンドプロンプトから、%systemroot%\PlateSpinRecon-DiskUtil へ移動します。
 - 2b 次のコマンドを実行します：
HWInputMon.exe -Uninstall false
- 3 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ReconWinMonitoring キーを削除します。
- 4 %SystemRoot%\PlateSpinRecon-DiskUtil ディレクトリを削除します。

Windows Disk Counters アドオンを展開または展開解除すると、「The process cannot access the file because it is being used by another process」というエラーが返されることがある

ソース： PlateSpin Recon - Windows Disk Counters アドオンの展開または展開解除。

説明： Windows 仮想マシンがそのグループ内に直接一覧表示されており、同じグループ内に含まれる Citrix XenServer ホストマシンまたは Virtual Center ホストマシンの下にも一覧表示されている場合、Windows Disk Counters アドオンをそのグループで展開または展開解除すると、次のエラーが返されることがある：

The process cannot access the file because it is being used by another process

考えられる原因： Windows 仮想マシンでは、そのグループから Windows Disk Counters アドオンの展開ジョブまたは展開解除ジョブを直接受け取り、XenServer ホストまたは Virtual Center ホストからも該当のジョブを受け取る。このようなシナリオでは、1つのジョブは成功し、もう1つのジョブは失敗する。

アクション： 成功したジョブを通じて、Windows 仮想マシンでは Windows Disk Counters アドオンが正常に展開または展開解除されるため、このエラーは無視してください。

CSV を使用してインベントリされたマシンに対するインベントリのリフレッシュと監視に失敗することがある

ソース： PlateSpin Recon - インベントリ。

考えられる原因： CSV ファイルを使用してマシンのインベントリと監視を実行する場合、そのファイル内で指定する資格情報の記述は、インベントリと監視を実行する対象のマシン（ユーザ名とパスワードが含まれる）に対して固有でなければならない。資格情報の記述が固有でない場合は、正しくない資格情報が一部のマシンに割り当てられることがあり、結果として、該当のマシンにおけるインベントリのリフレッシュと監視に失敗する。

アクション： CSV ファイルを使用してマシンのインベントリと監視を実行する前に、その CSV ファイル内で指定した資格情報の記述が、インベントリと監視を実行する対象のマシン（ユーザ名とパスワードが含まれる）に対して固有であることを確認してください。

アクション： 正しくない CSV ファイルを使用してマシンをすでにインベントリした場合は、次のいずれかを実行してください：

- ◆ 問題のマシンを PlateSpin Recon クライアントから削除し、CSV ファイル内で一覧表示されているそれらのマシンに対して固有の資格情報の記述を指定した後、該当のマシンを再度インベントリします。
- ◆ 問題のマシンに正しい資格情報を添付します。
 1. Data Center Explorer で、問題のマシンを右クリックし、[Attach Credentials] をクリックします。
[Attach Credentials] ダイアログボックスが表示されます。
 2. マシンの資格情報を指定し、[OK] をクリックします。

UNIX マシンの大規模なセットに対して [Stop Monitoring] と [Start Monitoring] を連続してクリックすると、エラーが発生することがある

ソース： PlateSpin Recon - 監視。

説明： UNIX マシンの大規模なセットに対して [Stop Monitoring] と [Start Monitoring] を連続してクリックした場合、監視スクリプト (*.sh) がターゲット UNIX マシンに存在しないことがあり、次のエラーメッセージが Job Explorer に表示される：

```
/bin/sh: ./lininfo.shSLESPlateSpinRecon_server_name: No such file or directory counter_name
```

考えられる原因： UNIX マシンの大規模なセットに対して [Stop Monitoring] をクリックした後、Job Explorer ではこのジョブの状態が「完了済み」と表示されていても、実際にはターゲットマシンから監視スクリプト (*.sh) を削除するのにかなりの時間がかかることがある。時間を置かず、これらのマシンに対して [Start Monitoring] を直ちにクリックすると、監

視データの収集に失敗することがある。これは、直前に [Stop Monitoring] をクリックしたことによって、マシンの監視に必要な監視スクリプト (*.sh) が正しく削除されていないこともあるためである。

アクション： 問題のマシンの監視を停止して開始してください。

PlateSpin Recon クライアントでは、ジョブが完了した後も、そのジョブの状態が「実行中」と誤表示されることがある

ソース： PlateSpin Recon - インベントリと監視。

説明： PlateSpin Recon クライアントでは、ジョブの状態の更新に失敗し、ジョブが完了した後も続けて、その状態が「実行中」と表示されることがある。

アクション： PlateSpin Recon クライアントを閉じた後、再起動してください。

PlateSpin Recon の監視サービスを停止するのにかなりの時間がかかったり、PlateSpin Recon の監視サービスの再起動に失敗したりすることがある

ソース： PlateSpin Recon

考えられる原因： PlateSpin Recon の監視サービスを停止しようとする時、このサービスでは、キャッシュされたすべてのデータをデータベースにコミットする。このプロセスには、10～15分かかることがある。その間、このサービスに対する停止操作が応答していないように表示されることがある。

PlateSpin Recon の監視サービスを再起動しようとする時、このサービスでは再起動に失敗することがある。これは、再起動プロセスの最初のステップとしてサービスの停止が試行されても、停止操作が完了するのにかなりの時間がかかるためである。

アクション： PlateSpin Recon の監視サービスに対して停止操作をすでに開始している場合は、何もする必要はありません。これは、このサービスが10～15分後には応答するようになり、応答後に停止するためです。

PlateSpin Recon の監視サービスに対して再起動操作をすでに開始している場合は、サービスが応答した後（サービスの操作が選択可能になった後）で、このサービスを起動してください。

警告： PlateSpin Recon の監視サービスに対しては、実行中のプロセスを強制終了しないでください。強制終了すると、データの一貫性に関する問題が発生することがあります。

Log Explorer に「Client data may be out of date」という警告が表示されることがある

ソース： PlateSpin Recon クライアント。

説明： 長時間 PlateSpin Recon クライアントが開かれていた場合、PlateSpin Recon クライアントの Log Explorer に次の警告が表示される：

```
Client data may be out of date.
```

考えられる原因： PlateSpin Recon クライアントの起動時に確立された Web サービスセッションの有効期限が切れている。

アクション: PlateSpin Recon クライアントの現インスタンスを閉じ、クライアントを再起動してください。

PlateSpin Recon の監視サービスがメモリ不足の例外により終了した

ソース: PlateSpin Recon。

考えられる原因: PlateSpin Recon が、多数の応答しないマシンまたは到達できないマシンを監視している。

アクション: 応答しないマシンまたは到達できないマシンの監視を停止してください。

Portability Suite から PlateSpin Recon ジョブをロードすると、資格情報に固有のエラーが表示されることがある

ソース: PlateSpin Recon - Portability Suite。

説明: PlateSpin Recon ジョブのロードに失敗し、資格情報に固有の次のエラーが表示されることがある:

```
Unable to login to VMware Virtual Infrastructure  
web... Please ensure that the username and password are  
correct.
```

このエラーは、PlateSpin Portability Suite で表示される。

考えられる原因: ターゲット ESX サーバへのアクセスに必要なパスワードが指定されていない。

アクション: Portability Suite を使用して、ターゲット ESX サーバのパスワードを指定してください:

1. [Peer-to-Peer Conversion Job] ウィンドウで、[Job Configuration] パネル > [Credentials] リンクの順にクリックします。
2. パスワードを指定します。
3. [OK] をクリックします。

Solaris マシンのインベントリに失敗する

ソース: PlateSpin Recon - インベントリ。

考えられる原因: Solaris マシンのパスワードに、「(」のような特殊文字が含まれている。

アクション: Solaris マシンのパスワードから特殊文字を削除してください。

予測プロジェクトに対するシナリオの作成に失敗し、メモリ不足の例外が返されることがある

ソース: PlateSpin Recon - シナリオおよびプロジェクト。

説明: マシン数や予測日数の多いプロジェクトからシナリオを作成しようとした場合、そのプロセスに失敗し、メモリ不足の例外が返されることがある。

アクション: プロジェクト内でマシン数や予測日数を削減してください。プロジェクトおよびシナリオの推奨事項に関する詳細については、[239 ページの付録 E「ベストプラクティス」](#)を参照してください。

PostgreSQL データベースから「分析」レポートを生成するのにかなりの時間がかかることがある

ソース： PlateSpin Recon - レポート。

アクション： PostgreSQL データベースから「分析」レポートを生成する前に、次の操作を実行してください：

- 1 テキストエディタを使用して、
PlateSpin.PowerRecon.Monitoring.Database.config ファイルを開きます。
PlateSpin.PowerRecon.Monitoring.Database.config ファイルは、PlateSpin Recon サーバの `PlateSpin_Recon_installation_directory\configs\` ディレクトリにあります。
- 2 [Pooling] の値を「True」に変更します。
- 3 PlateSpin Recon の監視サービスを再起動します。

指数近似予測を使用してプロジェクトが作成された場合、シナリオの作成に失敗することがある

ソース： PlateSpin Recon - シナリオおよびプロジェクト。

考えられる原因： 統合プランニングで使用されたカウンタの指数近似予測値が、デシマルデータ型に適用するには大きすぎる場合、シナリオの作成に失敗し、次のエラーメッセージが表示されることがある：

```
Unable to create consolidation plan for scenario. Forecasted values are out of range, please try creating project or scenario without forecasting.
```

アクション： 指数近似予測以外の予測タイプを使用して、プロジェクトまたはシナリオを作成してください。

アクション： 予測を使用せずにプロジェクトまたはシナリオを作成してください。

AIX マシンにアタッチされているディスクのストレージタイプが「不明」と表示される

ソース： PlateSpin Recon。

考えられる原因： PlateSpin Recon では現在、AIX マシンにアタッチされているディスクのストレージタイプの収集をサポートしていない。そのため、AIX マシンにアタッチされているディスクのストレージタイプは、AIX マシンの [Properties] ページ ([Storage] タブ > [View by Disk] ビュー) とレポートで、「Unknown」と表示される。

アクション： なし。

Citrix Xen 仮想マシンを含むスナップショットのインポートに失敗する

ソース： PlateSpin Recon - スナップショット。

説明： Citrix Xen 仮想マシンを含むスナップショットをインポートしようとした場合、インポート操作に失敗し、StaleState 例外が返されることがある。

考えられる原因： 最初に Citrix Xen 仮想マシン、次に Citrix Xen ホストをインベントリした後で、それらのマシンのスナップショットを作成した。

アクション: Citrix Xen 仮想マシンでスナップショットを作成する前に、次のいずれかのインベントリプロセスを実行してください:

- ◆ Citrix Xen 仮想マシンのみをインベントリします (ホストマシンはインベントリしない)。
- ◆ 最初に Citrix Xen ホストマシン、次に Citrix Xen 仮想マシンをインベントリします。

テクニカルリファレンス

この節では、PlateSpin Recon をカスタマイズする際に役立つ技術情報について説明します。

- ◆ [205 ページのセクション B.1 「機能」](#)
- ◆ [205 ページのセクション B.2 「PlateSpin Recon のデータ収集方法」](#)
- ◆ [208 ページのセクション B.3 「データ収集」](#)
- ◆ [210 ページのセクション B.4 「チャートおよび式」](#)
- ◆ [218 ページのセクション B.5 「計算」](#)
- ◆ [221 ページのセクション B.6 「CPU の標準化」](#)
- ◆ [222 ページのセクション B.7 「PlateSpin Recon の VM CPU インベントリ」](#)
- ◆ [223 ページのセクション B.8 「Linux、Solaris、および AIX に対するインベントリと監視のコマンド」](#)
- ◆ [227 ページのセクション B.9 「Linux マシンのインベントリと監視を実行するための sudo 環境設定」](#)

この節は、PlateSpin Recon の高度な知識を必要とするシステム管理者や仮想アーキテクトを対象としています。

この資料は、以下の知識があることを前提としています：

- ◆ Windows および Linux のオペレーティングシステムの管理
- ◆ Mware ESX、VMware Server、および Microsoft Virtual サーバの管理

B.1 機能

- ◆ ハードウェア資産とソフトウェア資産のインベントリ
- ◆ 安全なオンラインデータのコレクションおよび分析
- ◆ Windows および Linux のサポート
- ◆ 管理レポート
- ◆ Microsoft Operations Manager 2005 およびリモート Plate Spin Recon サーバとの統合
- ◆ 高度なプロジェクトおよびシナリオのモデリング
- ◆ PlateSpin Portability Suite との統合

B.2 PlateSpin Recon のデータ収集方法

PlateSpin Recon のデータ収集には、3つの重要な段階があります。

- ◆ [206 ページのセクション B.2.1 「検出」](#)
- ◆ [206 ページのセクション B.2.2 「インベントリ」](#)
- ◆ [207 ページのセクション B.2.3 「監視」](#)

B.2.1 検出

ドメイン検出: PlateSpin Recon では、LDAP を介して Windows Active Directory を使用し、特定ドメインのマシンリストにあるネットワークをスキャンします。デフォルトではオンラインマシンのみが含まれますが、オフラインマシンを含むようにするためのオプションもあります。

部門 (OU) フィルタも指定でき、検出時に PlateSpin Recon がポーリングするドメイン領域を絞り込むことができます。部門は、コンピュータがセグメント化のために常駐できるドメイン内のコンテナです。たとえば、各部門に対して OU コンテナが設定されているドメインの場合、特定部門にあるマシンのみをドメイン内で検索するよう PlateSpin Recon に指示することができます。

PlateSpin Recon では、検出中に OU フィルタのみを使います。この方法で検出されるマシンは、以前の OU コンテナからマシンが移動されても、インベントリ中および監視中に影響を受けることはありません。部門がドメインで使用されている場合、そのような部門についての詳細はシステム管理者に確認してください。

サブネット、IP 範囲のスキャン: PlateSpin Recon では、サブネットまたは IP 範囲内にある各マシンに対して ping します。応答があった場合、検出されたマシンであると見なされます。

もう 1 つのオプションは、TCP、UDP、または両方を介したポートスキャンです。PlateSpin Recon では、ポートに接続しようとし、使用されているポートを記録します。このオプションは、攻撃としてネットワークセキュリティによって認識される場合があるため、使用に注意が必要です。

B.2.2 インベントリ

- ◆ [206 ページの「Linux、Solaris、および ESX 2.x」](#)
- ◆ [207 ページの「ESX 3.x および Virtual Center」](#)
- ◆ [207 ページの「Microsoft Windows インベントリ」](#)

Linux、Solaris、および ESX 2.x

- ◆ PlateSpin Recon が getplatform スクリプトを送信すると、今度はこのスクリプトが、インベントリ中のマシンのアーキテクチャと glibc バージョンを返します。
- ◆ getplatform に基づいて、PlateSpin Recon では SCP プロトコルを使用して、プラットフォームごとのインベントリバイナリとライブラリを、インベントリ中のマシンの /tmp ディレクトリに転送します。
- ◆ ssh を介し、Plate Spin Recon では、stdin にわたるコマンドファイルをストリーミングするバイナリを実行します。
- ◆ マシン XML が stdout 上でストリーミングされる間、インベントリされたマシンから PlateSpin Recon サーバにログと進行状況ファイルが、stderr を使用してストリーミングして返されます。

ESX 3.x および Virtual Center

- ◆ PlateSpin Recon では、PlateSpin Recon サーバ上でローカルに実行ファイルを実行します。
- ◆ この実行ファイルでは、必要なインベントリデータを提供する ESX 3 または Virtual Center Web サービスにアクセスします。

Microsoft Windows インベントリ

- ◆ Windows マシンをインベントリする場合、WMI がそのマシンにインストールされ、実行していることを確認する必要があります。Windows NT に対しては、WMI コンポーネントを手動でインストールしなければなりません。Windows NT 用の WMI のダウンロードとインストールに関する詳細については、Microsoft ダウンロードセンターの [Windows Management Instrumentation \(WMI\) CORE 1.5 \(Windows NT 4.0\) \(http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?displaylang=en&FamilyID=C174CFB1-EF67-471D-9277-4C2B1014A31E\)](http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?displaylang=en&FamilyID=C174CFB1-EF67-471D-9277-4C2B1014A31E) を参照してください。

PlateSpin Recon では、ターゲット Windows マシンとの接続を確立したり、ターゲットマシンでインベントリ実行ファイルを実行したりするために、WMI をデフォルトで使用します。WMI が失敗した場合、PlateSpin Recon ではリモートサービスをフェイルオーバーとして使用します。ターゲットマシンの WMI ではなくリモートサービスを常に使用するよう PlateSpin Recon を構成するには、次の操作を実行します：

1. PlateSpin Recon クライアントで、[Tools] メニューをクリックします。
2. <Ctrl> キーを押しながら [Options] をクリックします。
[Options] ダイアログボックスの [Server] ページが、デフォルトで表示されます。
3. [Inventory] カテゴリで、[Advanced] の隣にあるプラス記号 (+) をクリックします。
4. [Install Remote Service] の値を「True」に変更します。
5. [OK] をクリックします。

PlateSpin Recon では、インベントリ実行ファイルを、ターゲットマシンの ADMIN\$ 共有にコピーします。

B.2.3 監視

PlateSpin Recon の監視プロセスを理解するには、次の節を確認してください：

- ◆ [207 ページの「Linux、Solaris、AIX、および ESX 2.x」](#)
- ◆ [208 ページの「ESX 3.x および Virtual Center」](#)
- ◆ [208 ページの「Microsoft Windows」](#)

Linux、Solaris、AIX、および ESX 2.x

- ◆ PlateSpin Recon では、インベントリ中のマシンにスクリプト (lininfo.sh、solinfo.sh、aixinfo.sh、または esxinfo.sh) を送信します。
- ◆ このスクリプトは ssh を通じて実行します。
- ◆ ssh サーバは、監視が機能するよう使用可能に設定する必要があります。

- ◆ ログは、stderr にわたって PlateSpin Recon サーバにストリーミングして返されます。
- ◆ パフォーマンスデータは、stdout にわたってストリーミングして返されます。

ESX 3.x および Virtual Center

- ◆ PlateSpin Recon では、必要なパフォーマンスデータを提供する ESX 3 または Virtual Center Web サービスを呼び出します。

Microsoft Windows

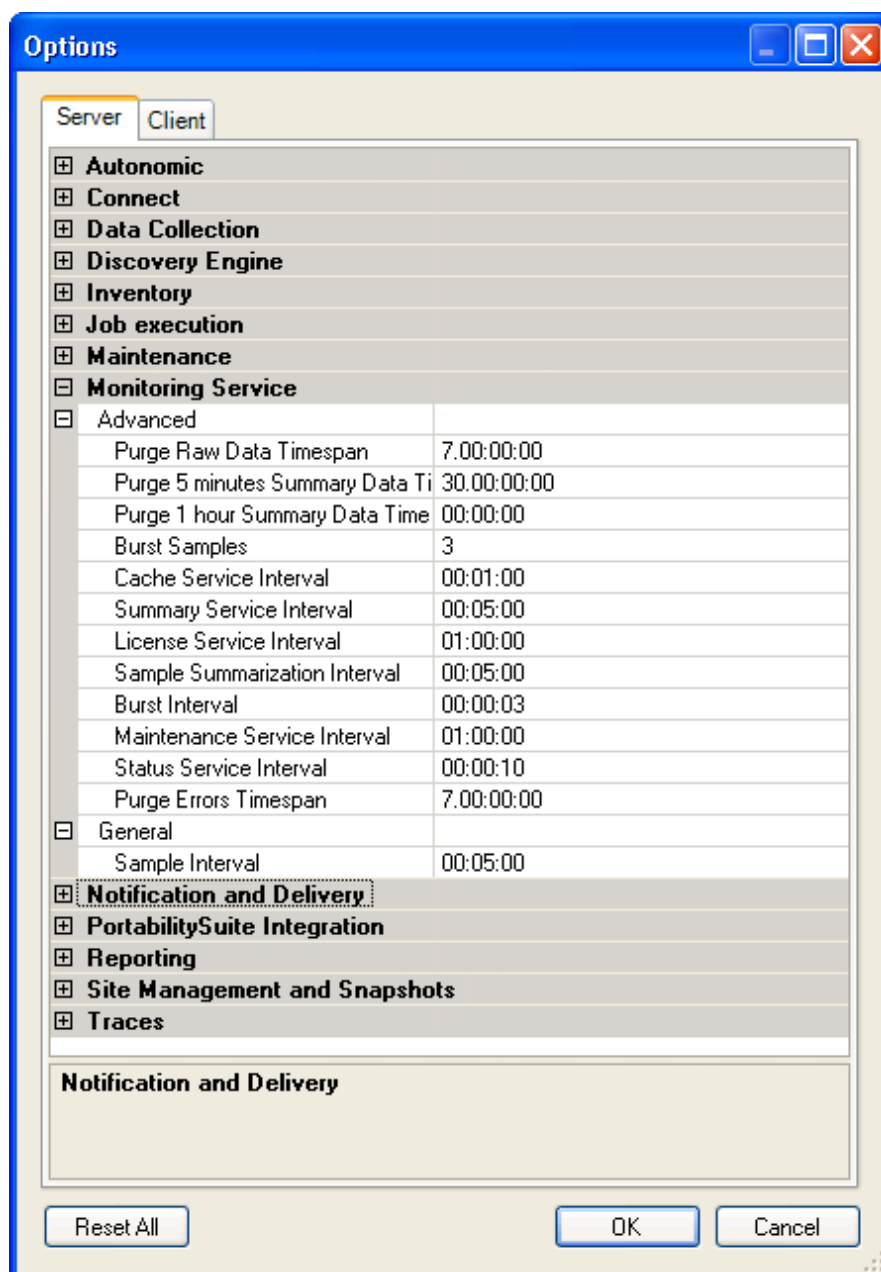
- ◆ PlateSpin Recon では、パフォーマンスデータを取得するために Windows パフォーマンスカウンタ API を使用します。WMI は使用されません。
- ◆ リモートレジストリサービスは、Windows の監視が機能するよう使用可能に設定する必要があります。

B.3 データ収集

PlateSpin Recon では、デフォルトにより 5 分ごとに、すべてのカウンタから 3 つのサンプルを 3 秒間隔で取得します。この 3 つのサンプルは、データベースに保存される 5 分間データを作成するために平均化されます。

これらの値は、[Tools] メニューをクリックし、<Ctrl> キーを押しながら、メニューから [Options] を選択して修正できます。[Server] タブで、[Monitoring Service] セクションを展開します：

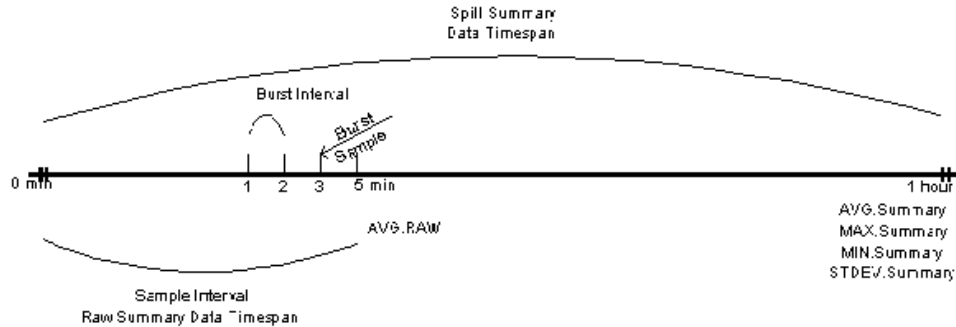
図 B-1 [Options] ウィンドウ



バースト間隔：異なるバーストサンプル間の間隔

バーストサンプル：平均値が計算される前にバースト間隔で収集されたサンプルの数

サンプル間隔：異なるサンプル間の間隔



B.4 チャートおよび式

- ◆ [210 ページのセクション B.4.1 「チャートデータ」](#)
- ◆ [215 ページのセクション B.4.2 「使用率」](#)
- ◆ [216 ページのセクション B.4.3 「ワークロード」](#)

B.4.1 チャートデータ

[208 ページのセクション B.3 「データ収集」](#)の説明どおりに収集された 5 分間データは、データベースに 30 日間保存されます。1 時間のデータは、特定の 1 時間で収集されたすべての 5 分間データの集計です。これはデータベースに永久保存されます。その他のチャートデータはすべて、5 分間と 1 時間のデータから計算されます。

24 時間プロファイルチャートは、24 時間を一区切りとしてそれぞれの時間に値を提供します。この値は、選択したデータ範囲にわたる特定の時間内で計算された最大平均値です。これにより、hourCounter のための使用率プロファイルが作成されます。

カウンタ値には、Windows システムから取得するために使用される Windows Performance Monitor カウンタに基づいて名前が付けられます。名前には、Performance Monitor カテゴリと、アンダースコアで結合されたカウンタ名が含まれます。たとえば、Memory/PagesPerSecond の場合、「Memory_PagesPerSecond」になります。

Windows システムでは、Performance Monitor から直接この値を取得しますが、ほかのプラットフォームでは、スクリプトを使用して値を計算します。

- ◆ [210 ページの「プラットフォームカウンタ」](#)
- ◆ [214 ページの「Virtual Center サーバを通じて監視される ESX マシンに対するカウンタの、統合プランニングを目的とした収集」](#)
- ◆ [214 ページの「Xen カーネルがインストールされた SLES で実行している VM に対して XEN カウンタを収集する場合の前提条件」](#)
- ◆ [214 ページの「Citrix Xen ホストに対してカウンタを収集する場合の前提条件」](#)

プラットフォームカウンタ

次の表では、サポートしているプラットフォームに対して PlateSpin Recon が収集するカウンタが一覧表示されています。

表 B-1 プラットフォームカウンタ

名前	プラットフォーム
LogicalDisk_FreeMegabytes	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.5.x、NetWare、Windows 2000、および Windows NT
LogicalDisk_UsedMegabytes	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.5.x および NetWare
LogicalDisk_PercentUsedSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.5.x および NetWare
LogicalDisk_PercentFreeSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.5.x、NetWare、Windows 2000、および Windows NT
Memory_AvailableBytes	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
Memory_PagesPerSecond	Windows、Windows NT
Memory_PercentAvailableMemory	ESX 3.x、ESX 4
NetworkInterface_BytesTotalPerSecond	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
NetworkInterface_PacketsPerSecond	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4
PhysicalDisk_CurrentDiskQueueLength	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 3.x、ESX 4.0、および NetWare
PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
PhysicalDisk_DiskTransfersPerSecond	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x
PhysicalDisk_DiskWriteBytesPerSecond	Windows
PhysicalDisk_PercentIdleTime	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x、ESX 3.0、および NetWare
PhysicalDisk_TotalSpaceGB	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_UsedSpaceGB	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_FreeSpaceGB	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_PercentUsedSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_PercentFreeSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_PartitionedSpaceGB	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_UnpartitionedSpaceGB	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare

名前	プラットフォーム
PhysicalDisk_PercentPartitionedSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
PhysicalDisk_PercentUnpartitionedSpace	次を除くすべてのプラットフォーム - ESX 2.x および NetWare
Processor_PercentProcessorTime	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
System_ProcessorQueueLength	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x
VC_Processor	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM、ESX、リソースプール、およびクラスタ。
VC_ProcessorTime	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_ProcessorPercentReady	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM。
VC_ProcessorPercentWait	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM。
VC_MemoryPercentUsed	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM、ESX、リソースプール、およびクラスタ。
VC_MemoryAvailableBytes	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM、ESX、およびリソースプール。
VC_NetBytesTotalPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_NetPacketsPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskBytesPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_MemoryBalloon	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM、ESX、リソースプール、およびクラスタ。
VC_MemorySwapUsed	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX およびクラスタ。
VC_EffectiveMemory	DRS によって可能になり、VMware vCenter を通して監視されるすべてのクラスタ。
VC_EffectiveCPU	DRS によって可能になり、VMware vCenter を通して監視されるすべてのクラスタ。
VC_DiskReadBytesPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskWriteBytesPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskReadCountPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。

名前	プラットフォーム
VC_DiskWriteCountPerSecond	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskBytesPerRead	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskBytesPerWrite	VMware vCenter を通して監視されるすべての VM および ESX。
VC_DiskPercentIdleTime	vCenter2.0 以外の VMware vCenter を通して監視される ESX 3.5 以降。
VC_DiskTotalSpaceGB	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskUsedSpaceGB	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskFreeSpaceGB	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskPercentUsedSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskPercentFreeSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskPartitionedSpaceGB	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskUnpartitionedSpaceGB	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskPercentPartitionedSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_DiskPercentUnpartitionedSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_LogicalDiskUsedMegabytes	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_LogicalDiskFreeMegabytes	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_LogicalDiskPercentUsedSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
VC_LogicalDiskPercentFreeSpace	VMware vCenter を通して監視されるすべての ESX。
Xen_Memory_AvailableBytes	Novell SLES 10 および SLES 11 の Xen、Citrix XenServer。
Xen_Processor_PercentProcessorTime	Novell SLES 10 および SLES 11 の Xen、Citrix XenServer。
Xen_NetworkInterface_ByteTotalPerSecond	Citrix XenServer。
Xen_PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond	Citrix XenServer。

注: 211 ページの表表 B-1 に一覧表示されている Virtual Center カウンタが Virtual Center で使用できない場合、PlateSpin Recon では、そのようなカウンタのデータを収集せず、エラーメッセージも表示しません。

Virtual Center サーバを通じて監視される ESX マシンに対するカウンタの、統合プランニングを目的とした収集

ESX マシンは、VC サーバを通じてイベントリおよび監視されます。ただし、VC サーバの制限により、データには、統合プランニングに必要となる ESX マシンのすべてのカウンタが含まれません。追加の情報は、ESX マシンから直接収集する必要があります。

- 1 Data Center Explorer で、[Filters] > [VM Servers] > [VMware ESX Servers] の順に移動します。
- 2 カウンタを収集する ESX マシンを右クリックし、[Stop Monitoring] をクリックします。
- 3 ESX マシンを再度右クリックし、[Attach Credentials] をクリックします。
[Attach Credentials] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 マシンの資格情報を指定し、[OK] をクリックします。
- 5 ESX マシンを右クリックし、[Refresh Inventory] をクリックして [Now] を選択します。
- 6 ESX マシンを右クリックし、[Start Monitoring] をクリックします。

Xen カーネルがインストールされた SLES で実行している VM に対して XEN カウンタを収集する場合の前提条件

Xen カーネルがインストールされた SLES で実行している VM に対して XEN カウンタを収集するには、監視を開始する前に、その SLES ホストマシンで次の操作を実行してください:

- 1 次の行を追加するために、`/etc/xen/xend-config.sxp` を編集します:
`(xen-api-server ((9363 none) (unix none)))`
- 2 次のコマンドを入力することにより、Xen デーモンを再起動します:
`/etc/init.d/xend restart`

Citrix Xen ホストに対してカウンタを収集する場合の前提条件

Citrix Xen ホストに対してカウンタを収集するには、すべてのホストに資格情報を添付する必要があります。

- 1 Citrix Xen ホストのポート 22 にある SSH が使用可能であることを確認します。
- 2 Data Center Explorer で、Citrix Xen ホストを右クリックし、[Stop Monitoring] をクリックします。
- 3 Citrix Xen ホストを再度右クリックし、[Attach Credentials] をクリックします。
[Attach Credentials] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 マシンの資格情報を指定し、[OK] をクリックします。
- 5 Citrix Xen ホストを右クリックし、[Start Monitoring] をクリックします。
- 6 すべての Citrix Xen ホストに対して、[ステップ 2](#)～[ステップ 5](#)を繰り返します。

B.4.2 使用率

使用率の式は、一定のワークロードで使用される利用可能なリソースの割合を示します。計算はカウンタデータに基づきます。

表 B-2 使用率の式

名前	式	プラットフォーム
Disk IO (%)	$\text{MAX}(0, (100 - \text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_PercentIdleTime"})))$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x、ESX 3.0。
Disk Space Free (%)	$\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_PercentFreeSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Disk Space Used (%)	$\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_PercentUsedSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Memory Free (%)	$100 * (\text{PERF}(\text{"Memory_AvailableBytes"}) / \text{INV}(\text{"TotalMemory"}))$	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
Memory Used (%)	$100 * (\text{INV}(\text{"TotalMemory"}) - \text{PERF}(\text{"Memory_AvailableBytes"}) / \text{INV}(\text{"TotalMemory"}))$	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
Processor (%)	$\text{PERF}(\text{"Processor_PercentProcessorTime"})$	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer
Disk Space Partitioned (%)	$\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_PercentPartitionedSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Disk Space Unpartitioned (%)	$\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_PercentUnpartitionedSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Logical Disk Used Space (%)	$\text{PERF}(\text{"LogicalDisk_PercentUsedSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Logical Disk Free Space (%)	$\text{PERF}(\text{"LogicalDisk_PercentFreeSpace"})$	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x、Windows NT、および Windows 2000
VC_Memory Free (%)	$100 * (\text{PERF}(\text{"VC_MemoryAvailableBytes"}) / \text{INV}(\text{"TotalMemory"}))$	すべて
VC_Memory Used (%)	$100 * (\text{INV}(\text{"TotalMemory"}) - \text{PERF}(\text{"VC_MemoryAvailableBytes"}) / \text{INV}(\text{"TotalMemory"}))$	すべて
VC_ProcessorTime (Hour)	$\text{PERF}(\text{"VC_ProcessorTime"})$	すべて
VC_Disk IO (%)	$\text{MAX}(0, (100 - \text{PERF}(\text{"VC_DiskPercentIdleTime"})))$	v Center 2.5 以降を通して監視される ESX 3.5 以降

名前	式	プラットフォーム
VC_Disk Space Free (%)	PERF("VC_DiskPercentFreeSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Disk Space Partitioned (%)	PERF("VC_DiskPercentPartitionedSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Disk Space Unpartitioned (%)	PERF("VC_DiskPercentUnpartitionedSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Disk Space Used (%)	PERF("VC_DiskPercentUsedSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Logical Disk Used Space (%)	PERF("VC_LogicalDisk_PercentUsedSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Logical Disk Free Space (%)	PERF("LogicalDisk_PercentFreeSpace")	vCenter を通して監視されるすべての ESX

注：使用率の式は Virtual Center クラスタでは使用できません。

B.4.3 ワークロード

ワークロードの式は、ワークロードのサイズ、つまりワークロードに使用されている処理能力や生リソースの量を、使用可能なハードウェアおよびリソースの量とは無関係に測定します。

- ◆ PERF: 動的パフォーマンスデータ
- ◆ INV: 静的インベントリデータ

表 B-3 ワークロードの式

名前	式	プラットフォーム
Disk (MB/sec)	$(\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond"}))/(1024*1024)$	すべて
Disk (Transfers/sec)	PERF("PhysicalDisk_DiskTransfersPerSecond")	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x
Disk Queue Length	PERF("PhysicalDisk_CurrentDiskQueueLength")	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、Citrix XenServer
Disk Space Free (GB)	PERF("PhysicalDisk_FreeSpaceGB")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare および ESX 2.5.x
Disk Space Used (GB)	PERF("PhysicalDisk_UsedSpaceGB")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare および ESX 2.5.x
Disk Writes (MB/sec)	$(\text{PERF}(\text{"PhysicalDisk_DiskWriteBytesPerSecond"}))/(1024*1024)$	Windows

名前	式	プラットフォーム
Logical Disk Used Space (MB)	PERF("LogicalDisk_UsedMegabytes")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x
Logical Disk Free Space (MB)	PERF("LogicalDisk_FreeMegabytes")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare、ESX 2.5.x、Windows NT、および Windows 2000
Memory (Pages/sec)	PERF("Memory_PagesPerSecond")	Windows、Windows NT
Memory Free (MB)	(PERF("Memory_AvailableBytes"))/(1024*1024)	すべて
Memory Used (MB)	(INV("TotalMemory")-PERF("Memory_AvailableBytes"))/(1024*1024)	すべて
Network (MB/sec)	(PERF("NetworkInterface_BytesTotalPerSecond"))/(1024*1024)	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、Citrix XenServer
Network (Packets/sec)	PERF("NetworkInterface_PacketsPerSecond")	Windows、Solaris、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4
Processor (MHz)	PERF("Processor_PercentProcessorTime")*INV("ProcessorCapacity")/100	Windows、Windows NT、Linux、ESX 2.5.x、ESX 3.x、ESX 4、Citrix XenServer、Solaris
Processor Queue Length	PERF("System_ProcessorQueueLength")	Windows、Windows NT、Solaris、Linux、ESX 2.5.x
VC_Disk (MB/sec)	(PERF("PhysicalDisk_DiskBytesPerSecond"))/(1024*1024)	すべて
VC_MemoryFree (MB)	(PERF("Memory_AvailableBytes"))/(1024*1024)	すべて
VC_MemoryUsed (MB)	(INV("TotalMemory")-PERF("Memory_AvailableBytes"))/(1024*1024)	すべて
VC_Network (MB/sec)	(PERF("VC_NetBytesTotalPerSecond"))/(1024*1024)	すべて
VC_Network (Packets/sec)	PERF("VC_NetPacketsPerSecond")	すべて
VC_Processor (MHz)	PERF("VC_Processor")	すべて
VC_Disk Space Partitioned (GB)	PERF("VC_DiskPartitionedSpaceGB")	v Center を通して監視される ESX
VC_Disk Space Used(GB)	PERF("VC_DiskUsedSpaceGB")	v Center を通して監視される ESX
Disk Space Partitioned (GB)	PERF("PhysicalDisk_PartitionedSpaceGB")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare および ESX 2.5.x

名前	式	プラットフォーム
VC_Total Disk (GB)	PERF("VC_DiskTotalSpaceGB")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
Total Processor (Count)	INV("ProcessorCount")	
VC_Processor (Normalized)	PERF("VC_Processor")/ INV("ProcessorCapacity")*INV("ProcessorCapacityInSpecUnits")	
Total Memory (MB)	INV("TotalMemory")/(1024*1024)	
VC_Disk Space Unpartitioned (GB)	PERF("VC_DiskUnpartitionedSpaceGB")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
Disk Space Unpartitioned (GB)	PERF("PhysicalDisk_UnpartitionedSpaceGB")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare および ESX 2.5.x
Processor (Normalized)	PERF("Processor_PercentProcessorTime")*INV("ProcessorCapacityInSpecUnits")/100	
Total Disk (GB)	PERF("PhysicalDisk_TotalSpaceGB")	次を除くすべてのプラットフォーム - NetWare および ESX 2.5.x
VC_Disk Space Free (GB)	PERF("VC_DiskFreeSpaceGB")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Logical Disk Used Space (MB)	PERF("VC_LogicalDiskUsedMegabytes")	vCenter を通して監視されるすべての ESX
VC_Logical Disk Free Space (MB)	PERF("VC_LogicalDiskFreeMegabytes")	vCenter を通して監視されるすべての ESX

注：ワークロードの式は Virtual Center クラスタでは使用できません。

B.5 計算

- ◆ [218 ページのセクション B.5.1 「24 時間プロファイル」](#)
- ◆ [219 ページのセクション B.5.2 「デュアルコアとマルチコアのマシン」](#)
- ◆ [220 ページのセクション B.5.3 「Hyper-Threading」](#)
- ◆ [220 ページのセクション B.5.4 「有効な速度」](#)
- ◆ [221 ページのセクション B.5.5 「消費電力と冷却」](#)
- ◆ [221 ページのセクション B.5.6 「CO2 放出」](#)

B.5.1 24 時間プロファイル

24 時間プロファイルは、1 日の各 1 時間に対応する 24 個 (0 ~ 23) の値から構成されます。それぞれの値は、監視される日にわたって特定の時間でのピーク値を取得することで計算されます。

例

あるシステムが3日間監視されたとします。次のチャートでは、プロセッサワークロードのデータセットと、計算された24時間プロファイルが示されています：

表 B-4 プロセッサワークロードデータセット

時間	1 日目	2 日目	3 日目	24 時間プロファイル
0	200	300	500	500
1	300	300	250	300
2	300	400	450	450
3	700	250	350	750
4	500	500	500	500
5	600	400	500	600
6	500	550	750	750
7	400	600	800	800
8	500	300	250	500
9	450	350	640	640
10	200	240	340	340
11	300	600	+60	650
12	300	-	-	300
13	550	340	850	850
14	440	500	600	600
15	800	540	600	800
16	750	260	430	750
17	500	640	450	640
18	600	200	350	600
19	300	250	650	650
20	200	300	200	300
21	250	350	400	400
22	600	250	350	600
23	500	650	750	750

B.5.2 デュアルコアとマルチコアのマシン

PlateSpin Recon では、デュアルコアまたはマルチコアのマシンを、2 個のプロセッサまたは X 個のプロセッサを持つマシンであると見なして処理します。

B.5.3 Hyper-Threading

ハイパースレッディング (HT テクノロジー) の効果は、集約インスタンス関数 (SUM、AVG) とハイパースレッディング標準化係数 1 ~ 2) の 2 つの環境設定パラメータによって制御されます。集約インスタンス関数のデフォルト値は AVG で、標準化係数は 1.25 に設定されています。この値は、高度な設定 ([Tools] > [Options]) で設定することができます。

PlateSpin Recon では、一定の時間で各プロセッサインスタンスの使用率値をそれぞれ個々に収集し、集約関数に基づいてプロセッサ使用率を計算します。集約関数が SUM である場合、物理プロセッサ使用率は、論理プロセッサインスタンスの使用率の合計となります。集約関数が AVG である場合、物理プロセッサ使用率は、論理プロセッサインスタンスの使用率の平均となります。

例

あるシステムが、pMHz の速度でハイパースレッディングが使用可能なシングルコアプロセッサを持つとします。特定の期間に対して PlateSpin Recon は、使用率の値を百分位で計算し、次のようにインスタンス X と Y の 24 時間プロファイル値を出します。

{X} = {X1, X2, Xi.....X24} で、Xi は、i 時間におけるプロセッサインスタンス X の使用率です。

{Y} = {Y1, Y2, Yi.....Y24} で、Yi は、i 時間におけるプロセッサインスタンス Y の使用率です。

表 B-5 集約関数の計算

(集約関数, 標準化係数)	(SUM, f)	(AVG, f)
レポート: ピーク (%)	Max { X + Y }	Max { (X + Y) / 2 }
レポート: ピーク (MHz)	Max { X + Y } * (1/100) * p * f	Max { (X+Y)/2 } * (1/100) * p * f
CPM: ワークロードの計算	{X+Y} * (1/100) * p * f	{(X+Y)/2} * (1/100) * p * f

B.5.4 有効な速度

PlateSpin Recon では、マシンの有効な速度を計算しながら、コアとハイパースレッディングの両方の数をアカウントに取り込みます。

例:

サーバテンプレート仕様: 2 x 3000GHz、デュアルコア、ハイパースレッディング使用可能

プロセッサの数: $P = 2 * 2 = 4$

プロセッサ容量: $C = 3000\text{GHz}$

ハイパースレッディング標準化係数: $n = 1.25$ (デフォルト値)

スケール係数: $A(p) = P / \{ 1 + \bar{a} (P-1) \}$ 、 $\bar{a} = 0.05$ である場合

$$A(p) = 4 / \{ 1 + 0.05 * 3 \} = 3.4782$$

$$\text{有効な速度} = A(p) * C * n = 3.4782 * 3000 * 1.25 = 13043\text{MHz}$$

B.5.5 消費電力と冷却

$$\text{エネルギー消費 (kWh/年)} = \text{電力使用量 (W)} \times \text{サーバ低下係数} \times 1 \text{ 年の時間総数 (8760)} / 1000$$

$$\text{熱損失 (BTU/年)} = \text{エネルギー消費 (kWh/年)} \times 3.41$$

$$\text{年間エネルギーコスト} = \text{kWh ごとのエネルギーコスト} \times \text{エネルギー消費 (kWh/年)}$$

B.5.6 CO2 放出

$$\text{エネルギー消費 (kWh/年)} = \text{電力使用量 (W)} \times \text{サーバ低下係数} \times 1 \text{ 年の時間総数 (8760)} / 1000$$

$$\text{CO2 放出 (lb/年)} = \text{エネルギー消費 (kWh/年)} \times 1.54$$

1.54 という固定係数は、基準に沿ったものと見なされています。

B.6 CPU の標準化

CPU を標準化すると、CPU の実際の速度を統合プランニングなどの操作で考慮することが可能になり、誤りを引き起こしがちな CPU のクロック周波数に頼る必要がありません。異なる CPU の製造元とモデルによって、同じクロック周波数を持つ CPU に対しパフォーマンスの結果は広範なアレイとなります。たとえば、2.0GHz のクロック周波数を持つ Core 2 と Pentium IV の CPU には、かなりの違いがあります。CPU の標準化では、業界標準のベンチマークである SPEC データが使用され、現実的なパフォーマンスの値が提供されます。これは、現実的な統合プランニングにおいて重要な要素です。詳細については、[222 ページのセクション B.6.1 「SPEC データ」](#) を参照してください。

統合プランニングではシナリオが作成されると、プロセッサの使用率と容量を測定する単位として、クロック周波数または標準化速度の中から選択するオプションをユーザに与えます。統合プランニングアルゴリズムでは、ワークロードをコンテナに割り当てる際の適切な測定単位を、この選択肢に基づいて使用します。詳細については、[151 ページのセクション 6.5 「統合シナリオの操作」](#) を参照してください。

注：標準化速度に基づいた統合プランニングを実行するために必要なデータは、実際にはプロジェクトが作成されるときに生成されます。PlateSpin Recon の旧 3.5 バージョンからのプロジェクトでは、アップグレードされた場合でも、統合プランニングで標準化速度を使用することはできません (このオプションはシナリオ作成ウィザードで使用不可となっています)。このようなプロジェクトで標準化速度を使用するには、最初から再作成する必要があります。

- ◆ [222 ページのセクション B.6.1 「SPEC データ」](#)
- ◆ [222 ページのセクション B.6.2 「標準化速度」](#)

B.6.1 SPEC データ

PlateSpin Recon の CPU 標準化速度は、SPECint および SPECfp (98、2000、2006) CPU のベンチマークデータを活用します。特定の CPU に対する PlateSpin Recon の CPU 標準化レーティングは、2008 年 6 月時点の CPU で <http://www.spec.org> (<http://www.spec.org>) から使用可能なデータの平均です。最新の SPEC f のベンチマーク結果は、[HTTP://](HTTP://www.spec.org) (<http://www.spec.org>) を参照してください。

B.6.2 標準化速度

インベントリされたマシンのデフォルト標準化速度は、[Custom Fields] ダイアログボックスから変更できます。また、サーバテンプレートでも標準化速度を表示できます。このような値を直接変更することはできませんが、その他の値を変更して、標準化速度への影響を確認することができます。詳細については、[143 ページのセクション 6.3 「サーバテンプレートの作成と編集」](#) を参照してください。

インベントリされたマシンの標準化速度を表示または編集するには：

- 1 Data Center Explorer で、マシンを右クリックし、[Properties] を選択します。
そのマシンに対する [Properties] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [Custom Fields] タブをクリックします。
一番上のセクションに、そのマシンに対するデフォルトの標準化速度が表示されます。
- 3 標準化速度値をクリックして、希望どおりに編集します。

重要： 指定した新しい値は、サーバのインベントリをリフレッシュすると自動的にデフォルト値として変更されます。このような値は、サーバのインベントリをリフレッシュした後に手動でリセットする必要があります。

デフォルトに値をリセットするには、[Reset Reference Values] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。

CPU の標準値は、関連レポートでカラム値として使用することもできますが、カラムはデフォルトで表示されません。標準化指向のカラムを表示するには、[109 ページのセクション 5.3 「レポートテンプレートの編集」](#) および [120 ページのセクション 5.4.1 「レポートビューの作成および編集」](#) を参照してください。

B.7 PlateSpin Recon の VM CPU インベントリ

1 つ以上の CPU を持つ仮想マシンが PlateSpin Recon によってインベントリされると、コアと CPU は次のように表示されます：

コア： VM ゲストマシンの環境設定にかかわらず、PlateSpin Recon は、ハードウェアホストからの実際のコアの数を表示します。これは、CPUID のようなサードパーティツールと矛盾することがあります。

CPU: ESX ホストには、仮想マシンに対する 3 つの可能な仮想 CPU 環境設定 (1、2、および 4) があります。PlateSpin Recon による CPU のインベントリは、ホストマシンでの VM 環境設定とコアによって異なります。ESX では、ユーザ要件に合わせて必要な数のコアを配置します。PlateSpin Recon は、指定数の仮想 CPU を提供するのに必要な最小 CPU 数をレポートしています。

次の表では、環境設定の例と、PlateSpin Recon によってレポートされる内容を示します。

表 B-6 仮想 CPU 環境設定のサンプルと、PlateSpin Recon のレポート内容

ホストコア	ゲスト仮想 CPU	PlateSpin Recon がレポートするコア	PlateSpin Recon がレポートする CPU
1	1	1	1
	2	1	2
	4	1	4
2	1	2	1
	2	2	1
	4	2	2
4	1	4	1
	2	4	1
	4	4	1

B.8 Linux、Solaris、および AIX に対するインベントリと監視のコマンド

この節には、インベントリ中および監視中に PlateSpin Recon で使用できるコマンドのリストが含まれています。

- ◆ [223 ページのセクション B.8.1 「Solaris のインベントリコマンド」](#)
- ◆ [224 ページのセクション B.8.2 「Linux のインベントリコマンド」](#)
- ◆ [225 ページのセクション B.8.3 「AIX のインベントリコマンド」](#)
- ◆ [226 ページのセクション B.8.4 「Linux と Solaris の監視コマンド」](#)
- ◆ [226 ページのセクション B.8.5 「AIX の監視コマンド」](#)
- ◆ [227 ページのセクション B.8.6 「テキスト処理」](#)

B.8.1 Solaris のインベントリコマンド

表 B-7 Solaris のインベントリコマンド

コマンド	説明
kstat	ネットワーク接続速度を取得する。
chmod	インベントリ中のマシンにあるインベントリスクリプトのファイルアクセス許可を変更する。
rm	マシンに配置されたインベントリスクリプトを削除する。

コマンド	説明
prtdiag	Sparc の CPU キャッシュ情報とマシンモデルを取得する。
psrinfo	ファミリー、モデル、ステップなど、主に x86 に関連するプロセッサ情報を取得する。
isainfo	sse、sse2、mmx など、主に x86 に関連する CPU インストラクション設定情報を取得する。
prtconf	主に x86 の L2 キャッシュ情報、ネットワークアダプタ解決、および ACPI サポートに関連する構成デバイス情報を取得する。
ifconfig	IP アドレス、DHCP、ネットマスクなど、ネットワーク関連情報を取得する。
ndd	ネットワーク接続速度を取得する。
uname	カーネルのバージョンを判断する。
mount	ブートローダを取得する。
pkginfo	インストールされたプログラムを取得する。
ps	プロセス情報を取得する。
who	実行レベルを取得する。
hostname	ホスト名を取得する。

B.8.2 Linux のインベントリコマンド

表 B-8 Linux のインベントリコマンド

コマンド	説明
chkconfig	サービス (デーモン) 情報を取得する。
df	マウントされたボリュームのサイズ情報を取得する。
mount	ボリューム情報を取得する。
e2label	ディスクラベルを取得する。
route	ゲートウェイを取得する。
ifconfig	IP アドレス、ネットアドレスなど、ネットワーク関連情報を取得する。
egrep	DHCP 情報を取得する。
getcfg	SUSE の DHCP を取得する。
rpm	インストールされたプログラムを取得する。
lspci	ベンダ名、デバイスモデルなど、人間が読める形式で PCI デバイス情報を取得する。
iwconfig	ワイヤレスネットワークアダプタ NIC リストを取得する。
iwlist	ワイヤレスビットレートを取得する。

コマンド	説明
ethtool	ネットワーク接続の速度とリンクステータスを取得する。
dmesg	実 MAC アドレスを取得する。
kudzu	Redhat Linux のネットワークデバイス情報を取得する。
hwinfo	SUSE Linux のネットワークアダプタ情報を取得する。
fdisk	パーティションがアクティブまたは非アクティブであるかを判断する。
runlevel	現在の実行レベルを取得する。
hostname	ホスト名と DNS ドメイン名を取得する。

B.8.3 AIX のインベントリコマンド

表 B-9 AIX のインベントリコマンド

コマンド	説明
rpm	インストールされたプログラムのリストを取得する。
ps	サービス (デーモン) 情報を取得する。
mount	マウントされたボリュームのリストを取得する。
df	マウントされたボリュームのサイズ情報を取得する。
lslv	マウントされたボリュームのシリアル番号とラベルを取得する。
hostname	ホスト名を取得する。
namerslv	DNS ドメインを取得する。
getconf	64 ビットカーネルであるかどうかを判断する。
uname	OS のリリースバージョンを判断する。
ifconfig	構成されたネットワークアダプタとその IP アドレスを取得する。
netstat	MAC アドレスを取得する。
entstat	ネットワークアダプタの速度を取得する。
prtconf	プロセッサ情報とデフォルトゲートウェイを取得する。
lspv	ディスクとパーティションのリストを取得する。
bootinfo	ディスクサイズを取得する。
lscfg	ディスクモデル、製造元と型、およびネットワークアダプタモデルを取得する。
lsitab	デーモン情報を取得する。
getconf	マシンメモリとブートローダの情報を取得する。

コマンド	説明
lsattr	マシンのシリアル番号とモデル、ハイパースレッディング詳細、およびサブネットマスクを取得する。

B.8.4 Linux と Solaris の監視コマンド

表 B-10 Linux と Solaris の監視コマンド

コマンド	プラットフォーム	説明
psrinfo	Solaris	プロセッサ ID 番号をカウントする。
mpstat	Solaris	CPU インスタンスごとのプロセッサ時間を取得する。
vmstat	Solaris	プロセッサキューの長さで使用可能なメモリを取得する。
ifconfig	Solaris、Linux	NIC リストを取得する。
sed	Solaris、Linux	入カストリーミングを編集する。
tail	Solaris、Linux	入カストリーミングを編集する。
netstat	Solaris	ネットワークパッケージの転送速度を取得する。
kstat	Solaris	NIC 速度を取得する。
prtconf	Solaris	NIC に対するモジュールとインスタンスのバインディングを取得する。
iostat	Solaris	キューや速度などのディスク IO 情報を取得する。
expr	Solaris、Linux	式を評価する。

B.8.5 AIX の監視コマンド

表 B-11 AIX の監視コマンド

コマンド	説明
vmstat	使用可能なメモリをバイトで取得する。
ifconfig	NIC 情報を取得する。
entstat	ネットワークパケット、送受信されたバイトを取得する。
mpstat	プロセッサ時間の割合を取得する。
iostat	ディスク転送/秒、ディスクアイドル、ディスクバイト/秒を取得する。
sar	ディスクキューの長さ、使用済みプロセッサの割合を取得する。
lspv	パーティションされたディスク、パーティションされていない容量、ディスクリストを取得する。

コマンド	説明
bootinfo	ディスクサイズを取得する。
df	ボリュームレベル情報を取得する。
oslevel	AIX のバージョンを取得する。

B.8.6 テキスト処理

grep、cat、cut、awk、ls

B.9 Linux マシンのインベントリと監視を実行するための sudo 環境設定

PlateSpin Recon ユーザは、ターゲットマシンでコマンドを実行する許可を持つ場合にのみ、sudo ユーザ資格情報を使用してマシンのインベントリと監視を実行することができます。インベントリと監視を実行できるよう、ユーザに許可を付与するには：

- 1 sudo ユーザに許可を付与する対象の Linux マシンに、root としてログインします。
- 2 次のコマンドを実行することにより、sudoers 環境設定ファイルを開きます：

```
visudo
```

- 3 ファイルに次の行を追加します：

```
nonroot_username ALL=(root) NOPASSWD: ALL
```

コマンド内の *nonroot_username* は、sudo ユーザ名で置換してください。

重要：sudo ユーザに対するパスワード設定がより高いグループレベルの設定で上書きされないようにしてください。

スケジュールオプション

C

特定の PlateSpin Recon ジョブは、将来の日付または繰り返しベースで発生するようスケジュールすることができます。これらは、Scheduled Job Explorer を通じて表示できます。ジョブには、インベントリ、レポート生成、およびスナップショットエクスポートを含めることができます。

スケジュールオプションには次が含まれます：

- ◆ [229 ページのセクション C.1 「\[Later\]」](#)
- ◆ [229 ページのセクション C.2 「\[Recurrence\]」](#)

C.1 [Later]

[Later] スケジュールオプションを使用すると、特定の日時でジョブを実行できます。デフォルトでは、現在の日時が表示されています。

特定の日時でジョブを実行するには、[Later] を選択してください (特定の日は、手動で「mm/dd/yyyy hh:mm AM/PM」の形式で入力するか、またはポップアップカレンダーから選択する)。

この日付を変更するには、次のいずれかを実行します：

- ◆ ドロップダウンリストをクリックし、カレンダーで希望の日付を選択します。
- ◆ 「mm/dd/yy」形式で日付を手動で入力します。

時刻を変更するには、「hh:mm AM/PM」の形式で時刻を手動で指定します。

C.2 [Recurrence]

繰り返しベースでジョブを実行するには、[Recurrence] を選択します。

- 1 ドロップダウンリストから、以前に入力した繰り返しスケジュールを選択するか、または [*New Recurrence*] を選択します。

[Create Recurrence] ダイアログボックスが表示されます。

Create Recurrence

Recurrence Name:

Recurrence pattern

Daily

Weekly

Monthly

Yearly

Every day(s)

Every weekday

Range of recurrence

Start:

No end date

End after: occurrences

End by:

OK Cancel

- 2 固有の名前を指定します。
この名前は、[*Recurrence*] ドロップダウンリストの繰り返しスケジュールを参照するために使用されるので、他のジョブに再使用できます。
- 3 繰り返しの速度を選択できる [*Recurrence pattern*] 領域では、該当するオプションを使用して、いつ、どの程度の頻度でジョブを実行するかを指定します。

PlateSpin Recon のアイコンおよび コマンドに対するクイックリファレンス

この節では、PlateSpin Recon クライアントで使用されるアイコンとコマンドのクイックリファレンスを示します。











- ◆ 231 ページのセクション D.1 「Data Center Explorer」
- ◆ 233 ページのセクション D.2 「Reports Explorer」
- ◆ 234 ページのセクション D.3 「Projects Explorer」
- ◆ 235 ページのセクション D.4 「Raters Explorer」
- ◆ 235 ページのセクション D.5 「Chart Viewer」
- ◆ 236 ページのセクション D.6 「Job Explorer」
- ◆ 236 ページのセクション D.7 「Scheduled Job Explorer」
- ◆ 237 ページのセクション D.8 「Log Explorer」

D.1 Data Center Explorer

- ◆ 231 ページのセクション D.1.1 「Data Center Explorer のアイコン」
- ◆ 231 ページのセクション D.1.2 「Data Center Explorer のアイコン状態インジケータ」
- ◆ 232 ページのセクション D.1.3 「Data Center Explorer のコマンドと関連アイコン」



D.1.1 Data Center Explorer のアイコン

表 D-1 Data Center Explorer のアイコン

	Physical Server		Virtual Center Folder
	Virtual Machine		Virtual Center Cluster
	Groups		Virtual Center Pool
	Virtual Center		Primary Site
	Virtual Center Data Center		Secondary Site

D.1.2 Data Center Explorer のアイコン状態インジケータ

表 D-2 Data Center Explorer のアイコン状態インジケータ




	Monitored		Virtual Machine Powered On
---	-----------	---	----------------------------

	Monitored virtual machine		Virtual Machine Powered Off
	Not monitored		Unresponsive/error
	Not inventoried virtual machine		Warning

D.1.3 Data Center Explorer のコマンドと関連アイコン

表 D-3 Data Center Explorer のコマンドと関連アイコン








コマンド	サブメニュー	説明
 Inventory		選択したサーバをインベントリします。ここで選択するサーバは、検出されていてもまだインベントリされていないものでなければなりません。すでにインベントリされているサーバをインベントリするには、[Refresh Inventory] を使用してください。
 Start Monitoring		選択したサーバを監視します。ここでは、[Data Center Explorer] ペインのノード (<i>All</i> 、 <i>Filters</i> 、 <i>Groups</i> 、または <i>Sites</i>)、あるいはすべての子サーバを監視する対象の特定のフィルタ、グループ、またはサイトを選択できます。
 Stop Monitoring		選択したサーバの監視を停止します。ここでは、[Data Center Explorer] ペインのノード (<i>All</i> 、 <i>Filters</i> 、 <i>Groups</i> 、または <i>Sites</i>)、あるいはすべての子サーバの監視を停止する対象の特定のフィルタ、グループ、またはサイトを選択できます。
 Logs	View Logs	選択したサーバのログを表示します。
	Acknowledge Logs	マシンに関連する何らかのエラーがある場合、該当エラーのアイコンがそのマシンに表示されます。許容できるエラーに対しては、[Acknowledge Logs] を使用して、マシンに表示されるエラーアイコンを削除します。
 Create Group		サーバの新規グループを作成します。
 Copy to Group	<group_name>	選択したサーバを指定のグループにコピーします。
 Rename Group		選択したグループを名前変更します。
 Create Template		[New Server Template] ダイアログボックスを開きます。
 Attach Credentials		[Attach Credentials] ダイアログボックスを開きます。

コマンド	サブメニュー	説明
Launch	Terminal Services SSH VMware Remote Console VMware Virtual Infrastructure Client VMware Web Access	選択したアプリケーション (インストールされている場合) を開きます。パスは、[Tools] メニューから [Options] を選択した後、[Client] タブをクリックすることにより設定できます。
 Delete		サーバまたはサーバのグループを削除します。
Chargeback		[Raters for name] ダイアログを開きます。
View XML		選択したマシンの詳細を XML ドキュメントとして表示します。複数のマシンを選択した場合は、最初のマシンのみが表示されません。
 Properties		選択したサーバの [Properties] ダイアログを開きます。
 Set Custom Fields		複数のサーバを選択した場合に、それらのサーバに対して 1 つの [Properties] ダイアログボックス ([Custom Fields] ページ) を開きます。

Data Center Explorer のコマンドをそれらのサーバに適用するには、サーバの 1 つを右クリックし、メニューから必要なコマンドを選択してください。

D.2 Reports Explorer

表 D-4 Report Explorer のコマンド










コマンド	ツールのヒント / 説明
	Create Report Template 選択したレポートノードに基づいて新しいレポートテンプレートを作成します。
	Copy Report Template レポートテンプレートをコピーします。
	Edit Report Template レポートテンプレートまたはレポートに対してグループ、ビュー、フィルタ、サマリ、および予測を設定することによって、レポートを編集します。
	Generate Report 選択したレポートテンプレートに基づいてレポートを生成します。
	View Report 既存の (以前に生成された) レポートを表示します。
	Send Report 生成されたレポートを、電子メール経由で、あるいは FTP サーバまたはネットワーク上の場所送信します。
	Delete 選択したレポートまたはテンプレートを削除します。

D.3 Projects Explorer

- ◆ 234 ページのセクション D.3.1 「Project Explorer のコマンド」
- ◆ 234 ページのセクション D.3.2 「Project Explorer のアイコン」











D.3.1 Project Explorer のコマンド




表 D-5 Project Explorer のコマンド

コマンド	アクション
	新しいプロジェクトを作成します。
	プロジェクトをコピーします。
	プロジェクト設定を表示します。
	新しいシナリオを作成します。
	シナリオをコピーします。
	レポート、「プロジェクト」レポート、または「ワークロード割り当て」レポートを表示します。
	選択に応じて、プロジェクト、シナリオ、またはワークロードを削除します。
	Portability Suite を使用して実装します。
	マッピングを編集します。

D.3.2 Project Explorer のアイコン







表 D-6 Project Explorer のアイコン

アイコン	説明
	統合プロジェクト
	統合シナリオ
	サーバ
	既存のターゲットサーバ
	仮想マシン
	ワークロード
	仮想化オーバーヘッド
	サーバテンプレートがデータベースの仮想サーバにマップされている
	統合に対してサーバが選択されている
	未統合サーバ

アイコン	説明
	保護に対してサーバが選択されている
	サーバは保護されていない
	未統合ワークロード












D.4 Raters Explorer






表 D-7 Project Explorer のコマンド

コマンド	アクション
	新しいレイターを作成します。
	レイターを編集します。
	レイターを削除します。
	マシンにレイターをアタッチします。
	マシンからレイターをデタッチします。
	レイターのプロパティを表示します。

D.5 Chart Viewer






表 D-8 Chart Viewer のコマンド

コマンド	説明
	Print Preview: 印刷前にチャートをプレビューします。
	Print: チャートを印刷します。
	Copy To Clipboard: クリップボードにチャートをコピーします。
	Line: 連続するデータの 2 点間に直線を表示します。
	Curve: 連続するデータの 2 点間に曲線を表示します。
	Candlestick: サンプルデータの変性を表示します。このボタンは、ローソク足チャートにのみ表示されます。
	Stacked Bar: 複数のサーバからの累積したワークロードデータを表示します。これは、使用率以外の式のタイプに使用できます。
	Stacked Area: 複数のサーバからの累積したワークロードデータを表示します。これは、使用率以外の式のタイプに使用できます。
	Legend Box: 各データオブジェクトの視覚的な手がかりと説明を示します。凡例は、チャートのデータをすばやく確認する場合に非常に便利です。
	Point Labels: チャートの値のラベルを表示します。
	Zoom: 通常表示と拡大表示を切り替えます。

コマンド	説明
	Zoom In/Zoom Out: 収集されたデータに対するチャートの粒度を調整します。100ページのセクション 5.1.3 「詳細のレベル」を参照してください。
	Navigate Beginning/Back/Forward/End: 表示されているデータをスクロールします。
	Historical Data Settings: 予測の基となる履歴データ時間範囲を選択します。
	Forecast Settings: 予測の期間とアルゴリズムを選択します。 このボタンは、毎日または毎週の系列チャートあるいはプロファイルチャートに対してのみ有効になります。
	Refresh All Data From Server: 画面をリフレッシュします。






D.6 Job Explorer

表 D-9 Job Explorer ツールバーのコマンド

コマンド	ツールのヒント / 説明
	Suspend: 実行中のジョブを一時停止します。
	Resume: 一時停止されているジョブを続行します。
	Abort: 現在実行中のジョブを中断します。
	Archive: 選択したジョブをアーカイブします。
	View Logs: 選択したステップのログビューアを開きます。



D.7 Scheduled Job Explorer

表 D-10 Scheduled Job Explorer ツールバーのコマンド

コマンド	ツールのヒント / 説明
	Pause: アクティブまたはスケジュールされたジョブを一時停止します。
	Resume: 一時停止されているジョブを続行します。
	Edit Recurrence: スケジュールされたジョブの繰り返しパターンの作成または編集を可能にする [Create Recurrence] ダイアログボックスを開きます。
	Run Now: スケジュールされたジョブを直ちに実行します。
	Delete: スケジュールされたジョブを削除します。

D.8 Log Explorer

表 D-11 Log Explorer ツールバーのコマンド

コマンド	ツールのヒント / 説明
	View Details: 選択したログエントリのログの詳細を開きます。
	Delete: 選択したログエントリを削除します。 複数のログを同時に削除するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを使用して、<Delete> キーを押すか、[Delete] をクリックします。

ベストプラクティス

これらのベストプラクティスは、PlateSpin Recon を使用してワークロードを監視したり、収集したデータに基づいて統合プランニングを行ったりするデータセンターのオペレータや管理者を対象としています。ここで示されている情報は、何百人もの Real-Time Consolidation Accelerator のユーザの経験を基に、PlateSpin サポートチームによりコンパイルされました。

適宜、ベストプラクティスのガイドラインは、PlateSpin サポートナレッジベースの記事を参照しています。これらの記事にアクセスするには、PlateSpin のダウンロード資格情報を使用または入手してください。パスワードを忘れてしまった場合は、<http://www.platespin.com/downloads/forgotpassword.aspx> (<http://www.platespin.com/downloads/forgotpassword.aspx>) でパスワードリマインダの電子メールを要求することができます。

- ◆ 239 ページのセクション E.1 「統合プランニングワークフロー」
- ◆ 240 ページのセクション E.2 「PlateSpin Recon サーバのシステム要件」
- ◆ 240 ページのセクション E.3 「監視サービス環境設定」
- ◆ 242 ページのセクション E.4 「MS SQL データベース環境設定」

E.1 統合プランニングワークフロー

次の包括的な統合プランニングワークフローを使用してください：

表 E-1 ベストプラクティスの使用

ガイドライン	ナレッジベースの記事
ステップ 1: サーバをインベントリします。	
ステップ 2: サーバを監視しデータを収集します。	
ステップ 3: PlateSpin Recon チャートと Consolidation Planning Module を使用して、収集されたデータを分析し、統合のプロジェクトとシナリオを作成します。	
終了した時点で、PlateSpin PowerConvert を使用して仮想環境に物理サーバをストリーミングすることにより、サーバを統合します。	
潜在的なインベントリと監視の問題を早期に検出するために、PlateSpin Recon の PlateSpin Analyzer を使用して、インベントリを開始する前にネットワークをスキャンしてください。	Q20825 (http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20825) : Using PlateSpin Analyzer and understanding its results
可能な場合は Microsoft Operations Manager (MOM) 2005 を使用し、PlateSpin Recon が接続して直接監視データを収集するよう設定してください。この機能を使用すると、週単位から日単位にプロジェクトのタイムラインを減らすことができますようになります。	Q20903 (http://support.platespin.com/kb2/article.aspx?id=20903) : PlateSpin Recon with MOM 2005

E.2 PlateSpin Recon サーバのシステム要件

PlateSpin Recon による操作を 300 台を超えるマシンで実行するには、PlateSpin Recon サーバが次のシステム要件を満たしていることが推奨されます：

- ◆ ハードウェア要件：
 - メモリ：4GB 以上
 - プロセッサ：3.2GHz 以上、クアッドコア
- ◆ ソフトウェア要件：
 - オペレーティングシステム：Windows 2008 SP2 (32 ビット)

E.3 監視サービス環境設定

- ◆ PlateSpin Recon 3.7.2 では、サーバのディスク使用率を監視するための Windows Disk Counters アドオンが提供されます。カウンタは、ターゲットサーバの PerfMon で登録され、レジストリサービスを通じて処理されます。そのため、最適なサーバパフォーマンスを実現するには PlateSpin Recon サーバを監視しないでください。
- ◆ PlateSpin Recon クライアントの *Unresponsive* フィルタグループ (*[Data Center Explorer]* > *[Filters]* > *[Status]*) に、2 時間以上アクセスできないマシンが 20 台以上含まれる場合は、アクセスできないすべてのマシンの監視を停止してください。これらのマシンに対しては、PlateSpin Recon サーバからアクセスが可能になった後で監視を再開できます。マシンにアクセスできるかどうかを確認するには、サーバから ping してください。
- ◆ 500 台を超えるマシンを監視する場合は、いくつかの監視サービス環境設定パラメータの値を微調整することによって、PlateSpin Recon サーバのパフォーマンスを向上させることが可能です。一部のパラメータについては PlateSpin Recon クライアントを通じて、その他のパラメータについては監視サービス環境設定ファイルを編集することにより、値を変更できます。
 - ◆ [240 ページのセクション E.3.1 「PlateSpin Recon クライアントを通じた監視サービス環境設定パラメータの微調整」](#)
 - ◆ [241 ページのセクション E.3.2 「監視サービス環境設定ファイルにおける監視サービス環境設定パラメータの微調整」](#)

E.3.1 PlateSpin Recon クライアントを通じた監視サービス環境設定パラメータの微調整

- 1 PlateSpin Recon クライアントで、*[Tools]* メニューをクリックします。
- 2 <Ctrl> キーを押しながら *[Options]* をクリックします。
[Options] ダイアログボックスの *[Server]* ページが、デフォルトで表示されます。

- 3 [Monitoring Service] カテゴリで、環境設定パラメータの値を次の表の推奨どおりに微調整します：

環境設定パラメータ	説明	デフォルト値	推奨
Sample Interval	リモートマシンからデータの連続サンプリングが行われるまでの時間間隔を示します。	5 分	サンプル間隔の値を増加させてください。
Burst Samples	サンプル間隔ごとに収集されるデータサンプルの数を示します。	3	バーストの値を減少させてください。
Burst Interval	バーストサンプル間の時間を示します。	20 秒	間隔を 60 秒まで増加させてください。
Cache service Interval	収集されたデータを監視データベースに対してコミットする時間間隔を示します。	1 分	間隔を 2 分まで増加させてください。

E.3.2 監視サービス環境設定ファイルにおける監視サービス環境設定パラメータの微調整

- 1 PlateSpin Recon 3.7.2 サーバで、テキストエディタを使用して、`PlatespinRecon3.7.2_Server_installation_directory\Services\Monitoring\PlateSpin.Monitoring.Service.exe.config` ファイルを開きます。
- 2 環境設定パラメータの値を次の表の推奨どおりに変更します：

環境設定パラメータ	説明	デフォルト値	推奨
ConnectionThreadMaxNumber	可能なパラレル接続の数を示します。	400	デフォルト値は 500 台のマシンに適切です。500 台を超えるマシンを監視する際にスレッド実行タイムアウトに関する問題が発生した場合は、この値を 300 に変更してください。
CacheServiceChunkSize	History テーブルへ挿入される、トランザクションごとのレコードの数を示します。	4000	500 台を超えるマシンを監視する場合は、この値を 2000 に変更してください。これにより、History テーブルへのデータ挿入における遅延が短くなります。
QUEUEPRUNNINGFACTOR	このパラメータの値を Sample Interval パラメータの値で乗算すると、キューからの古い要求をページする時間間隔が決定されます。	3 分	デフォルトでは、キューからの古い要求をページする時間間隔は、15 分 (3 分 * 5 分 = 15 分) です。 パフォーマンスを向上させるために 10 分より古い要求が削除されるようにするには、このパラメータの値を 2 に変更してください。

3 PlateSpin Recon の監視サービスを再起動します。

E.4 MS SQL データベース環境設定

MS SQL データベースを使用して 500 台を超えるマシンを監視する場合は、[243 ページの表 E-2 「MS SQL データベース環境設定の微調整」](#) を参照することによってデータベースパフォーマンスを微調整してください。この表では、Microsoft SQL Server Management Studio を使用したタスクの実行方法が示されていますが、別のデータベース管理ツールを使用してこれらのタスクを実行してもかまいません。

表 E-2 MS SQL データベース環境設定の微調整

タスク	説明	タスクの実行方法	タスクの実行時
PlateSpin Recon 監視データベースで READ_COMMITTED_SNAPSHOT ON を実行する	高速なデータ読み込みクエリを有効にします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. PlateSpin Recon の監視サービスを停止します。 2. Microsoft SQL Server Management Studio で、PlateSpin Recon 監視データベースに対して次のクエリを実行します： <pre>ALTER DATABASE database_name SET READ_COMMITTED _SNAPSHOT ON</pre> 3. PlateSpin Recon の監視サービスを開始します。 	

タスク	説明	タスクの実行方法	タスクの実行時
IX_CounterInstance に対して ConterInstance テーブルでインデックスを再構築する	集計中に必要とされる高速な結合演算を有効にします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. PlateSpin Recon の監視サービスを停止します。 2. Microsoft SQL Server Management Studio で、 [PlateSpin Recon database] > [テーブル] > [カウンタインスタンス] > [インデックス] の順にブラウズします。 3. [IX_CounterInstance] テーブルを右クリックし、[再構築] をクリックします。 4. [インデックス] のプロパティで、フラグメンテーションの割合 (%) が 0 に近似であることを確認します。 フラグメンテーションが 50% を超える場合は、インデックスを再構築してください。 5. PlateSpin Recon の監視サービスを開始します。 	このタスクは、1 週間に一度実行できます。

タスク	説明	タスクの実行方法	タスクの実行時
PR_HistoryData テーブルでインデックスを並べ替える	History テーブルへのより高速なデータ挿入を有効にし、ロックされるページ数を少なくします (このタスクにより、フラグメンテーションレベルが 50% 以下に制御されるため)。	<ol style="list-style-type: none"> 1. PlateSpin Recon の監視サービスを停止します。 2. Microsoft SQL Server Management Studio で、 [PlateSpin Recon database] > [テーブル] > [PR_HistoryData] > [インデックス] の順にブラウズします。 3. [IX_PR_HistoryData] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 4. [全般] ページで、<i>ObservationDate</i> が [インデックスキー列] の一番上に一覧表示されるようにします。 5. PlateSpin Recon の監視サービスを開始します。 	このタスクは、PlateSpin Recon のインストール後に実行しなければなりません。

タスク	説明	タスクの実行方法	タスクの実行時
IIX_PR_HistoryData インデックスに対して PR_HistoryData テーブルでインデックスを再構築する	History データに対するより高速なデータ挿入とデータ削除を有効にします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. PlateSpin Recon の監視サービスを停止します。 2. Microsoft SQL Server Management Studio で、 [PlateSpin Recon database] > [テーブル] > [PR_HistroyData] > [インデックス] の順にブラウズします。 3. [IX_PR_HistoryData] を右クリックし、[再構築] をクリックします。 4. フラグメンテーションの割合 (%) を確認します。フラグメンテーションが 50% を超える場合は、インデックスを再構築してください。 5. PlateSpin Recon の監視サービスを開始します。 	このタスクは、1 週間に一度実行できます。

タスク	説明	タスクの実行方法	タスクの実行時
PlateSpin Recon 監視データベースでトランザクションログファイルのサイズを 8GB に制限する	多数のマシンが監視される場合にトランザクションログファイルのサイズを制御し、データベースがより頻繁にデータをコミットできるようにします(トランザクションログファイルには大規模なデータを含めることができないため)。	<ol style="list-style-type: none"> 1. PlateSpin Recon の監視サービスを停止します。 2. Microsoft SQL Server Management Studio で、[PlateSpin Recon database] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 3. [ファイル] ページで、監視ログに対して [自動拡張] オプションをクリックします。 4. [ファイル拡張の制限] の値が 8GB 以上ではないことを確認します。 5. PlateSpin Recon の監視サービスを開始します。 	トランザクションログファイルのサイズは、現デフォルトで 2,000GB になります。多数のノードを監視する場合は、これを制限しなければなりません。

